科目名	音楽史 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	有馬知章
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャーデビュー/音楽プロデューサー/DJパフォーマー&トラックメーカー/レコーディング&PA	授業 形態	講義	総時間 （単位）	30 2単位		
教員の略歴	シンセサイザー教室講師、シンセサイザー・プログラマー、音楽プロデューサー、マルチメディアプロデューサーなど業界にて41年業務に従事します。						
授業の学習内容	クラシック音楽と現代のポピュラー音楽はつながっている事を理解し、その時代背景を理解する。 クラシック音楽から音楽の形式、旋律を学び自分の音楽活動に活かす。DTMのツールで再生してみる。 音楽をジャンルで区別しないで、幅広く聴けるようになる事を望みます。 できるだけ沢山の楽曲を聴かせてクラシック音楽へのきっかけができるよう授業を進めます。						
到達目標	このコースの学習を終えた学生は 1. 西洋音楽の進化について深い理解を示すことができる 2. ある楽曲を分析することができ、その曲の歴史的な位置づけ・意味合いを理解することができる 3. 自分の作品と西洋音楽を何かしら深いレベルで結びつけることができる						
評価方法と基準	定期テスト：筆記試験100% ※筆記試験の得点に平常点を掛けて最終評価の点数とする。						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	中世の音楽	中世の音楽 振り返りと自習。
2		講義	ルネサンス期の音楽	ルネサンス期の音楽 振り返りと自習。
3		講義	バロック期の音楽	バロック期の音楽 振り返りと自習。
4		講義	J.Sバッハの音楽	J.Sバッハの音楽 振り返りと自習。
5		講義	”クラシック音楽”の時代（ハイドン、モーツァルト）	”クラシック音楽”の時代（ハイドン、モーツァルト） 振り返りと自習。
6		講義	”クラシック音楽”の時代（ベートーベン）	”クラシック音楽”の時代（ベートーベン） 振り返りと自習。
7		講義	”クラシック音楽”の時代（ハプスブルグ家と音楽文化）	”クラシック音楽”の時代（ハプスブルグ家と音楽文化） 振り返りと自習。
8		講義	初期ロマン派の音楽（シューベルト、ベルリオールズ）	初期ロマン派の音楽（シューベルト、ベルリオールズ） 振り返りと自習。
9		講義	後期ロマン派の音楽（ワーグナー、マーラー）	後期ロマン派の音楽（ワーグナー、マーラー） 振り返りと自習。
10		講義	音楽の民主化　貴族や教会から市民へ	音楽の民主化　貴族や教会から市民へ 振り返りと自習。
11		講義	20世紀の音楽（ストラヴィンスキー、シェーンベルグ）	20世紀の音楽（ストラヴィンスキー、シェーンベルグ） 振り返りと自習。
12		講義	現代の芸術音楽	現代の芸術音楽 振り返りと自習。
13		講義	試験	
14		講義	前期を総括してのレポートテーマ作成	
15		講義	前期を総括してのレポートまとめ	
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	音楽史 2	必修選択	選択	年次	1	担当教員	有馬知章
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャーデビュー/音楽プロデューサー/DJパフォーマー&トラックメーカー/レコーディング&PA	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2単位		
教員の略歴	シンセサイザー教室講師、シンセサイザー・プログラマー、音楽プロデューサー、マルチメディアプロデューサーなど業界にて41年業務に従事します。						
授業の学習内容	この授業では、ポップ・ロックミュージックの起こりから現代まで、その発達の歴史を深く学びます。						
到達目標	このコースの学習を終えた学生は 1. 時代の流れに沿った、ロック・ポップスの発達を『深く知っている 2. 自分たちの作り出す音楽と、ロック・ポップスの歴史・進化を結び付け評価することができる 3. アメリカにおけるポピュラーミュージックの位置づけを、概観することができる。						
評価方法と基準	定期テスト：筆記試験100% ※筆記試験の得点に平常点を掛けて最終評価の点数とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	ロックミュージックのルーツ	ロックミュージックのルーツ 振り返りと自習。
2		講義	20世紀初期のポピュラーミュージック	20世紀初期のポピュラーミュージック 振り返りと自習。
3		講義	ロックンロールの誕生	ロックンロールの誕生 振り返りと自習。
4		講義	フォークミュージックの再燃と公民権運動	フォークミュージックの再燃と公民権運動 振り返りと自習。
5		講義	イギリス・ポップミュージックの台頭	イギリス・ポップミュージックの台頭 振り返りと自習。
6		講義	フラワームーヴメント	フラワームーヴメント 振り返りと自習。
7		講義	パンクロック。ニューウエイブ	パンクロック。ニューウエイブ 振り返りと自習。
8		講義	MTVの時代	MTVの時代 振り返りと自習。
9		講義	ソウルミュージックとロック	ソウルミュージックとロック 振り返りと自習。
10		講義	テクノポップからハウスミュージック	テクノポップからハウスミュージック 振り返りと自習。
11		講義	ダンス音楽	ダンス音楽 振り返りと自習。
12		講義	ヒップホップの誕生	ヒップホップの誕生 振り返りと自習。
13		講義	試験	
14		講義	後期を総括してのレポートテーマ作成	
15		講義	後期を総括してのレポートまとめ	
準備学習　時間外学習				

科目名	ミュージックビジネス 1	必修選択	必修	年次	3	担当教員	相茶 紀緒
学科・コース	音楽テクノロジー科・作曲&アレンジャー・ヴビュー／音楽プロデューサー／DJ・パフォーマー&トラックメーカー／レコーディングSPA	授業形態	講義・実習	総時間（単位）	60 4単位		
教員の略歴	1981年～ビクター青山スタジオ、レコーディングエンジニアから後にビクター制作部ディレクター。1994年～梅目音、原盤制作ディレクター及び音楽出版プロデューサー。1995年～梅ソニーミュージック・エンタテインメント、制作プロディューサー及び作家エージェント。2009年～フリーランス、エンジニア・プロデューサー。						
授業の学習内容	毎回授業の前半には学生ひとりひとりから音楽業界について今現在最も関心を寄せているトピックを発表させ、その事柄に特化してのディスカッションを行います。これを繰り返すことにより現在の情報化社会に於いてより複雑化して行くミュージック・ビジネスに対して、個人的な嗜好や主観ではなく時代に則した客観的なモノの見方が出来る様に指導して行きます。また講義の本編としては、音楽プロデューサー論が基本となります。ミュージック・ビジネスに於けるプロデュサーの最大使命は“ヒット作品”を造りその作品をワールド・ワイドで“スタンダード化”することにより、これらのプロダクトから最大限の収益を上げることに有ります。それらの事を目的としてビジネスを形成して行くのが音楽プロデューサー本来の仕事です。この本質を過去の音楽業界発展の歴史の中から学んで行き、現在の時代に合ったやり方で次の時代の“スタンダード・ミュージック”を創っていく技術をノウ・ハウとして学んでゆきます。						
到達目標	学生の皆さんがもし将来本気で音楽業界で働きたいのであれば制作セクションは勿論の事、その他職種を問わずプロデュース能力は必須です。作家やミュージシャン、エンジニアは勿論のことマネージメントや宣伝志望でもスタッフワークに於いてクリエイティビティな思考が出来なければ現場では不要な人材とみなされます。この授業は音楽業界の現場で実際に必要とされる人材と成るために、よりクリエイティブな『考え方』を身に付けていく授業です。そのためにコンテンポラリー・アートとしての音楽とポップ・カルチャーとしてのヒット曲に対する理解を深め、現在のミュージック・ビジネスの本質を理解し自らのプロデュース能力を高めることを目標とします。						
評価方法と基準	1）定期テスト（筆記50%　平常点50%）□ 評価の基準はクリエイティビティとコミュニケーション能力から、その学生が実際の音楽業界の現場に於いて『使える』人材になり得るか否かで判断していきます。						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	ミュージックビジネス講座概論/オリエンテーション	ミュージックビジネス講座概論/オリエンテーション 振り返りと次回議論に向けた自身の意見のまとめ
2		講義	レコード産業の成り立ち	レコード産業の成り立ち 振り返りと次回議論に向けた自身の意見のまとめ。
3		講義	複製ビジネスにおける音楽論	複製ビジネスにおける音楽論 振り返りと次回議論に向けた自身の意見のまとめ。
4		講義	日本に於けるレコード会社の成り立ち	日本に於けるレコード会社の成り立ち 振り返りと次回議論に向けた自身の意見のまとめ。
5		講義	日本のレコード会社概論/戦前編「波浮の港」	日本のレコード会社概論/戦前編「波浮の港」 振り返りと次回議論に向けた自身の意見のまとめ。
6		講義	日本のレコード会社概論/戦前編、専属作家の時代	日本のレコード会社概論/戦前編、専属作家の時代 振り返りと次回議論に向けた自身の意見のまとめ
7		講義	日本のレコード会社概論/戦前編「蘇州夜曲」から「千本桜」	日本のレコード会社概論/戦前編「蘇州夜曲」から「千本桜」 振り返りと次回議論に向けた自身の意見のまとめ
8		講義	日本のレコード会社概論/戦後編、進駐軍と「リンゴの唄」	日本のレコード会社概論/戦後編、進駐軍と「リンゴの唄」 振り返りと次回議論に向けた自身の意見のまとめ
9		講義	日本のレコード会社概論/戦後編、高度経済成長とエンタメ産業	日本のレコード会社概論/戦後編、高度経済成長とエンタメ産業　振り返りと次回議論に向けた自身の意見のまとめ。
10		講義	日本のレコード会社概論/6社時代、その1	日本のレコード会社概論/6社時代、その1 振り返りと次回議論に向けた自身の意見のまとめ。
11		講義	日本のレコード会社概論/6社時代、原盤制作とディストリビューション	日本のレコード会社概論/6社時代、原盤制作とディストリビューション　振り返りと次回議論に向けた自身の意見のまとめ。
12		講義	日本のレコード会社概論/6社時代、その2	日本のレコード会社概論/6社時代、その2 振り返りと次回議論に向けた自身の意見のまとめ。
13		講義	前期講義のまとめとテスト	ポートフォリオ、論文
14		実習	これまでを振り返りながら、80年代に焦点をあてたミュージックビジネスシーンに対する自身の意見をレポートにまとめる①	
15		実習	これまでを振り返りながら、80年代に焦点をあてたミュージックビジネスシーンに対する自身の意見をレポートにまとめる②	
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	ミュージックビジネス 2	必修選択	必修	年次	3	担当教員	相茶 紀緒
学科・コース	音楽テクノロジー科・作曲&アレンジャー・デビュー/音楽プロデューサー/DJ パフォーマー&トラックメーカー/レコーディング&PA	授業形態	講義・実習	総時間（単位）	60 4単位		
教員の略歴	1981年～ビクター青山スタジオ、レコーディングエンジニアから後にビクター制作部ディレクター。1994年～神日音、原盤制作ディレクター及び音楽出版プロデューサー。1995年～神ソニーミュージック・エンタテインメント、制作プロディーサー及び作家エージェント。2009年～フリーランス、エンジニア・プロデューサー。						
授業の学習内容	毎回授業の前半には学生ひとりひとりから音楽業界について今現在最も関心を寄せているトピックを発表させ、その事柄に特化してのディスカッションを行います。これを繰り返すことにより現在の情報化社会に於いてより複雑化して行くミュージック・ビジネスに対して、個人的な嗜好や主観ではなく時代に則した客観的なモノの見方が出来る様に指導して行きます。また講義の本編としては、音楽プロデューサー論が基本となります。ミュージック・ビジネスに於けるプロデュサーの最大使命は"ヒット作品"を造りその作品をワールド・ワイドで"スタンダード化"することにより、これらのプロダクトから最大限の収益を上げることに有ります。それらの事を目的としてビジネスを形成して行くのが音楽プロデューサー本来の仕事です。この本質を過去の音楽業界発展の歴史の中から学んで行き、現在の時代に合ったやり方で次の時代の"スタンダード・ミュージック"を創っていく技術をノウ・ハウとして学んでゆきます。						
到達目標	学生の皆さんがもし将来本気で音楽業界で働きたいのであれば制作セクションは勿論の事、その他職種を問わずプロデュース能力は必須です。作家やミュージシャン、エンジニアは勿論のことマネージメントや宣伝志望でもスタッフワークに於いてクリエイティビティな思考が出来なければ現場では不要な人材とみなされます。この授業は音楽業界の現場で実際に必要とされる人材と成るために、よりクリエイティブな『考え方』を身に付けていく授業です。そのためにコンテンポラリー・アートとしての音楽とポップ・カルチャーとしてのヒット曲に対する理解を深め、現在のミュージック・ビジネスの本質を理解し自らのプロデュース能力を高めることを目標とします。						
評価方法と基準	1）定期テスト（筆記50%　平常点50%）□ 評価の基準はクリエイティビティとコミュニケーション能力から、その学生が実際の音楽業界の現場に於いて『使える』人材になり得るか否かで判断していきます。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	日本のレコード会社概論/CBSソニー誕生	日本のレコード会社概論/CBSソニー誕生 振り返りと次回議論に向けた自身の意見のまとめ。
2		講義	日本のレコード会社概論/巨大化するミュージックビジネス	日本のレコード会社概論/巨大化するミュージックビジネス 振り返りと次回議論に向けた自身の意見のまとめ。
3		講義	日本のレコード会社概論/CBSソニー以降	日本のレコード会社概論/CBSソニー以降 振り返りと次回議論に向けた自身の意見のまとめ。
4		講義	インターネットとレコード産業	インターネットとレコード産業 振り返りと次回議論に向けた自身の意見のまとめ。
5		講義	世界の3大メジャーレーベル	世界の3大メジャーレーベル 振り返りと次回議論に向けた自身の意見のまとめ。
6		講義	プロダクションと音楽出版社	プロダクションと音楽出版社 振り返りと次回議論に向けた自身の意見のまとめ。
7		講義	日本の歌謡ポップス/60年代	日本の歌謡ポップス/60年代 振り返りと次回議論に向けた自身の意見のまとめ。
8		講義	レコーディング・テクノロジーの進化	レコーディング・テクノロジーの進化 振り返りと次回議論に向けた自身の意見のまとめ。
9		講義	ポップスに於けるビート革命	ポップスに於けるビート革命 振り返りと次回議論に向けた自身の意見のまとめ。
10		講義	ポップスに於けるアレンジ革命	ポップスに於けるアレンジ革命 振り返りと次回議論に向けた自身の意見のまとめ。
11		講義	日本の音楽プロデュサー	日本の音楽プロデュサー 振り返りと次回議論に向けた自身の意見のまとめ。
12		講義	世界の音楽プロデューサー	世界の音楽プロデューサー 振り返りと次回議論に向けた自身の意見のまとめ。
13		講義	ミュージックビジネスの行方	ポートフォリオ、論文
14		実習	これまでを振り返りながら、90年2000年代に焦点をあてたミュージックビジネスシーンに対する自身の意見をレポートにまとめる①	
15		実習	これまでを振り返りながら、90年2000年代に焦点をあてたミュージックビジネスシーンに対する自身の意見をレポートにまとめる②	
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	作編曲法Introduction 1	必修選択	選択	年次	1	担当教員	大貫和紀
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャーデビュー/音楽プロデューサー	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 2単位		
教員の略歴	作・編曲家、レコーディングエンジニア、音楽プロデューサーなど、音楽制作全般に関わること22年						
授業の学習内容	音楽理論を理解し、それぞれの理論に照らし合わせてたコード進行を構築しながらメロディーやアレンジの作成を行う。						
到達目標	音楽理論と作、編曲の関係を理解し楽曲制作時のsピードアップを測る。ファンデーション授業の理解をさらに深め、楽曲制作に活かせるようになる。						
評価方法と基準	1）定期テスト（筆記40%　実技60%）						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	編曲法の基本	編曲法の基本 振り返りと自習。
2		講義・演習	ドラムパートのアレンジ	ドラムパートのアレンジ 振り返りと自習。
3		講義・演習	ドラムパートのアレンジ課題の演習	ドラムパートのアレンジ課題の演習 振り返りと自習。
4		講義・演習	ベースパートのアレンジ	ベースパートのアレンジ 振り返りと自習。
5		講義・演習	ベースパートのアレンジ課題の演習	ベースパートのアレンジ課題の演習 振り返りと自習。
6		講義・演習	コードの組み立と転回形について	コードの組み立と転回形について 振り返りと自習。
7		講義・演習	コードの組み立と転回形課題の演習	コードの組み立と転回形課題の演習 振り返りと自習。
8		講義・演習	キーボードパートのアレンジ	キーボードパートのアレンジ 振り返りと自習。
9		講義・演習	キーボードパートの課題の演習	キーボードパートの課題の演習 振り返りと自習。
10		講義・演習	スケール1メジャー	スケール1メジャー 振り返りと自習。
11		講義・演習	スケール2マイナー	スケール2マイナー 振り返りと自習。
12		講義・演習	アレンジリズムパート課題1	データの管理とポートフォリオ作成
13		試験	アレンジインストゥルメント課題2	データの管理とポートフォリオ作成
14		講義・演習	ミュージカル「明日への扉」のSE,MEの作成	ミュージカル「明日への扉」のSE,MEの作成について、時間外にても作業を実施し、楽曲のブラッシュアップを図る。
15		講義・演習	ミュージカル「明日への扉」のBGMの作成	ミュージカル「明日への扉」のBGMの作成について、時間外にても作業を実施し、楽曲のブラッシュアップを図る。
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	作編曲法Introduction 2	必修選択	選択	年次	1	担当教員	大貫和紀
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャーデビュー/音楽プロデューサー	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 2単位		
教員の略歴	作・編曲家、レコーディングエンジニア、音楽プロデューサーなど、音楽制作全般に関わること22年						
授業の学習内容	音楽理論を理解し、それぞれの理論に照らし合わせてたコード進行を構築しながらメロディーやアレンジの作成を行う。						
到達目標	音楽理論と作、編曲の関係を理解し楽曲制作時のsピードアップを測る。ファンデーション授業の理解をさらに深め、楽曲制作に活かせるようになる。						
評価方法と基準	1）定期テスト（筆記40%　実技60%）						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ダイアトニックコードについて	ダイアトニックコードについて 振り返りと自習。
2		講義・演習	モチーフとモチーフデベロップメントにつ	モチーフとモチーフデベロップメントについて 振り返りと自習。
3		講義・演習	ダイアトニックコードとメロディについて	ダイアトニックコードとメロディについて 振り返りと自習。
4		講義・演習	ケーデンスについてについて	ケーデンスについてについて 振り返りと自習。
5		講義・演習	ダイアトニックリハモニゼーションについ	ダイアトニックリハモニゼーションについて 振り返りと自習。
6		講義・演習	セカンダリードミナントについて	セカンダリードミナントについて 振り返りと自習。
7		講義・演習	エクステンデットドミナントについて	エクステンデットドミナントについて 振り返りと自習。
8		講義・演習	サブファイブセブンについて	サブファイブセブンについて 振り返りと自習。
9		講義・演習	その他のダイアトニックロレーティッドに	その他のダイアトニックロレーティッドについて 振り返りと自習。
10		講義・演習	マイナーキーハーモニーについて	マイナーキーハーモニーについて 振り返りと自習。
11		講義・演習	ディミニッシュ7コードについて	ディミニッシュ7コードについて 振り返りと自習。
12		講義・演習	アヴェイラブルノートスケールについて	アヴェイラブルノートスケールについて 振り返りと自習。
13		試験	課題曲提出	データの管理とポートフォリオ作成
14		講義・演習	卒業制作展においてSE制作を行う。	時間外にて学内及び自宅にて主体的に制作に取り組む。
15		講義・演習	卒業制作展においてBGM制作を行う。	時間外にて学内及び自宅にて主体的に制作に取り組む。
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	DTM Basic 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	石井伸昂
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャーデビュー/音楽プロデューサー/DJパフォーマー&トラックメーカー	授業 形態	講義・実習	総時間 （単位）	30 2単位		
教員の略歴	TSM渋谷卒業後、乃木坂46のようなアイドルからアニメ主題歌（デートアライブ）などメジャー作品を制作。講師歴は5年以上						
授業の学習内容	①プロ作曲家/プロデューサーに必要なPC知識・DAW操作・DTM全般の基礎知識を理解する ②「その他の授業全て」 ③「創造を形にできる技術・知識を持って0から1の楽しさを実感してほしい」						
到達目標	Logic Proの基礎を理解し、打ち込み、レコーディングを用いて自由に制作できるようにする						
評価方法と基準	試験に行うワンコーラス以上のデモ制作＝60%、授業評価（出席率込み）＝40%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義と実習	Mac＆Windows説明、Mac立ち上げ サウンド設定、様々DAW説明、自宅制作環境の構築説明	用語や操作の復習
2		講義と実習	Logicの立ち上げ、プロジェクトの設定、トラックの作り方 基礎名称の説明、ループ音源の使用	用語や操作の復習
3		講義と実習	DAW上での音価の理解ドラム・ペンツールを使用した打ち込み、 MIDIキーボードを使ったステップ入力・レコーディング	用語や操作の復習
4		講義と実習	DAW上での音符の見え方 ダイアトニックスケール（メジャースケール）の理解	用語や操作の復習
5		講義と実習	DAW上でのコードの仕組み、ディグリーネームや ダイアトニックコード、機能、定番コード進行の理解	用語や操作の復習
6		講義と実習	メロディとコードの関係性 楽曲構成の考え方	用語や操作の復習
7		講義と実習	ベース・ギターの基礎打ち込み	用語や操作の復習
8		講義と実習	シンセサイザー（EDrums_SynthBass_Pad_Arpなども）の基礎知識	用語や操作の復習
9		講義と実習	Fx（リバース、インパクト）など楽曲のメリハリをつける方法	用語や操作の復習
10		講義と実習	オートメーションの基礎、リード・ラッチなどの理解	用語や操作の復習
11		講義と実習	ジャンルによる音色の選び方（エレドラ・生ドラム・民族楽器など）	用語や操作の復習
12		講義と実習	既存の楽曲を例に分析のコツなどの習得	用語や操作の復習
13		試験	1コーラスデモ制作（BGM可）	テストで解らなかった事柄を調べて振り返り、進級に向けて新たな目標設定含むレポート作成。
14		講義と実習	ミュージカルを想定したSEの制作	ミュージカルを想定したSEの制作に伴う創作活動
15		講義と実習	ミュージカルを想定した30～60秒サイズのBGMの制作	ミュージカルを想定した30～60秒サイズのBGMの制作に伴う創作活
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	DTM Basic 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	石井伸昂
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャーデビュー/音楽プロデューサー/DJパフォーマー&トラックメーカー	授業 形態	講義・実習	総時間 （単位）	30 2単位		
教員の略歴	TSM渋谷卒業後、乃木坂46のようなアイドルからアニメ主題歌（デートアライブ）などメジャー作品を制作。講師歴は5年以上						
授業の学習内容	①プロ作曲家/プロデューサーに必要なPC知識・DAW操作・DTM全般の基礎知識を理解する ②「その他の授業全て」 ③「創造を形にできる技術・知識を持って0から1の楽しさを実感してほしい」						
到達目標	Logic Proの基礎を更に理解し、打ち込み、レコーディングを用いて自由に制作できるようにする。						
評価方法と基準	試験に行うワンコーラス以上のデモ制作＝60%、授業評価（出席率込み）＝40%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義と実習	Logic付属音源以外の音源を使用する 機材の定番を知る	用語や操作の復習
2		講義と実習	DAW上での音符の見え方（応用） ダイアトニックスケール（マイナースケール3種類）の理解	用語や操作の復習
3		講義と実習	DAW上でのコードの仕組み（応用）、定番ノンダイアトニックコードを 使えるようになる（セカンダリードミナント）（サブドミナントマイ	用語や操作の復習
4		講義と実習	オーディオ編集の基礎を学ぶ（タイムストレッチ・フェードなど） MIDIをオーディオにしてから編集する技術習得	用語や操作の復習
5		講義と実習	EQ系プラグイン基礎知識 （EQ）よく使う楽器の理解	用語や操作の復習
6		講義と実習	コンプ系プラグイン基礎知識 （Comp）よく使う楽器の理解	用語や操作の復習
7		講義と実習	空間系プラグインの基礎知識 （リバーブ・ディレイ）よく使う楽器の理解	用語や操作の復習
8		講義と実習	その他プラグインの基礎知識 （コーラス・ディエッサー・ディストーション）よく使う楽器の理解	用語や操作の復習
9		講義と実習	ボーカルハモの作り方・掛け合いや歌い分けの習得	用語や操作の復習
10		講義と実習	Melodyneによるピッチ修正（ボーカルや楽器）	用語や操作の復習
11		講義と実習	グループ化によるMIX編集、2MIXの書き出し	用語や操作の復習
12		講義と実習	1コーラスデモ制作（BGM可）	テストで解らなかった事柄を調べて振り返り、 進級に向けて新たな目標設定含むレポート作成。
13		試験	1コーラスデモ制作（BGM可）	テストで解らなかった事柄を調べて振り返り、 進級に向けて新たな目標設定含むレポート作成。
14		講義と実習	卒業進級制作展を想定したSEの制作	卒業進級制作展を想定したSEの制作に伴う創作活動
15		講義と実習	卒業進級制作展を想定した30～60秒サイズのBGMの制作	卒業進級制作展を想定した30～60秒サイズのBGMの制作に伴う創
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	DTM Basic 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	横野康平
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャー/音楽プロデューサー/ゲームミュージック/作詞&作曲	授業 形態	講義・実習	総時間 （単位）	30 2単位		
教員の略歴	10年以上現役でJ-pop K-popの作曲編曲活動を行なっている。講師活動は5年以上。						
授業の学習内容	用意した楽曲（課題曲）のテーマになっている事柄を含むパートを虫食いにして各自講義後穴を埋める（不足パートを制作する）。またその際学校に用意されているサードパーティー音源の使い方もレクチャーする。オンライン授業での支障や経験者が多い場合は授業内容を柔軟に適したものに変更します。						
到達目標	DTMの仕組みと基本的使い方の習得。各自使用しているDAWのヒントにし自由に作品を作れるようになる。						
評価方法と基準	1）期末テスト60%　2）出席数40%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義と実習	基本操作、ドラム音源の仕組み、ドラムの打ち込みが出来るように	基本操作、ドラム音源の仕組み、ドラムの打ち込みについて振り返
2		講義と実習	コードの仕組みを理解し素早く打ち込むことが出来るようになる	コードの仕組みを理解し素早く打ち込むことが出来るように振り返り
3		講義と実習	ベースやギターの入った楽曲を元に素早く構成を作れるようになる	ベースやギターの入った楽曲を元に素早く構成を作れるように振り
4		講義と実習	HIPHOPなどのコードがループしている楽曲構成を素早く作れるよう	HIPHOPなどのコードがループしている楽曲構成を素早く作れるよう
5		講義と実習	シンセサイザーの仕組みを理解し簡単な音色などは自分で作れる	シンセサイザーの仕組みを理解し簡単な音色などは自分で作れる
6		講義と実習	アルペジエーターを学び楽曲に彩りを加えれるようになる	アルペジエーターを学び楽曲に彩りを加えれるように振り返り、時間
7		講義と実習	Pad,bell,stringsなどを使って曲に華やかさを加えれるようになる	Pad,bell,stringsなどを使って曲に華やかさを加えれるように振り返り
8		講義と実習	参考音源を使ってオートメーションを学び曲に変化を加えれるように	参考音源を使ってオートメーションを学び曲に変化を加えれるように
9		講義と実習	SEについて学び楽曲を派手に聴かせれるようになる	SEについて学び楽曲を派手に聴かせれるように振り返り、時間外で
10		講義と実習	サンプリングを取得しLoop素材などをカスタマイズ出来るようになる	サンプリングを取得しLoop素材などをカスタマイズ出来るように振り
11		講義と実習	トラックメイカー目線でのミックスを学び個性を出せるようになる （リバースリバーブ）（色々なサイドチェイン）	トラックメイカー目線でのミックスを学び個性を出せるように振り返り、時間外での演習。 （リバースリバーブ）（色々なサイドチェイン）
12		講義と実習	トラックメイカー目線でのミックスを学び個性を出せるようになる2 （音色のレイヤー）（音の抜き差し、マスターエフェクト）	トラックメイカー目線でのミックスを学び個性を出せるように振り返り、時間外での演習。 （音色のレイヤー）（音の抜き差し、マスターエフェクト）
13		試験	1コーラスラフデモ制作	テストで解らなかった事柄を調べて振り返り、後期に向けた新たな目標設定含むレ
14		講義と実習	ミュージカルを想定したSEの制作	ミュージカルを想定したSEの制作に伴う創作活動
15		講義と実習	ミュージカルを想定した30～60秒サイズのBGMの制作	ミュージカルを想定した30～60秒サイズのBGMの制作に伴う創作活
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	DTM Basic 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	横野康平
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャー/音楽プロデューサー/ゲームミュージック/作詞&作曲	授業 形態	講義・実習	総時間 （単位）	30 2単位		
教員の略歴	10年以上現役でJ-pop K-popの作曲編曲活動を行なっている。講師活動は5年以上。						
授業の学習内容	用意した楽曲（課題曲）のテーマになっている事柄を含むパートを虫食いにして各自講義後穴を埋める（不足パートを制作する）。またその際学校に用意されているサードパーティー音源の使い方もレクチャーする。オンライン授業での支障や経験者が多い場合は授業内容を柔軟に適したものに変更します。						
到達目標	DTMの仕組みと基本的使い方の習得。各自使用しているDAWのヒントにし自由に作品を作れるようになる。						
評価方法と基準	1）期末テスト60%　2）出席数40%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義と実習	パーカッション的リードパートとドルフィンヴォイスの作り方を理解し実践する事ができる。	パーカッション的リードパートとドルフィンヴォイスの作り方を理解し実践する事ができる。時間外学習として3パターンのバージョンを作成し次回授業時に提出。
2		講義と実習	ラテン系トラックメイクについての理解と実践	ラテン系トラックメイクについての理解と実践。時間外学習として3パターンのバージョンを作成し次回授業時に提出。
3		講義と実習	ユーロビートの作り方を理解し実践する事ができる。	ユーロビートの作り方を理解し実践する事ができる。時間外学習として3パターンのバージョンを作成し次回授業時に提出。
4		講義と実習	ニュージャックスイングの作り方を理解し実践する事ができる。	ニュージャックスイングの作り方を理解し実践する事ができる。時間外学習として3パターンのバージョンを作成し次回授業時に提出。
5		講義と実習	Drake系type beatの作り方を理解し実践する事ができる。	Drake系type beatの作り方を理解し実践する事ができる。時間外学習として3パターンのバージョンを作成し次回授業時に提出。
6		講義と実習	カワイイ系Kpopの作り方を理解し実践する事ができる。	カワイイ系Kpopの作り方を理解し実践する事ができる。時間外学習として3パターンのバージョンを作成し次回授業時に提出。
7		講義と実習	カワイイ系Kpop deep houseの作り方を理解し実践する事ができる。	カワイイ系Kpop deep houseの作り方を理解し実践する事ができる。時間外学習として3パターンのバージョンを作成し次回授業時に提出。
8		講義と実習	Pop系Trapの作り方を理解し実践する事ができる。	Pop系Trapの作り方を理解し実践する事ができる。時間外学習として3パターンのバージョンを作成し次回授業時に提出。
9		講義と実習	pop系HipHop(boom bap)の作り方を理解し実践する事ができる。	pop系HipHop(boom bap)の作り方を理解し実践する事ができる。時間外学習として3パターンのバージョンを作成し次回授業時に提出。
10		講義と実習	Future popの作り方を理解し実践する事ができる。	Future popの作り方を理解し実践する事ができる。時間外学習として3パターンのバージョンを作成し次回授業時に提出。
11		講義と実習	Electro J-popを理解し実践する事ができる。	Electro J-popを理解し実践する事ができる。時間外学習として3パターンのバージョンを作成し次回授業時に提出。
12		講義と実習	ジャパレゲ（ソカ系）の作り方を理解し実践する事ができる。	ジャパレゲ（ソカ系）の作り方を理解し実践する事ができる。時間外学習として3パターンのバージョンを作成し次回授業時に提出。
13		試験	1コーラスラフデモ制作テスト	テストで解らなかった事柄を調べて振り返り、進級に向けて新たな目標設定含むレポート作成。
14		講義と実習	卒業進級制作展を想定したSEの制作	卒業進級制作展を想定したSEの制作に伴う創作活動
15		講義と実習	卒業進級制作展を想定した30～60秒サイズのBGMの制作	卒業進級制作展を想定した30～60秒サイズのBGMの制作に伴う創作活動
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	ProTools Basic 1	必修選択	選択	年次	1	担当教員	大村
学科・コース	音楽テクノロジー学科・レコーディング&PA	授業形態	講義・演習・実習等	総時間（単位）	30 2単位		
教員の略歴	レコーディングエンジニア歴24年						
授業の学習内容	業界録音標準のアプリProToolsの機能と使用方法をマスターする						
到達目標	録音実習過程と並行してProToolsの機能とオペレーション方法を理解し、留まる事なくオペレート出来る。						
評価方法と基準	1）定期テスト（実技）60%　2）定期テスト（筆記）40% ProToolsセッションの作成からミックスまでの過程を適切なオペレーションで出来る。						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1		講義と演習	Macの適正使用、ファイル管理を出来るようにする	Macの適正使用、ファイル管理を出来るようにする 振り返りと自習
2		講義と演習	ProToolsの起動、セッションの完結保存が出来るようにす	個人でセッションを作成、保存
3		講義と演習	ウインドウ構成、トランスポートを理解する	ウインドウ構成、トランスポートを理解する 振り返りと自習
4		講義と演習	各種モードを理解する	各種モードを理解する 振り返りと自習
5		講義と演習	各種ツールを理解する	各種ツールを理解する 振り返りと自習
6		講義と演習	トラックの構成、ミックス機能を理解する	トラックの構成、ミックス機能を理解する 振り返りと自習
7		講義と演習	ミックスを実際に行い、機能を理解する	課題曲を使用して個人でミックス作業を行う
8		講義と演習	録音用トラックセッティングをできるようにする	録音用トラックセッティングをできるようにする 振り返りと自習
9		講義と演習	セッションに音を取り込めるようにする	セッションに音を取り込めるようにする 振り返りと自習
10		講義と演習	MIDI機能の初段階を理解する	MIDI機能の初段階を理解する 振り返りと自習
11		講義と演習	簡単な録音、編集をできるようにする	個人で録音セッションのセッティングを行う
12		講義と演習	Voトラックのコンピング機能を理解する	Voトラックのコンピング機能を理解する 振り返りと自習
13		試験	Voトラックのコンピング編集実技	これまでの授業を通じて学んだポイントをポートフォリオとしてまとめる
14		講義と演習	ミュージカルのライブレコーディングのセッション作成につ	ミュージカルのライブレコーディングのセッション作成について 振り返りと自習
15		講義と演習	ミュージカルのライブレコーディングセッションの編集と管理	ミュージカルのライブレコーディングセッションの編集と管理について 振り返りと自習
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

専用プリント

科目名	ProTools Basic 2	必修選択	選択	年次	1	担当教員	大村
学科・コース	音楽テクノロジー学科・レコーディング&PA	授業形態	講義・演習・実習等	総時間（単位）	30 2単位		
教員の略歴	レコーディングエンジニア歴24年						
授業の学習内容	業界録音標準のアプリProToolsの機能と使用方法をマスターする						
到達目標	録音実習過程と並行してProToolsの機能とオペレーション方法を理解し、留まる事なくオペレート出来る。						
評価方法と基準	1）定期テスト（実技）60%　2）定期テスト（筆記）40% ProToolsセッションの作成からミックスまでの過程を適切なオペレーションで出来る。						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1		講義と演習	ミックス作業時のトラックセッティングを理解する	ミックス作業時のトラックセッティングを理解する 振り返りと自習
2		講義と演習	ミックス作業時のプラグインを理解する	ミックス作業時のプラグインを理解する 振り返りと自習
3		講義と演習	ミックスを実際に行い、仕上げるスキルをアップする	個人で0からミックス作業を行う
4		講義と演習	セッションインポートでの効率的な作業を理解する	セッションインポートでの効率的な作業を理解する 振り返りと自習
5		講義と演習	新規セッションからダビングまでのセッティングを理解する	新規セッションからダビングまでのセッティングを理解する 振り返りと自習
6		講義と演習	新規セッションからマルチダビングまでのセッティングを理	新規セッションからマルチダビングまでのセッティングを理解する 振り返りと自習
7		講義と演習	テンポの検出とトラックセッティングを理解する	テンポの検出とトラックセッティングを理解する 振り返りと自習
8		講義と演習	新規セッションからテンポ検出、ダビングまでのセッティングを出来るようにする	新規セッションからテンポ検出、ダビングまでのセッティングを出来るようにする　振り返りと自習
9		講義と演習	2Mixの編集とデータ書き出しを理解する	2Mixの編集とデータ書き出しを理解する 振り返りと自習
10		講義と演習	マルチトラックの編集と書き出しを出来るようにする	マルチトラックの編集と書き出しを出来るようにする 振り返りと自習
11		講義と演習	マルチトラックでの補正編集を出来るようにする	マルチトラックでの補正編集を出来るようにする 振り返りと自習
12		講義と演習	Midiトラックの編集を理解する	Midiトラックの編集を理解する 振り返りと自習
13		試験	新規セッションからダビングまでのセッティング実技	これまでの授業を通じて学んだポイントをポートフォリオとしてまとめる
14		講義と演習	卒業制作のライブレコーディングに向けたシステム構築及びProToolsセッション作成について	卒業制作のライブレコーディングに向けたシステム構築及びProToolsセッション作成について　振り返りと自習
15		講義と演習	卒業制作のライブレコーディングセッションの編集と管理に	卒業制作のライブレコーディングセッションの編集と管理について 振り返りと自習
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

専用プリント

科目名	Creator'sRecording概論　1	必修選択	選択	年次	1	担当教員	西片悠人
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャーデビュー/音楽プロデューサー/DJパフォーマー&トラックメーカー	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2単位		
教員の略歴	レコーディングエンジニア歴8年（代表作品：GLAY「LOVE IS BEAUTIFUL」,かりゆし58「でーじ、かりゆし」）						
授業の学習内容	音楽クリエーターを目指す上で、レコーディング技術の必要性と需要が高まってきている昨今、クリエーターにとって必要なデジタルレコーディングの基本概念と、レコーディング技術及びミキシング・マスタリング技術の基礎知識と技術の習得を目指す。						
到達目標	①デジタルレコーディングの基本概念の理解 ②ヴォーカル及び各種アコースティック楽器のレコーディング技術の習得 ③業界標準DAW「ProTools」の基本概念と機能の理解						
評価方法と基準	1）定期テスト（筆記60%　実技40%）						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1		講義	デジタルレコーディング基本概念の理解① （アナログ,デジタルの違いとレコーディング技術の変遷について）	デジタルレコーディング基本概念の理解① （アナログ,デジタルの違いとレコーディング技術の変遷について）
2		講義	デジタルレコーディング基本概念の理解② （サンプリングレート、ビットレートについての理解）	デジタルレコーディング基本概念の理解② （サンプリングレート、ビットレートについての理解）
3		講義	デジタルレコーディング応用編① （AD/DA,レイテンシーとは？その対策について）	デジタルレコーディング応用編① （AD/DA,レイテンシーとは？その対策について）
4		講義	デジタルレコーディング応用編② （ワードクロックについて、活用法や注意点について）	デジタルレコーディング応用編② （ワードクロックについて、活用法や注意点について）
5		講義	マイクの種類および特性について	マイクの種類および特性について
6		講義	アナログコンソール（SSL4000G）を利用したオーディオルーティングについての理解	アナログコンソール（SSL4000G）を利用したオーディオルーティングについての理解
7		講義	アナログコンソール（SSL4000G）を利用したオーディオルーティングを理解し、レコーディング及びモニタリングのセットアップについて	アナログコンソール（SSL4000G）を利用したオーディオルーティングを理解し、レコーディング及びモニタリングのセットアップについて
8		演習	ヴォーカルレコーディングのセッティングとルーティングについて	ヴォーカルレコーディングのセッティングとルーティングについて
9		演習	アコースティック楽器のセッティングとルーティングについて	アコースティック楽器のセッティングとルーティングについて
10		講義	DAW「ProTools」基礎① セッションの作り方、各種機能の理解	DAW「ProTools」基礎① セッションの作り方、各種機能の理解
11		講義	DAW「ProTools」基礎② 編集ウィンドウの理解、4つの基本モードの理解	DAW「ProTools」基礎② 編集ウィンドウの理解、4つの基本モードの理解
12		講義	DAW「ProTools」基礎③ ミックスウィンドウの理解、オーディオルーティングについて	DAW「ProTools」基礎③ ミックスウィンドウの理解、オーディオルーティングについて
13		試験	SSLコンソールを使った実技テスト	これまでの授業を通じて学んだポイントをポートフォリオとしてまとめる
14		講義・演習	ミュージカルのライブレコーディングのシステム構築及びProToolsセッション作成について	ミュージカルのライブレコーディングのセッション作成について 振り返りと自習
15		講義・演習	ミュージカルのライブレコーディングセッションの編集と管理	ミュージカルのライブレコーディングセッションの編集と管理について 振り返りと自習
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Creator'sRecording概論　2	必修選択	選択	年次	1	担当教員	西片悠人
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャーデビュー/音楽プロデューサー/DJパフォーマー&トラックメーカー	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2単位		
教員の略歴	レコーディングエンジニア歴8年（代表作品：GLAY「LOVE IS BEAUTIFUL」,かりゆし58「でーじ、かりゆし」）						
授業の学習内容	音楽クリエーターを目指す上で、レコーディング技術の必要性と需要が高まってきている昨今、クリエーターにとって必要なデジタルレコーディングの基本概念と、レコーディング技術及びミキシング・マスタリング技術の基礎知識と技術の習得を目指す。						
到達目標	①デジタルレコーディングの基本概念の理解 ②ヴォーカル及び各種アコースティック楽器のレコーディング技術の習得 ③業界標準DAW「ProTools」の基本概念と機能の理解						
評価方法と基準	1）定期テスト（筆記60%　実技40%）						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1		講義	DAW「ProTools」応用① （レコーディングセットアップについて）	DAW「ProTools」応用① （レコーディングセットアップについて）
2		講義	DAW「ProTools」応用② （ヴォーカルレコーディングとモニタリングについて）	DAW「ProTools」応用② （ヴォーカルレコーディングとモニタリングについて）
3		演習	DAW「ProTools」応用① （ヴォーカルレコーディングと編集について　その1）	DAW「ProTools」応用① （ヴォーカルレコーディングと編集について　その1）
4		演習	DAW「ProTools」応用④ （ヴォーカルレコーディングと編集について　その2）	DAW「ProTools」応用④ （ヴォーカルレコーディングと編集について　その2）
5		講義	各種エフェクターの機能理解と活用法について① （イコライザーについて）	各種エフェクターの機能理解と活用法について① （イコライザーについて）
6		講義	各種エフェクターの機能理解と活用法について② （リバーブについて）	各種エフェクターの機能理解と活用法について② （リバーブについて）
7		講義	各種エフェクターの機能理解と活用法について③ （ディレイについて）	各種エフェクターの機能理解と活用法について③ （ディレイについて）
8		講義	各種エフェクターの機能理解と活用法について④ （コンプレッサーについて　その①）	各種エフェクターの機能理解と活用法について④ （コンプレッサーについて　その①）
9		講義	各種エフェクターの機能理解と活用法について⑤ （コンプレッサーについて　その②）	各種エフェクターの機能理解と活用法について⑤ （コンプレッサーについて　その②）
10		講義	各種エフェクターの機能理解と活用法について⑥ （ダイナミクス系（ゲート、エキスパンダー）について）	各種エフェクターの機能理解と活用法について⑥ （ダイナミクス系（ゲート、エキスパンダー）について）
11		演習	ミキシングについて （モニタリング、バランス、エフェクト処理、プロセス、心構え）	ミキシングについて （モニタリング、バランス、エフェクト処理、プロセス、心構え）
12		講義	マスタリングについて （マスタリングとは？、プロセス、DDP）	マスタリングについて （マスタリングとは？、プロセス、DDP）
13		試験	ProToolsを使用して課題曲の編集及びミキシング実技テスト	これまでの授業を通じて学んだポイントをポートフォリオとしてまとめる
14		講義・演習	卒業進級制作のライブレコーディングのシステム構築及びProToolsセッション作成について	卒業進級制作のライブレコーディングに向けたシステム構築及びProToolsセッション作成について　振り返りと自習
15		講義・演習	卒業進級制作のライブレコーディングセッションの編集と管理について	卒業進級制作のライブレコーディングセッションの編集と管理について 振り返りと自習
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	音響基礎知識　1	必修選択	選択	年次	1	担当教員	家守久雄
学科・コース	音楽テクノロジー・レコーディング&PA	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 2単位		
教員の略歴	レコーディングエンジニア歴38年						
授業の学習内容	レコーディングエンジニアとしての技術的な知識だけでなく、音響理論、スタジオアコースティック、楽器や楽譜などの音楽的な知識を総合的に身につけさせる。						
到達目標	日本音楽スタジオ協会が行うサウンドレコーディング技術認定試験に向けての音響技術と知識の習得を目指す						
評価方法と基準	1）定期テスト（筆記60%　実技40%）						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1		講義	音についての基礎的な知識習得	音についての基礎的な知識習得 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
2		講義	音の伝達　基礎知識学習	音の伝達　基礎知識学習 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
3		講義	音響物理　基礎知識学習	音響物理　基礎知識学習 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
4		講義	音響物理　基礎知識学習	音響物理　基礎知識学習 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
5		講義	電気の基礎知識学習	電気の基礎知識学習 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
6		講義	スタジオ設計の理解	スタジオ設計の理解 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
7		講義	スタジオシステム　機器の学習	スタジオシステム　機器の学習 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
8		講義	マイクロフォンの構造機能学習	マイクロフォンの構造機能学習 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
9		講義	調整卓　回路の基礎知識学習	調整卓　回路の基礎知識学習 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
10		講義	アウトボードの使用法学習	アウトボードの使用法学習 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
11		講義	アナログ機器の調整法学習	アナログ機器の調整法学習 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
12		試験	オーケストラの録音法学習	オーケストラの録音法学習 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
13		講義	ボーカルレコーディング実習	ボーカルレコーディング実習 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
14		講義と演習	ミュージカルのライブレコーディングのシステム構築及びProToolsセッション作成について	ミュージカルのライブレコーディングのセッション作成について 振り返りと自習
15		講義と演習	ミュージカルのライブレコーディングセッションの編集と管理につい	ミュージカルのライブレコーディングセッションの編集と管理について 振り返りと自習
準備学習　時間外学習			JAPRSテキストでの予習	

【使用教科書・教材・参考書】
JAPRSテキスト　問題集

科目名	音響基礎知識　2	必修選択	必修	年次	1	担当教員	家守久雄
学科・コース	音楽テクノロジー・レコーディング&PA	授業形態	講義・演習・実習等	総時間（単位）	30 2単位		
教員の略歴	レコーディングエンジニア歴38年						
授業の学習内容	レコーディングエンジニアとしての技術的な知識だけでなく、音響理論、スタジオアコースティック、楽器や楽譜などの音楽的な知識を総合的に身につけさせる。						
到達目標	日本音楽スタジオ協会が行うサウンドレコーディング技術認定試験に向けての音響技術と知識の習得を目指す						
評価方法と基準	1）定期テスト（筆記60%　実技40%）						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1		講義	ドラムレコーング法を習得	ドラムレコーング法を習得 振り返りと自習
2		講義	PloToolsの操作法を習得	PloToolsの操作法を習得 振り返りと自習
3		講義	MixDownについての知識と理解、セッティングの重要性と方法について	MixDownについての知識と理解、セッティングの重要性と方法について、振り返りと自習
4		講義	MixDownについての知識と理解、MixDownのフロ	MixDownについての知識と理解、MixDownのフローについて、振り返りと自習
5		講義	音楽素材の編集技術の習得	音楽素材の編集技術の習得 振り返りと自習
6		講義	マスタリングの技術習得	マスタリングの技術習得 振り返りと自習
7		講義	様々な楽器の録音技術習得	様々な楽器の録音技術習得 振り返りと自習
8		講義	音楽理論と楽器の録音法習得	音楽理論と楽器の録音法習得 振り返りと自習
9		講義	テキストのまとめによる復習	テキストのまとめによる復習 振り返りと自習
10		講義	MixDown実習によるコンプレッサー処理の技術習	MixDown実習によるコンプレッサー処理の技術習得 振り返りと自習
11		講義	MixDown実習によるイコライザー処理の技術習得	MixDown実習によるイコライザー処理の技術習得 振り返りと自習
12		試験	試験による学習内容のまとめ	試験による学習内容のまとめ 振り返りと自習
13		講義	MixDown実習による空間表現の技術習得	MixDown実習による空間表現の技術習得 振り返りと自習
14		講義と演習	卒業進級制作のライブレコーディングのシステム構築及びProToolsセッション作成について	卒業進級制作のライブレコーディングに向けたシステム構築及びProToolsセッション作成について　振り返りと自習
15		講義と演習	卒業進級制作のライブレコーディングセッションの編集と管理につ	卒業進級制作のライブレコーディングセッションの編集と管理について 振り返りと自習
準備学習　時間外学習			JAPRSテキストでの予習	

【使用教科書・教材・参考書】
JAPRSテキスト　問題集

科目名	音響機器オペレート 1	必修選択	選択	年次	1	担当教員	家守久雄
学科・コース	音楽テクノロジー・レコーディング&PA	授業形態	講義・実習	総時間（単位）	30 2単位		
教員の略歴	レコーディングエンジニア歴38年						
授業の学習内容	レコーディングにおける作業内容の理解と学習、様々な機器の操作法をマスターし、技術と芸術性を身につけさせる						
到達目標	音響技術と知識の習得,、作品の制作実習によってレコーディングエンジニアとして必要な機器の基本的な操作ができる。						
評価方法と基準	1）定期テスト（筆記40%　実技60%）						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1		講義	機器名と基礎的な使用法の理解	機器名と基礎的な使用法の理解 振り返りと自習
2		講義	機器名と基礎的な操作法の理解と習得	機器名と基礎的な操作法の理解と習得 振り返りと自習
3		講義	コンソールの回線フローの説明と使用法習得	コンソールの回線フローの説明と使用法習得 振り返りと自習
4		講義	コンソールのレコーディング及びミックスモード機能の説明と使用法習得	コンソールのレコーディング及びミックスモード機能の説明と使用法習得 振り返りと自習
5		講義と演習	コンソール各セクションの操作法習得	コンソール各セクションの操作法習得 振り返りと自習
6		講義と演習	ボーカル録音によるマイキング技術習得	ボーカル録音によるマイキング技術習得 振り返りと自習
7		講義と演習	ボーカル録音によるモニターバランス技術習	ボーカル録音によるモニターバランス技術習得 振り返りと自習
8		講義と演習	ボーカル録音によるエフェクト処理技術習得	ボーカル録音によるエフェクト処理技術習得 振り返りと自習
9		講義と演習	ドラム録音によるマイキング技術習得	ドラム録音によるマイキング技術習得 振り返りと自習
10		講義と演習	ギター、ベース録音によるマイキング技術習	ギター、ベース録音によるマイキング技術習得 振り返りと自習
11		講義と演習	ProToolsの編集法習得	ProToolsの編集法習得 振り返りと自習
12		講義と演習	前期テスト　アウトボードの操作法習得	前期テスト　アウトボードの操作法習得 振り返りと自習
13		講義と演習	ボーカル録音の実演を行なった総合技術習	ボーカル録音の実演を行なった総合技術習得 振り返りと自習
14		講義と演習	ミュージカルのライブレコーディングのシステム構築及びProTools セッション作成について	ミュージカルのライブレコーディングのセッション作成について 振り返りと自習
15		講義と演習	ミュージカルのライブレコーディングセッションの編集と管理につい	ミュージカルのライブレコーディングセッションの編集と管理について 振り返りと自習
準備学習　時間外学習			JAPRSテキストでの予習	

【使用教科書・教材・参考書】
JAPRSテキスト　問題集

科目名	音響機器オペレート 2	必修選択	選択	年次	1	担当教員	家守久雄
学科・コース	音楽テクノロジー・レコーディング&PA	授業形態	講義・実習	総時間（単位）	30 2単位		
教員の略歴	レコーディングエンジニア歴38年						
授業の学習内容	レコーディングにおける作業内容の理解と学習、様々な機器の操作法をアスターし、技術と芸術性を身につけさせる。						
到達目標	音響技術と知識の習得,、作品の制作実習によってレコーディングエンジニアとして必要な機器の基本的な操作ができる。						
評価方法と基準	1）定期テスト（筆記40%　実技60%）						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1		実習　講義	MixDown時の機器の操作法習得	MixDown時の機器の操作法習得 振り返りと自習
2		実習　講義	MixDown実習による技術習得	MixDown実習による技術習得 振り返りと自習
3		実習　講義	MixDown時のサウンドメイクについて	MixDown時のサウンドメイクについて 振り返りと自習
4		実習　講義	MixDown時のアウトボード操作法習	MixDown時のアウトボード操作法習得 振り返りと自習
5		実習　講義	MixDownのミックスバランスのテクニ	MixDownのミックスバランスのテクニック習得 振り返りと自習
6		実習　講義	MixDown課題曲①発表による制作実習（技術習得）	Mix課題曲①制作
7		実習　講義	MixDown課題曲②発表による制作実習（技術習得）	Mix課題曲②制作
8		実習　講義	MixDown課題曲③発表による制作実習（技術習得）	Mix課題曲③制作
9		実習　講義	MixDown課題曲④発表による制作実習（技術習得）	Mix課題曲④制作
10		実習　講義	MixDown課題曲⑤発表による制作実習（技術習得）	Mix課題曲⑤制作
11		実習　講義	MixDown課題曲⑥発表による制作実習（技術習得）	Mix課題曲⑥制作
12		試験　講義	試験による学習内容のまとめ	
13		実習　講義	マスタリング実習による技術習得	マスタリング実習による技術習得 振り返りと自習
14		講義と演習	卒業進級制作のライブレコーディングのシステム構築及びProToolsセッション作成について	卒業進級制作のライブレコーディングに向けたシステム構築及びProToolsセッション作成について　振り返りと自習
15		講義と演習	卒業進級制作のライブレコーディングセッションの編集と管理につい	卒業進級制作のライブレコーディングセッションの編集と管理について 振り返りと自習
準備学習　時間外学習			JAPRSテキストでの予習	

【使用教科書・教材・参考書】
JAPRSテキスト　問題集

科目名	MaxプログラミングBasic 1	必修選択	選択	年次	1	担当教員	有馬知章
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャーデビュー/音楽プロデューサー/DJパフォーマー&トラックメーカー/レコーディング&PA	授業形態	講義・演習・実習	総時間（単位）	30 2単位		
教員の略歴	シンセサイザー教室講師、シンセサイザー・プログラマー、音楽プロデューサー、マルチメディアプロデューサーなど業界にて41年業務に従事します。						
授業の学習内容	音楽理論及びMIDIの知識に基づいた基礎学習。プログラミングの概念の理解と基礎知識、技術の習得。						
到達目標	音と映像を組み合わせたシーケンサーパッチの作成が出来る						
評価方法と基準	定期テスト：試験100% ※筆記試験の得点に平常点を掛けて最終評価の点数とする。						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	MIDI基本概念	MIDI基本概念 時間外学習としてメモノートのまとめ
2		講義	MIDI応用概念	MIDI応用概念 時間外学習としてメモノートのまとめ
3		講義	新規パッチャーの作成	新規パッチャーの作成 時間外学習としてメモノートのまとめ
4		講義・演習	パッチャーウィンドウの使い方及び見方について	パッチャーウィンドウの使い方及び見方について 時間外学習としてメモノートのまとめ
5		講義・演習	button、パッチ・コードを使った接続について	button、パッチ・コードを使った接続について 時間外学習としてメモノートのまとめ
6		講義・演習	パッチャー・ウィンドウのロックについて	パッチャー・ウィンドウのロックについて 時間外学習としてメモノートのまとめ
7		講義・演習	パッチの保存	パッチの保存 時間外学習としてメモノートのまとめ
8		講義・演習	オブジェクト・ボックスについて①	オブジェクト・ボックスについて① 時間外学習としてメモノートのまとめ
9		講義・演習	オブジェクト・ボックスについて②	オブジェクト・ボックスについて② 時間外学習としてメモノートのまとめ
10		講義・演習	randomオブジェクト、ナンバー・ボックス	randomオブジェクト、ナンバー・ボックス 時間外学習としてメモノートのまとめ
11		講義・演習	counterオブジェクトについて	counterオブジェクトについて 時間外学習としてメモノートのまとめ
12		講義・演習	metroオブジェクト、toggle	metroオブジェクト、toggle 時間外学習としてメモノートのまとめ
13		テスト	単音シンセサイザーパッチの作成	フィードバックと振り返り
14		実習	2つ以上のエフェクターを組み合わせたシンセサイザーパッチの作成	時間外学習として作成の続きを行う
15		実習	3つ以上のエフェクターを組み合わせたシンセサイザーパッチの作成	振り返りとレポートまとめ
準備学習　時間外学習				

科目名	MaxプログラミングBasic 2	必修選択	選択	年次	1	担当教員	有馬知章
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャーデビュー/音楽プロデューサー/DJパフォーマー&トラックメーカー/レコーディング&PA	授業形態	講義・演習・実習	総時間（単位）	30 2単位		
教員の略歴	シンセサイザー教室講師、シンセサイザー・プログラマー、音楽プロデューサー、マルチメディアプロデューサーなど業界にて41年業務に従事します。						
授業の学習内容	音楽理論及びMIDIの知識に基づいた基礎学習。プログラミングの概念の理解と基礎知識、技術の習得。						
到達目標	音と映像を組み合わせたシーケンサーパッチの作成が出来る						
評価方法と基準	定期テスト：試験100% ※筆記試験の得点に平常点を掛けて最終評価の点数とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	メッセージボックスについて	メッセージボックスについて 時間外学習としてメモノートのまとめ
2		講義・演習	ビデオファイルの再生について	ビデオファイルの再生について 時間外学習としてメモノートのまとめ
3		講義・演習	再生フレームについて	再生フレームについて 時間外学習としてメモノートのまとめ
4		講義・演習	ランダム再生パッチについて①	ランダム再生パッチについて① 時間外学習としてメモノートのまとめ
5		講義・演習	ランダム再生パッチについて②	ランダム再生パッチについて② 時間外学習としてメモノートのまとめ
6		講義・演習	ランダム再生パッチについて③	ランダム再生パッチについて③ 時間外学習としてメモノートのまとめ
7		講義・演習	MIDIの振り返り	MIDIの振り返り 時間外学習としてメモノートのまとめ
8		講義・演習	makenoteオブジェクト、noteoutオブジェクトについて(	makenoteオブジェクト、noteoutオブジェクトについて① 時間外学習としてメモノートのまとめ
9		講義・演習	makenoteオブジェクト、noteoutオブジェクトについて(	makenoteオブジェクト、noteoutオブジェクトについて② 時間外学習としてメモノートのまとめ
10		講義・演習	selectオブジェクトについて	selectオブジェクトについて 時間外学習としてメモノートのまとめ
11		講義・演習	ステップシーケンサーパッチについて①	ステップシーケンサーパッチについて① 時間外学習としてメモノートのまとめ
12		講義・演習	ステップシーケンサーパッチについて②	ステップシーケンサーパッチについて② 時間外学習としてメモノートのまとめ
13		テスト	ステップシーケンサーの作成	フィードバックと振り返り
14		実習	音と映像が同期したシーケンサーの作成①	時間外学習として作成の続きを行う
15		実習	音と映像が同期したシーケンサーの作成②	振り返りとレポートまとめ
準備学習　時間外学習				

科目名	Xcodeアプリ制作Basic 1	必修選択	選択	年次	1	担当教員	有馬知章
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャーデビュー/音楽プロデューサー/DJパフォーマー&トラックメーカー/レコーディング&PA	授業形態	講義・演習・実習	総時間（単位）	30 2単位		
教員の略歴	シンセサイザー教室講師、シンセサイザー・プログラマー、音楽プロデューサー、マルチメディアプロデューサーなど業界にて41年業務に従事します。						
授業の学習内容	MacOS,iOS,iPadOS向けのアプリ開発に必要な基本概念の理解 Xcodeという開発ソフトの基本操作の理解と実践 プログラミング言語の理解						
到達目標	iOSアプリ創作が出来る						
評価方法と基準	定期テスト：試験100% ※筆記試験の得点に平常点を掛けて最終評価の点数とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	Xcodeの基礎理解とプログラミングとは	Xcodeの基礎理解とプログラミングとは 時間外学習としてメモノートのまとめ
2		講義・演習	Xcodeの導入 AppStoreからのインストール	Xcodeの導入 AppStoreからのインストール 時間外学習としてメモノートのまとめ
3		講義・演習	Xcodeの導入 プロジェクトの作り方	Xcodeの導入 プロジェクトの作り方 時間外学習としてメモノートのまとめ
4		講義・演習	Xcodeのメニューの見方 ツールバーについて	Xcodeのメニューの見方 ツールバーについて 時間外学習としてメモノートのまとめ
5		講義・演習	Xcodeのメニューの見方 ナビゲーターエリアについて	Xcodeのメニューの見方 ナビゲーターエリアについて 時間外学習としてメモノートのまとめ
6		講義・演習	Xcodeのメニューの見方 エディターエリアについて	Xcodeのメニューの見方 エディターエリアについて 時間外学習としてメモノートのまとめ
7		講義・演習	Xcodeのメニューの見方 デバッグエリアについて	Xcodeのメニューの見方 デバッグエリアについて 時間外学習としてメモノートのまとめ
8		講義・演習	Xcodeのメニューの見方 ユーティリティエリアについて	Xcodeのメニューの見方 ユーティリティエリアについて 時間外学習としてメモノートのまとめ
9		講義・演習	Xcodeの基本的使い方 ストーリーボードについて	Xcodeの基本的使い方 ストーリーボードについて 時間外学習としてメモノートのまとめ
10		講義・演習	Xcodeの基本的使い方 エディターについて	Xcodeの基本的使い方 エディターについて 時間外学習としてメモノートのまとめ
11		講義・演習	Xcodeの基本的使い方 シミュレーターについて	Xcodeの基本的使い方 シミュレーターについて 時間外学習としてメモノートのまとめ
12		講義・演習	これまでの総括と振り返り	
13		テスト	理解度テスト	
14		実習	振り返りレポート作成	
15		実習	振り返りフィードバックとプログラミング言語のイントロダクション	
準備学習　時間外学習				

科目名	Xcodeアプリ制作Basic 2	必修選択	選択	年次	1	担当教員	有馬知章
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャーデビュー/音楽プロデューサー/DJパフォーマー&トラックメーカー/レコーディング&PA	授業形態	講義・演習・実習	総時間（単位）	30 2単位		
教員の略歴	シンセサイザー教室講師、シンセサイザー・プログラマー、音楽プロデューサー、マルチメディアプロデューサーなど業界にて41年業務に従事します。						
授業の学習内容	MacOS,iOS,iPadOS向けのアプリ開発に必要な基本概念の理解 Xcodeという開発ソフトの基本操作の理解と実践 プログラミング言語の理解						
到達目標	iOSアプリ創作が出来る						
評価方法と基準	定期テスト：試験100% ※筆記試験の得点に平常点を掛けて最終評価の点数とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	プログラミング言語の基本概念と理解①	プログラミング言語の基本概念と理解① 時間外学習としてメモノートのまとめ
2		講義	プログラミング言語の基本概念と理解②	プログラミング言語の基本概念と理解② 時間外学習としてメモノートのまとめ
3		講義・演習	プログラミング言語 Objective-Cについて①	プログラミング言語 Objective-Cについて① 時間外学習としてメモノートのまとめ
4		講義・演習	プログラミング言語 Objective-Cについて②	プログラミング言語 Objective-Cについて② 時間外学習としてメモノートのまとめ
5		講義・演習	プログラミング言語 C言語について①	プログラミング言語 C言語について① 時間外学習としてメモノートのまとめ
6		講義・演習	プログラミング言語 C言語について②	プログラミング言語 C言語について② 時間外学習としてメモノートのまとめ
7		講義・演習	プログラミング言語 C + +について①	プログラミング言語 C + +について① 時間外学習としてメモノートのまとめ
8		講義・演習	プログラミング言語 C + +について②	プログラミング言語 C + +について② 時間外学習としてメモノートのまとめ
9		講義・演習	プログラミング言語 Javaについて①	プログラミング言語 Javaについて① 時間外学習としてメモノートのまとめ
10		講義・演習	プログラミング言語 Javaについて②	プログラミング言語 Javaについて② 時間外学習としてメモノートのまとめ
11		講義・演習	プログラミング言語 AppleScriptについて①	プログラミング言語 AppleScriptについて① 時間外学習としてメモノートのまとめ
12		講義・演習	プログラミング言語 AppleScriptについて②	プログラミング言語 AppleScriptについて② 時間外学習としてメモノートのまとめ
13		講義・演習	プログラミング言語 Swiftについて①	プログラミング言語 Swiftについて① 時間外学習としてメモノートのまとめ
14		講義・演習	プログラミング言語 Swiftについて②	プログラミング言語 Swiftについて② 時間外学習としてメモノートのまとめ
15		テスト	iOSアプリの自由創作	振り返りレポートのまとめ
準備学習　時間外学習				

科目名	DJパフォーマンスBasic 1-1	必修選択	選択	年次	1	担当教員	DJ Mai-My
学科・コース	音楽テクノロジー・DJパフォーマンス&トラックメーカー	授業形態	講義・演習・実習等	総時間（単位）	30 2単位		

教員の略歴	過去に"100店舗"を超える国内外のCLUBで"4000回"以上のGIGを行って来た実力派フィメールDJ。 あらゆるダンスミュージックを縦横無尽にミックスし、的確な選曲を即座に導き出すスキルとセンスは他の女性DJと一線を画す。 現在も多数のプロデュースイベントを持ち、若手の育成とプロデュース能力は業界屈指と定評である。 エイベックス主催a-nation 全国ツアー / ツアーDJ、OCTAGON六本木、TK渋谷、CAMELOT渋谷、ESPRIT TOKYO六本木、JUMANJI渋谷、LAPIS銀座など出演多数。
授業の学習内容	DJのパフォーマンス技術を習得する為に、最新のソフトウェアや機材の操作の理解、 楽曲の理解およびセレクト、スクラッチ技術などを学習する。
到達目標	DJとしてイベントに出演、ステージパフォーマンスの経験を積む。
評価方法と基準	1）定期テスト（実技試験：100%）

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	個人面談 目標や方向性にあわせた指導プラン構築のため、カウンセリングを兼ねた面談を実施。	
2		演習	機材に慣れる ・VINYLモードとCDJモードについて ・CUEポイントの作り方（頭出しの仕方）、BPMの説明、フェードイン、フェードアウト、カットイン、カットアウトなど初歩的な技術を使って機材に慣れる。	時間外学習として復習90分取り組む
3		演習	曲と曲を正確に合わせる② サンプルCDを使って、キック、BPM、ピッチを正確に合わせる	時間外学習として復習90分取り組む
4		演習	曲と曲を正確に合わせる④ サンプルCDを使って、キック、BPM、ピッチを正確に合わせる	時間外学習として復習90分取り組む
5		演習	MIX講習① 1ミキサーのチャンネル、レベルメーター、トリム、EQの説明 2Master Tempo（BPMの計算方法） 3フェーダーのみでMIX 4Lowカットを使ってMIX 5Highカットを使ってMIX	時間外学習として復習90分取り組む
6		演習	MIX講習③ 1ミキサーのチャンネル、レベルメーター、トリム、EQの説明 2Master Tempo（BPMの計算方法） 3フェーダーのみでMIX 4Lowカットを使ってMIX 5Highカットを使ってMIX	時間外学習として復習90分取り組む
7		演習	【前期中間テスト】 30分セットを作る実践	時間外学習として復習90分取り組む
8		演習	30分セットを作る Season2 ② A MIXポイントを学びながらセットを作る。 B 選曲の仕方を学びながらセットを作る C ロングミックスを学びながらセットを作る。	時間外学習として復習90分取り組む
9		演習	30分セットを作る Season3 ② A MIXポイントを学びながらセットを作る。 B 選曲の仕方を学びながらセットを作る C ロングミックスを学びながらセットを作る。	時間外学習として復習90分取り組む
10		演習	RecordBox講習 ② ・CD,USB,PCDJとの違いについて。RekordBoxを使うメリットについて 4メディアマネジメント 5インポート(解析)が終わった楽曲 6iTunesと連携したSync Manager	時間外学習として復習90分取り組む
11		講義	DJの歴史について	時間外学習として復習90分取り組む
12		演習	60分セットを作る② A MIXポイントを学びながらセットを作る。 B 選曲の仕方を学びながらセットを作る C ロングミックスを学びながらセットを作る。	時間外学習として復習90分取り組む
13		演習	60分セットを作る④ A MIXポイントを学びながらセットを作る。 B 選曲の仕方を学びながらセットを作る C ロングミックスを学びながらセットを作る。	時間外学習として復習90分取り組む
14		演習	進級制作イベントへの出演に向けた60分セットの作成①	時間外学習として復習90分取り組む
15		演習	進級制作イベントへの出演に向けた60分セットの作成③	時間外学習として復習90分取り組む
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	DJパフォーマンスBasic 1-2	必修選択	選択	年次	1	担当教員	DJ Mai-My
学科・コース	音楽テクノロジー・DJパフォーマンス&トラックメーカー	授業形態	講義・演習・実習等	総時間（単位）	30 2単位		

教員の略歴	過去に"100店舗"を超える国内外のCLUBで"4000回"以上のGIGを行って来た実力派フィメールDJ。 あらゆるダンスミュージックを縦横無尽にミックスし、的確な選曲を即座に導き出すスキルとセンスは他の女性DJと一線を画す。 現在も多数のプロデュースイベントを持ち、若手の育成とプロデュース能力は業界屈指と定評である。 エイベックス主催a-nation 全国ツアー / ツアーDJ、OCTAGON六本木、TK渋谷、CAMELOT渋谷、ESPRIT TOKYO六本木、JUMANJI渋谷、LAPIS競産など出演多数。
授業の学習内容	DJのパフォーマンス技術を習得する為に、最新のソフトウェアや機材の操作の理解、 楽曲の理解およびセレクト、スクラッチ技術などを学習する。
到達目標	DJとしてイベントに出演、ステージパフォーマンスの経験を積む。
評価方法と基準	1）定期テスト（実技試験：100%）

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	楽曲の入手方法 代表的なダウンロードサイト（DJ City）より入手する。 楽曲の管理について ・音楽ファイルの種類の説明　・BPM　・ビットレート	時間外学習として復習90分取り組む
2		演習	曲と曲を正確に合わせる① サンプルCDを使って、キック、BPM、ピッチを正確に合わせる	時間外学習として復習90分取り組む
3		演習	曲と曲を正確に合わせる③ サンプルCDを使って、キック、BPM、ピッチを正確に合わせる	時間外学習として復習90分取り組む
4		演習	曲の構成についての説明 ・講師がカテゴライズした楽曲から生徒がセレクト ・つなぐポイントを理論的に説明（小節、尺など） サンプルCDからジャンルごとに10曲セレクト	時間外学習として別ジャンルより10曲追加セレクト
5		演習	MIX講習② 1ミキサーのチャンネル、レベルメーター、トリム、EQの説明 2Master Tempo（BPMの計算方法） 3フェーダーのみでMIX 4Lowカットを使ってMIX 5Highカットを使ってMIX	時間外学習として復習90分取り組む
6		演習	30分セットを作る　Season1 A MIXポイントを学びながらセットを作る。 B 選曲の仕方を学びながらセットを作る C ロングミックスを学びながらセットを作る。	時間外学習として復習90分取り組む
7		演習	30分セットを作る Season2 ① A MIXポイントを学びながらセットを作る。 B 選曲の仕方を学びながらセットを作る C ロングミックスを学びながらセットを作る。	時間外学習として復習90分取り組む
8		演習	30分セットを作る Season3 ① A MIXポイントを学びながらセットを作る。 B 選曲の仕方を学びながらセットを作る C ロングミックスを学びながらセットを作る。	時間外学習として復習90分取り組む
9		演習	RecordBox講習 ① ・CD,USB,PCDJとの違いについて。RekordBoxを使うメリットについて 1ファイルマネジメント 2最初のセットアップ（各種モードの説明） 3プレイリストの作成	時間外学習として復習90分取り組む
10		演習	トライアルレッスン	時間外学習として復習90分取り組む
11		演習	60分セットを作る① A MIXポイントを学びながらセットを作る。 B 選曲の仕方を学びながらセットを作る C ロングミックスを学びながらセットを作る。	時間外学習として復習90分取り組む
12		演習	60分セットを作る③ A MIXポイントを学びながらセットを作る。 B 選曲の仕方を学びながらセットを作る C ロングミックスを学びながらセットを作る。	時間外学習として復習90分取り組む
13		演習	Back to Backについて ・共同プレイおよびパフォーマンスにおけるシステムの理解と実践。	時間外学習として復習90分取り組む
14		演習	進級制作イベントへの出演に向けた60分セットの作成②	時間外学習として復習90分取り組む
15		実習	進級制作イベント本番	振り返りレポート作成
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	DJパフォーマンスBasic 2-1	必修選択	選択	年次	1	担当教員	DJ Mai-My
学科・コース	音楽テクノロジー・DJパフォーマンス&トラックメーカー	授業形態	講義・演習・実習等	総時間（単位）	30 2単位		

教員の略歴	過去に"100店舗"を超える国内外のCLUBで"4000回"以上のGIGを行って来た実力派フィメールDJ。 あらゆるダンスミュージックを縦横無尽にミックスし、的確な選曲を即座に導き出すスキルとセンスは他の女性DJと一線を画す。 現在も多数のプロデュースイベントを持ち、若手の育成とプロデュース能力は業界屈指と定評である。 エイベックス主催a-nation 全国ツアー / ツアーDJ、OCTAGON六本木、TK渋谷、CAMELOT渋谷、ESPRIT TOKYO六本木、JUMANJI渋谷、LAPIS銀座など出演多数。
授業の学習内容	DJのパフォーマンス技術を習得する為に、最新のソフトウェアや機材の操作の理解、 楽曲の理解およびセレクト、スクラッチ技術などを学習する。
到達目標	DJとしてイベントに出演、ステージパフォーマンスの経験を積む。
評価方法と基準	1）定期テスト（実技試験：100%）

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	個人面談 目標や方向性にあわせた指導プラン構築のため、カウンセリングを兼ねた面談を実施。	
2		演習	機材に慣れる ・VINYLモードとCDJモードについて ・CUEポイントの作り方（頭出しの仕方）、BPMの説明、フェードイン、フェードアウト、カットイン、カットアウトなど初歩的な技術を使って機材に慣れる。	
3		演習	曲と曲を正確に合わせる② サンプルCDを使って、キック、BPM、ピッチを正確に合わせる	
4		演習	曲と曲を正確に合わせる④ サンプルCDを使って、キック、BPM、ピッチを正確に合わせる	
5		演習	MIX講習① 1ミキサーのチャンネル、レベルメーター、トリム、EQの説明 2Master Tempo（BPMの計算方法） 3フェーダーのみでMIX 4Lowカットを使ってMIX 5Highカットを使ってMIX	
6		演習	MIX講習③ 1ミキサーのチャンネル、レベルメーター、トリム、EQの説明 2Master Tempo（BPMの計算方法） 3フェーダーのみでMIX 4Lowカットを使ってMIX 5Highカットを使ってMIX	
7		演習	【前期中間テスト】 30分セットを作る実践	
8		演習	30分セットを作る Season2 ② A MIXポイントを学びながらセットを作る。 B 選曲の仕方を学びながらセットを作る C ロングミックスを学びながらセットを作る。	
9		演習	30分セットを作る Season3 ② A MIXポイントを学びながらセットを作る。 B 選曲の仕方を学びながらセットを作る C ロングミックスを学びながらセットを作る。	
10		演習	RecordBox講習 ② ・CD,USB,PCDJとの違いについて。RekordBoxを使うメリットについて 4メディアマネジメント 5インポート(解析)が終わった楽曲 6iTunesと連携したSync Manager	
11		講義	DJの歴史について	
12		演習	60分セットを作る② A MIXポイントを学びながらセットを作る。 B 選曲の仕方を学びながらセットを作る C ロングミックスを学びながらセットを作る。	
13		演習	60分セットを作る④ A MIXポイントを学びながらセットを作る。 B 選曲の仕方を学びながらセットを作る C ロングミックスを学びながらセットを作る。	
14		演習	進級制作イベントへの出演に向けた60分セットの作成①	
15		演習	進級制作イベントへの出演に向けた60分セットの作成③	
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	DJパフォーマンスBasic 2-2	必修選択	選択	年次	1	担当教員	DJ Mai-My
学科・コース	音楽テクノロジー・DJパフォーマンス&トラックメーカー	授業形態	講義・演習・実習等	総時間（単位）	30 2単位		

教員の略歴	過去に"100店舗"を超える国内外のCLUBで"4000回"以上のGIGを行って来た実力派フィメールDJ。 あらゆるダンスミュージックを縦横無尽にミックスし、的確な選曲を即座に導き出すスキルとセンスは他の女性DJと一線を画す。 現在も多数のプロデュースイベントを持ち、若手の育成とプロデュース能力は業界屈指と定評である。 エイベックス主催a-nation 全国ツアー / ツアーDJ、OCTAGON六本木、TK渋谷、CAMELOT渋谷、ESPRIT TOKYO六本木、JUMANJI渋谷、LAPIS銀座など出演多数。
授業の学習内容	DJのパフォーマンス技術を習得する為に、最新のソフトウェアや機材の操作の理解、 楽曲の理解およびセレクト、スクラッチ技術などを学習する。
到達目標	DJとしてイベントに出演、ステージパフォーマンスの経験を積む。
評価方法と基準	1）定期テスト（実技試験：100%）

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	楽曲の入手方法 代表的なダウンロードサイト（DJ City）より入手する。 楽曲の管理について ・音楽ファイルの種類の説明　・BPM　・ビットレート	
2		演習	曲と曲を正確に合わせる① サンプルCDを使って、キック、BPM、ピッチを正確に合わせる	
3		演習	曲と曲を正確に合わせる③ サンプルCDを使って、キック、BPM、ピッチを正確に合わせる	
4		演習	曲の構成についての説明 ・講師がカテゴライズした楽曲から生徒がセレクト ・つなぐポイントを理論的に説明（小節、尺など） サンプルCDからジャンルごとに10曲セレクト	
5		演習	MIX講習② 1ミキサーのチャンネル、レベルメーター、トリム、EQの説明 2Master Tempo（BPMの計算方法） 3フェーダーのみでMIX 4Lowカットを使ってMIX 5Highカットを使ってMIX	
6		演習	30分セットを作る　Season1 A MIXポイントを学びながらセットを作る。 B 選曲の仕方を学びながらセットを作る C ロングミックスを学びながらセットを作る。	
7		演習	30分セットを作る Season2 ① A MIXポイントを学びながらセットを作る。 B 選曲の仕方を学びながらセットを作る C ロングミックスを学びながらセットを作る。	
8		演習	30分セットを作る Season3 ① A MIXポイントを学びながらセットを作る。 B 選曲の仕方を学びながらセットを作る C ロングミックスを学びながらセットを作る。	
9		演習	RecordBox講習 ① ・CD,USB,PCDJとの違いについて。RekordBoxを使うメリットについて 1ファイルマネジメント 2最初のセットアップ（各種モードの説明） 3プレイリストの作成	
10		演習	トライアルレッスン	
11		演習	60分セットを作る① A MIXポイントを学びながらセットを作る。 B 選曲の仕方を学びながらセットを作る C ロングミックスを学びながらセットを作る。	
12		演習	60分セットを作る③ A MIXポイントを学びながらセットを作る。 B 選曲の仕方を学びながらセットを作る C ロングミックスを学びながらセットを作る。	
13		演習	Back to Backについて ・共同プレイおよびパフォーマンスにおけるシステムの理解と実践。	
14		演習	進級制作イベントへの出演に向けた60分セットの作成②	
15		実習	進級制作イベント本番	
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	イベント制作運営演習1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	唐澤　淳 江見　千尋
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・プロマネージャーコース・スーパーマネージャーコース・スタッフ&ミュージシャンコース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	90 6		
教員の略歴	唐澤：アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務　江見：イベンターとして仕事をスタートし、その後　舞台監督、舞台照明などの業務に携わる						
授業の学習内容	江戸川文化センターで行われる骨髄移植推進キャンペーンニュージカル「明日への扉」の公演を教材にイベントスタッフとして必要な運営・制作の知識を実践的に学ぶ。 実践で行うことにより、舞台を創る流れや細かな段取りを学びながら業界に必要な人材として成長していく。						
到達目標	運営・制作の流れが理解出来る。 公演の際にスタッフの一員として参加出来る。						
評価方法と基準	授業の中でのレポート提出　30% 「明日への扉」に関しての積極的な発言や態度。関わりや、本番日の行動力、スタッフの一員として成り立っているか。それぞれに与えられた担当のなかで仕事を全うしているかを評価　70%						

授業計画・内容

回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	「明日への扉」の内容について触れ、本公演を開催する意義を理解する	骨髄移植を推進するプロモーションをレポート用紙にて提出する
2	演習	運営のセクションの流れと段取りを学ぶ	運営とはどのような役割かをレポートにまとめ提出
3	演習	制作のセクションの流れと段取りを学ぶ	制作とはどのような役割かをレポートにまとめ提出
4	演習	その他のセクション（PA・照明・舞台・衣装管理・メイク）の流れと段取りを学ぶ	昨年のマニュアルを参考に関わり時期を調べておく
5	演習	運営スタッフ・制作スタッフ共通して使用する機材や備品の使い方について学ぶ	昨年のマニュアルを参考に実際に使用していた時期を調べておく
6	演習	各希望セクションに分かれ、運営：公演概要と運営方法を学ぶ　制作：稽古スケジュールを基に稽古期間の流れや	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働し、レポートを提出
7	演習	運営：チケット発売方法と管理方法を学ぶ　制作：台本の使い方を学ぶ・稽古会場の仕込みを学ぶ	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働し、レポートを提出
8	演習	運営：協賛の必要性を学び協力をお願いする　制作：制作スケジュールの作成・各セクション香盤表を作成	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働し、レポートを提出
9	演習	運営：ホールRHに伴う会場下見、必要備品の準備・調達　制作：ホールRHに伴う会場下見・使用会場の申請・楽屋	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働し、レポートを提出
10	演習	運営：運営方法を学びマニュアルを作成する　制作：搬入・搬出方法を学ぶ・機材管理を学ぶ	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働し、レポートを提出
11	演習	運営：運営マニュアル読み合わせ　制作：各セクションへの伝達事項を学び実践する	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働し、レポートを提出
12	演習	「明日への扉」運営・制作スタッフとして公演を成功させる（実践的に各セクションについての当日の流れを学ぶ）	実践的に各セクションに取り組む
13	演習	「明日への扉」運営・制作スタッフとして公演を成功させる（実践的に各セクションについての当日の流れを学ぶ）	実践的に各セクションに取り組む
14	演習	運営・制作共に終了報告書の作成方法を学び、作成する	授業に引き続き作成し提出
15	演習	各セクションごとに終了報告会を開催する	実践的に各セクションに取り組む
準備学習　時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。	

【使用教科書・教材・参考書】

昨年度「明日への扉」公演マニュアル・概要書・終了報告書・今年度「明日への扉」台本

科目名	イベント制作運営演習2	必修選択	選択	年次	1	担当教員	唐澤　淳 江見　千尋
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・プロマネージャーコース・スーパーマネージャーコース・スタッフ&ミュージシャンコース	授業形態	演習	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	唐澤：アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務　江見：イベンターとして仕事をスタートし、その後　舞台監督、舞台照明などの業務に携わる						
授業の学習内容	ZEPPTOKYOで行われる卒業・進級制作展weareTSM！TSM渋谷！DA TOKYO！の公演を教材にイベントスタッフとして必要な運営・制作の知識を実践的に学ぶ。 実践で行うことにより、コンサートを創る流れや細かな段取りを学びながら業界に必要な人材として成長していく。						
到達目標	運営・制作の流れが理解出来る。 公演の際にスタッフの一員として参加出来る。						
評価方法と基準	授業の中でのレポート提出　30% 「明日への扉」に関しての積極的な発言や態度。関わりや、本番日の行動力、スタッフの一員として成り立っているか。それぞれに与えられた担当のなかで仕事を全うしているかを評価　70%						

授業計画・内容

回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	卒業・進級制作展の内容について触れ、本公演を開催する意義を理解する	コンセプトの元公演演出の考案レポートを提出
2	演習	運営のセクションの流れと段取りを学ぶ	運営とはどのような役割かをレポートにまとめ提出
3	演習	制作のセクションの流れと段取りを学ぶ	制作とはどのような役割かをレポートにまとめ提出
4	演習	その他のセクション（PA・照明・舞台・衣装管理・メイク）の流れと段取りを学ぶ	昨年のマニュアルを参考に関わり時期を調べておく
5	演習	運営スタッフ・制作スタッフ共通して使用する機材や備品の使い方について学ぶ	昨年のマニュアルを参考に実際に使用していた時期を調べておく
6	演習	各希望セクションに分かれ、運営：公演概要とコンセプト内容を学ぶ　制作：公演の流れを理解し稽古スケジュールを組む	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
7	演習	運営：座席管理方法を学ぶ　制作：公演演出の流れを理解し機材の管理を行う	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
8	演習	運営：運営マニュアルの作成方法を学び作成する　制作：制作スケジュールの作成・各セクション香盤表を作成	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
9	演習	運営：ホールRHに伴う会場下見、必要備品の準備・調達　制作：ホールRHに伴う会場下見・使用会場の申請・楽屋振り分	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
10	演習	運営：運営方法を学び作成する　制作：搬入・搬出方法を学ぶ・機材管理を学ぶ	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
11	演習	運営：運営マニュアルの読み合わせ　制作：各セクションへの伝達事項を学び実践する	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
12	演習	卒業・進級制作展運営・制作スタッフとして公演を成功させる（実践的に各セクションについての当日の流れを学ぶ）	実践的に各セクションに取り組む
13	演習	卒業・進級制作展運営・制作スタッフとして公演を成功させる（実践的に各セクションについての当日の流れを学ぶ）	実践的に各セクションに取り組む
14	演習	運営・制作共に終了報告書の作成方法を学び、作成する	授業に引き続き作成し提出
15	演習	各セクションごとに終了報告会を開催する	実践的に各セクションに取り組む
準備学習　時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。	

【使用教科書・教材・参考書】

昨年度「明日への扉」公演マニュアル・概要書・終了報告書・今年度「明日への扉」台本

科目名	チーム制作プロジェクトA （チーム制作プロジェクト1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	高田　雄貴
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・プロマネージャーコース・スーパーマネージャーコース・スタッフ＆ミュージシャンコース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	90 6		
教員の略歴	コンサート企画制作会社キョードー東京にてイベント・ツアー制作等を担当、独立後ライブ制作の他フジテレビお台場冒険王等のライブイベントの制作にも携わる						
授業の学習内容	[1] ライブイベントの企画制作についての基礎知識を学習する [2] ライブイベントの実施開催を通じて、イベント（コンサート/ライブ他）企画の実施についての基礎知識を学習する [3] 企業とライブイベントの実施準備協業を通じて、イベント制作者としての必要な業務を体験学習する						
到達目標	[1] ライブイベントの企画制作を依頼されても対応できる基礎知識を習得する [2] ライブイベントの実施開催を通じて、イベント（コンサート/ライブ他）企画の実施時における様々な事象の対応力を習得する [3] 企業とライブイベントの実施準備協業を通じて、イベント制作者としての必要なレベルの実務力を習得する						
評価方法と基準	[1] 定期試験 ※筆記試験（評価割合　40%） [2] 受講態度 ※課題提出（評価割合　60%）						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	プロジェクトの進め方の概要説明	プロフィールシートの作成
2	演習	ライブイベント実施に向けて（打合せ）を学ぶ	打合せ準備資料の作成
3	演習	ライブイベント実施[CIVILIAN]現場での動きを学ぶ	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
4	演習	ライブイベント実施[Chuning Candy]1st現場での動きを学ぶ	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
5	演習	ライブイベント実施[Aoyama Project]1st・[QUEENS]1st現場での動きを学ぶ	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
6	演習	ライブイベントを記録する（映像収録とWEB）の制作を学ぶ	ライブ映像の編集処理
7	演習	各ライブイベント実施に向けて（打合せ）を学ぶ	運営マニュアルの作成
8	演習	各ライブイベント実施に向けて（打合せ）を学ぶ	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
9	演習	ライブイベント実施[SUN MUSIC GET LIVE]1st現場での動きを学ぶ	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
10	演習	ライブイベント実施[QUEENS]2nd現場での動きを学ぶ	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
11	演習	ライブイベント実施[Chuning Candy]2nd現場での動きを学ぶ	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
12	演習	ライブイベント実施[SUN MUSIC GET LIVE]2nd現場での動きを学ぶ	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
13	演習	ライブイベント実施[Pro Musician FES!]現場での動きを学ぶ	運営マニュアルの作成・読み合わせ
14	演習	オーディションイベント実施[コロムビア・オーディション]現場での動きを学ぶ	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
15	演習	オーディションイベント実施[コロムビア・オーディション]現場での動きを学ぶ	ライブ映像の編集処理
準備学習　時間外学習		授業時間内の制作が中心で、教室内で扱えないものを時間外学習として進めます。	

【使用教科書・教材・参考書】

昨年度実績の概要書・終了報告書参照

科目名	チーム制作プロジェクトA （チーム制作プロジェクト2）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	岡　秀樹
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・プロマネージャーコース・スーパーマネージャーコース・スタッフ&ミュージシャンコース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	90 6		
教員の略歴	ライブハウス店長・ブッキングマネージャー、アーティストマネージャー						
授業の学習内容	エンターティメントの発信地である「渋谷」を拠点に活動しているライブハウスや音楽施設を知り、企業とプロジェクトを組み、生きたイベント企画・制作・運営・プロモーションを学ぶ。即戦力になる人材育成に向け実践力を身につける。						
到達目標	精度の高い企画書、実施要項、運営マニュアル、プロモーションプランを学生主体で作成できるようにする。イベント企画では、「独創的な企画を提案できる」こと、制作では「人・もの・お金・時間を管理」できること、運営では「進行を管理することができ、安心・安全な運営を円滑に行う」ことができること、プロモーションでは「既成概念に捉われること無く、自分たちに何ができるかを徹底的に追求し、時代に沿ったプロモーションを提案し実行」することを目標とする。						
評価方法と基準	授業内での積極的な発言や態度、プレゼンテーションの出来具合を評価　30% イベント本番日の行動力、企画制作、運営の技術、知識を振り返りシートにて評価　40% メール等のレスポンスの速さ、丁寧さ、プロモーション実行具合を評価30%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	新年度オリエンテーションの実施 (アイスブレイク、ブレインストーミング、映像鑑賞を終えての討論)	クラスでのコミュニケーションの振り返り
2	演習	コンサートの企画・制作・運営の考え方を学び、2年生が運営・制作を行う新入生歓迎ライブを見学する。	新入生歓迎ライブ出演者プロフィール把握、ステージセット把握
3	演習	エンターティメント施設取材①(企画書作成/渋谷施設調べ/アポどりシミュレーション)	渋谷にあるエンターテインメント施設を調べる
4	演習	エンターティメント施設取材②(アポどり/電話・メール・名刺交換シミュレーション)	希望する取材場所の施設の研究
5	演習	エンターティメント施設取材③(取材内容、取材方法を検討)	各自インタビュー記事の研究
6	演習	エンターティメント施設取材④(プレゼンテーション準備/パワーポイント作成/進行表作成/発表シミュレーション)	発表パワーポイント・発表進行表の作成
7	演習	エンターティメント施設取材⑤(プレゼンテーション実施/報告書の作成)	班員にて発表シミュレーション
8	演習	企業プロジェクト①(プロジェクト内容の説明・企業を紹介・担当者自己紹介)	エンターティメント取材報告書完成・提出
9	演習	企業プロジェクト②(企業理念理解/ディスカッション/スケジュール作成)	企業研究(歴史、理念、業務内容)
10	演習	企業プロジェクト③(プロジェクト企画書：プロモーションプランの作成)	ディスカッションした内容を元に企画書・プロモーションリスト作成
11	演習	企業プロジェクト④(プロモーションの実践/運営マニュアルの作成)	プロモーションスケジュール作成、運営マニュアルラフ作成
12	演習	企業プロジェクト⑤(☑イベント当日の運営・制作を実践)☐	運営マニュアルの読み合わせ
13	演習	企業プロジェクト⑥(全体報告会/報告書の作成)	報告会で発表する内容まとめ
14	演習	「明日への扉」運営・制作スタッフとして公演を行う。	運営マニュアル作成・各セクション決め
15	演習	「明日への扉」運営・制作スタッフとして公演を行う。	運営マニュアル読み合わせ
準備学習　時間外学習		各イベントや課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

DVD：MY GENERATION マイ・ジェネレーション(監督：バーバラ・コップ)

科目名	チーム制作プロジェクトB （チーム制作プロジェクト3）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	高田　雄貴
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・プロマネージャーコース・スーパーマネージャーコース・スタッフ＆ミュージシャンコース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	90 6		
教員の略歴	コンサート企画制作会社キョード一東京にてイベント・ツアー制作等を担当、独立後ライブ制作の他フジテレビお台場冒険王等のライブイベントの制作にも携わる						
授業の学習内容	[1] ライブイベントの企画制作についての基礎知識を学習する [2] ライブイベントの実施開催を通じて、イベント（コンサート/ライブ他）企画の実施についての基礎知識を学習する [3] 企業とライブイベントの実施準備協業を通じて、イベント制作者としての必要な業務を体験学習する						
到達目標	[1] ライブイベントの企画制作を依頼されても対応できる基礎知識を習得する [2] ライブイベントの実施開催を通じて、イベント（コンサート/ライブ他）企画の実施時における様々な事象の対応力を習得する [3] 企業とライブイベントの実施準備協業を通じて、イベント制作者としての必要なレベルの実務力を習得する						
評価方法と基準	[1] 定期試験 ※筆記試験（評価割合　40%） [2] 受講態度 ※課題提出（評価割合　60%）						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	活動方針設定会議の概要を学ぶ	会議資料準備
2	演習	ライブイベント実施に向けて（打合せ）を学ぶ	打合せ準備資料の作成
3	演習	ライブイベントの告知と準備を学ぶ	イベント実施打合せ・プロモーション
4	演習	ライブイベント実施[Chuning Candy]現場での動きを学ぶ	イベント後の終了報告書記入
5	演習	ライブイベント実施[Aoyama Project]]現場での動きを学ぶ	イベント後の終了報告書記入
6	演習	ライブイベント実施に向けて（打合せ）]を学ぶ	ライブ映像の編集処理
7	演習	ライブイベントの告知と準備を学ぶ学ぶ	運営マニュアルの作成
8	演習	ライブイベント実施[QUEENS]]現場での動きを学ぶ	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
9	演習	ライブイベントの告知と準備を学ぶ	イベント実施打合せ・プロモーション
10	演習	ライブイベント実施[SUN MUSIC GET LIVE]]現場での動きを学ぶ	イベント後の終了報告書記入
11	演習	ライブイベント実施[Chuning Candy]]現場での動きを学ぶ	イベント後の終了報告書記入
12	演習	ライブイベントの内容企画を学ぶ	企画書の作成・イベント企画打合せ
13	演習	ライブイベントの告知と準備を学ぶ	運営マニュアルの作成
14	演習	ライブイベント実施[Aoyama Project]・[QUEENS]現場での動きを学ぶ	イベント後の終了報告書記入
15	演習	年間活動内容総括会議	ライブ映像の編集処理
準備学習　時間外学習		授業時間内の制作が中心で、教室内で扱えないものを時間外学習として進めます。	

【使用教科書・教材・参考書】

昨年度実績の概要書・終了報告書参照

科目名	チーム制作プロジェクトB （チーム制作プロジェクト4）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	岡　秀樹
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・プロマネージャーコース・スーパーマネージャーコース・スタッフ&ミュージシャンコース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	90 6		
教員の略歴	ライブハウス店長・ブッキングマネージャー、アーティストマネージャー						
授業の学習内容	企業とプロジェクトを組み、イベント企画・制作・運営・プロモーションを、アクティブラーニングによる主体的な学びをゼミ方式で実践する。						
到達目標	企業プロジェクトでは動員や収益など内容だけでなく収支にも着目し、数字をクリアするための方法論を検討し実践する。						
評価方法と基準	授業内での積極的な発言や態度、プレゼンテーションの出来具合を評価　30% イベント本番日の行動力、企画制作、運営の技術、知識を振り返りシートにて評価　40% 収支を測る方法論を理解し、現場での実行力を評価　40%						

授業計画・内容

回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	特別講義(音楽業界人によるトークセッション)	ゲスト講師への質問事項を考えて提出する。
2	演習	企業プロジェクト①(プロジェクト内容の説明・企業を紹介・担当者自己紹介)	企業研究(歴史、理念、業務内容)資料を提出する。
3	演習	企業プロジェクト②(企業理念理解/ディスカッション/スケジュール作成)	前年度のプロジェクト内容を把握し資料として提出する。
4	演習	企業プロジェクト③(プロジェクト企画書/プロモーションプランの作成)	企画書作成に必要な情報集め(アーティスト情報、アー写など)、SNS配信予定表を提出する
5	演習	企業プロジェクト④(プロモーションの実践/運営マニュアルの作成)	運営マニュアルに必要な情報を提出する。(図面、セット図、セットリストなど)
6	演習	企業プロジェクト⑤☑(イベント当日の運営)☐	運営マニュアル読み込み 各メンバーで打ち合わせ
7	演習	企業プロジェクト⑥(全体報告会/報告書の作成)	報告会で発表する内容まとめ提出。企業への御礼文送信。
8	演習	自主企画①(班分け/アイディアフラッシュ)	A4 1枚に提案したいイベント内容をまとめて提出。
9	演習	自主企画②(コンセプト決め/企画書作成)	A4 で出演者向けに企画書を作成し提出。
10	演習	自主企画③(ブッキング/実施要綱/プロモーションプラン作成)	ブッキング用メール文の作成。プロモーション先リストを作成する。
11	演習	自主企画④(プロモーションツール/運営マニュアル作成)	印刷業者・グッズ製作会社調べ、運営マニュアルに必要な情報を集める(図面、セット図、セットリストなど)
12	演習	自主企画⑤(顔合わせ兼打ち合わせ)	各セクション問題無く進められるように懸念点や疑問点を洗い出しておく。
13	演習	自主企画⑥(運営シミュレーション)☐	備品が揃っているか確認し、足りないものは購入する。
14	演習	自主企画⑦(イベント当日の運営)	運営マニュアル読み込み 各メンバーで打ち合わせ
15	演習	自主企画⑧(全体報告会/報告書の作成)	報告会で発表する内容まとめ、御礼文送信
準備学習　時間外学習		各イベントや課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

都度必要に応じて自作プリント配布

科目名	イベントプロデュース1	必修選択	選択	年次	1	担当教員	高田　雄貴
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・プロマネージャーコース・スーパーマネージャーコース・スタッフ&ミュージシャンコース	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	コンサート企画制作会社キョードー東京にてイベント・ツアー制作等を担当、独立後ライブ制作の他フジテレビお台場冒険王等のライブイベントの制作にも携わる						
授業の学習内容	[1] 音楽ビジネスにおける基礎能力である、企画（プランニング）についての基礎知識を学習する [2] 音楽ビジネスのコア3ビジネスのうちイベント（コンサート/ライブ他）企画の実施についての基礎知識を学習する [3] 音楽ビジネスにおける基礎能力である、企画（プランニング）について学ぶ中から企画実務の基本を学習する						
到達目標	[1] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスのコアを知る事で業界人として必要な基礎知識を構築する [2] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスの仕組みを知る事で業界人として必要な基礎知識を構築する [3] 音楽業界への就職後に必要な音楽ビジネスの実務を知る事で業界人として必要な心構えを構築する						
評価方法と基準	[1] 定期試験 ※筆記試験（評価割合　40%） [2] 受講態度 ※レポート課題提出（評価割合　60%）						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	講義	はじめに　～　企画って何？	本日の授業をもってのレポートを800字以内で提出
2	講義	企画は誰の為　を理解する	本日の授業をもってのレポートを800字以内で提出
3	講義	会場について理解する	全国のホールを調査する
4	講義	5W1Hを理解する	本日の授業をもってのレポートを800字以内で提出
5	講義	イベント本番の時間的流れを理解する	モデルタイムテーブルの作成し提出
6	講義	メディアとプロモーションを理解する	メディアネットアークの調査
7	講義	ホームページとSNSを理解する	本日の授業をもってのレポートを800字以内で提出
8	講義	マーケットについて知る	シンクタンクのレポートを確認する
9	講義	売れてる？ヒットチャートを理解する	ヒットチャート調査のリスト化
10	講義	スタッフについて知る	本日の授業をもってのレポートを800字以内で提出
11	講義	集客するには（入場券とプレイガイド）を理解する	プレイガイドを研究しまとめたものを提出
12	講義	イベントのビジネスモデルを知る	本日の授業をもってのレポートを800字以内で提出
13	講義	企画立案しプレゼンする	アーティスト活動調査
14	講義	（明日への扉）を通してプランニング力を学ぶ	明日への扉を題材にイベント制作を考察する
15	講義	（明日への扉）を通してプランニング力を学ぶ	明日への扉を題材にイベント制作を考察する
準備学習　時間外学習		授業時間内の制作が中心で、教室内で扱えないものを時間外学習として進めます。	

【使用教科書・教材・参考書】

昨年度実績の概要書・終了報告書参照・自作PPT

科目名	イベントプロデュース2	必修選択	選択	年次	1	担当教員	高田　雄貴
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・プロマネージャーコース・スーパーマネージャーコース・スタッフ＆ミュージシャンコース	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	コンサート企画制作会社キョードー東京にてイベント・ツアー制作等を担当、独立後ライブ制作の他フジテレビお台場冒険王等のライブイベントの制作にも携わる						
授業の学習内容	[1] 音楽ビジネスにおける基礎能力である、企画（プランニング）についての基礎知識を学習する [2] 音楽ビジネスのコア3ビジネスのうちイベント（コンサート/ライブ他）企画の実施についての基礎知識を学習する [3] 音楽ビジネスにおける基礎能力である、企画（プランニング）について学ぶ中から企画実務の基本を学習する						
到達目標	[1] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスのコアを知る事で業界人として必要な基礎知識を構築する [2] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスの仕組みを知る事で業界人として必要な基礎知識を構築する [3] 音楽業界への就職後に必要な音楽ビジネスの実務を知る事で業界人として必要な心構えを構築する						
評価方法と基準	[1] 定期試験 ※筆記試験（評価割合　40%） [2] 受講態度 ※レポート課題提出（評価割合　60%）						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	講義	企画項目を整理する	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提
2	講義	企画書作成の準備をする・1	アーティストを調査しレポートとして提出
3	講義	企画書作成の準備をする・2	夏フェスティバルを調査しレポートとして提出
4	講義	実在のイベントをモデルに企画書化する・1	イベントを調査しレポートとして提出
5	講義	実在のイベントをモデルに企画書化する・2	モデルタイムテーブルの作成
6	講義	会場設備理論（全国の会場を分析する）ホール編	全国のホールを調査してレポートとして提出
7	講義	会場設備理論（全国の会場を分析する）ライブハウス編	全国のライブハウスを調査してレポートとして提出
8	講義	会場設備理論（全国の会場を分析する）アリーナスタジアム編	全国のアリーナスタジアムを調査してレポートとして提出
9	講義	イベント企画の研究	オリンピックについて調査してレポートとして提出
10	講義	イベントと法規	消防申請について調査しレポートとして提出
11	講義	単体イベントとツアー	クリスマスツアーを調査しレポートとして提出
12	講義	ツアーの企画を立案する	交通インフラを調査してレポートとして提出する
13	講義	イベントのスタイルとビジネスモデル	ACPCの資料を検証しレポートとして提出
14	講義	（明日への扉）を通してプランニング力を学ぶ	明日への扉を題材にイベント制作を考察する
15	講義	（明日への扉）を通してプランニング力を学ぶ	明日への扉を題材にイベント制作を考察する
準備学習　時間外学習		授業時間内の制作が中心で、教室内で扱えないものを時間外学習として進めます。	

【使用教科書・教材・参考書】

昨年度実績の概要書・終了報告書参照・自作PPT

科目名	音楽業界知識1	必修選択	必修	年次	1	担当教員	高田　雄貴
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・プロマネージャーコース・スーパーマネージャーコース・スタッフ＆ミュージシャンコース	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	コンサート企画制作会社キョードー東京にてイベント・ツアー制作等を担当、独立後ライブ制作の他フジテレビお台場冒険王等のライブイベントの制作にも携わる						
授業の学習内容	[1] 音楽業界へ進む上で必要とされる基礎知識を学習する [2] 音楽ビジネスの企業で勤務する際に必要なビジネススキルの基礎知識や実務の基本を学習するを学習する [3] 最新の音楽業界の動向や、一般的なメディアの取り扱いなどを検証分析することで、音楽ビジネスにおけるマーケティングの基本を学習する						
到達目標	[1] 音楽業界への就職した際に、先輩業界人達とスムーズにコミュニケーションを取る為に必要な基礎知識を構築する [2] 音楽業界への就職した際に、音楽業界人としてだけでなく一般社会人との業務において必要な基礎知識や実務の流れを構築する [3] 音楽業界への就職後に必要となる、業界人としての目線で流行やトレンドを読むセンスを身につける						
評価方法と基準	[1] 定期試験 ※筆記試験（評価割合　40%） [2] 受講態度 ※レポート課題提出（評価割合　60%）						

授業計画・内容

回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	講義	音楽ビジネスの仕組みを知る	音楽事業者協会を調査する
2	講義	売れてるってどう言う事	ヒットチャート（オリコン）を調査する
3	講義	制作会議の進め方	会議の種類について調査する
4	講義	CDはどのような流れでマーケットに出るのか	音楽制作者連盟を調査する
5	講義	ビジネス文書の送り方	仮メールアドレスにビジネス文書を送る
6	講義	5月の音楽業界と全国展開	ガントチャートについて知る
7	講義	平成のエンタテインメント業界史を振り返る	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し
8	講義	AIDMAの法則とプロモーション	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し
9	講義	年間計画とタイムマネジメント	ガントチャートについて知る
10	講義	音楽フェスティバルについて知る	今年開催の音楽フェスの調査リスト化
11	講義	海外のエンタテインメント（シルクドソレイユ）の研究	テーマパークを調査する
12	講義	音楽ビジネスの収益モデル	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し
13	講義	ターゲットを分析する（女性向け雑誌のマッピングから見る）	雑誌協会について調査する
14	講義	（明日への扉）を通して音楽ビジネススキルを学ぶ	明日への扉を通して音楽ビジネススキルを考察する
15	講義	（明日への扉）を通してビジネススキルを学ぶ	明日への扉を通してビジネススキルを考察する
準備学習　時間外学習		授業時間内の制作が中心で、教室内で扱えないものを時間外学習として進めます。	

【使用教科書・教材・参考書】

昨年度実績の概要書・終了報告書参照・自作PPT

科目名	音楽業界知識2	必修選択	必修	年次	1	担当教員	高田　雄貴
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・プロマネージャーコース・スーパーマネージャーコース・スタッフ&ミュージシャンコース	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	コンサート企画制作会社キョードー東京にてイベント・ツアー制作等を担当、独立後ライブ制作の他フジテレビお台場冒険王等のライブイベントの制作にも携わる						
授業の学習内容	[1] 音楽業界へ進む上で必要とされる基礎知識を学習する [2] 音楽ビジネスの企業で勤務する際に必要なビジネススキルの基礎知識や実務の基本を学習するを学習する [3] 最新の音楽業界の動向や、一般的なメディアの取り扱いなどを検証分析することで、音楽ビジネスにおけるマーケティングの基本を学習する						
到達目標	[1] 音楽業界への就職した際に、先輩業界人達とスムーズにコミュニケーションを取る為に必要な基礎知識を構築する [2] 音楽業界への就職した際に、音楽業界人としてだけでなく一般社会人との業務において必要な基礎知識や実務の流れを構築する [3] 音楽業界への就職後に必要となる、業界人としての目線で流行やトレンドを読むセンスを身につける						
評価方法と基準	[1] 定期試験 ※筆記試験（評価割合　40%） [2] 受講態度 ※レポート課題提出（評価割合　60%）						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	講義	演劇の世界（ロングランミュージカル）	劇団四季について調査しレポートとして提出
2	講義	レコード業界のビジネスモデル	レーベルについて調査しレポートとして提出
3	講義	マーケットの変遷（東京中心から地元主義）	地域密着アーティストを調査しレポートとして提出
4	講義	クチコミプロモーションからSNSへ	SNSの媒体を調査しレポートとして提出
5	講義	ファンクラブビジネスについて知る	ファンクラブについて調査しレポートとして提出
6	講義	イベントと保険を学ぶ	各保険について調査しレポートとして提出
7	講義	プロモーションについて考える	本日の授業をもとにプロモーション案を提案
8	講義	アーティストという職業について知る（声優編）	声優を調査しレポートとして提出
9	講義	アーティストという職業について知る（YOUTUBER編）	YOUTUBERを調査しレポートとして提出
10	講義	著作権について考える	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
11	講義	仕事のできない人は「5W1H」がわかっていない	授業で出された課題に取り組む
12	講義	今さら聞けないメールの作法、宛名の書き方	仮メールアドレスにビジネスメールとしての文章を送信
13	講義	音楽業界の仕事基礎知識を再確認	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
14	講義	音楽ビジネスの仕組みを知る	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
15	講義	音楽ビジネスの仕組みを知る	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
準備学習　時間外学習		授業時間内の制作が中心で、教室内で扱えないものを時間外学習として進めます。	

【使用教科書・教材・参考書】

自作PPT・プリント配布

科目名	文章基礎1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	天井　潤之介
学科・コース	【音楽テクノロジー科】メディアクリエーターコース	授業 形態	講義	総時間 （単位）	60 4		
教員の略歴	株式会社ロッキング・オン勤務、退社後、編集者／音楽評論家／音楽レーベル監修						
授業の学習内容	「書く」という技術の習得。そのためのルールと基本構造を学んでもらいます。自分が考えている・思っていることを言葉／文字に変換する。そしてその言葉／文字を使いこなして、自分の考えや意図する思いを相手に正確に「伝える」ためにはどうすればよいのか。文章力の養成を通じて、思考力やコミュニケーション能力も養成することができればベストだと考えています。授業の進め方ですが、一コマめにその日の課題となる授業内容をレクチャーし、二コマめにその授業内容に沿ったライティングを実践してもらいます。						
到達目標	「書く」という技術は、企画立案や会議でのプレゼンテーションなど、自分の考えや意図を相手に正しく伝えるという様々なビジネスの場面で基礎となるものです。授業では主に音楽に関するテーマの文章作成を課すことが多くなると思いますが、そうした作業を通じて、説得力と具体性を持った論理の筋道を立てることが出来るようになり、個人的な感想や感動を「情報整理／分析」へと昇華できるような技術と能力を養うことが出来るようになる。						
評価方法と基準	文章能力課題レポート提出 50% 課題の提出が前提、原稿の出来栄えを評価。 50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	講義	年間の授業方針と文章力の必要性について学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
2	講義	句読点を正しく使い、文意の伝わる文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
3	講義	改行を使いこなし、内容や趣旨を意識した文章作成が出来るようになる	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
4	講義	例文の校正・添削を通じて、「主語・述語」の使い方を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
5	講義	例文の校正・添削を通じて、「修飾語」の使い方を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
6	講義	助詞を正しく使いこなし、誤読や誤解を生まない文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
7	講義	書き言葉と話し言葉の違いを学び効果的な使い方で文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
8	講義	起承転結を意識した文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
9	講義	両論併記を意識した文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
10	講義	文章にリズムをつけて読み手が飽きない文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
11	講義	漢字とひらがなのバランスを考え読みやすい文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
12	講義	同義語を意識し語彙力を上げ表現力豊かな文章作成を学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
13	講義	段落を活用し各コンテンツに適した文字数でまとめることを学ぶ	本日の授業を基にした400字程度の課題提出
14	講義	「明日への扉」告知の際に配布する新聞記事の文章を作成(文章構成～たたきまで)	授業に続き文章を作成し提出
15	講義	「明日への扉」告知の際に配布する新聞記事の文章を作成（文章作成～校正・添削し完成まで）	授業に続き文章を作成し提出
準備学習　時間外学習		授業内で出される課題の作成。文章に慣れた習慣作り。	

【使用教科書・教材・参考書】

自作プリント配布

科目名	文章基礎2	必修選択	選択	年次	2	担当教員	天井　潤之介
学科・コース	【音楽テクノロジー科】メディアクリエーターコース	授業形態	講義	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	株式会社ロッキング・オン勤務、退社後、編集者／音楽評論家／音楽レーベル監修						
授業の学習内容	前期の授業を踏まえ、より実践的な「書く」という技術の習得。具体的には「WEBコンテンツ制作」の授業と連動する形で、ビジネスメール作成や作品のレヴュー、またインタヴュー記事の作成などを通じて文章力の向上を目指します。						
到達目標	前期「文章基礎」で学んだ「書く」という技術のルールと基本構造をもとに、ビジネスの場面でも役立つ文章力を身に付けることが目標になります。「WEBコンテンツ制作」の授業とも連動した実践的な文章作成を行いつつ、構成や起承転結を意識した長めの文章も視野に入れた文章力の向上を目指します。						
評価方法と基準	文章能力課題レポート提出 50% 課題の提出が前提、原稿の出来栄えを評価。 50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	講義	例文や自分で書いた文章の要約・添削を学ぶ	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
2	講義	新聞記事の資料を要約し添削が出来るようになる	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
3	講義	新聞記事の読解を行い、筆者の意図を読み取れるようになる	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
4	講義	レコード会社の資料を要約し添削が出来るようになる	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
5	講義	レコード会社の資料読解を行い、筆者の意図を読み取れるようになる	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
6	講義	映画のあらすじを要約し添削が出来るようになる	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
7	講義	映画のあらすじ読解を行い、筆者の意図を読み取れるようになる	本日の授業を基にした200字程度の課題提出
8	講義	これまで学んだ技術をもとに音楽作品のレビュー原稿(紙面媒体)を作成する	授業に続きレビュー原稿を完成させて提出
9	講義	これまで学んだ技術をもとに音楽作品のレビュー原稿(WEB媒体)を作成する	授業に続きレビュー原稿を完成させて提出
10	講義	これまで学んだ技術をもとにインタビュー音源を文字おこしし、原稿（紙面媒体）を作成する	授業に続きインタビュー原稿を完成させて提出
11	講義	これまで学んだ技術をもとにインタビュー音源を文字おこしし、原稿（WEB媒体）原稿を作成する	授業に続きインタビュー原稿を完成させて提出
12	講義	進級制作展出演アーティストのインタビュー音源を文字おこしし、原稿（紙面媒体）を作成する	授業に続きインタビュー原稿を完成させて提出
13	講義	進級制作展出演アーティストのインタビュー音源を文字おこしし、原稿（WEB媒体）を作成する	授業に続きインタビュー原稿を完成させて提出
14	講義	進級制作展観覧、レビューを書くための素材を集める	実際に会場に足を運びボイスレコーダーとメモで資料をつ
15	講義	進級制作展レビュー制作	授業に続きレビュー原稿を完成させて提出
準備学習　時間外学習		授業内で出される課題の作成。文章に慣れた習慣作り	

【使用教科書・教材・参考書】

自作プリント配布

科目名	コンサートBasic1 （PA Basic1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	新部有亮
学科・コース	音楽テクノロジー科・PAエンジニアコース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	90 6		
教員の略歴	株式会社フライアウト企画に属し、PAエンジニアとして活動している。実務歴12年。						
授業の学習内容	PAエンジニアとしての基本を身につける。業界用語、機材名称、基礎体力、安全管理を完全に理解する。						
到達目標	音の流れ、音の出し方を理解し、PAスタッフとしての基本的なノウハウと応用力を身につける。 スタッフ間のコミュニケーションをとることができ、現場に必要な知識と体力を1年間で身につける。						
評価方法と基準	実技試験にて評価 100%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	自己紹介。職業理解を深める心構え。安全教育。機材取り扱い。マイクスタンド等の使用方法。	機材取り扱い、マイクスタンド等の使用方法について復習レポートを作成。
2	演習	簡易セット1回目。コネクター種類把握。簡易セットの機材把握。	コネクター種類、簡易セットの機材について復習レポートを作成。
3	演習	簡易セット2回目。簡易セット設営、撤去、チェックができるようになる。	簡易セット設営、撤去、チェックについて復習レポートを作成。
4	演習	簡易セット3回目。EQを追加。設営、撤去、チェックができるようになる。	EQについて復習レポートを作成。
5	演習	簡易セット4回目。EQ,マルチ追加。	マルチシステムについて復習レポートを作成。
6	演習	簡易セット5回目。ステージモニター、エフェクター追加。学園祭イベントを考える。	モニター、エフェクターについて復習レポートを作成。
7	演習	イベントにおけるPAシステムのプランニング。電気知識を活用する。	プランニング、電気知識について復習レポートを作成。
8	演習	簡易セット6回目。変化に対応できる柔軟性を身につける。	簡易セットについて学んだことをあらためて振り返り確認しておく。
9	演習	簡易セット7回目。チーム力を活用し、制限の中で結果を出す。	簡易セットについて学んだことをあらためて振り返り確認しておく。
10	演習	マルチウェイスピーカーについて。	マルチウェイスピーカーについて復習レポートを作成。
11	演習	ステージワーク1回目。イベント、体験入学を見越した内容。	ステージワークについて復習レポートを作成。
12	演習	明日への扉のスタッフとして参加し、仕込み、リハーサルをする。	イベントに向けて打合せ、リハーサル立会いなど準備をしっかり行ない、レポートを作成。
13	演習	明日への扉のスタッフとして参加し、本番、撤収作業をする。	イベントの本番、バラシなどをしっかり行ない、レポートを作成。
14	演習	ステージワーク2回目。イベント、体験入学を見越した内容。	ステージワークについて復習レポートを作成。
15	試験	テストを実施。	前期総まとめをレポート作成。
準備学習　時間外学習		授業内容の復習レポートやイベントに向けての準備、リハーサルを行う。	

【使用教科書・教材・参考書】　PA入門

科目名	コンサートBasic1 （照明Basic1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	佐々木 治郎
学科・コース	音楽テクノロジー科・照明ライティング	授業 形態	演習	総時間 （単位）	60 4		
教員の略歴	大手照明会社に11年間勤務し、他方面の照明オペレートを経験。現在フリーランスの照明家として活動。実務歴26年。						
授業の学習内容	照明基礎の習得のため、前期は比較的講義の要素が多くなるが、現場で重要な”声を出してコミュニケーションをとる”など体や声を使う演習授業が中心になり、卒業後舞台人になるための基本所作も覚えていく。						
到達目標	学校にある基本の機材の名称、使い方を覚える。光の原理と舞台基礎用語、仕込みの方法、電気計算や安全など舞台人としての基礎全般を習得する						
評価方法と基準	実技試験50% 筆記試験50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	社会人になる心構え等の説明を交え、照明業務と現場で求められる人材像を知る	授業時に取ったメモを見返して理解を深める。
2	演習	学校にある代表的な器材の説明と仕組み、アクセサリーなどを理解する。	授業で学んだ内容について復習レポートを作成。
3	演習	電気基礎知識、容量計算などケーブル配線、仕様の違いを理解する	授業で学んだ内容について復習レポートを作成。
4	演習	パイプ回路を使っての回路とり擬似体験をす	授業で学んだ内容について復習レポートを作成。
5	演習	調光卓の基本的な使い方を理解する	授業で学んだ内容を機材に触れて復習する。
6	演習	イベントに向けての準備作業を学ぶ	授業内容に即した課題をレポートとして提出する。
7	演習	パイプ回路を使っての回路とり擬似体験をす	授業で学んだ内容について復習レポートを作成。
8	演習	調光ユニットの説明と灯体の点灯原理を理解する	授業で学んだ内容について復習レポートを作成。
9	演習	復習とユニット表の作成方法を学ぶ	授業で学んだ内容について復習レポートを作成。
10	演習	信号からのLEDやムービングの解説、PINのQ出し、使い方を学ぶ	授業で学んだ内容について復習レポートを作成。
11	演習	前期まとめ、質疑応答	質問疑問をまとめてくる。
12	演習	「明日への扉」スタッフとして参加し、照明の仕込み、扱い方、プラン、イメージを理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
13	演習	「明日への扉」スタッフとして参加し、舞台照明の演出を理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
14	演習	パイプ回路を使っての回路とり擬似体験をす	自身で答え合わせをし、分からなかった事について調べクリアにしておく。
15	試験	実技試験と筆記試験を行う。	自身で答え合わせをし、分からなかった事について調べクリアにしておく。
準備学習　時間外学習		授業で学んだ内容について復習レポートを作成。	

【使用教科書・教材・参考書】

ステージ舞台入門

科目名	コンサートBasic1 （ムービングBasic1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	橋本真也
学科・コース	音楽テクノロジー科・照明ライティング	授業 形態	演習	総時間 （単位）	60 4		
教員の略歴	TSM卒業後、照明会社PACに就職し、現在はフリーランスの照明家として、ライブやコンサート、芝居、施設照明のプランニング、ムービングライトのオペレーターとして活躍。実務歴17年。						
授業の学習内容	現代のコンサートや舞台、その他様々なイベントに於ける照明演出で必須となったムービングライト。その特性と機能を学ぶことは、照明会社に就職する上でも非常に有利な条件となります。照明概論や照明BASICとも連動し、学校行事や企業プロジェクトイベント等でオペレートができるように、また将来的にエンターテイメント業界で活躍できる人材となれるよう指導していきます。						
到達目標	ムービングライトの仕込みが出来、基本的な操作から扱い方、メンテナンス、トラブル対応、ムービングライトでできる演出方法を身につけます。 ムービング卓グランドMAの操作方法を身につけ、簡単なシーンの作成、修正から実践でも対応できるようになります。 何度も触って、失敗して、機材に慣れることが大切だと考えます。						
評価方法と基準	定期試験（実技試験）にて評価 100%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	授業の進め方、イベントホール使用方法、基本的なアクセスの仕方を学ぶ。	授業で学んだ内容を復習し、覚える。
2	演習	ムービングライトの主な機能を知る。注意事項を知る。仕込み方法を学ぶ。	授業で学んだ内容を復習し、覚える。
3	演習	簡単なシーンの作成。卓の主な用語、機能を学ぶ。	本日の授業を基に出された課題をレポートとして提出する。
4	演習	シーンの作成やバックアップの方法を学ぶ。	授業で学んだ内容を機材に触れて復習する。
5	演習	シーケンスの扱い方。タイムの概念を理解する。	授業で学んだ内容を機材に触れて復習する。
6	演習	ムービング卓の基本的なセットアップ方法を学ぶ。	授業で学んだ内容を機材に触れて復習する。
7	演習	シーケンスの理解を深める。トラッキングを理解する。	授業で学んだ内容を実際に機材に触れて復習する。
8	演習	小復習の時間。これまで学んできた内容を振り返り、もれなくしっかり理解することを目的とする。	復習として今までに学んだ内容に聞き逃しがないかを確認し、質問事項にしてまとめる。
9	演習	ムービングライトの基本的なセッティングを学ぶ。	授業で学んだ内容を機材に触れて復習する。
10	演習	チェイスの作成、修正の仕方を学ぶ。	本日の授業を基に出された課題をレポートとして提出する。
11	演習	キューのリンク、ループについて学ぶ。	本日の授業を基に出された課題をレポートとして提出する。
12	演習	プリセットの作成、修正、使用方法を学ぶ。	授業で学んだ内容を機材に触れて復習する。
13	試験	フェーダー、ボタンの機能変更について学ぶ。 ／2限目に試験を行う	試験にて出来なかった部分を復習する。
14	演習	「明日への扉」照明スタッフとして参加し、実際の現場で必要となるムービングの仕込み、扱い方、プラン、イメージを理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
15	演習	「明日への扉」照明スタッフとして参加し、実際の現場で必要となるムービングの仕込み、扱い方、プラン、イメージを理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
準備学習　時間外学習		基本的にレポート等にまとめてアウトプット。可能であればonPCを利用して復習。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	コンサートBasic1 （イベントスタッフワークBasic1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	大島直子
学科・コース	音楽テクノロジー科・舞台制作＆ステージデザイナー、コンサート企画制作コース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	60 4		
教員の略歴	イベントやコンサートの制作・進行、事務局、発表会、企業物などオールジャンルの仕事をしています。実務歴17年。						
授業の学習内容	進級制作でもある「weareTSM渋谷!DA TOKYO!」のイベントにおける制作業務を学び、報告書の作成を学ぶ。1年間の集大成のイベントを各学科・コースや合同日（葛西校）を連携しながら、進行及び制作業務を行う。						
到達目標	各学科・コースの枠を超えて、 イベントを新規で作り上げていく為のコミュニケーション能力を身につけることが出来る。 イベント本番の役割をシミュレーションし、事前準備の大切さや見やすい資料作成の基本を習得することが出来る。						
評価方法と基準	実技試験（イベントでの制作業務と作成された報告書を評価する。） 50% 資料作成のレポート提出を評価 50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	「学園祭」「明日への扉」の概要を知り、舞台・制作・運営のチーム分け、演目担当分けを行う。各担当ごとに連絡先交換と各グループで挨拶をする。	今後1つのチームとして作業するため、授業以外でもコミュニケーションをとる意識を持つ。
2	演習	「学園祭の演目を理解する。「学園祭の昨年の資料確認する。	データを管理し、いつでも見れる見せられる環境を整えておく。
3	演習	舞台監督と制作の役割・内容を学ぶ。打合せ内容の共有をする。	授業内容について復習しレポートを作成。
4	演習	各演目担当チームごとに、担当教務に挨拶にいく。打合せ内容の共有をする。	イベント資料を管理し、チームで共有する環境を整えておく。
5	演習	各演目の現状確認（報告会）、昨年の反省点の確認・改善点を共有する。	※舞台・運営と合同ミーティング 情報共有をする。
6	演習	各演目の現状確認（報告会）、必要資料を作成する。制作チームごとにミーティングを行い、シーバーの使い方を学ぶ。	※舞台・運営と合同ミーティング 情報共有をする。
7	演習	「学園祭」の反省会、資料まとめを行う。「明日への扉」映像を見る。	イベント資料を管理し、次年度のために整理しておく。
8	演習	「明日への扉」結団式にて主旨、目的を理解する。	結団式内容をレポートにまとめる。
9	演習	「明日への扉」の舞台監督と制作の役割・内容説明と担当割り、スケジュール確認	資料作成。
10	演習	「明日への扉」現状確認（報告会）、昨年の反省点の確認・改善点を共有する。稽古場のバミリを行う。	資料作成。
11	演習	「明日への扉」台本読み、ト書きを学ぶ。 外部リハーサルに向けての資料作り・控室おさえを行う。	資料作成。
12	演習	「明日への扉」の制作スタッフとして稽古に立会い、内容変更等情報共有する。	打合せ、資料等を完成させ、イベントの成功を目指す準備をしっかり行なう。
13	演習	「明日への扉」の舞台監督、制作スタッフとして本番を行う。	打合せ、資料等を完成させ、イベントの成功を目指す準備をしっかり行なう。
14	演習	「明日への扉」の終了報告書作成する。各演目・担当ごとに反省会・次回にむけての改善点を共有する。2年生から1年生への引き継ぎを行う。	終了報告書作成のための資料をまとめ
15	試験	振り返り試験を実施。	引き継ぎ事項をまとめておく。
準備学習　時間外学習		打合せや授業内容についての資料やレポートを作成。	

【使用教科書・教材・参考書】

昨年の学園祭資料、明日への扉2018公演DVD、資料

科目名	コンサートBasic1 （舞台監督演習Basic1）	必修 選択	選択	年次	1 年	担当教員	北　英樹
学科・コース	舞台制作コース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	60 4		
教員の略歴	コンサートや演劇、イベント等の舞台監督として活動。実務歴35年。						
授業の学習内容	舞台監督、舞台制作に関する基礎知識に関する講義及び実技						
到達目標	学内イベントや就職活動で必要となる舞台監督・制作業務の基礎的な知識とスキルを身につけることが出来る。						
評価方法と基準	1.実技試験（ 30% ） 2 .筆記試験 （ 70 % ）						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	オリエンテーション 前期授業内容についての説明と舞台監督の概要を学ぶ。	舞台監督・制作に必要なものを準備しておく。
2	演習	舞台監督に関しての基礎知識 を学ぶ。	舞台監督について調べレポートを作成。
3	演習	舞台制作に関しての基礎知識を学ぶ。	舞台監督について調べレポートを作成。
4	演習	舞台監督の持物に関しての基礎を学ぶ。	舞台監督の持物について調べレポートを作成。
5	演習	学園祭に関しての基礎知識を学ぶ。	学園祭の内容について資料を確認しておく。
6	演習	舞台に関しての基礎知識を学ぶ。	舞台について復習レポートを作成。
7	演習	舞台制作に関しての基礎知識を学ぶ。	舞台制作に関して基礎知識1の復習をレポートにまとめる。
8	演習	舞台美術に関しての基礎知識を学ぶ。	舞台美術について復習レポートを作成。
9	演習	舞台制作としての演劇の基礎知識を学ぶ。	演劇について調べ、レポートを作成。
10	演習	舞台監督に関しての知識（応用編）を学ぶ。	舞台監督に関して基礎知識1の復習をまとめる。
11	演習	舞台制作としての演劇の台本分析する。	明日への扉の台本を読んでおく。
12	演習	明日への扉の舞台監督スタッフとして稽古立会いから仕込み、リハーサル進行を行う。	明日への扉現場について復習レポートを作成。
13	演習	明日への扉の舞台監督スタッフとして積込、搬入搬出、仕込み、本番進行、撤収作業の進行を行う。	明日への扉現場について終了報告書を作成。
14	演習	明日への扉の舞台監督について考察する。	次年度明日への扉に向けての資料整理。
15	演習	前期振り返りテストを実施する。	前期まとめのレポートを作成。
準備学習　時間外学習		準備学習：各授業のテーマを調べる。時間外学習：授業日の曜日に必ず復習する。	

【使用教科書・教材・参考書】

学内に有る全ての機材の使用

科目名	コンサートBasic1 （楽器リペア1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	石井正人
学科・コース	音楽テクノロジー科・楽器リペア＆テクニシャンコース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	90 6		
教員の略歴	TSMギタークラフトコース卒。2002年フジゲン（株）に入社し、リペアスタッフ長、店舗店長、国内営業所長などを歴任。2011年退社後、フリーランスのセットアッパーとして活動。「パーフェクト・ギター・セットアップ・メソッド」の著者。実務歴16年。						
授業の学習内容	エレキギターやエレキベース、アコースティックギターの基本的な構造や仕組みを理解し、メンテナンス・リペアに対する考え方や手法を学ぶ。そのための半田技術や工具の使い方も習得する。						
到達目標	エレキギター・エレキベース、アコースティックギターのメンテナンス＆リペアの基礎知識と技術を習得する。						
評価方法と基準	実技試験50% 筆記試験50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	エレキギター・エレキベースの基本的な構造や仕組みを覚える	授業内容についての復習レポートを作成。
2	演習	アコースティックギターなどの基本的な仕組みを覚える	授業内容についての復習レポートを作成。
3	演習	エレキギターの基本的なメンテナンス手法を覚える	授業内容についての復習レポートを作成。
4	演習	エレキベースの基本的なメンテナンス手法を覚える	授業内容についての復習レポートを作成。
5	演習	アコースティックギターの基本的なメンテナンス手法を覚える	授業内容についての復習レポートを作成。
6	演習	エレキギター・エレキベースの電気回路について、その基本的な仕組みを覚える	授業内容についての復習レポートを作成。
7	演習	シールドケーブルの製作方法を身につけると共に、それに必要な半田技術を覚える	半田技術の復習をする。
8	演習	エレキギター・エレキベースのよく起こる電気回路のトラブルについて、その事象や対処方法を覚える	授業内容についての復習レポートを作成。
9	演習	ギター・ベースの弦に関わる各部のトラブルについて、その事象や対処方法を覚える	授業内容についての復習レポートを作成。
10	演習	ギター・ベースの弦に関わる各部のトラブルについて、その事象や対処方法を覚える	授業内容についての復習レポートを作成。
11	演習	アコースティックギターの弦に関わる各部のトラブルについて、その事象や対処方法を覚える	授業内容についての復習レポートを作成。
12	演習	明日への扉に参加し、劇中バンドの楽器メンテナンスを行う。	実際のメンテナンス業務の報告と気づいた点をまとめてレポート提出する。
13	演習	明日への扉に参加し、楽器スタッフとしての現場力やコミュニケーション力を養う。	イベント参加で気づいた点をまとめてレポート提出する。
14	演習	これまでに学んだ事を復習しながら、メンテナンスやリペアにおける基本的な考え方、アプローチを自身で考えられる様になる	※授業内に終わらなかった作業は時間外学習とす
15	試験	試験を実施する。	総まとめとしてのレポートを作成。
準備学習　時間外学習		準備学習として、毎回の授業において、良かった事や悪かった事を書き出し、反省、次への対策を練る事を習慣付ける	

【使用教科書・教材・参考書】

各種工具類

科目名	コンサートBasic1 （楽器リペアBasic1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	石井正人
学科・コース	音楽テクノロジー科・楽器リペア＆テクニシャンコース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	60 4		
教員の略歴	TSMギタークラフトコース卒。2002年フジゲン（株）に入社し、リペアスタッフ長、店舗店長、国内営業所長などを歴任。2011年退社後、フリーランスのセットアッパーとして活動。「パーフェクト・ギター・セットアップ・メソッド」の著者。実務歴16年。						
授業の学習内容	エレキギターやエレキベース、アコースティックギターの基本的な構造や仕組みを理解し、メンテナンス・リペアに対する考え方や手法を学ぶ。そのための半田技術や工具の使い方も習得する。						
到達目標	エレキギター・エレキベース、アコースティックギターのメンテナンス＆リペアの基礎知識と技術を習得する。						
評価方法と基準	実技試験50% 筆記試験50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	エレキギター・エレキベースの基本的な構造や仕組みを覚える	授業内容についての復習レポートを作成。
2	演習	アコースティックギターなどの基本的な仕組みを覚える	授業内容についての復習レポートを作成。
3	演習	エレキギターの基本的なメンテナンス手法を覚える	授業内容についての復習レポートを作成。
4	演習	エレキベースの基本的なメンテナンス手法を覚える	授業内容についての復習レポートを作成。
5	演習	アコースティックギターの基本的なメンテナンス手法を覚える	授業内容についての復習レポートを作成。
6	演習	エレキギター・エレキベースの電気回路について、その基本的な仕組みを覚える	授業内容についての復習レポートを作成。
7	演習	シールドケーブルの製作方法を身につけると共に、それに必要な半田技術を覚える	半田技術の復習をする。
8	演習	エレキギター・エレキベースのよく起こる電気回路のトラブルについて、その事象や対処方法を覚える	授業内容についての復習レポートを作成。
9	演習	ギター・ベースの弦に関わる各部のトラブルについて、その事象や対処方法を覚える	授業内容についての復習レポートを作成。
10	演習	ギター・ベースの弦に関わる各部のトラブルについて、その事象や対処方法を覚える	授業内容についての復習レポートを作成。
11	演習	アコースティックギターの弦に関わる各部のトラブルについて、その事象や対処方法を覚える	授業内容についての復習レポートを作成。
12	演習	明日への扉に参加し、劇中バンドの楽器メンテナンスを行う。	実際のメンテナンス業務の報告と気づいた点をまとめてレポート提出する。
13	演習	明日への扉に参加し、楽器スタッフとしての現場力やコミュニケーション力を養う。	イベント参加で気づいた点をまとめてレポート提出する。
14	演習	これまでに学んだ事を復習しながら、メンテナンスやリペアにおける基本的な考え方、アプローチを自身で考えられる様になる	※授業内に終わらなかった作業は時間外学習とす
15	試験	筆記試験。試験後は答え合わせを行う事で、更に理解度を深める。	試験で出来なかった箇所について見直し、理解できるようにする。
準備学習　時間外学習		準備学習として、毎回の授業において、良かった事や悪かった事を書き出し、反省、次への対策を練る事を習慣付ける	

【使用教科書・教材・参考書】

各種工具類

科目名	コンサートBasic1 （照明概論1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	林之弘
学科・コース	音楽テクノロジー科・照明ライティングコース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	60 4		
教員の略歴	㈱六工房　代表取締役、日本照明家協会理事、日本照明家協会一級技能士。実務歴27年。						
授業の学習内容	①職業意識の啓発を促し、ヒューマンスキル及びビジネスマナーを身につける。 ②現場のルールとともに舞台照明に関する知識と技能を習得する。						
到達目標	①前期中に予定されているミュージカル「明日への扉」で、仕込み、本番、撤去のサポートができる。 ②学校機材の名前と使い方がわかる						
評価方法と基準	筆記試験 ※ペーパーテストにて、仕込み、本番、撤去に必要な専門用語、機材知識の理解度を測定。						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	ガイダンス/授業の受け方、ポイント等の説明	ガイダンス/授業の受け方、ポイント等の説明を復習する。
2	演習	すぐに必要な専門用語/脚立の安全に使用できる	すぐに必要な専門用語/脚立の安全について復習レポートを作成。
3	演習	機材知識1　フラッドライト、スポットライトが理解できる	機材知識1　フラッドライト、スポットライトについて復習レポートを作成。
4	演習	機材知識2　プロファイルスポット、ノンレンズスポット、パーライトが理解できる	機材知識2　プロファイルスポット、ノンレンズスポット、パーライトについて復習レポートを作成。
5	演習	機材知識3　ムービングライト、効果機が理解できる	機材知識3　ムービングライト、効果機について復習レポートを作成。
6	演習	電球、フィルター、ゴボ、ケーブル知識①が理解できる	電球、フィルター、ゴボ、ケーブル知識①について復習レポートを作成。
7	演習	公演が行われる場の人たちが理解できる	公演が行われる場の人たちについて復習レポートを作成。
8	演習	舞台における照明の仕事が理解できる	舞台における照明の仕事について復習レポートを作成。
9	演習	照明実務1　ミュージカル公演に向けて・公演準備（持ち物:明日への扉上演台本)ができる	照明実務1　ミュージカル公演に向けて・公演準備について復習レポートを作成。
10	演習	照明実務2　仕込み図を読む/ミュージカル公演を題材に図面を読解できる	仕込み図について復習レポートを作成。
11	演習	照明実務3　ピンスポット・フォロー/ミュージカル公演を題材に基本動作ができる	ピンスポット・フォロー/ミュージカル公演について復習レポートを作成。
12	演習	「明日への扉」スタッフとして参加し、照明の仕込み、扱い方、プラン、イメージを理解する	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
13	演習	「明日への扉」スタッフとして参加し、舞台照明の演出を理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
14	試験	前期まとめテスト	テストの振り返り。出来なかった部分の確認。
15	演習	前期のまとめを行い、明日への扉の各セクション報告書を作成する。	前期まとめの復習レポートを作成。
準備学習　時間外学習		授業内容について復習レポートを作成。	

【使用教科書・教材・参考書】

iPad版　ステージ舞台照明入門/舞台・テレビジョン照明＜基礎編＞

科目名	コンサートBasic2 （照明Basic2）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	佐々木 治郎
学科・コース	音楽テクノロジー科・照明ライティング	授業 形態	演習	総時間 （単位）	60 4		
教員の略歴	大手照明会社に11年間勤務し、他方面の照明オペレートを経験。現在フリーランスの照明家として活動。実務歴26年。						
授業の学習内容	本格的に演習授業中心の内容で、仕込みバラシ、シュート明かり作りなど基礎となる現場の流れや現場に入る前の準備符割りデータ作りなどより実践に近いことを学び二年目に応用力を持てる人材になれる人間力を覚える。						
到達目標	前期の知識を応用し、次のステップへ。シュートの技術や効率のいい方法を考えたり照明プランニングする為の基礎知識を学び二年に上がる為の舞台人基礎力マスターを学ぶ。						
評価方法と基準	実技試験50% 筆記試験50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	器材、ケーブル等のメンテナンスや機材の仕組みや工具の使い方を理解する	器材、ケーブル等のメンテナンスや機材の仕組みや工具の使い方について復習レポート作成
2	演習	明かりつくり①照明データの書き方作り方、用紙作成の書き方を学ぶ	明かりつくりについて復習レポートを作成。
3	演習	物の見え方、効果など光の基本を学ぶ	物の見え方、効果など光の基本について復習レポートを作成。
4	演習	フォーカス①の仕方を学ぶ	フォーカスの仕方について復習レポートを作成。
5	演習	フォーカス②の考え方を学ぶ	フォーカスの考え方について復習レポートを作成。
6	演習	シーン①意味や考え方テクニックを学ぶ	シーンの意味や考え方テクニックについて復習レポートを作成。
7	演習	シーン②仕込み図の考え方と方法論を学ぶ	仕込み図の考え方と方法論について復習レポートを作成。
8	演習	舞台照明効果の理解する	舞台照明効果について復習レポートを作成。
9	演習	明かり作り②データ用紙作成する	音源とデータ用紙の準備。
10	演習	明かり作り③前週のデータを実際に照明してみる	音源とデータ用紙の準備。
11	演習	進級卒業制作展の照明スタッフとして参加し、実際の現場で必要となる照明の仕込み、扱い方、プラン、イメージを理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
12	演習	進級卒業制作展の照明スタッフとして参加し、照明オペレートの実践と撤収作業を学ぶ。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
13	演習	進級卒業制作展の照明スタッフとして参加し、照明オペレートの実践と撤収作業を学ぶ。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
14	演習	イベントの明かりを実際に作る	音源とデータ用紙の準備。
15	試験	復習試験	講義の振り返り
準備学習　時間外学習		授業内容についての復習レポートの作成、明かり作りの音源選曲とデータ用紙を準備する。	

【使用教科書・教材・参考書】

ステージ舞台入門

科目名	コンサートBasic2 （ムービングBasic2）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	橋本真也
学科・コース	音楽テクノロジー科・照明ライティング	授業 形態	演習	総時間 （単位）	60 4		
教員の略歴	TSM卒業後、照明会社PACに就職し、現在はフリーランスの照明家として、ライブやコンサート、芝居、施設照明のプランニング、ムービングライトのオペレーターとして活躍。実務歴17年。						
授業の学習内容	現代のコンサートや舞台、その他様々なイベントに於ける照明演出で必須となったムービングライト。その特性と機能を学ぶことは、照明会社に就職する上でも非常に有利な条件となります。照明概論や照明BASICとも連動し、学校行事や企業プロジェクトイベント等でオペレートができるように、また将来的にエンターテイメント業界で活躍できる人材となれるよう指導していきます。						
到達目標	ムービングライトの仕込みが出来、基本的な操作から扱い方、メンテナンス、トラブル対応、ムービングライトでできる演出方法を身につけます。 ムービング卓グランドMAの操作方法を身につけ、簡単なシーンの作成、修正から実践でも対応できるようになります。 何度も触って、失敗して、機材に慣れることが大切だと考えます。						
評価方法と基準	定期試験（実技試験）にて評価。						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	パッチの仕方についての基本を学ぶ。	授業で学んだ内容を復習し、覚える。
2	演習	様々なエフェクトの知識と基本操作を学ぶ。	授業で学んだ内容を復習し、覚える。
3	演習	様々なエフェクトの知識と基本操作を学ぶ。	授業で学んだ内容を機材に触れて復習する。
4	演習	仕込みに関して、あらためて理解を深める。	本日の授業を基に出された課題をレポートとして提出する。
5	演習	調光卓エヴォライト社のパールやアリーナでのムービングライト操作方法を学ぶ。	授業で学んだ内容を機材に触れて復習する。
6	演習	ムービング卓GrandMA1,2onPC操作方法を学ぶ。	授業で学んだ内容を機材に触れて復習する。
7	演習	ムービング卓GrandMA3Dについて学び理解する。	授業で学んだ内容を機材に触れて復習する。
8	演習	小復習をする。	復習として今までに学んだ内容に聞き逃しがないかを確認し、質問事項にしてまとめる。
9	演習	VIEW作成方法について学ぶ。	授業で学んだ内容を機材に触れて復習する。
10	演習	シーケンスの設定関連について学ぶ。	本日の授業を基に出された課題をレポートとして提出する。
11	演習	マトリックス、クイッキーを詳しく理解する。	本日の授業を基に出された課題をレポートとして提出する。
12	演習	進級制作展照明スタッフとして参加し、実際の現場で必要となるムービングの仕込み、扱い方、プランニング、イメージを理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
13	演習	卒業制作展照明スタッフとして参加し、実際の現場で必要となるムービングの仕込み、扱い方、プランニング、イメージを理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
14	演習	明かり作りの練習をする。	ディスカッションを行ない、互いの感想、意見からの学びを得る。
15	試験	明かり作り練習／後期復習試験を実施する。	ディスカッションを行ない、互いの感想、意見からの学びを得る。
準備学習　時間外学習		基本的にレポート等にまとめてアウトプット。可能であればonPCを利用して復習。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	コンサートBasic2 （イベントスタッフワークBasic2）	必修選択	選択	年次	2	担当教員	大島直子
学科・コース	音楽テクノロジー科・舞台制作＆ステージデザイナー、コンサート企画制作コース	授業形態	演習	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	イベントやコンサートの制作・進行、事務局、発表会、企業物などオールジャンルの仕事をしています。実務歴17年。						
授業の学習内容	2年生は卒業制作であり、「weareTSM渋谷!DA TOKYO!」のイベントにおける制作業務を学び、報告書の作成を学ぶ。1年間の集大成のイベントを各学科・コースや合同日（葛西校）を連携しながら、進行及び制作業務を行う。						
到達目標	各学科・コースの枠を超えて、 イベントを新規で作り上げていく為のコミュニケーション能力を身につけることが出来る。 イベント本番の役割をシミュレーションし、事前準備の大切さや見やすい資料作成の基本を習得することが出来る。						
評価方法と基準	実技試験（イベントでの制作業務と作成された報告書を評価する。） 50% 資料作成のレポート提出を評価 50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	演習	「weareTSM渋谷!DA TOKYO!」の概要説明、舞台・制作・運営のチーム分け、演目担当分け、各担当ごとに連絡先交換と各グループで挨拶を行う。	今後1つのチームとして作業するため、授業以外でもコミュニケーションをとる意識を持つ。
2	演習	「weareTSM渋谷!DA TOKYO!」の演目について理解する。	授業内容について復習しレポートを作成。
3	演習	「weareTSM渋谷!DA TOKYO!」の昨年の映像確認し、内容を把握する。	映像データを管理し、いつでも見れる見せられる環境を整えておく。
4	演習	「weareTSM渋谷!DA TOKYO!」の昨年の映像確認と舞台監督と制作の役割・内容を理解する。	映像データを管理し、いつでも見れる見せられる環境を整えておく。
5	演習	各演目担当チームごとに、担当教務に挨拶にいく。	イベント資料を管理し、チームで共有する環境を整えておく。
6	演習	各演目の現状確認（報告会）、昨年の反省点の確認・改善点を共有する。	申し送り事項について復習しレポートを
7	演習	各演目の現状確認（報告会）、昨年の反省点の確認・改善点を共有する。	※舞台・運営と合同ミーティング 情報共有をする。
8	演習	各演目の現状確認（報告会）、必要資料を作成する 制作チームごとにミーティングとシーバーの使い方を学ぶ。※資料の締め切り確認 ※葛西制作と顔合わせ	授業内容について復習しておく。
9	演習	各演目の現状確認（報告会）、必要資料を作成する。 リハーサルに向けての資料作り・控室おさえを行う。 ※資料の締め切り確認	資料作成。
10	演習	各演目の現状確認（報告会）、必要資料を作成する。 リハーサルに向けての資料作り・控室おさえを行う。 ※資料の締め切り確認	資料作成。
11	演習	各演目の現状確認（報告会）、必要資料を作成する。 リハーサルに向けての資料作り・控室おさえを行う。 ※資料の締め切り確認	資料作成。
12	演習	「weareTSM渋谷!DA TOKYO!」の制作スタッフとしてイベントに取り組む。	打合せ、資料等を完成させ、イベントの成功を目指す準備をしっかり行なう。
13	演習	「weareTSM渋谷!DA TOKYO!」の制作スタッフとしてイベントに取り組む。	打合せ、資料等を完成させ、イベントの成功を目指す準備をしっかり行なう。
14	演習	「weareTSM渋谷!DA TOKYO!」の終了報告書作成。 各演目・担当ごとに反省会・次回にむけての改善点を共有する。2年生から1年生への引き継ぎを行う①。	終了報告書作成のための資料をまとめ
15	演習	「weareTSM渋谷!DA TOKYO!」の 今年の映像確認し、振り返りを行う。2年生から1年生への引き継ぎ資料の作成を行う②。	引き継ぎ事項をまとめておく。
準備学習 時間外学習		打合せや授業内容についての資料やレポートを作成。	

【使用教科書・教材・参考書】

昨年のweare公演DVD/学内PC(4F)/昨年の資料（2年生）

科目名	コンサートBasic2 （舞台監督演習Basic2）	必修 選択	選択	年次	1 年	担当教員	北　英樹
学科・コース	舞台制作コース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	60 4		
教員の略歴	コンサートや演劇、イベント等の舞台監督として活動。実務歴35年。						
授業の学習内容	舞台制作に関する 基礎知識 についての 講義 及び 実技						
到達目標	舞台制作に関してしての 基礎知識 の 理解						
評価方法と基準	1. 実技試験（ 30% ） 2 .筆記試験（ 70% ）						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	舞台制作に関しての応用を学ぶ	舞台制作の授業の復習レポートを確認しておく。
2	演習	舞台機構に関しての復習をする。	舞台機構について復習レポートを確認しておく。
3	演習	舞台監督に関しての復習をする。	舞台監督について復習レポートを確認しておく。
4	演習	演劇に関しての応用知識を学ぶ。	演劇について調べ、レポートを作成。
5	演習	舞台制作の作成する資料について学ぶ。	作成した資料の復習をする。
6	演習	アメリカのエンターテイメントにおける舞台監督についてを学ぶ	授業内容について復習レポートの作成。
7	演習	シルク・ドゥ・ソレイユのステージディレクターの役割についてを学ぶ	授業内容について復習レポートの作成。
8	演習	楽器に関しての復習をする。	楽器知識授業の復習レポートを作成。
9	演習	進級展の舞台制作について学ぶ。	進級制作展の内容を把握しておく。
10	演習	We are TSM渋谷に関しての基礎知識を学ぶ。	We are TSM渋谷とは何か 調べる
11	演習	We are TSM渋谷の舞台制作を学ぶ。	We are TSM渋谷の舞台制作に関して調べる
12	演習	We are TSM渋谷にスタッフとして参加する。	打合せ、リハーサル立会い、資料の作成。
13	演習	We are TSM渋谷にスタッフとして参加する。	撤収作業から現状復帰までを行なう。
14	演習	We are TSM渋谷の終了報告資料をまとめる。	次年度に向けての資料修正をする。
15	試験	復習試験の実施。	後期のまとめをレポート作成する。
準備学習　時間外学習		準備学習：各授業のテーマを調べる。時間外学習：授業日の曜日に必ず復習する。	

【使用教科書・教材・参考書】

学内に有る全ての機材の使用

科目名	コンサートBasic2 （楽器リペア2）	必修選択	選択	年次	1	担当教員	石井正人
学科・コース	音楽テクノロジー科・楽器リペア＆テクニシャンコース	授業形態	演習	総時間（単位）	90 6		

教員の略歴	TSMギタークラフトコース卒。2002年フジゲン（株）に入社し、リペアスタッフ長、店舗店長、国内営業所長などを歴任。2011年退社後、フリーランスのセットアッパーとして活動。「パーフェクト・ギター・セットアップ・メソッド」の著者。実務歴16年。
授業の学習内容	エレキギターやエレキベース、アコースティックギターの基本的な構造や仕組みを理解し、メーカーによる楽器の特徴を理解してメンテナンス・リペアに対する考え方や手法を学ぶ。さらにはエフェクターについても同様に構造や仕組みを理解し、楽器リペアの総合的な技術と知識を学ぶ。
到達目標	エレキギター・エレキベース、アコースティックギターのメンテナンス＆リペアの基礎知識と技術を習得する。
評価方法と基準	実技試験50% 筆記試験50%

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	ピックアップの交換方法と、ピックアップによるサウンドの変化を理解する	授業内容についての復習をしてレポートにまとめる。
2	演習	Fender系ギター・ベースのナットの交換方法を覚える	授業内容についての復習をしてレポートにまとめる。
3	演習	Gibson系・アコースティックギターのナット交換方法を覚える	授業内容についての復習をしてレポートにまとめる。
4	演習	ボルトオンネックギター・ベースのフレットの擦り合わせの手順、方法を覚える	授業内容についての復習をしてレポートにまとめる。
5	演習	セットネックギター・ベースのフレットの擦り合わせの手順、方法を覚える	授業内容についての復習をしてレポートにまとめる。
6	演習	エフェクターの基本的な構造を知り、製作技術を身につける	授業内容についての復習をしてレポートにまとめる。
7	演習	エフェクターの基本的な構造を知り、製作技術を身につける	授業内容についての復習をしてレポートにまとめる。
8	演習	ギター・ベースの総合的な修理の手順や総合的な判断力、考え方などを身につける	授業内容についての復習をしてレポートにまとめる。
9	演習	ギター・ベースの総合的な修理の手順や総合的な判断力、考え方などを身につける	授業内容についての復習をしてレポートにまとめる。
10	演習	ギター・ベースの総合的な修理の手順や総合的な判断力、考え方などを身につける	授業内容についての復習をしてレポートにまとめる。
11	演習	ギター・ベースの総合的な修理の手順や総合的な判断力、考え方などを身につける	授業内容についての復習をしてレポートにまとめる。
12	演習	明日への扉に参加し、劇中バンドの楽器メンテナンスを行う。	実際のメンテナンス業務の報告と気づいた点をまとめてレポート提出する。
13	演習	明日への扉に参加し、楽器スタッフとしての現場力やコミュニケーション力を養う。	イベント参加で気づいた点をまとめてレポート提出する。
14	演習	これまでに学んだ事を復習しながら、メンテナンスやリペアにおける総合的な考え方、アプローチを自身で考えられる様になる	※授業内に終わらなかった作業は時間外学習とす
15	試験	セットアップアレンジの実習　前回授業をテスト形式で行い、その仕上がり具合や理解度を見る	総まとめとしてのレポートを作成。
準備学習　時間外学習		準備学習として、毎回の授業において、良かった事や悪かった事を書き出し、反省、次への対策を練る事を習慣付ける	

【使用教科書・教材・参考書】

各種工具類

科目名	コンサートBasic2 （楽器リペアBasic2）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	石井正人
学科・コース	音楽テクノロジー科・楽器リペア＆テクニシャンコース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	60 4		
教員の略歴	TSMギタークラフトコース卒。2002年フジゲン（株）に入社し、リペアスタッフ長、店舗店長、国内営業所長などを歴任。2011年退社後、フリーランスのセットアッパーとして活動。「パーフェクト・ギター・セットアップ・メソッド」の著者。実務歴16年。						
授業の学習内容	エレキギターやエレキベース、アコースティックギターの基本的な構造や仕組みを理解し、メーカーによる楽器の特徴を理解してメンテナンス・リペアに対する考え方や手法を学ぶ。さらにはエフェクターについても同様に構造や仕組みを理解し、楽器リペアの総合的な技術と知識を学ぶ。						
到達目標	エレキギター・エレキベース、アコースティックギターのメンテナンス＆リペアの基礎知識と技術を習得する。						
評価方法と基準	実技試験50% 筆記試験50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	ピックアップの交換方法と、ピックアップによるサウンドの変化を理解する	
2	演習	Fender系ギター・ベースのナットの交換方法を覚える	授業内容についての復習をしてレポートにまとめる。
3	演習	Gibson系・アコースティックギターのナット交換方法を覚える	授業内容についての復習をしてレポートにまとめる。
4	演習	ボルトオンネックギター・ベースのフレットの擦り合わせの手順、方法を覚える	授業内容についての復習をしてレポートにまとめる。
5	演習	セットネックギター・ベースのフレットの擦り合わせの手順、方法を覚える	授業内容についての復習をしてレポートにまとめる。
6	演習	エフェクターの基本的な構造を知り、製作技術を身につける	授業内容についての復習をしてレポートにまとめる。
7	演習	エフェクターの基本的な構造を知り、製作技術を身につける	授業内容についての復習をしてレポートにまとめる。
8	演習	ギター・ベースの総合的な修理の手順や総合的な判断力、考え方などを身につける	授業内容についての復習をしてレポートにまとめる。
9	演習	ギター・ベースの総合的な修理の手順や総合的な判断力、考え方などを身につける	授業内容についての復習をしてレポートにまとめる。
10	演習	ギター・ベースの総合的な修理の手順や総合的な判断力、考え方などを身につける	授業内容についての復習をしてレポートにまとめる。
11	演習	ギター・ベースの総合的な修理の手順や総合的な判断力、考え方などを身につける	授業内容についての復習をしてレポートにまとめる。
12	演習	これまでに学んだ事を復習しながら、メンテナンスやリペアにおける総合的な考え方、アプローチを自身で考えられる様になる	※授業内に終わらなかった作業は時間外学習と
13	演習	卒業制作展に参加し、出演バンドの楽器メンテナンスを行う。	実際のメンテナンス作業の報告と気づいた点をまとめてレポート提出する。
14	演習	卒業制作展に参加し、楽器スタッフとしての現場力やコミュニケーション力を養う。	イベント参加で気づいた点をまとめてレポート提出する。
15	試験	筆記試験と実技試験を実施。 試験後は答え合わせを行う事で、更に理解度を深める。	試験後は答え合わせを行う事で、更に理解度を深める。
準備学習　時間外学習		準備学習として、毎回の授業において、良かった事や悪かった事を書き出し、反省、次への対策を練る事を習慣付ける。	

【使用教科書・教材・参考書】

各種工具類

科目名	照明概論2	必修選択	選択	年次	1	担当教員	林之弘
学科・コース	音楽テクノロジー科・照明ライティングコース	授業形態	演習	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	㈱六工房　代表取締役、日本照明家協会理事、日本照明家協会一級技能士。実務歴27年。						
授業の学習内容	①職業意識の啓発を促し、ヒューマンスキル及びビジネスマナーを身につける。 ②現場のルールとともに舞台照明に関する知識と技能を習得する。						
到達目標	卒業進級公演に向け、照明制作計画に沿った機材準備・設置・撤去、およびオペレーションに関連する基本的な作業ができる。						
評価方法と基準	筆記試験 ※ペーパーテストにて、仕込み、本番、撤去に必要な専門用語、機材知識の理解度を測定。						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	舞台照明の仕事って何？	舞台照明の仕事について復習レポートを作成。
2	演習	安全管理Ⅱ　綱場と高所作業が理解できる	安全管理Ⅱ　綱場と高所作業について復習レポートを作成。
3	演習	電気知識/基礎編が理解できる	電気知識/基礎編について復習レポートを作成。
4	演習	ケーブル知識を身につける②が理解できる	ケーブル知識について復習レポートを作成。
5	演習	舞台機構と舞台照明設備が理解できる	舞台機構と舞台照明設備について復習レポートを作成。
6	演習	DMX信号が理解できる	DMX信号について復習レポートを作成。
7	演習	光と色について理解できる	光と色について復習レポートを作成。
8	演習	仕込み図を作ろう/基本仕込みが書ける	仕込み図を作ろう/基本仕込みについて復習レポートを作成。
9	演習	仕込み図を作ろう/応用作図ができる	仕込み図を作ろう/応用作図について復習レポートを作成。
10	演習	後期まとめ復習テスト	後期まとめについて復習レポートを作成。
11	演習	後期・1年履修項目のまとめ	後期・1年履修項目のまとめについて復習レポートを作成。
12	演習	照明実務4/We　Are　TSMに向けて　実習	照明実務4/We　Are　TSMに向けて　実習
13	演習	進級制作展の照明スタッフとして参加し、実際の現場で必要となる照明の仕込み、扱い方、プラン、イメージを理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
14	演習	進級卒業制作展の照明スタッフとして参加し、照明オペレートの実践と撤収作業を学ぶ。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
15	演習	照明実務5/We　Are　TSMに向けて　復習	We are TSM渋谷の資料作成。
準備学習　時間外学習		授業内容について復習レポートを作成。	

【使用教科書・教材・参考書】

舞台・テレビジョン照明＜基礎編＞

科目名	コンサートBasic2 （PA Basic2）	必修選択	選択	年次	1	担当教員	新部有亮
		授業形態	演習	総時間（単位）	90 6		
学科・コース	音楽テクノロジー科・PAエンジニアコース						
教員の略歴	株式会社フライアウト企画に属し、PAエンジニアとして活動している。実務歴12年。						
授業の学習内容	PAエンジニアとしての基本を身につける。前期に引き続き、基礎的な技術を学ぶのは勿論のこと、授業内でもグループ作業の割合が増してゆくため、リーダーシップを身につけ自分で考える能力を養う。他者の意見を取り入れ、より良い作業効率を見つけ出してゆく。						
到達目標	コミュニケーション能力をさらに高めてゆく。アナログ機器だけでなくデジタル機器にも対応できる知識を身につけることが出来る。						
評価方法と基準	実技試験にて評価　100%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	信号分岐。ハウスミキサー、モニターミキサーの頭分けを理解する。EFXやダイナミクス系を設営できるようにする。	信号分岐、EFXやダイナミクス系の設営について復習レポートを作成。
2	演習	設営実習①ハウス、モニター、ステージそれぞれに分かれて設営を学習する。	ハウス、モニター、ステージの設営について復習レポートを作成。
3	演習	設営実習②スピーカーチューニング(技法)について学習する。	スピーカーチューニング(技法)について復習レポートを作成。
4	演習	設営実習③作業の効率化を考えながら、少人数で設営できるようになる。	教室を使って少人数で設営できるように復習しておく。
5	演習	デジタル卓を理解する①LS-9,X-32などでデジタル卓の設定方法を理解する。	デジタル卓を理解するLS-9,X-32などでデジタル卓の設定方法について復習レポートを作成。
6	演習	アメリカのPAエンジニアの考え方を学び、日本との違いを知る。	授業内容について復習レポートを作成する。
7	演習	デジタル卓を理解する②	デジタル卓について復習レポートを作成。
8	演習	デジタル卓を理解する③	デジタル卓について復習レポートを作成。
9	演習	ライブ実習①　インストバンドのサウンドチェックを学習する	インストバンドのサウンドチェックについて復習レポートを作成。
10	演習	ライブ実習②　ヴォーカル&バンドのサウンドチェックを学習する。	ヴォーカル&バンドのサウンドチェックについて復習レポートを作成。
11	演習	ライブ本番実習①　ボーカル＆バンドのライブ本番を経験する。	ボーカル＆バンドのライブ本番について復習レポートを作成。
12	演習	卒業進級制作展のスタッフとして参加し、仕込み、リハーサルをする。	イベントに向けて打合せ、リハーサル立会いなど準備をしっかり行ない、レポートを作成。
13	演習	卒業進級制作展のスタッフとして参加し、本番、撤収作業をする。	イベントの本番、バラシなどをしっかり行ない、レポートを作成。
14	演習	ライブ本番実習②　ボーカル＆バンドのライブ本番を経験する。	ボーカル＆バンドのライブ本番について復習レポートを作成。
15	演習	復習テストを実施。	後期総まとめをレポート作成。
準備学習　時間外学習		授業内容の復習レポートやイベントに向けたプランを作成する。	

【使用教科書・教材・参考書】　PA入門

科目名	コンサートテクニック1 （PAワークショップ1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	東徹郎 松本義正
学科・コース	音楽テクノロジー科 PAエンジニアコース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	120 8		
教員の略歴	東：エムテック所属のPAエンジニアとして、数多くのコンサートやイベント等を手掛ける。実務歴34年。 松本：フリーランスのPAエンジニアとして、数多くのコンサートやイベント等をてがける。実務歴30年。						
授業の学習内容	学内イベントや学外イベント、ホール実習などを行なっていく中で基礎的な音響知識の実践を行なっていく。 打合せ、プランニング、仕込み、リハーサル、サウンドチェック、本番、バラシの一連の流れを実際のイベントを通して学び、経験とする。						
到達目標	PAスタッフとしての基礎的な現場力を身につけ、上級生が下級生に教える中から、自分自身の理解力をより深めると共に同セクション内の人間関係をも構築する。学内イベントやホール実習を通し、他セクション、ホールスタッフ、演者などとの良好な関係づくりを構築する中から、人としての成長を促し、業界で即戦力として活躍できる人材の育成を目指す。						
評価方法と基準	実技試験50% 筆記試験50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	顔合わせ自己紹介、機材の持ち方と安全管理について学ぶ。	機材の持ち方と安全管理について復習レポートを作成。
2	演習	マイクとスタンドの種類、ケーブルの巻き方を学ぶ。	マイクとスタンドの種類、ケーブルの巻き方について復習レポートを作成。
3	演習	PA仕込みの練習を行なう。	PA仕込みについて復習レポートを作成。
4	演習	仕込み練習・学園祭セクション決めを行なう。	学園祭セクションで打合せを行なう。
5	演習	仕込み練習・学園祭プランを立てる。	学園祭プランを立てるための打合せや稽古立会い等を行なう。
6	演習	学園祭反省会・明日への扉映像を見た上でセクションを決める。	学園祭反省会・明日への扉映像を見た上でセクションを決める。
7	演習	仕込み練習/LIVE8を学ぶ。	仕込み練習/LIVE8を学ぶ。
8	演習	仕込み練習/Work Benchを学ぶ。	仕込み練習/Work Benchを学ぶ。
9	演習	仕込み練習/DVSを学ぶ。	仕込み練習/DVSを学ぶ。
10	演習	外部ホール実習①外部ホールでの搬入搬出、仕込み、舞台機構、使用マナー等を学ぶ。	外部ホール実習①外部ホールでの搬入搬出、仕込み、舞台機構、使用マナー等を学ぶ。
11	演習	ホール実習②外部ホールで音環境を理解する。	ホール実習②外部ホールで音環境を理解する。
12	演習	ホール実習③外部ホールでのライブシミュレーションを行なう。	ホール実習③外部ホールでのライブシミュレーションを行なう。
13	演習	明日への扉スタッフとして参加し、仕込み、リハーサルを行なう。	明日への扉スタッフとして参加し、仕込み、リハーサルを行なう。
14	演習	明日への扉スタッフとして参加し、本番、ばらしを行なう。	明日への扉スタッフとして参加し、本番、ばらしを行なう。
15	試験	筆記試験と実技試験	筆記試験と実技試験
準備学習　時間外学習		授業内容の復習をレポートとして作成する。イベント等の打合せ、リハーサル立会い、プランニングや資料作成を行なう。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	コンサートテクニック1 （照明ワークショップ1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	佐々木治郎 鈴木昌広
学科・コース	音楽テクノロジー科・照明スタッフ、照明ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ	授業 形態	演習	総時間 （単位）	120 8		
教員の略歴	佐々木：大手照明会社に11年間勤務し、他方面の照明オペレートを経験。現在フリーランスの照明家として活動。実務歴26年。 鈴木：フリーランスの照明家として、コンサートやイベントで活動。実務歴25年。						
授業の学習内容	舞台照明の仕事をするにあたり、基礎を踏まえた内容の授業をメインとする。現場で求められる人間性、技術力、行動力などの人材育成を目的とした実習として、ベーシック、アドバンスを活かした現場総合力を身につけるための授業。実習を繰り返すことで現場で求められる基礎知識と動きなどを覚え即戦力になる人材を育成する。						
到達目標	照明基礎のベーシック、アドバンスを活かしたより実践的な技術の習得と学年を超えた照明スタッフとしてのコミュニケーション力を学び、より現場らしい業務内容の体験の中で社会人になる意識を持たせる。メンテナンスを通じて器材の仕組みや工具の使い方を学ぶ。仕込みバラシと明かり作り作業の反復練習で照明効果の理解をする。						
評価方法と基準	実技試験50% 筆記試験50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	火曜の授業の確認や学校イベントなどの把握と協調関係の大事さなどを学ぶ。	授業時に取ったメモを見返して理解を深める
2	演習	教室機材の器材を覚える。	授業で学んだ内容を復習する。
3	演習	実際に明かりを出しながら基本明かりの解説をし、理解する。	授業で学んだ内容を復習する。
4	演習	光と影が表わす印象と表現を理解する。	授業で学んだ内容を復習する。
5	演習	光の方向性や色から受けるイメージを感じる	様々なイメージを日常や映像を通して膨らませる。
6	演習	テーマに沿った明かりを表現してみる。	授業で学んだ内容を機材に触れて復習する。
7	演習	電気基礎の理解をする。	授業内容に即した課題をレポートとして提出する。
8	演習	調光信号とユニットの理解をする。	授業で学んだ内容を機材に触れて復習する。
9	演習	仕込み図を作成する。	授業で学んだ内容を復習する。
10	演習	仕込みバラシをしてみる。	前週の仕込み図を完成させる。
11	演習	前期を終えるにあたり質問復習をする。	質問疑問をまとめてくる。
12	演習	イベントに向けての事前準備をする。	台本や資料に目を通しておく。
13	演習	「明日への扉」照明スタッフとして参加し、実際の現場で必要となる照明の仕込み、扱い方、プラン、イメージを理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
14	演習	「明日への扉」照明スタッフとして参加し、実際の現場で必要となる照明の仕込み、扱い方、プラン、イメージを理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
15	試験	実技試験と筆記試験を行う。	自身で答え合わせをし、分からなかった事について調べクリアにしておく。
準備学習　時間外学習		常に帰ってからの復習と理解を深め、実習や現場での動きに活かせるようにする。	

【使用教科書・教材・参考書】

ステージ舞台入門

科目名	コンサートテクニック1 （舞台制作ワークショップ1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	川原宏幸
学科・コース	音楽テクノロジー科・舞台制作コース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	90 6		
教員の略歴	国内外アーティスト・アイドル・声優等のコンサートやイベントの舞台監督を担当。実務歴25年。						
授業の学習内容	テキストを中心に舞台の基礎を学び、アイドルイベントやお笑いイベント、学園祭、明日への扉公演の舞台監督、舞台制作スタッフに必要な知識と技術を実践的に学ぶ。						
到達目標	●知識と基に、作業工程や操作法を身につけることが出来る。 ●舞台全体を把握できる能力を身に付けることが出来る。 ●座学と実習を繰り返して、舞台監督としての成長を目指す。						
評価方法と基準	実技試験50% 筆記試験50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	前期講義と舞台制作についての概要説明のオリエンテーションを行う。	自己紹介内容の準備をする。
2	演習	基本用語（舞台用語）を学ぶ。	スタッフ赤本の復習レポート作成と予習
3	演習	基本用語（舞台セット）を学ぶ。	スタッフ赤本の復習レポート作成と予習
4	演習	基本用語（舞台進行）を学ぶ。	イベント打合せ、資料の作成
5	演習	学園祭準備を通して制作を学ぶ。	イベント打合せ、資料の作成
6	演習	学園祭反省会と引き継ぎ作業を行う。	学園祭時に使用した資料の整理をする。
7	演習	基本用語（各セクション）を学ぶ。	実習準備
8	演習	舞台備品（箱馬・平台）について理解する	実習準備
9	演習	舞台備品（幕）について理解する。	イベント打合せ、資料の作成
10	演習	舞台備品（ステージ設営）について理解する。	イベント打合せ、資料の作成
11	演習	舞台備品（大道具部材）について理解する。	授業内容を復習しレポートを作成。
12	演習	舞台備品（繋ぐ・切る・結ぶ）について理解す	授業内容を復習しレポートを作成。
13	演習	明日への扉の舞台演出部として参加。ミュージカル舞台の仕込み、進行、転換等を実践的に学ぶ。	打合せ、稽古立会い、資料の作成。
14	演習	明日への扉の舞台演出部として参加。ミュージカル舞台の仕込み、進行、転換等を実践的に学ぶ。	撤収作業から現状復帰までを行なう。
15	試験	前期まとめと復習試験を実施する。	前期のまとめを復習しレポートを作成。
準備学習　時間外学習		授業内容の復習レポートを作成し、イベントの打合せ、タイムテーブルや進行表等の資料作成を行なう。	

【使用教科書・教材・参考書】

スタッフ赤本・コース教材（メジャー・手袋・カッター）

科目名	コンサートテクニック1 （楽器テクニシャンワークショップ1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	水見博
学科・コース	音楽テクノロジー科楽器ﾘﾍﾟｱ&ﾃｸﾆｼｬﾝｺｰｽ	授業 形態	演習	総時間 （単位）	90 6		
教員の略歴	株式会社チームアクティブにて楽器テクニシャン、舞台監督として活動。実務歴26年。						
授業の学習内容	楽器テクニシャンとして基礎、機材メンテナンス、現場における所作まで実習を伴い学習する。 ドラムセットのセッティング、ギター、ベース、アンプなどの扱い方、電源の取り方、サウンドメイキングなどを学び、アーティストとの関わり方やマナーも身につけて即戦力を養う。						
到達目標	楽器テクニシャンとして　学内でのライブイベント等の現場を経験し、対応力、コミュニケーション、機材メンテナンスなどの技術を身につけることで、楽器テクニシャンとしての職業選択を持たせ、アーティストから必要とされる知識、技術を身につけることが出来る。						
評価方法と基準	実技試験50% 筆記試験50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	前期講義と楽器テクニシャンについての概要説明のオリエンテーションを行	スケジュールの調整と必要な道具、備品を揃える。
2	演習	楽器、機材のメンテナンスとリストの作成を学ぶ（1）	メンテナンス機材の選定をする。
3	演習	楽器、機材のメンテナンスとリストの作成を学ぶ（2）	メンテナンス機材の復旧確認をする。
4	演習	学内イベントに向けて考査、考察（1）	イベント実施内容資料収集
5	演習	学内イベントで現場に必要な知識と技術を学ぶ。	実施イベント資料の復習
6	演習	学園祭楽器テクニシャン業務について考査する。	実施イベント資料に基づいての考察
7	演習	学園祭反省会と終了報告書作成する。	実施イベント資料に基づいての考察
8	演習	楽器、機材のメンテナンスとリストの作成を学ぶ（3）	メンテナンス機材の選定
9	演習	楽器、機材のメンテナンスとリストの作成を学ぶ（4）	メンテナンス機材の復旧確認
10	演習	ミュージカル明日への扉について考察する。	昨年実施資料の復習、今年度資料の考察
11	演習	校内機材への深認識、再確認をし共有する。	校内機材の使用方向考察
12	演習	学内イベントに向けて考査、考察（2）	イベント実施内容の収集と資料作成。
13	演習	明日への扉で楽器テクニシャンスタッフの実践経験を積む。	明日への扉の資料作成と反省点をまとめる。
14	演習	明日への扉で楽器テクニシャンスタッフの実践経験を積む。	明日への扉の資料作成と反省点をまとめる。
15	試験	復習テスト	前期のまとめをレポート作成する。
準備学習　時間外学習		授業内容の復習レポート、イベントの打合せ、資料の作成をおこなう。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	コンサートテクニック2 （PAワークショップ2）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	東徹郎 松本義正
学科・コース	音楽テクノロジー科 PAエンジニアコース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	120 8		
教員の略歴	東：エムテック所属のPAエンジニアとして、数多くのコンサートやイベント等を手掛ける。実務歴34年。 松本：フリーランスのPAエンジニアとして、数多くのコンサートやイベント等をてがける。実務歴30年。						
授業の学習内容	学内イベントや学外イベント、ホール実習などを行なっていく中で基礎的な音響知識の実践を行なっていく。 進級制作展、卒業制作展を成功に導くためのプランニングやオペレーションを学ぶ。						
到達目標	PAスタッフとしての基礎的な現場力を身につけ、上級生が下級生に教える中から、自分自身の理解力をより深めると共に同セクション内の人間関係をも構築することが出来る。学内イベントやホール実習を通し、他セクション、ホールスタッフ、演者などとの良好な関係づくりを構築する中から、人としての成長を促し、業界で即戦力として活躍できる人材の育成を目指す。						
評価方法と基準	実技試験50% 筆記試験50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	仕込練習/LS9の操作方法を修得する。	LS9の操作方法について復習レポートを作成。
2	演習	仕込練習/X32の操作方法を修得する。	X32の操作方法について復習レポートを作成。
3	演習	仕込練習/QL5の操作方法を修得する。	QL5の操作方法について復習レポートを作成。
4	演習	仕込練習/CL5の操作方法を修得する。	CL5の操作方法について復習レポートを作成。
5	演習	仕込練習/SD8の操作方法を修得する。	SD8の操作方法について復習レポートを作成。
6	演習	外部ホール実習④外部ホールでのアコギ弾き語りライブシミュレーションを行なう。	外部ホールでのアコギ弾き語りライブについて復習レポートを作成。
7	演習	外部ホール実習④外部ホールでのピアノ弾き語りライブシミュレーションを行なう。	外部ホールでのピアノ弾き語りライブについて復習レポートを作成。
8	演習	ホール実習③外部ホールでのバンドライブシミュレーションを行なう。	外部ホールでのバンドライブについて復習レポートを作成。
9	演習	We are TSM渋谷のセクション決めを行ない、打合せをする。	セクションごとの打合せ内容をまとめ資料を作成する。
10	演習	We are TSM渋谷打合せ、プランニングをする。	We are TSM渋谷プランの整理をする。
11	演習	We are TSM渋谷リハーサルを行なう。（1）	We are TSM渋谷リハーサルについて修正変更点をまとめる。
12	演習	We are TSM渋谷リハーサルを行なう。（2）	We are TSM渋谷リハーサルについて修正変更点をまとめる。
13	演習	We are TSM渋谷に参加し、プランニング、リハーサル立会い、資料作成を行なう。	明日への扉スタッフとして参加し、仕込み、リハーサルを行なう。
14	演習	We are TSM渋谷に参加し、積込、搬入搬出、仕込みから本番、バラシまで行なう。	明日への扉スタッフとして参加し、本番、ばらしを行なう。
15	試験	We are反省会、アーカイブ作成を行う。	筆記試験と実技試験
準備学習　時間外学習		授業内容の復習をレポートとして作成する。イベント等の打合せ、リハーサル立会い、プランニングや資料作成を行なう。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	コンサートテクニック2 （照明ワークショップ2）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	佐々木治郎 鈴木昌広
学科・コース	音楽テクノロジー科・照明スタッフ、照明ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ	授業 形態	演習	総時間 （単位）	120 8		
教員の略歴	佐々木：大手照明会社に11年間勤務し、他方面の照明オペレートを経験。現在フリーランスの照明家として活動。実務歴26年。 鈴木：フリーランスの照明家として、コンサートやイベントで活動。実務歴25年。						
授業の学習内容	舞台照明の仕事をするにあたり基礎を踏まえた内容の授業をメインとし現場で求められる人間性、技術力、行動力などの人材育成を目的とした実習としベーシック、アドバンスを活かした現場総合力を身につけるための授業。実習を繰り返すことで現場で求められる基礎知識と動きなどを覚え即戦力になる人材を育成する。						
到達目標	照明基礎のベーシック、アドバンスを活かしたより実践的な技術の習得と学年を超えた照明スタッフとしてのコミュニケーション力を学び、より現場らしい業務内容の体験の中で社会人になる意識を持つことができる。 メンテナンスを通じて器材の仕組みや工具の使い方を学ぶ。仕込みバラシと明かり作り作業の反復練習で照明効果の理解を深める。						
評価方法と基準	実技試験50% 筆記試験50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	仕込みバラシをしてみて応用力コミュニケーション力等を身につける	仕込み図を完成させ当日発表
2	演習	照明においてのメンテナンス技術を身につける	工具を持ってくる準備
3	演習	仕込みバラシをしてみて応用力コミュニケーション力等を身につける	仕込み図を完成させ当日発表
4	演習	内容考察や符割りプランニングなどの理解する	資料
5	演習	仕込みバラシをしてみて応用力コミュニケーション力等を身につける	仕込み図を完成させ当日発表
6	演習	課題曲や個人選曲で発表する	選曲
7	演習	仕込みバラシをしてみて応用力コミュニケーション力等を身につける	仕込み図を完成させ当日発表
8	演習	課題曲や個人選曲で発表する	選曲
9	演習	仕込みバラシをしてみて応用力コミュニケーション力等を身につけること	仕込み図を完成させ当日発表
10	演習	課題曲や個人選曲で発表する	選曲
11	演習	卒業公演に向けての机上準備を学ぶ	各種資料
12	演習	後期まとめとして質問や復習	教科書ノートなどのおさらい
13	演習	進級卒業制作展の照明スタッフとして参加し、実際の現場で必要となる照明の仕込み、扱い方、プラン、イメージを理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
14	演習	進級卒業制作展の照明スタッフとして参加し、実際の現場で必要となる照明の仕込み、扱い方、プラン、イメージを理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
15	試験	実技試験と筆記試験を行う。	自身で答え合わせをし、分からなかった事について調べクリアにしておく。
準備学習　時間外学習		常に帰ってからの復習と理解を深め、実習や現場での動きに活かせるようにする。	

【使用教科書・教材・参考書】

ステージ舞台入門

科目名	コンサートテクニック2 （舞台制作ワークショップ2）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	川原宏幸
学科・コース	音楽テクノロジー科・舞台制作コース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	90 6		
教員の略歴	国内外アーティスト・アイドル・声優等のコンサートやイベントの舞台監督を担当。実務歴25年。						
授業の学習内容	アイドルイベントやお笑いイベント等を通して舞台監督、舞台制作スタッフに必要な知識と技術を実践的に学ぶ。 また、実習にて舞台機構を操作し習得する。 卒業進級制作展に向けての打合せや作業を行なう。						
到達目標	舞台公演に必要な知識・使用操作方技術を身につけ、公演の進行を自分自身で行えるようになる。						
評価方法と基準	実技試験50% 筆記試験50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	前期授業の振り返りと後期講義のオリエンテーションを行う。	PC操作・スタッフ赤本の復習
2	演習	卒業進級制作展開催役割分担を行い、組織体制作りを学ぶ。	授業内容の整理。
3	演習	地絣り・カーペットを敷くスキルを学ぶ。	授業内容の復習レポートを作成。
4	演習	幕を吊る・道具を飾るスキルを学ぶ。	授業内容の復習レポートを作成。
5	演習	コンサートホールを理解し、舞台セットを考察する。	授業内容の復習、資料のまとめをレポートとして作成。
6	演習	学内イベントの舞台進行を実践的に学ぶ。	実習準備をする。
7	演習	学内イベントの舞台進行を実践的に学ぶ。	実習準備をする。
8	演習	卒業進級制作展の制作スケジュールを管理し、演出内容について考察する。	打合せ、資料作成。
9	演習	卒業進級制作展リハーサルの資料作成と舞台進行を行う①。	打合せ、資料作成し、仕込み作業を行う
10	演習	卒業進級制作展リハーサルの資料作成と舞台進行を行う②。	資料作成、会場仕込み、撤去作業。
11	演習	卒業進級制作展リハーサルの資料作成と舞台進行を行う③。	資料作成、会場仕込み、撤去作業。
12	演習	進級制作展の資料作成とリハーサル、本番の舞台進行を行う④。	資料作成、会場仕込み、撤去作業。
13	演習	卒業進級制作展の資料作成とリハーサル、本番の舞台進行を行う⑤。	打合せ、リハーサル立会い、資料の作成。
14	演習	卒業進級制作展の資料作成とリハーサル、本番の舞台進行を行う⑥。	撤収作業から現状復帰までを行なう。
15	試験	復習試験を実施する。	復習レポートを作成。
準備学習　時間外学習		授業内容の復習レポートを作成し、イベントの打合せ、タイムテーブルや進行表等の資料作成を行なう。	

【使用教科書・教材・参考書】

スタッフ赤本

科目名	コンサートテクニック2 （楽器テクニシャンワークショップ2）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	水見博
学科・コース	音楽テクノロジー科楽器ﾘﾍﾟｱ&ﾃｸﾆｼｬﾝｺｰｽ	授業 形態	演習	総時間 （単位）	90 6		
教員の略歴	株式会社チームアクティブにて楽器テクニシャン、舞台監督として活動。実務歴26年。						
授業の学習内容	楽器テクニシャンとして基礎、機材メンテナンス、現場における所作まで実習を伴い学習する。 ドラムセットのセッティング、ギター、ベース、アンプなどの扱い方、電源の取り方、サウンドメイキングなどを学び、アーティストとの関わり方やマナーも身につけて即戦力を養う。						
到達目標	楽器テクニシャンとして　学内でのライブイベント等の現場を経験し、対応力、コミュニケーション、機材メンテナンスなどの技術を身につけることが出来る、楽器テクニシャンとしての職業選択を持たせ、アーティストから必要とされる知識、技術を身につける。						
評価方法と基準	筆記試験 50% 実技試験 50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	前期講義と楽器テクニシャンについての概要説明のオリエンテーションを行	スケジュールの調整と必要な道具、備品を揃える。
2	演習	楽器、機材のメンテナンスとリストの作成を学ぶ（5）	メンテナンス機材の選定をする。
3	演習	楽器、機材のメンテナンスとリストの作成を学ぶ（6）	メンテナンス機材の復旧を確認しておく。
4	演習	学内イベントに向けて考査、考察（3）	イベント実施内容資料を収集する。
5	演習	学内イベントに向けて考査、考察（4）	イベント実施内容資料を収集する。
6	演習	学内イベントに向けて考査、考察（5）	イベント実施内容資料を収集する。
7	演習	楽器、機材のメンテナンスとリストの作成を学ぶ（7）	メンテナンス機材の選定をする。
8	演習	楽器、機材のメンテナンスとリストの作成を学ぶ（8）	メンテナンス機材の復旧を確認しておく。
9	演習	WE ARE TSM渋谷への考察	昨年実施資料の復習、今年度資料の考察
10	演習	WE ARE TSM渋谷リハーサルの準備、考察	昨年実施資料の復習、今年度資料の考察
11	演習	WE ARE TSM渋谷リハーサルの準備、考察	昨年実施資料の復習、今年度資料の考察
12	演習	WE ARE TSM渋谷外部ホールリハーサルの準備、考察	昨年実施資料の復習、今年度資料の考察
13	演習	WE ARE TSM渋谷のスタッフとして現場実習を行う。	WE ARE TSM渋谷の打合せ、資料作成。
14	演習	WE ARE TSM渋谷のスタッフとして現場実習を行う。	WE ARE TSM渋谷終了報告書を作成する。
15	試験	復習試験	後期のまとめを作成する。
準備学習　時間外学習		授業内容の復習と各種イベントの打合せ、資料作成をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	舞台機構調整士1	必修選択	選択	年次	1	担当教員	小瀬高夫
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
学科・コース	音楽テクノロジー科・PAエンジニアコース						
教員の略歴	一級舞台機構調整技能士。株式会社ヴァーゴ設立。2010年より(株)サンフォニックス入社。実務歴41年。						
授業の学習内容	音の性質、音響心理、電気の基礎、アース、ノイズ、電気音響機器、楽器音、音楽の判断、簡易PAセット組み上げおよび調整を学ぶ。						
到達目標	簡易PAセットを組み上げられるようになる。音波の性質を理解して調整ができるようになる。						
評価方法と基準	小テスト 20% 学習ジャーナル 10% 筆記試験 35% 実技試験 35%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	講師紹介、他人紹介、授業の進め方、教科書についての説明。ケーブル巻きを学ぶ。	シラバス、教科書、確認しておく事。
2	講義	ケーブル、マイクスタンド、ホルダー、マイクについての知識を学ぶ。	ケーブル、マイクスタンド、ホルダー、マイクについて復習レポートを作成。
3	講義	スピーカー、スピーカースタンドについての知識を学ぶ。	スピーカー、スピーカースタンドについて復習レポートを作成。
4	講義	ブロックダイヤグラム、ミキシングコンソール、パワーアンプについての知識を学ぶ。	ブロックダイヤグラム、ミキシングコンソール、パワーアンプについて復習レポートを作成。
5	講義	簡易PAセットの組み上げ方を学ぶ。	簡易PAセット組み上げその1について復習レポートを作成。
6	講義	簡易PAセットの組み上げ方を学ぶ。	簡易PAセット組み上げその2について復習レポートを作成。
7	講義	簡易PAセットの組み上げ方を学ぶ。	簡易PAセット組み上げその3について復習レポートを作成。
8	講義	簡易PAセットにCDを接続し、AUXの使い方とリバーブの接続を学ぶ。	CD接続、AUX,リバーブについて復習レポートを作成。
9	講義	上記のセットにさらにGEQを接続する方法を身につける。	GEQ接続について復習レポートを作成。
10	講義	上記にさらにモニタースピーカーを接続する方法を身につける。	モニタースピーカー接続について復習レポートを作成。
11	講義	上記全セットの組み上げと調整の仕方を身につける。	上記セットを各自組み上げ、調整1について復習レポートを作成。
12	講義	「明日への扉」音響スタッフとして参加し、実際の現場で必要となる仕込み、バラシ、プラン等を理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
13	講義	「明日への扉」音響スタッフとして参加し、実際の現場で必要となる仕込み、バラシ、プランを理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
14	講義	PA簡易セット～モニタースピーカー接続までの全工程の組み上げと調整の仕方について反復練習する。	上記セットを各自組み上げ、調整2について復習レポートを作成。
15	試験	復習期末試験（筆記、実技）	前期の復習、期末試験の準備
準備学習 時間外学習		現場に積極的に参加する事。予習、復習を必ず行う事。体調管理しっかりする事。	

【使用教科書・教材・参考書】

PA入門改訂版、ステージ、PA、照明用語事典、舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション3級

科目名	舞台機構調整士2	必修選択	選択	年次	1	担当教員	小瀬高夫
学科・コース	音楽テクノロジー科・PAエンジニアコース	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	一級舞台機構調整技能士。株式会社ヴァーゴ設立。2010年より(株)サンフォニックス入社。実務歴41年。						
授業の学習内容	音の性質、音響心理、電気の基礎、アース、ノイズ、電気音響機器、楽器音、音楽の判断、簡易PAセット組み上げおよび調整を学ぶ。						
到達目標	簡易PAセットを組み上げられるようになる。音波の性質を理解して調整ができるようになる。						
評価方法と基準	小テスト 20% 学習ジャーナル 10% 筆記試験 35% 実技試験 35%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	音について～音はなぜ聞こえるのか～を学ぶ。	音について、音はなぜ聞こえるのか、について復習レポートを作成。
2	講義	音波の伝播や音場、音速について理解する。	音波の伝播 音場 音速 、について復習レポートを作成。
3	講義	周波数、可聴限界周波数、波長、振幅について理解する。	周波数 可聴限界周波数 波長 振幅、について復習レポートを作成。
4	講義	音色、オームヘルムホルツの法則、音波の性質について理解する。	音色 オームヘルムホルツの法則 音波の性質1、について復習レポートを作成。
5	講義	音波の性質2、音圧、音圧レベル、音量について理解する。	音波の性質2 音圧 音圧レベル 音量、について復習レポートを作成。
6	講義	騒音、NC値、音響心理1について学ぶ。	騒音 NC値 音響心理1、について復習レポートを作成。
7	講義	音響心理2について学ぶ。	音響心理2、について復習レポートを作成。
8	講義	電気の基礎1について学ぶ。	電気の基礎1、について復習レポートを作成。
9	講義	電気の基礎2 アース ノイズについて学ぶ。	電気の基礎2 アース ノイズ、について復習レポートを作成。
10	講義	電気音響機器1について学ぶ。	電気音響機器1、について復習レポートを作成。
11	講義	電気音響機器2について学ぶ。	電気音響機器2、について復習レポートを作成。
12	講義	電気音響機器3について学ぶ。	電気音響機器3、について復習レポートを作成。
13	講義	進級制作展に音響スタッフとして参加し、実際の現場で必要となる仕込み、バラシ、プラン等を理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
14	講義	進級制作展に音響スタッフとして参加し、実際の現場で必要となる仕込み、バラシ、プラン等を理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
15	試験	期末復習試験（筆記、実技）	後期の復習、期末試験の準備
準備学習 時間外学習		現場に積極的に参加する事。予習、復習を必ず行う事。体調管理しっかりする事。	

【使用教科書・教材・参考書】

PA入門改訂版、ステージ、PA、照明用語事典、舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション3級

科目名	音響電気知識1	必修選択	選択	年次	1	担当教員	小瀬高夫
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
学科・コース	音楽テクノロジー・PAエンジニアコース						

教員の略歴	一級舞台機構調整技能士。株式会社ヴァーゴ設立。2010年より(株)サンフォニックス入社。実務歴41年。
授業の学習内容	音の性質、音響心理、電気の基礎、アース、ノイズ、電気音響機器、楽器音、音楽の判断、簡易PAセット組み上げおよび調整を学ぶ。
到達目標	簡易PAセットを組み上げられるようになる。音波の性質を理解して調整ができるようになる。
評価方法と基準	小テスト 20% 学習ジャーナル 10% 筆記試験 35% 実技試験 35%

授業計画・内容

回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	講師紹介、他人紹介、授業の進め方、教科書についての説明。ケーブル巻きを学ぶ。	シラバス、教科書、確認しておく事。
2	講義	ケーブル、マイクスタンド、ホルダー、マイクについての知識を学ぶ。	ケーブル、マイクスタンド、ホルダー、マイクについて復習レポートを作成。
3	講義	スピーカー、スピーカースタンドについての知識を学ぶ。	スピーカー、スピーカースタンドについて復習レポートを作成。
4	講義	ブロックダイヤグラム、ミキシングコンソール、パワーアンプについての知識を学ぶ。	ブロックダイヤグラム、ミキシングコンソール、パワーアンプについて復習レポートを作成。
5	講義	簡易PAセットの組み上げ方を学ぶ。	簡易PAセット組み上げその1について復習レポートを作成。
6	講義	簡易PAセットの組み上げ方を学ぶ。	簡易PAセット組み上げその2について復習レポートを作成。
7	講義	簡易PAセットの組み上げ方を学ぶ。	簡易PAセット組み上げその3について復習レポートを作成。
8	講義	簡易PAセットにCDを接続し、AUXの使い方とリバーブの接続を学ぶ。	上記にCD接続、AUX、リバーブについて復習レポートを作成。
9	講義	上記のセットにさらにGEQを接続する方法を身につける。	上記にGEQ接続について復習レポートを作成。
10	講義	上記にさらにモニタースピーカーを接続する方法を身につける。	上記にモニタースピーカー接続について復習レポートを作成。
11	講義	上記全セットの組み上げと調整の仕方を身につける。	上記セットを各自組み上げ、調整1について復習レポートを作成。
12	講義	「明日への扉」音響スタッフとして参加し、仕込み、バラシ、プラン等を理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
13	講義	「明日への扉」音響スタッフとして参加し、仕込み、バラシ、プランを理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
14	講義	上記セットを各自組み上げ、調整2	上記セットを各自組み上げ、調整2について復習レポートを作成。
15	試験	期末復習試験（筆記、実技）	前期の復習、期末試験の準備
準備学習 時間外学習		現場に積極的に参加する事。予習、復習を必ず行う事。体調管理しっかりする事。	

【使用教科書・教材・参考書】

PA入門改訂版、ステージ、PA、照明用語事典、舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション3級

科目名	音響電気知識2	必修選択	選択	年次	1	担当教員	小瀬高夫
学科・コース	音楽テクノロジー・PAエンジニアコース	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	一級舞台機構調整技能士。株式会社ヴァーゴ設立。2010年より(株)サンフォニックス入社。実務歴41年。						
授業の学習内容	音の性質、音響心理、電気の基礎、アース、ノイズ、電気音響機器、楽器音、音楽の判断、簡易PAセット組み上げおよび調整を学ぶ。						
到達目標	簡易PAセットを組み上げられるようになる。音波の性質を理解して調整ができるようになる。						
評価方法と基準	小テスト 20% 学習ジャーナル 10% 筆記試験 35% 実技試験 35%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	音について～音はなぜ聞こえるのか～を学ぶ。	音について、音はなぜ聞こえるのか、について復習レポートを作成。
2	講義	音波の伝播や音場、音速について理解する。	音波の伝播、音場、音速について復習レポートを作成。
3	講義	周波数、可聴限界周波数、波長、振幅について理解する。	周波数、可聴限界周波数、波長、振幅について復習レポートを作成。
4	講義	音色、オームヘルムホルツの法則、音波の性質について理解する。	音色 オームヘルムホルツの法則 音波の性質1について復習レポートを作成。
5	講義	音波の性質2、音圧、音圧レベル、音量について理解する。	音波の性質2、音圧、音圧レベル、音量について復習レポートを作成。
6	講義	騒音、NC値、音響心理1について学ぶ。	騒音、NC値、音響心理1について復習レポートを作成。
7	講義	音響心理2について学ぶ。	音響心理2について復習レポートを作成。
8	講義	電気の基礎1について学ぶ。	電気の基礎1について復習レポートを作成。
9	講義	電気の基礎2 アース ノイズについて学ぶ。	電気の基礎2 アース ノイズについて復習レポートを作成。
10	講義	電気音響機器1について学ぶ。	電気音響機器1について復習レポートを作成。
11	講義	電気音響機器2について学ぶ。	電気音響機器2について復習レポートを作成。
12	講義	電気音響機器3について学ぶ。	電気音響機器3について復習レポートを作成。
13	講義	連級制作展に音響スタッフとして参加し、実際の現場で必要となる仕込み、バラシ、プラン等を理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
14	講義	連級制作展に音響スタッフとして参加し、実際の現場で必要となる仕込み、バラシ、プラン等を理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
15	試験	期末復習試験（筆記、実技）	後期の復習、期末試験の準備
準備学習 時間外学習		現場に積極的に参加する事。予習、復習を必ず行う事。体調管理しっかりする事。	

【使用教科書・教材・参考書】

PA入門改訂版、ステージ、PA、照明用語事典、舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション3級

科目名	楽器知識1(B)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	水見博
学科・コース	音楽テクノロジー科・コンサート企画制作、プロマネージャーコース、スーパーマネージャーコース、スタッフ&ミュージシャンコース	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	株式会社チームアクティブにて楽器テクニシャン、舞台監督として活動。実務歴26年。						
授業の学習内容	コンサートスタッフに必要なドラム、ベース、ギター、キーボード等の楽器に関する基礎知識を学ぶ。 各楽器の構造、特徴、形状、音色、略称等を学び、ドラムのセッティング方法を習得する。						
到達目標	楽器に興味を持ち、コンサート現場やプロダクション業務、学校行事等において必要となる基本的な楽器の知識を習得する。						
評価方法と基準	実技試験（50%） 筆記試験（50%）						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	講義	前期講義と楽器についての概要説明のオリエンテーションを行う。	興味のある楽器について調べておく。
2	講義	楽器の特徴の基礎知識を知り・覚える	楽器販売店に出向き　様々な楽器の視察、カタログの入手
3	講義	DRUMSの基本セットを知り・覚える	販売メーカーのHP、収集したカタログを参照し、ドラムについてレポート作成。
4	講義	DRUMの メーカー名 知る Bass Drumの 構造・特徴・組立方を知り・覚える	販売メーカーのHP、収集したカタログを参照し、バスドラについてレポート作成。
5	講義	Snare Drumの構造・特徴・組立方を知り・覚える	販売メーカーのHP、収集したカタログを参照し、スネアについてレポート作成。
6	講義	HI-HATの構造・特徴・組立方を知り・覚える	販売メーカーのHP、収集したカタログを参照し、ハイハットについてレポート作成。
7	講義	HI-HAT STANDの構造・特徴・組立方を知り・覚える	販売メーカーのHP、収集したカタログを参照し、ハイハットスタンドについてレポート作成。
8	講義	Dr 3点のセッティング・FLOOR TOM の構造・特徴を知り・覚える	販売メーカーのHP、収集したカタログを参照し、タムについてレポート作成。
9	講義	TOM TOM の構造・特徴・組立方を知り・覚える	販売メーカーのHP、収集したカタログを参照し、タムについてレポート作成。
10	講義	CYMBAL及びCYMBAL STANDのメーカー名・構造・特徴・組立方を知り・覚え	販売メーカーのHP、収集したカタログを参照し、シンバルについてレポート作成。
11	講義	DRUMS 基本セット 全体のセッティングを知り・覚える	販売メーカーのHP、収集したカタログを参照し、セット全般についてレポート作成。
12	講義	明日への扉にスタッフとして参加し、楽器仕込みや音についての理解を深める。	使用されている楽器についてレポートを作成。
13	講義	明日への扉にスタッフとして参加し、楽器仕込みや音についての理解を深める。	使用されている楽器についてレポートを作成。
14	講義	DRUMS 基本セット 全体のセッティングを知り・覚える	販売メーカーのHP、収集したカタログを参照し、セット全般についてレポート作成。
15	試験	振り返り試験	楽器について学んだことの総まとめをレポート作成。
準備学習　時間外学習		授業内容と関連した楽器についてカタログやHP等で調べ、レポートを作成。	

【使用教科書・教材・参考書】

Ipad、各楽器メーカーの商品カタログ

科目名	楽器知識2(B)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	水見博
学科・コース	音楽テクノロジー科	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	株式会社チームアクティブにて楽器テクニシャン、舞台監督として活動。実務歴26年。						
授業の学習内容	コンサートスタッフに必要なドラム、ベース、ギター、キーボード等の楽器に関する基礎知識を学ぶ。 各楽器の構造、特徴、形状、音色、略称等を学び、ドラムのセッティング方法を習得する。						
到達目標	楽器に興味を持ち授業に於いて基礎知識（名称・構造・特徴・形・音色・セッティング方法・音の出し方）等を習得し、学内イベント等現場での経験を通じ、実践力を養い将来的即戦力につなげる。						
評価方法と基準	実技試験（50%） 筆記試験（50%）						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	講義	前期の総復習 DrSETのSETTING方法を身につける。	ドラムセッティングの復習レポートを作成。
2	講義	電気に関することを学ぶ。	海外と国内の電源事情を調べてレポートを作成。
3	講義	弦楽器全般について理解する。	楽器販売店にてカタログを収集する。
4	講義	弦楽器　ギターについてについて理解する。	販売メーカーのHP、収集したカタログの参照しギターについてレポート作成。
5	講義	弦楽器　ベースについてについて理解する。	販売メーカーのHP、収集したカタログの参照しベースについてレポート作成。
6	講義	弦楽器　ギター、ベースアンプの基礎知識を学ぶ。	販売メーカーのHP、収集したカタログの参照しアンプについてレポート作成。
7	講義	弦楽器　ギター、ベースアンプのトランジスターアンプ知識を学ぶ。	販売メーカーのHP、収集したカタログの参照しアンプについてレポート作成。
8	講義	弦楽器　ギター、ベースアンプの真空管アンプ知識を学ぶ。	販売メーカーのHP、収集したカタログの参照し真空管アンプについてレポート作成。
9	講義	鍵盤楽器　全般においての基礎知識を学ぶ。	販売メーカーのHP、収集したカタログの参照し鍵盤楽器についてレポート作成。
10	講義	鍵盤楽器　デジタルシンセサイザーについて学ぶ。	販売メーカーのHP、収集したカタログの参照しデジタルシンセサイザーについてレポート作成。
11	講義	楽器材の梱包や運び方を学ぶ。	上記以外で興味のある楽器について調べてレポート作成。
12	講義	これまでの講義内容についての振り返りを行う。	過去資料を参照し理解を深める。
13	講義	進級制作展にスタッフとして参加し、楽器仕込みや音についての理解を深める。	使用されている楽器についてレポートを作成。
14	講義	We are TSM渋谷にスタッフとして参加し、楽器仕込みや音についての理解を深める。	使用されている楽器についてレポートを作成。
15	講義	復習テストを実施する。	楽器について学んだことの総まとめをレポート作成。
準備学習　時間外学習		授業で学んだことの復習と楽器のカタログ等を自分で収集し見てレポート作成する。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Creator'sRecording概論	必修選択	選択	年次	1	担当教員	西片悠人
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャー/音楽プロデューサー/ゲームミュージック	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	レコーディングエンジニア歴8年（代表作品：GLAY「LOVE IS BEAUTIFUL」,かりゆし58「で一じ、かりゆし」）						
授業の学習内容	音楽クリエーターを目指す上で、レコーディング技術の必要性と需要が高まってきている昨今、クリエーターにとって必要なデジタルレコーディングの基本概念と、レコーディング技術及びミキシング・マスタリング技術の基礎知識と技術の習得を目指す。						
到達目標	①デジタルレコーディングの基本概念の理解 ②ヴォーカル及び各種アコースティック楽器のレコーディング技術の習得 ③業界標準DAW「ProTools」の基本概念と機能の理解						
評価方法と基準	1）定期テスト（筆記60%　実技40%）						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	講義	デジタルレコーディング基本概念の理解① （アナログ,デジタルの違いとレコーディング技術の変遷について）	デジタルレコーディング基本概念の理解① （アナログ,デジタルの違いとレコーディング技術の変遷について）
2	講義	デジタルレコーディング基本概念の理解② （サンプリングレート、ビットレートについての理解）	デジタルレコーディング基本概念の理解② （サンプリングレート、ビットレートについての理解）
3	講義	デジタルレコーディング応用編① （AD/DA,レイテンシーとは？その対策について）	デジタルレコーディング応用編① （AD/DA,レイテンシーとは？その対策について）
4	講義	デジタルレコーディング応用編② （ワードクロックについて、活用法や注意点について）	デジタルレコーディング応用編② （ワードクロックについて、活用法や注意点について）
5	講義	マイクの種類および特性について	マイクの種類および特性について
6	講義	アナログコンソール（SSL4000G）を利用したオーディオルーティングについての理解	アナログコンソール（SSL4000G）を利用したオーディオルーティングについての理解
7	講義	アナログコンソール（SSL4000G）を利用したオーディオルーティングを理解し、レコーディング及びモニタリングのセットアップについて	アナログコンソール（SSL4000G）を利用したオーディオルーティングを理解し、レコーディング及びモニタリングのセットアップについて
8	講義	ヴォーカルレコーディングのセッティングとルーティングについて	ヴォーカルレコーディングのセッティングとルーティングについて
9	講義	アコースティック楽器のセッティングとルーティングについて	アコースティック楽器のセッティングとルーティングについて
10	講義	DAW「ProTools」基礎① セッションの作り方、各種機能の理解	DAW「ProTools」基礎① セッションの作り方、各種機能の理解
11	講義	DAW「ProTools」基礎② 編集ウィンドウの理解、4つの基本モードの理解	DAW「ProTools」基礎② 編集ウィンドウの理解、4つの基本モードの理解
12	講義	DAW「ProTools」基礎③ ミックスウィンドウの理解、オーディオルーティングについて	DAW「ProTools」基礎③ ミックスウィンドウの理解、オーディオルーティングについて
13	講義	SSLコンソールを使った実技テスト	これまでの授業を通じて学んだポイントをポートフォリオとしてまとめる
14	講義	ミュージカルのライブレコーディングのシステム構築及びProTools セッション作成について	ミュージカルのライブレコーディングのセッション作成について 振り返りと自習
15	講義	ミュージカルのライブレコーディングセッションの編集と管理について	ミュージカルのライブレコーディングセッションの編集と管理について 振り返りと自習
準備学習　時間外学習		授業に向けて事前調べと資料の準備、授業内容の復習レポートを作成。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	舞台美術概論	必修選択	選択	年次	1	担当教員	吾郷順治
学科・コース	音楽テクノロジー科・舞台制作＆ｽﾃｰｼﾞﾃﾞｻﾞｲﾅｰ、照明ﾗｲﾃｨﾝｸﾞｺｰｽ	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	舞台美術デザイナー＆空間デザイナー（コンサート、ミュージカル、ストレートプレイ、イベント等々）として活動。実務歴38年。						
授業の学習内容	舞台美術（セット）はなくてはならない物です。それを理解することはコンサート系コースのどのコースにおいても必ず意味があります。この授業では、紀元前からの舞台史を学び、舞台美術の知識を通してイマジネイションを広げて、スキルを上げていきます。						
到達目標	舞台の歴史を知ることで、これからの新しいイベント、舞台を創造しゆく知識を習得することができ、創造力豊かな舞台スタッフとしての人材を育成する。						
評価方法と基準	筆記試験 50% 実技試験 50%						

授業計画・内容

回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	講義	舞台美術全般についての概要を説明する。	授業内容について復習レポートを作成。
2	講義	様々なジャンルのパフォーマンスについて学ぶ（日本のコンサート）	日本のコンサートについて復習レポートを作成。
3	講義	様々なジャンルのパフォーマンスについて学ぶ（ミュージカル）	ミュージカルについて復習レポートを作成。
4	講義	様々なジャンルのパフォーマンスについて学ぶ（ストレートプレイ）	ストレートプレイについて復習レポートを作成。
5	講義	様々なジャンルのパフォーマンスについて学ぶ（ダンスパフォーマンス）	ダンスパフォーマンスについて復習レポートを作成。
6	講義	様々なジャンルのパフォーマンスについて学ぶ（世界のコンサート）	世界のコンサートについて復習レポートを作成。
7	講義	様々なジャンルのパフォーマンスについて学ぶ（ショップデザイン）	ショップデザインについて復習レポートを作成。
8	講義	様々なジャンルのパフォーマンスについて学ぶ（ウィンドウディスプレイ）	ウィンドウディスプレイについて復習レポートを作成。
9	講義	舞台美術スタッフの仕事を学ぶ	舞台美術スタッフの仕事について復習レポートを作成。
10	講義	工具、道具の知識と扱い方を学ぶ	工具、道具の知識と扱い方について復習レポートを作成。
11	講義	美術デザイナーの仕事について学ぶ	美術デザイナーの仕事について復習レポートを作成。
12	講義	舞台演出について学ぶ	舞台演出について復習レポートを作成。
13	講義	演劇公演の美術製作に関わる①	演劇公演の美術製作について復習レポートを作成。
14	講義	演劇公演の美術製作に関わる②	演劇公演の美術製作について復習レポートを作成。
15	試験	復習試験を実施する。	総まとめとしてレポートを作成。
準備学習　時間外学習		授業内容の復習レポートを作成する。	

【使用教科書・教材・参考書】

「舞台美術の基礎知識」（レクラム社刊：滝善光著）

科目名	舞台制作概論1	必修選択	選択	年次	1	担当教員	川原宏幸
学科・コース	音楽テクノロジー科・舞台制作＆ｽﾃｰｼﾞﾃﾞｻﾞｲﾅｰｺｰｽ	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		

教員の略歴	国内外アーティスト・アイドル・声優等のコンサートやイベントの舞台監督歴25年。
授業の学習内容	イベントやコンサートにおける舞台監督の業務を把握し、演目内容を進行していく能力を身につける。 実際のイベントを題材に打合せや資料作成を行う。
到達目標	舞台制作スタッフに必要な知識、スキルを身につけることが出来る。イベント現場で必要となる判断能力を向上させる。
評価方法と基準	筆記試験50% 実技試験50%

授業計画・内容

回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	講義	前期講義と舞台制作についての概要説明を行う。	自己紹介内容を事前に準備する。
2	講義	舞台知識①:舞台監督の作業について理解する。	スタッフ赤本を読んで舞台監督業務に関する復習レポートを作成。
3	講義	舞台知識②:公演内容資料を理解する。	スタッフ赤本を読んで公演内容資料に関する復習レポートを作成。
4	講義	舞台知識③:図面が理解できるようになる。	スタッフ赤本を読んで舞台図面に関する復習レポートを作成。
5	講義	学園祭準備を通して制作を学ぶ。	学園祭の打合せに参加し、資料を作成する。
6	講義	学園祭反省会と引き継ぎ作業を行う。	学園祭時に使用した資料をまとめる。
7	講義	舞台知識④:各スタッフとの共有作業ができるようになる。	舞台スタッフとの共有作業について復習レポートを作成。
8	講義	高所・仮設作業について理解する。	高所・仮設作業について復習レポートを作成。
9	講義	知識応用①:墨出しを学ぶ。	墨出しについて復習レポートを作成。
10	講義	知識応用②:タッパ決めについて学ぶ。	タッパ決めについて復習レポートを作成。
11	講義	知識応用③:リハーサル進行について学ぶ。	リハーサル進行について復習レポートを作成。
12	講義	明日への扉の舞台演出部として参加。ミュージカル舞台の仕込み、進行、転換等を実践的に学ぶ。	打合せ、稽古立会い、資料の作成。
13	講義	明日への扉の舞台演出部として参加。ミュージカル舞台の仕込み、進行、転換等を実践的に学ぶ。	撤収作業から現状復帰までを行なう。
14	講義	知識応用④:公演進行の方法について学ぶ。	公演進行について復習レポートを作成。
15	試験	復習試験	前期まとめの復習レポートを作成。
準備学習　時間外学習		授業内容の復習レポートを作成し、学園祭や明日への扉の打合せ、資料作成を行う。	

【使用教科書・教材・参考書】

スタッフ赤本

科目名	舞台制作概論2	必修選択	選択	年次	1	担当教員	川原宏幸
学科・コース	音楽テクノロジー科・舞台制作＆ｽﾃｰｼﾞﾃﾞｻﾞｲﾅｰｺｰｽ	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	国内外アーティスト・アイドル・声優等のコンサートやイベントの舞台監督歴25年。						
授業の学習内容	公演内容を把握し、必要な資料作成を行う。Excel・PowerPointを使って資料作成を行う。						
到達目標	公演開催において、計画的に進行するための資料を作成するスキルを身につけることが出来る。						
評価方法と基準	筆記試験50% 実技試験50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	講義	後期講義と舞台制作についての概要説明を行う。	前期授業内容を復習しておく。
2	講義	台本を作成する①:マスター作成ができるようになる。	マスター作成について復習レポートを作成。
3	講義	台本を作成する②:進行内容が書けるようになる。	進行内容を書くことについて復習レポートを作成。
4	講義	台本を作成する③:ト書きについて理解する。	ト書きの理解について復習レポートを作成。
5	講義	オリジナル台本を創ってみる。	オリジナル台本作成の復習レポートを作成。
6	講義	台本を基本に資料を作成する。	台本について復習レポートを作成。
7	講義	台本を印刷製本する。	印刷した台本を読む。
8	講義	We AreTSMの演出内容について考察し、資料を作成する。	We are TSM渋谷の打合せを行う。
9	講義	We AreTSMの舞台監督業務内容を理解する。	We are TSM渋谷の資料を作成する。
10	講義	We AreTSMの舞台監督業務におけるタイムテーブルや図面の作成を行う。	We are TSM渋谷のリハーサルを行う。
11	講義	We AreTSMの演出内容についてあらためて考察し、現状の資料をまとめる。	We are TSM渋谷のリハーサルを行う。
12	講義	We AreTSMの演出内容について照明、PA、映像セクションとの調整を行う。	進級制作展についての資料をまとめる。
13	講義	進級制作展にスタッフとして参加する。	打合せ、ﾘﾊｰｻﾙ立会、資料の作成。
14	講義	卒業進級制作展にスタッフとして参加する。	打合せ、ﾘﾊｰｻﾙ立会、資料の作成。
15	試験	復習試験を実施する。	後期まとめの復習レポートを作成。
準備学習　時間外学習		授業内容の復習レポートを作成し、学園祭や明日への扉の打合せ、資料作成を行う。	

【使用教科書・教材・参考書】

スタッフ赤本

科目名	Vecter Works Basic1	必修選択	選択	年次	1	担当教員	川原宏幸
学科・コース	音楽テクノロジー科・舞台制作コース	授業形態	講義	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	国内外アーティスト・アイドル・声優等のコンサートやイベントの舞台監督歴25年。						
授業の学習内容	図面製作ソフトベクターワークスの基本的な使い方を学び、実践で扱える技術を身につける。						
到達目標	ベクターワークスを使い、図形作成の知識、スキルをを習得する。						
評価方法と基準	知識を測るレポート提出　50% 実技試験 50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	講義	前期授業についての概要説明、MACの基本操作を学ぶ。	基本的なPC操作の復習レポートを作成。
2	講義	ベクターワークスに慣れる①	授業内容の復習レポートを作成。
3	講義	ベクターワークスに慣れる②	授業内容の復習レポートを作成。
4	講義	直線・曲線を自由に描く	直線、曲線を描く復習レポートを作成。
5	講義	多角線を描く	多角線を描く復習レポートを作成。
6	講義	図形を描く	図形を描く復習レポートを作成。
7	講義	線と図形を組み合わせて描く	図形を描く復習レポートを作成。
8	講義	縮尺を理解し、慣れて使う①	授業内容の復習レポートを作成。
9	講義	縮尺を理解し、慣れて使う②	授業内容の復習レポートを作成。
10	講義	劇場図面を理解する①	様々な劇場の図面を調べてみる。
11	講義	劇場図面を理解する②	様々な劇場の図面を調べてみる。
12	講義	明日への扉の舞台演出部として参加。ミュージカル舞台の図面を作成する。	明日への扉の図面作成と資料の整理
13	講義	明日への扉の舞台演出部として参加。ミュージカル舞台の図面を作成する。	明日への扉の図面作成と資料の整理
14	講義	簡易図面を作成する	授業内容の復習レポートを作成。
15	講義	前期まとめ　復習テスト	前期まとめの復習レポートを作成。
準備学習　時間外学習		授業内容の復習レポートを作成し、資料のまとめ、整理をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

ベクターワークス トレーニングブックより抜粋

科目名	Vecter Works Basic2	必修選択	選択	年次	1	担当教員	川原宏幸
学科・コース	音楽テクノロジー科・舞台制作コース	授業形態	講義	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	国内外アーティスト・アイドル・声優等のコンサートやイベントの舞台監督歴25年。						
授業の学習内容	図面製作ソフトベクターワークスの基本的な使い方を学び、実践で扱える技術を身につける。						
到達目標	ベクターワークスを使い、図形作成・照明仕込み図作成の知識、スキルを習得する。						
評価方法と基準	知識を測るレポート提出　50% 実技試験 50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	講義	前期授業内容のふりかえり	前期授業内容の復習をしておく。
2	講義	袖幕配置、照明仕込み図のシンボル登録方法を学ぶ。	袖幕、シンボル登録の復習レポートを作成。
3	講義	舞台セット図と照明サス仕込み図が作成できるようになる。	セット図、サス仕込み図の復習レポートを作成。
4	講義	舞台セット図と照明サス仕込み図が作成できるようになる。	セット図、サス仕込み図の復習レポートを作成。
5	講義	舞台総合図と照明サス仕込み図が作成できるようになる。	セット図、サス仕込み図の復習レポートを作成。
6	講義	舞台図面の色つけと照明仕込み図の作成方法を学ぶ。	色付け、仕込み図の復習レポートを作成。
7	講義	舞台図面のオリジナル図作成と照明仕込み図の作成方法を学ぶ。	オリジナル図の課題提出、仕込み図復習レポートを作成。
8	講義	舞台のデザイン図と照明仕込み図の作成方法を学ぶ。	デザイン図の課題提出、仕込み図復習レポートを作成。
9	講義	卒業進級制作展演目別図面を作成する。	卒業進級制作展の内容を調べておく。
10	講義	卒業進級制作展演目別図面を作成する。	卒業進級制作展の内容を調べておく。
11	講義	卒業進級制作展演目別図面を作成する。	卒業進級制作展内容変更修正の把握。
12	講義	卒業進級制作展演目別図面を作成する。	卒業進級制作展内容変更修正の把握。
13	講義	作成した図面を活かし、進級制作展の舞台、照明を仕込む。	進級制作展の図面作成と資料の整理
14	講義	作成した図面を活かし、卒業進級制作展の舞台、照明を仕込む。	卒業進級制作展の図面作成と資料の整理
15	講義	年度末課題復習試験	後期授業の復習レポートを作成。
準備学習　時間外学習		授業内容の復習レポートを作成し、卒業進級制作展の準備を行う。	

【使用教科書・教材・参考書】

ベクターワークス トレーニングブックより抜粋・実公演図面

科目名	Inst Ensemble 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	宇田　大志 遠藤　敬三 三井所　弘章 織原　洋子
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ギターテクニックコース、ベーステクニックコース、ドラムテクニックコース、キーボードテクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	60 4		
教員の略歴							
授業の学習内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	Inst Ensembleの特徴を理解し実践する。	Inst Ensembleの特徴を理解し実演する
2		演習	Inst Ensembleの特徴を理解しアンサンブルで実践する。	Inst Ensembleの特徴を理解し実演する
3		演習	ネオアコースティックを用いて表現する。	ネオアコースティックを理解し実演する
4		演習	ネオアコースティックのアンサンブルを実践できる。	ネオアコースティックを理解し実演する
5		演習	90年代POPSを用いてアレンジを研究し実践できる。	90年代POPSを理解し実演する
6		演習	90年代POPSを用いてアンサンブルを学び実践できる。	90年代POPSを理解し実演する
7		演習	80年代ロックを用いてアレンジを研究し実践できる。	80年代ロックを理解し実演する
8		演習	80年代ロックを用いてアンサンブルを学び実践できる。	80年代ロックを理解し実演する
9		演習	70年代ロックを用いてアレンジを研究し実践できる。	70年代ロックを理解し実演する
10		演習	70年代ロックを用いてアンサンブルを学び実践できる。	70年代ロックを理解し実演する
11		演習	70年代のアレンジの特徴を学び実践できる。	70年代のアレンジの特徴を理解し実演する
12		演習	80年代のアレンジの特徴を学び実践できる。	80年代のアレンジの特徴を理解し実演する
13		演習	シャッフルビートの楽曲を演奏する。	シャッフルビートの楽曲を理解し実演する
14		演習	シャッフルビートの楽曲でソロをとる。	シャッフルビートの楽曲でソロを理解し実演する
15		演習	実技テスト及び前期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Inst Ensemble 2	必修選択	選択	年次	1	担当教員	宇田　大志 遠藤　敬三 三井所　弘章 織原　洋子
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ギターテクニックコース、ベーステクニックコース、ドラムテクニックコース、キーボードテクニックコース　1年	授業形態	演習	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴							
授業の学習内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	FUNKの名曲を分析し説明ができる。	FUNKの名曲を調べて分析しレポート作成
2		演習	FUNKの名曲を分析し演奏する。	FUNKの名曲を分析し演奏する。
3		演習	R&Bの名曲を分析し説明と演奏ができる。	R&Bの名曲を分析し実演する。
4		演習	R&Bの名曲を分析しアンサンブルで実演する。	R&Bの名曲を分析し実演する。
5		演習	エレクトリック楽器とのコラボを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのコラボを分析し実演する。
6		演習	エレクトリック楽器とのアンサンブルを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのアンサンブルを分析し実演する。
7		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
8		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
9		演習	バラードを分析し演奏できる。	バラードを分析し実演する。
10		演習	バラードをアンサンブルで演奏できる。	バラードをアンサンブルを分析し実演する。
11		演習	ヒット曲の特徴を理解しながら演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
12		演習	ヒット曲の特徴を理解しながらアンサンブル演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
13		演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を分析し実演する。
14		演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを分析し実演する。
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression A-1 （Vocal Training 1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	崔　可暎 橋元　美沙 齊藤　早春
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ヴォーカル＆ダンスコース、バークリー留学コース、ザコレクティブスクールオブミュージック留学コース、K-POPアーティストコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	ヴォーカリストで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではヴォーカリスにおける応用とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なヴォーカリストの基礎と活用方法を習得し実践できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを実践できる	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを動画チェック
2		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェックする
3		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェック
4		演習	メロディーC～Gまでを歌い実践できる。	メロディーC～Gまでを動画チェックする
5		演習	歌唱→4分音符のメロディーC ～Gまでを歌い実践できる。	歌唱→4分音符のメロディーC ～Gまでを歌い動画チェックする
6		演習	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
7		演習	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
8		演習	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
9		演習	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
10		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
11		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
12		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
13		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする
14		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする□
15		演習	試験と復習	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
準備学習　時間外学習			ヴォーカルに必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression A-1 （Gt hamonic concept 1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	小南　数 麿
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ギターテクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴	様々なアーティストのコンサートギタリストとして活躍中						
授業の学習内容	ギターを演奏する上での基礎を勉強する。 メロディックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル特有のスタイルについても学ぶ。ギター歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。						
到達目標	理論、実技の基礎的なものを習得する。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	基礎練習とギターアンプの使用法について理解する	基礎練習とギターアンプの使用法についてレポートをまとめる
2		演習	基本のローコードとコードネームを説明できる	基本のローコードとコードネームを分析し実演する
3		演習	G-Cで Rock'n Roll, Bluesを演奏できる	G-Cで Rock'n Roll, Bluesを分析し演奏する
4		演習	CAGEDシステムを理解する	CAGEDシステムについてレポートをまとめる
5		演習	ペンタトニック、リフを演奏できる	ペンタトニック、リフを分析し演奏する
6		演習	Bluesについて理解し、ペンタトニックを利用したフレーズが弾ける	Bluesについて理解し、ペンタトニックを利用したフレーズを分析し演奏する
7		演習	Bluesについて理解し、ペンタトニックを利用したソロが弾ける	Bluesについて理解し、ペンタトニックを利用したソロを分析し演奏する
8		講義	メジャースケールとダイアトニックコードについて理解する	メジャースケールとダイアトニックコードについてレポートをまとめる
9		講義	メジャースケールとダイアトニックコードを演奏できる	メジャースケールとダイアトニックコードをを分析し演奏する
10		講義	マイナースケールを理解する	マイナースケールについてレポートをまとめる
11		演習	Bossa NovaでDm7-G7 を演奏できる	Bossa NovaでDm7-G7 を分析し演奏する
12		演習	Bossa NovaでDm7-G7 を演奏し、ソロを弾ける	Bossa NovaでDm7-G7 のソロを分析し演奏する
13		演習	Cross Picking でEm Riffを演奏できる	Cross Picking でEm Riffを分析し演奏する
14		講義	スライドバーを使って演奏できる	スライドバーを使った奏法を分析し演奏する
15		講義	学期末テストの実施及び前期の重要ポイントを復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression A-1 （Ba bassline concept 1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	小川　真司
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ベーステクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴	ベーシストとして様々なアーティストをサポート。						
授業の学習内容	将来的に豊かで独創的なベースラインを生み出せるように、コードやスケールなどの音楽理論を確実に耳と指板で理解し演奏できるようになるための講義実習を行う。						
到達目標	1、指板の構造とフレット上の音名を全て把握出来るようになること。 2、メジャースケールの構造を理解し、全てのキーで演奏出来るようになること。 3、コードの概念を理解し、構成音を把握しながら演奏出来るようになること。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義・演習	右手左手のフォームを確認し、スムーズで正しいフォームの演奏法を習得する。	現在の自分フォームとベースラインコンセプト教科書にて記載されてる正しいフォームとの違いを理解する
2		講義・演習	譜面上の音楽記号、指板上全ポジションの音名の理解を深める。	全ポジションの音名を理解し演奏できるようにする
3		講義・演習	コードネームとコード進行について理解を深めルートのみで演奏する	コード進行のパターンを調べ音楽記号を使って採譜する 。
4		講義・演習	弦の移動幅によっての度数や音程について、メジャースケールの構造について理解し、演奏出来る	ベースラインコンセプト教科書にて書かれている 8音階（C.D.E.F.G.A.B)でメジャースケールの演奏できるようにする
5		講義・演習	#keyのメジャースケールとその指板上の位置を把握し、演奏出来る。	全ての#key(C#.D#.F#.G#.A#)のメジャースケールを弾けるようにする
6		講義・演習	♭keyのメジャースケールとその指板上の位置を把握し、演奏出来る。	ての♭key(D♭.E♭.G♭.A♭.B♭)のメジャースケールを弾けるようにす
7		講義・演習	弾き始めの場所の重要性と各フレーズに対しての運指の理解する。	メジャースケールをメトロノーム BPM60～120ま8分音符練習。
8		講義・演習	全てのメジャースケールが弾けるか、また配布した譜面の音楽記号を間違えずにルートだけで弾ききることができるかの演習する。	12音階全てのメジャースケールを弾けるようにする
9		講義・演習	メジャー、マイナーペンタトニックスケールについての理論的解釈する。	ベースラインコンセプト教科書に記載してある メジャーペンタトニックスケールを演奏できるようにする
10		講義・演習	メジャー、マイナーペンタトニックスケールの5つのポジションを理解しフレーズを演奏出来るようになる	配布した資料のコード進行に対してメジャーペンタトニック スケールのベースラインを作成する
11		講義・演習	コードトライアドの構成音とメジャーキーのダイアトニックトライアドを理解し、演奏出来るようにする	Cダイアトニックトライアドを全て弾けるように復習 構成音を理解すること
12		講義・演習	セブンスコードの構成音とメジャーキーのダイアトニック7セブンスコードを理解し、演奏出来るようにする	全てのキーのダイアトニックセブンスコードを 演奏できるようにする
13		講義・演習	ナチュラルマイナースケールとメジャースケールの違いを理解する。 Cナチュラルマイナースケールを演奏できるようになる	全keyのナチュラルマイナースケールを 演奏できるよにする
14		講義・演習	ナチュラルマイナースケールの構造を理解し、フレーズを作成する。	配布した資料のコード進行に対してマイナーペンタトニック スケールのベースラインを作成する
15		講義・演習	全てのキーのナチュラルマイナー演奏できる。	12音階全てのナチュラルマイナーの復習
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression A-1 （Dr control Theory 1）	必修選択	選択	年次	1	担当教員	星山 哲也
学科・コース	パフォーミングアーツ科 ドラムテクニックコース 1年	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	様々なアーティストのコンサートドラマーとして活躍中						
授業の学習内容	①ルーディメンツをドラマーとして必要なスティックコントロールを身につける。 ②ドラムを演奏する全ての科目でのテクニックの上達。 ③ドラムを演奏するにあたり音色、ダイナミクス等を無意識にコントロール出来るようになって欲しい。						
到達目標	それぞれのエクササイズを丁寧に練習し無駄のないスティックコントロールを身につけることで 本来の太鼓の音色を表現することや演奏したい音符の長さを演奏できることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	グリップ&フォーム、フィンガーコントロールを利用して	グリップ&フォーム、フィンガーコントロールの復習
2		演習	フットワークを利用して演奏できる	フットワークを利用して実演してみる。
3		演習	アクセレーションコントロール16分音符、3種類ができ	アクセレーションコントロール16分音符、3種類の復習
4		演習	アクセレーションコントロール3連符、2種類ができる	アクセレーションコントロール3連符、2種類の復習
5		演習	ダブルストロークロールができる	ダブルストロークロールの復習
6		演習	5.7.9.11.13ストロークロールができる	5.7.9.11.13ストロークロールの復習
7		演習	バズ、バズ5、バズ7ができる	バズ、バズ5、バズ7の復習
8		演習	シングルパラディドルができる	シングルパラディドルの復習
9		演習	ダブルパラディドル、トリプルパラディドルができる	ダブルパラディドル、トリプルパラディドルの復習
10		演習	フラム、フラムアクセント16分&3連符を演奏できる	フラム、フラムアクセント16分&3連符の復習
11		演習	フラムパラディドルができる	フラムパラディドルの復習
12		演習	フラムタップ、ラタマキューができる	フラムタップ、ラタマキューの復習
13		演習	前期に学んだ奏法をもとに自身でドラムフレーズを組み立てることができる	前期に学んだ奏法をもとに自身でドラムフレーズの復習
14		演習	前期に学んだ奏法をもとに自身でドラムフレーズを組み立てる	前期に学んだ奏法をもとに自身でドラムフレーズの復習
15		演習	前期に学んだ奏法をもとに自身でドラムフレーズを組み立てる	前期に学んだ奏法をもとに自身でドラムフレーズの復習
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression A-1 （Key plaing technic 1）	必修選択	選択	年次	1	担当教員	宇田　隆志
学科・コース	パフォーミングアーツ科　キーボードテクニックコース　1年	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	声優歌手鈴村健一、小野大輔、伊藤かな恵、入野自由etc等アーティストのライブツアー、ライブアレンジ、またRECに参加。						
授業の学習内容	・シンセサイザーを使用したサウンドメイク。 ・各音色に合わせた演奏法とフレーズメイキング。 ・譜面上に記載しているコードから演奏を広げるアレンジ方法。 ・1週目を講習、2週目を演習という授業の流れをルーティーンとする。						
到達目標	・キーボード、シンセサイザーの特性と理解。 ・様々な音色を用いて、其々の音色を活かす演奏法の習得。 ・バンド形態、弾き語りのサポート等、あらゆる演奏形態に対応出来る奏法の習得。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講習、演習	教室内使用機材の説明。結線の説明。 ピアノ音色を使用する3コードブルース。 定番のバッキングフレーズとソロ。	Key=Aでバッキングパターンとソロを練習。
2		演習	ピアノ音色を使用する3コードブルース。 定番のバッキングフレーズとソロ。	授業内で学んだ内容の反復練習。ワークシート。
3		講習、演習	オルガンを使用する16系Funk。バッキングパターンとソロ。	Key=Eでバッキングパターンとソロの練習。ワークシート。
4		演習	オルガンを使用する16系Funk。バッキングパターンとソロ。	授業内で学んだ内容の反復練習。ワークシート。
5		講習、演習	Key=Gで1-6m-2m-5、6／8のバラード。 FM系エレピ音色を使用してバッキングパターンとソロ。	左記項目の練習。ワークシート。
6		演習	Key=Gで1-6m-2m-5、6／8のバラード。 FM系エレピ音色を使用してバッキングパターンとソロ。	授業内で学んだ内容の反復練習。ワークシート。
7		テスト	当方の作成したテスト内容を元に中間テストとして実技試験。	1～6週で学んだ内容から苦手とする項目を自主練習。ワークシート。
8		講習、演習	Key=Dで1-4-3m-6 2m-3m-4-5進行。 Rhodes系エレピを使用したボサノヴァ。バッキングパターンとソロ。	ワークシート、左記項目の練習。
9		演習	Key=Dで1-4-3m-6 2m-3m-4-5進行。 Rhodes系エレピを使用したボサノヴァ。バッキングパターンとソロ。	授業内で学んだ内容の反復練習。ワークシート。
10		講習、演習	Key=G(Em)で6m-2進行。クラヴィ音色を使用したSlow Funk。 バッキングパターンとソロ。	左記項目の練習。ワークシート。
11		演習	m)で6m-2進行。クラヴィ音色を使用したSlow Funk。バッキングパター	授業内で学んだ内容の反復練習。ワークシート。
12		講習、演習	ey=Cで1-5-b7-4 レゲエ。オルガンを使用したバッキングパターンとソロ	左記項目の練習。ワークシート。
13		演習	ey=Cで1-5-b7-4 レゲエ。オルガンを使用したバッキングパターンとソロ	授業内で学んだ内容の反復練習。ワークシート。
14		演習	当方の作成したテスト内容を元に実技試験。	前期学んだ内容から苦手とする項目を自主練習。ワークシート。
15		講習、演習	前期の重要ポイントと復習	前期学んだ内容から苦手とする項目を自主練習。ワークシート。
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression A-2 （Vocal Training 2）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	崔　可暎 橋元　美沙 齊藤　早春
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ヴォーカル＆ダンスコース、バークリー留学コース、ザコレクティブスクールオブミュージック留学コース、K-POPアーティストコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	ヴォーカリストで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではヴォーカリスにおける応用とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なヴォーカリストの基礎と活用方法を習得し実践できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを実践できる。	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを動画チェック
2		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェックする
3		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェック
4		演習	メロディーC～Gまでを歌い実践できる。	メロディーC～Gまでを動画チェックする
5		演習	歌唱→4分音符のメロディーC ～Gまでを歌い実践できる。	歌唱→4分音符のメロディーC ～Gまでを歌い動画チェックする
6		演習	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
7		演習	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。　。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
8		演習	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
9		演習	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
10		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
11		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
12		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
13		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする
14		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする
15		演習	試験と復習	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
準備学習　時間外学習			ヴォーカルに必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression A-2 （Gt hamonic concept 2）	必修選択	選択	年次	1	担当教員	小南　数麿
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ギターテクニックコース　1年	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	様々なアーティストのコンサートギタリストとして活躍中						
授業の学習内容	ギターを演奏する上での基礎を勉強する。 メロディックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル特有のスタイルについても学ぶ。ギター歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。						
到達目標	理論、実技の基礎的なものを習得する。 ギターを演奏する際に音を変更したり、アンサンブル上でなじむ音階を選択することを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	シールドなど機材を復習する。	シールドなど機材を確認する。
2		演習	コードの展開を理解し演奏する。	コードの展開を研究し実演する。
3		演習	Rock'n Roll, Bluesを理解し演奏す	-C, Rock'n Roll, Bluesし実演する
4		演習	CAGEDシステムを理解し演奏する。	CAGEDシステムを理解復習する。
5		演習	タトニック、オブリガートを理解し演奏す	ンタトニック、オブリガートを復習する
6		演習	Bluesを理解し演奏する。	Bluesを復習する。
7		講義	ャー、マイナー以外のスケール1を理解し演奏す	ジャー、マイナー以外のスケール1を復習する
8		講義	ャー、マイナー以外のスケール2を理解し演奏す	ジャー、マイナー以外のスケール2を復習する
9		講義	ソロの構成を理解し演奏する。	ソロの構成を復習する。
10		演習	各ジャンルを理解し演奏する。	各ジャンルでのバッキングを復習する。
11		演習	各ジャンルでのriffを理解し演奏する。	各ジャンルでのriffを復習する。
12		演習	ーニングを変えての演奏を理解し演奏	ューニングを変えての演奏を復習する
13		講義	エフェクター紹介1を理解し演奏する。	エフェクター紹介1を復習する。
14		講義	エフェクター紹介2を理解し演奏する。	エフェクター紹介2を復習する。
15		演習	後期の重要ポイントと復習	後期の重要ポイントと復習を復習する。
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression A-2 （Ba bassline concept 2）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	小川　真司
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ベーステクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴	ベーシストとして様々なアーティストをサポート。						
授業の学習内容	将来的に豊かで独創的なベースラインを生み出せるように、コードやスケールなどの音楽理論を確実に耳と指板で理解し演奏できるようになるための講義実習を行う。						
到達目標	1、メジャースケール、マイナースケールとそのダイアトニックコードの構造を理解し、全てのキーで演奏出来るようになること。 2、ブルースのハーモニーとそのコード進行、フレージングを理解し、演奏出来るようになること。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義・演習	マイナーキーのダイアトニックコードトライアドについて理解。	マイナーセブンスのダイアトニックを自身で調べる
2		講義・演習	ブルーノートスケールの構造を理解し、そのフレージングを演奏出来る	ペンタトニックとブルーノートスケールの関係性を調べ 演奏できるようにする
3		講義・演習	ペンタトニックスケールとブルーノートの関係性について	コードトーンに対してのベースラインを考え、譜面に起こしてくる
4		講義・演習	様々なブルースのコード進行を理解し、演奏出来る。	ブルースのコード進行にブルーノートスケール ペンタトニックスケールでベースラインを作成する
5		講義・演習	メジャー、ナチュラルマイナー、ペンタトニック、 ブルーノートスケールのおさらい	試験に向けて課題曲の練習
6		試験	課題曲に合わせメジャー、ナチュラルマイナー、ペンタトニック、ブルーノートスケールを使ってベースラインを作成	12音階全てのメジャー・マイナーキーに 対応できるようにする
7		講義・演習	メジャーキーのモードスケールを理解し、全てのキーで演奏出来る。	リディアンスケール、ミクソリディアンスケール理論的解釈を深める 各スケールに1つずつフレーズ作成
8		講義・演習	メジャーキーのコード進行に対して、アルペジオとモードスケールを設定し、演奏出来る。	課題曲にコードトーンのみでベースラインを作成しメジャーモードスケールとの関係性を理解。
9		講義・演習	分数コードの成り立ちを理解分数コードの機能を把握	分数コードが入ってないコード進行を実際に分数コードにしてみるて 自分なりにアレンジを加えて採譜して講師に提出
10		講義・演習	ベースラインの成り立ちとアプローチノートについて理解し、 演奏出来る。	アプローチノートとモードスケールの関係性の理解を深める
11		講義・演習	クロマチックアプローチとその分析について理解し、実践できる。	コード進行に対してのベースラインとクロマチックの 関係性の理解を深める
12		講義・演習	マイナーキーのモードスケールを理解し、演奏出来る。	ドリアン、フリジアン、ロクリアンスケールの理論的解釈を深める 各スケールに1つずつフレーズ作成
13		講義・演習	マイナーキーのコード進行にアルペジオとスケールを設定し、 演奏出来る。	課題曲にコードトーンのみでベースラインを作成しマイナーモードスケールとの関係性を理解。
14		講義・演習	メジャー・マイナーモードスケール、クロマチックスケール、 アプローチノートのおさらい	試験に向けて課題曲の練習
15		講義・演習	課題曲に合わせメジャー・マイナーモードスケール、クロマチックスケール アプローチノートを使ってベースラインを作成	12音階全てのメジャー・マイナーモードスケールを弾けるようにする
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression A-2 （Dr control Theory 2）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	星山　哲也
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ドラムテクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴	様々なアーティストのコンサートドラマーとして活躍中						
授業の学習内容	①ルーディメンツを通してドラマーとして必要なスティックコントロールを身につける。連符感をやしない楽曲やソロでの自由度を身につける。 ②ドラムを演奏する全ての科目でのテクニックの上達。 ③ドラムを演奏するにあたり音色、ダイナミクス等を無意識にコントロール出来るようになって欲しい。楽曲の中での自由度を広げて欲しい。						
到達目標	それぞれのエクササイズを丁寧に練習し無駄のないスティックコントロールと連符感を身につける。 ドラムの音色のコントロールをすると共に全体のバランスを考えた演奏をすることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	演習・ラフ、4.5ストロークラフができる。	演習・ラフ、4.5ストロークラフを復習。
2		演習	演習・ドラッグ、シングルドラッグ、ダブルドラッグがで	演習・ドラッグ、シングルドラッグ、ダブルドラッグを復
3		演習	演習・ドラッグパラディドルNo.1.2①ができる。	演習・ドラッグパラディドルNo.1.2①を復習。
4		演習	演習・ドラッグパラディドルNo.1.2②ができる。	演習・ドラッグパラディドルNo.1.2②を復習。
5		演習	演習・ラタマキュー、シングルラタマキュー、ダブルラ	演習・ラタマキュー、シングルラタマキュー、ダブルラ
6		演習	演習・ルーディメンツ小テストができる。	演習・ルーディメンツ小テストを復習。
7		演習	演習・チェンジアップができる。	演習・チェンジアップを復習。
8		演習	演習・2拍3連、カウント、コンビネーションができる。	演習・2拍3連、カウント、コンビネーションを復習。
9		演習	演習・4拍3連、カウント、コンビネーションができる。	演習・4拍3連、カウント、コンビネーションを復習。
10		演習	演習・3拍4連、カウント、コンビネーションができる。	演習・3拍4連、カウント、コンビネーションを復習。
11		演習	演習・3拍4連on4/4ができる。	演習・3拍4連on4/4を復習。
12		演習	演習・3拍4連on4/4ができる。	演習・3拍4連on4/4を復習。
13		演習	演習・3拍4連on4/4ができる。	演習・3拍4連on4/4を復習。
14		講義	演習・ルーディメンツ小テストができる。	演習・ルーディメンツ小テストを復習。
15		演習	演習・ドラッグパラディドルNo.1.2②ができる。	演習・ドラッグパラディドルNo.1.2②を復習。
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression A-2 （Key plaing technic 2）	必修選択	選択	年次	1	担当教員	宇田 隆志
学科・コース	パフォーミングアーツ科　キーボードテクニックコース　1年	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	声優歌手鈴村健一、小野大輔、伊藤かな恵、入野自由etc等アーティストのライブツアー、ライブアレンジ、またRECに参加。						
授業の学習内容	・シンセサイザーを使用したサウンドメイク。 ・各音色に合わせた演奏法とフレーズメイキング。 ・譜面上に記載しているコードから演奏を広げるアレンジ方法。 ・1週目を講習、2週目を演習という授業の流れをルーティーンとする。						
到達目標	・キーボード、シンセサイザーの特性と理解。 ・様々な音色を用いて、其々の音色を活かす演奏法の習得。 ・バンド形態、弾き語りのサポート等、あらゆる演奏形態に対応出来る奏法の習得。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	シンセサイザーの波形の説明。サイン波またはスクエア波の音色を使ってフレーズメイキング。Key=G、4-5-3m-6進行の中で、仮想楽曲イントロ部としてフレーズを作る。	左記フレーズを数パターン作成する。
2		演習	スクエア波の音色を使って、Key=G、4-5-3m-6進行の中で、仮想楽曲イントロ部としてフレーズを作る。	授業内で学んだ内容の反復練習。
3		演習	ノコギリ波の音色を使ってフレーズメイキング。Key=Bb 6m—2進行、仮想楽曲8Beatでソロ。	左記フレーズを数パターン作成する。
4		演習	ノコギリ波の音色を使ってフレーズメイキング。Key=Bb 6m—2進行、仮想楽曲8Beatでソロ。	授業内で学んだ内容の反復練習。
5		演習	シンセベースのグルーヴ。シンセベースの代表的な楽曲から幾つかのベースパターンを抜粋し、演奏を試みる。	左記フレーズの練習。
6		演習	シンセベースのグルーヴ。シンセベースの代表的な楽曲から幾つかのベースパターンを抜粋し、演奏を試みる。	授業内で学んだ内容の反復練習。
7		演習	当方の作成したテスト内容を元に中間テストとして実技試験。	1～6週で学んだ内容から苦手とする項目を自主練習。ワークシート。
8		演習	シンセブラスによるコードバッキング。	左記フレーズの練習。
9		演習	シンセブラスの代表的な楽曲から幾つかのバッキングパターンを抜粋し、演奏を試みる。	授業内で学んだ内容の反復練習。
10		演習	弾き語り楽曲、ピアノ音色での演奏とコードアレンジ。洋楽バラード楽曲を選定し、独自に対象曲のピアノ・アレンジに取り組む。	左記楽曲の演奏パターンを作成する。
11		演習	弾き語り楽曲、ピアノ音色での演奏とコードアレンジ。洋楽バラード楽曲を選定し、独自に対象曲のピアノ・アレンジに取り組む。	授業内で学んだ内容の反復練習。
12		演習	弾き語り楽曲、Rhodes系エレピ音色での演奏とコードアレンジ。洋楽バラード楽曲を選定し、独自に対象曲のピアノ・アレンジに取り組む。	左記楽曲の演奏パターンを作成する。
13		演習	弾き語り楽曲、Rhodes系エレピ音色での演奏とコードアレンジ。洋楽バラード楽曲を選定し、独自に対象曲のピアノ・アレンジに取り組む。	授業内で学んだ内容の反復練習。
14		講義	当方の作成したテスト内容を元に実技試験。	後期学んだ内容から苦手とする項目を自主練習。
15		演習	後期の重要ポイントと復習	後期学んだ内容から苦手とする項目を自主練習。
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression B-1 （Vocal Leading 1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	河田　麻希
学科・ｺｰｽ	パフォーミングアーツ科　ヴォーカル＆ダンスコース、K-POPアーティストコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	拍子記号、4分音符・4分休符、音符と休符の分割を理解し説明ができる。	拍子記号、4分音符・4分休符、音符と休符の分割復習レポート作成
2		講義	メジャースケール(1)。　4分音符、4分休符を理解し説明ができる。	メジャースケール(1)。　4分音符、4分休符復習レポート作成
3		講義	メジャースケール(2)。　4分音符、4分休符、2分音符、2分休符を理解し説明ができる。	メジャースケール(2)。　4分音符、4分休符、2分音符、2分休符を復習レポート作成
4		講義	Cメジャースケールに内在する音程を理解し説明ができる。	Cメジャースケールに内在する音程を復習レポート作成
5		講義	Cメジャートライアードを理解し説明ができる。。	Cメジャートライアードを復習レポート作成
6		講義	Cメジャーペンタトニックスケールを理解し説明ができる。	Cメジャーペンタトニックスケールを復習レポート作成
7		講義	ベースパート（ベースライン）を理解し説明ができる。	ベースパート（ベースライン）を復習レポート作成
8		講義	中間試験及び中間課題の提出。	中間試験及び中間課題の提出。
9		講義	F メジャースケール(1)　タイとシンコペーションを理解し説明ができる。	F メジャースケール(1)　タイとシンコペーションを理解し説明ができる。
10		講義	3連符(1)を理解し説明ができる。	3連符(1)を復習レポート作成
11		講義	C マイナースケール（旋律的短音階）　3連符(2)．C　短三和音を理解し説明ができる。	C マイナースケール（旋律的短音階）　3連符(2)．C　短三和音を復習レポート作成
12		講義	C マイナースケール（和声的短音階）　8分の6拍子（6拍子として）を理解し説明ができる。。	C マイナースケール（和声的短音階）　8分の6拍子（6拍子として）を復習レポート作成
13		講義	C マイナースケール（自然的短音階）　8分の6拍子（2拍子として）を理解し説明ができる。	C マイナースケール（自然的短音階）　8分の6拍子（2拍子として）を復習レポート作成
14		講義	様々な調、音階、拍子記号の練習。　（種々の）マイナースケール内の音程を理解し説明ができる。	様々な調、音階、拍子記号の練習。　（種々の）マイナースケール内の音程を復習レポート作成
15		講義	期末試験と復習	期末課題に向けて復習レポート作成
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression B-1 （Gt melodic concept 1）	必修選択	選択	年次	1	担当教員	佐藤　敦
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ギターテクニックコース　1年	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	様々なアーティストのコンサートギタリストとして活躍中						
授業の学習内容	ギターを演奏する上での基礎を勉強する。 ハーモニックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル 特有のスタイルについても学ぶ。ギター歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。						
到達目標	理論、実技の基礎的なものを習得する。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	基礎テクニック：ピックアップセレクターの使い方を学ぶ	基礎テクニック：ピックアップセレクターの使い方を復習する。
2		演習	基礎テクニック：フィンガートレーニングができるようになる。	基礎テクニック：フィンガートレーニングを復習する。。
3		演習	基礎テクニック：ベンディングができるようになる。	基礎テクニック：ベンディングを復習する。
4		演習	基礎テクニック：ハンマリングプリングオフができるようになる。	基礎テクニック：ハンマリングプリングオフを復習する。
5		演習	基礎テクニック：トリル奏法ができるようになる。	基礎テクニック：トリル奏法がを復習する。
6		演習	基礎テクニック：レガート奏法ができるようになる。	基礎テクニック：レガート奏法を復習する。
7		演習	フレットの指の運び方ができるようになる。	フレットの指の運び方を復習する。
8		演習	楽譜の読み方ができるようになる。	楽譜の読み方を復習する。
9		演習	コードとは？ができるようになる。	コードとは？を復習する。
10		演習	コードトーン：メジャー編ができるようになる。	コードトーン：メジャー編を復習する。
11		演習	コードトーン：マイナー編ができるようになる。	コードトーン：マイナー編を復習する。
12		演習	インターバルができるようになる。	インターバルがを復習する。
13		演習	メジャースケールができるようになる。	メジャースケールを復習する。
14		演習	マイナースケールができるようになる。	マイナースケールがを復習する。
15		演習	初見演奏してみる	初見演奏を復習する。
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression B-1 （Ba groove analize 1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	遠藤　敬三
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ベーステクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	現代音楽を弾くためのリズムやベースパートの成り立ちが主な内容で、その種類と手法を紹介し、体感することをテーマとする。ビートの感じ方に関する段階的なメニューを消化し、音楽的感性の成長に繋げる。スタンダード・ミディ・ファイルを使用し、授業にて体感させ目標とされる演奏基準に到達するためのトレーニング方、考え方、自己修正などを教授する。						
到達目標	ベースという楽器を通して各音符の長さや、記号、楽譜の読みとり、曲調など音楽表現に関する体感を 積み重ねることにより、リズムと楽器の成り立ちを習得する事を目的とする。 各種トレーニングの消化や自発的研究活動の延長線上に、タイム感と音感の重要性を理解し、扱う楽曲に対する理解力が 上がることで、jazzやrock、POPSなどジャンル毎にフレーズや、ビート、音色などの使いわけができることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	ベースパートの重要性とスタンダード・ミディ・ファイルの取扱方法を説明する。	次の授業では音符の長さ（4分、8分、タイ記号）を取り扱うためのクリックを使用した譜面の音符の長さの練習
2		講義	4分、8分休符とタイとを使用した時の違いを説明する。	次の授業では休符（4分、8分）休符の演奏を扱うため クリックを使用し演奏の中に休符を入れる練習
3		演習	4分、8分休符の体得する。（エクササイズ）	次の授業では音楽記号を使った内容の為スタッカート記号、テヌート記号を読み取れるようにしておく。
4		講義	スタッカート、テヌート記号のグルーヴ的な違いを 説明する。	次の授業ではスタッカートやテヌートを楽譜から読み取り実際の演奏に交える練習をしておく
5		演習	スタッカートやテヌートを使用した時のグルーヴの違いを体得する。（エクササイズ）	スタッカート、テヌート、シンコペーションを見分けられるようにしておく
6		講義	アクセントの意味、シンコペーション記号の意味合いを説明する。	通常の4分、8分の演奏の中にアクセント、シンコペーションを使用し通常の4分8分の演奏との違いを理解する
7		演習	アクセント、シンコペーションを使用した時のグルーヴの違いを体得する。（エクササイズ）	通常のベーシックリズムパターンに音程を加えて 演奏するパターンを理解しておく
8		講義	音程の組み合わせによるリズム的な感じ方の違いを 説明する。	通常のベーシックリズムパターンに音程を交えて演奏した際にリズムがずれないように練習
9		演習	音程の組み合わせによるリズム的な感じ方の違いを体得する。（エクササイズ）	次の授業から8ビートに入るので今まで授業でやってきた内容を確認し、苦手意識がある分野を復習する
10		講義	基本的な8ビートパターンとパターンの作り方を 説明する。	8ビートの理解を深めるために自分が日ごろ弾いている フレーズは何ビートなのか理解する。
11		演習	基本的な8ビートのパターンを体得する。 （エクササイズ）	16ビートの授業に入るので16分音符をクリックに合わせて弾けるように練習
12		講義	基本的な16ビートパターンとパターンの作り方を 説明する。	16ビートの理解を深めるために自分が日ごろ弾いているフレーズは何ビートなのか理解する。
13		演習	基本的な16ビートのパターンを体得する。 （エクササイズ）	前期を通して行った授業の中から長所を伸ばし、短所を 埋められるように練習
14		講義	前期に学んだ音楽記号やリズムを元に自分で 楽譜を作ってみる。	自分が好きなフレーズやパターンを譜面に書く練習
15		演習	14週目に作った楽譜を自分で演奏してみる。	譜面を読解する力を養う。 また譜面を見ながらベースを弾けるようにする練習
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

滋慶出版教科書、Standard Midi File、Standard Midi Player

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression B-1 （Dr groove maiking 1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	奥　出矢
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ドラムテクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴	ドラムテクニック系のクラスを長く担当する。滋慶グループ全校統一テキストも作成している。						
授業の学習内容	現代音楽における基礎的なスタンダードなリズムの抽出とアナライズをテーマとする演習を行う。テキストに沿った各種トレーニングと並行して、アンサンブルに臨む為の基礎や、テンポの捉え方とリズムトレーニング等の内容も積み重ねていく多角的な演習内容になる。						
到達目標	ワールドスタンダードなシンプルなリズムフィールの基礎を習得する事を目的とし、各種トレーニングの消化や自発的研究活動の延長線上にに於いて、タイム感の重要性を理解しグルーヴに対する発見が生まれる事を目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	楽器構造（ドラムセット）と特有な記譜法の理解。8ビートとその歴史的背景を知る	楽器構造（ドラムセット）と特有な記譜法の復習
2		演習	8ビートにおけるキックバリエーションの実践。スネアバックビートに関する理解。	8ビートにおけるキックバリエーションの復習
3		演習	8ビートにおける4Wayトレーニングの実践。メトロノームを使用した練習の紹介。	8ビートにおける4Wayトレーニングの復習
4		演習	ハイハットワークの実践。ドラムの役割（アンサンブルスタンス）を理解する。	ハイハットワークの実践。の復習
5		演習	Aブロックフォーム（片手16）での16ビートの実践。ゴーストモーションに関する考察。	Aブロックフォーム（片手16）での16ビートの復習
6		演習	セットオーケストレーション：移動モーションの理解と実践。フィルインに関する考察。	セットオーケストレーション：移動モーションの理解の復習
7		演習	Bブロックフォーム（両手16）での16ビートの実践。リード感覚に関する考察。	Bブロックフォーム（両手16）での16ビートの復習
8		演習	Bブロックフォームでのグルーヴメイクのチェック；パルスイメージの理解と実践。	Bブロックフォームでのグルーヴメイクの復習
9		演習	Cブロックフォーム（ミックス）での16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察。	Cブロックフォーム（ミックス）での16ビートのの復習
10		演習	Cブロックフォームでのグルーヴメイク；マイナスワン音源を使用したトレーニングの実施	Cブロックフォームでのグルーヴメイク；マイナスワン音源の復習
11		演習	シャッフルビートの習得。リズム構造の理解とフィールの実践。	シャッフルビートの習得の復習
12		演習	トラディショナルスタイルの理解と実践。ハネ方のニュアンスに関する考察。	トラディショナルスタイルの理解と実践の復習
13		演習	3連符に包括されたシャッフルフィールの実践。ゴーストノートのコントロール。	3連符に包括されたシャッフルフィールの実践の復習
14		演習	各ブロックフォームを織り交ぜた応用	各ブロックフォームを織り交ぜた復習
15		演習	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用	8ビート、16ビート、シャッフルビートの復習
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】 滋慶出版オリジナルテキスト「DRUM GROOVE MAKING」

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression B-1 （Key hamonic concept 1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	土屋　剛
学科・コース	パフォーミングアーツ科　キーボードテクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 メロディックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル 特有のスタイルについても学ぶ。キーボード歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。						
到達目標	理論、実技の基礎的なものを習得する。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	礎練習とキーボードの使用法を理解し実演す	基礎練習とキーボードの使用法を復習する。
2		演習	本のコードとコードネームを理解し実演する	基本のコードとコードネームを復習する。
3		演習	G-C, Rock'n Roll, Bluesを理解し実演する。	G-C, Rock'n Roll, Bluesを復習する。
4		演習	ペンタトニック、リフを理解し実演する。	ペンタトニック、リフを復習する。
5		演習	ペンタトニック、リフを理解し実演する。	ペンタトニック、リフを復習する。
6		演習	Bluesを理解し実演する。	Bluesを復習する。
7		講義	ジャースケールとダイアトニックコード1を理解し実演す	メジャースケールとダイアトニックコード1を復習する。
8		講義	ジャースケールとダイアトニックコード2を理解し実演す	メジャースケールとダイアトニックコード2を復習する。
9		講義	マイナースケールを理解し実演する。	マイナースケールを復習する。
10		演習	Bossa Nova Dm7-G7 を理解し実演する。	Bossa Nova Dm7-G7を復習する。
11		演習	Blues　Em riffを理解し実演する。	Blues　Em riffを復習する。
12		演習	いろいろな音色を理解し実演する。	いろいろな音色を復習する。
13		演習	イシングやレンジによる変化を理解し実演す	ヴォイシングやレンジによる変化を復習する。
14		演習	強弱による変化を理解し実演する。	強弱による変化を復習する。
15		講義	前期の重要ポイントと復習	前期の重要ポイントと復習
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression B-2 （Key hamonic concept 2）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	土屋　剛
学科・コース	パフォーミングアーツ科　キーボードテクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 メロディックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル 特有のスタイルについても学ぶ。キーボード歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。 オシレーターなどをうまく使い思い通りのサウンドを作る。						
到達目標	理論、実技の基礎的なものを習得する。 キーボードを演奏する際に音を変更したり、アンサンブル上でなじむ音階を選択することを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	シールドなど機材での音の変化を理解する。	シールドなど機材での音の変化を理解し復習。
2		演習	コードの展開の変化を理解する。	コードの展開を理解し復習。
3		演習	G-C, Rock'n Roll, Bluesの変化を理解する。	G-C, Rock'n Roll, Bluesを理解し復習。
4		演習	オシレーターを2つ以上組み合わせる音色の変化を理解する。	オシレーターを2つ以上組み合わせる音色を理解し復習。
5		演習	ペンタトニック、オブリガートの変化を理解する。	ペンタトニック、オブリガートを理解し復習。
6		演習	Bluesについての変化を理解する。	Bluesについてを理解し復習。
7		講義	メジャー、マイナー以外のスケール1の変化を理解する。	メジャー、マイナー以外のスケール1を理解し復習。
8		講義	メジャー、マイナー以外のスケール2の変化を理解する。	メジャー、マイナー以外のスケール2を理解し復習。
9		講義	ソロの構成の変化を理解する。	ソロの構成を理解し復習。
10		演習	各ジャンルでのバッキングの変化を理解する。	各ジャンルでのバッキングを理解し復習。
11		演習	各ジャンルでのriffの変化を理解する。	各ジャンルでのriffを理解し復習。
12		演習	ピッチベンドを使用したソロの変化を理解する。	ピッチベンドを使用したソロを理解し復習。
13		講義	エフェクト紹介1の変化を理解する。	エフェクト紹介1を理解し復習。
14		講義	エフェクト紹介2の変化を理解する。	エフェクト紹介2を理解し復習。
15		演習	後期の重要ポイントと復習	後期の重要ポイントと復習を理解し復習。
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression C-1 （Vocal Leading 2）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	河田　麻希
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	拍子記号、4分音符・4分休符、音符と休符の分割を理解し説明ができる。	拍子記号、4分音符・4分休符、音符と休符の分割復習レポート作成
2		講義	メジャースケール(1)。　4分音符、4分休符を理解し説明ができる。	メジャースケール(1)。　4分音符、4分休符復習レポート作成
3		講義	メジャースケール(2)。　4分音符、4分休符、2分音符、2分休符を理解し説明ができる。	メジャースケール(2)。　4分音符、4分休符、2分音符、2分休符を復習レポート作成
4		講義	Cメジャースケールに内在する音程を理解し説明ができる。	Cメジャースケールに内在する音程を復習レポート作成
5		講義	Cメジャートライアードを理解し説明ができる。。	Cメジャートライアードを復習レポート作成
6		講義	Cメジャーペンタトニックスケールを理解し説明ができる。	Cメジャーペンタトニックスケールを復習レポート作成
7		講義	ベースパート（ベースライン）を理解し説明ができる。	ベースパート（ベースライン）を復習レポート作成
8		講義	中間試験及び中間課題の提出。	中間試験及び中間課題の提出。
9		講義	F メジャースケール(1)　タイとシンコペーションを理解し説明ができる。	F メジャースケール(1)　タイとシンコペーションを理解し説明ができる。
10		講義	3連符(1)を理解し説明ができる。	3連符(1)を復習レポート作成
11		講義	C マイナースケール（旋律的短音階）　3連符(2)．C　短三和音を理解し説明ができる。	C マイナースケール（旋律的短音階）　3連符(2)．C　短三和音を復習レポート作成
12		講義	C マイナースケール（和声的短音階）　8分の6拍子（6拍子として）を理解し説明ができる。。	C マイナースケール（和声的短音階）　8分の6拍子（6拍子として）を復習レポート作成
13		講義	C マイナースケール（自然的短音階）　8分の6拍子（2拍子として）を理解し説明ができる。	C マイナースケール（自然的短音階）　8分の6拍子（2拍子として）を復習レポート作成
14		講義	様々な調、音階、拍子記号の練習。　（種々の）マイナースケール内の音程を理解し説明ができる。	様々な調、音階、拍子記号の練習。　（種々の）マイナースケール内の音程を復習レポート作成
15		講義	期末試験と復習	期末課題に向けて復習レポート作成
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression C-1 （Gt chordwork 1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	佐藤　敦
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ギターテクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりベーシストだけにではない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	コードアルペジオ：メジャー編を理解し演奏する。	コードアルペジオ：メジャー編を復習する。
2		演習	コードアルペジオ：メジャー編を理解し演奏する。	コードアルペジオ：メジャー編を復習する。
3		演習	コードアルペジオ：マイナー編を理解し演奏する。	コードアルペジオ：マイナー編を復習する。
4		演習	コードネーム理解方を理解し演奏する。	コードネーム理解方を理解し演奏する。
5		演習	キーの概念を理解し演奏する。	キーの概念を復習する。
6		演習	ダイアトニックコードを理解し演奏する。	ダイアトニックコードを復習する。
7		演習	コード進行の解釈を理解し演奏する。	コード進行の解釈を復習する。
8		演習	リズムパターンを理解し演奏する。	リズムパターンを復習する。
9		演習	シャッフルについてを理解し演奏する。	シャッフルについてを復習する。
10		演習	ブルースについてを理解し演奏する。	ブルースについてを復習する。
11		演習	ペンタトニックスケールを理解し演奏する。	ペンタトニックスケールを復習する。
12		演習	ブルーススケールに理解し演奏する。	ブルーススケールを復習する。
13		演習	ブルースセッションを理解し演奏する。	ブルースセッションを復習する。
14		演習	モーダルとコーダルを理解し演奏する。	モーダルとコーダルを復習する。
15		演習	自由演奏を理解し演奏する。	自由演奏を復習する。
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression C-1 （Ba chordwork 1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	遠藤　敬三
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ベーステクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりベーシストだけにではない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	シャッフルビートのリズム的な捉え方とジャンルとの関係について説明する。（エクササイズ）	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
2		演習	トリプレットフィールのリズムの捉え方と楽曲について説明する。 （エクササイズ）	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
3		演習	トリプレットフィールのリズムの捉え方と楽曲について説明する。 （エクササイズ）	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
4		演習	ハマーオンとプルオフの使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを説明する。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
5		演習	ハマーオンとプルオフの使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを体得する。（エクササイズ）	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
6		演習	スライドダウン、スライドアップを使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを説明する。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
7		演習	スライドダウン、アップを使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを体得する。（エクササイズ）	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
8		演習	16ビートにおけるシンコペーションパターンについて説明する。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
9		演習	16ビートにおけるシンコペーションパターンを体得する。（エクササイズ）	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
10		演習	バウンス・ビートのリズム的な捉え方と基本的なパターンを説明する。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
11		演習	バウンス・ビートの基本的なパターンを体得する。（エクササイズ）	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
12		演習	ゴーストノートを使用した時のグルーヴ的な違いを説明する。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
13		演習	ゴーストノートを使用した時のグルーヴ的な違いを体得する。 （エクササイズ）	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
14		演習	前期に学んだ基礎的なビートを使用した上で後期に学んだ 装飾音符や音楽記号を用いて演奏する	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
15		演習	前期に学んだ基礎的なビートを使用した上で後期に学んだ 装飾音符や音楽記号を用いて演奏する	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression C-1 （Percussion 1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	大久保　宙
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ドラムテクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	パーカッションの基礎的なスタンダードなリズムの抽出とアナライズをテーマとする演習を行う。 テンポの捉え方とリズムトレーニング等の内容も積み重ねていく多角的な演習内容になる。						
到達目標	パーカッションの基礎を習得する事を目的とし、各種トレーニングの消化や自発的研究活動の延長線上にに於いて、タイム感の重要性を理解しグルーヴに対する発見が生まれる事を目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	楽器構造と特有な記譜法を理解し実演	楽器構造と特有な記譜法を理解し復習
2		演習	メトロノームを使用したを理解し実演。	メトロノームを使用したを理解し復習
3		演習	カホンの各ビートにおけるバリエーションを理解し実演	カホンの各ビートにおけるバリエーションを理解し復習
4		演習	ティンバレスの各ビートにおけるバリエーションを理解し実演	ティンバレスの各ビートにおけるバリエーションを理解し復習
5		演習	ゴーストモーションに関するを理解し実演	ゴーストモーションに関するを理解し復習
6		演習	フィルインに関する考察を理解し実演	フィルインに関する考察を理解し復習
7		演習	コンガの各ビートにおけるバリエーションを理解し実演	コンガの各ビートにおけるバリエーションを理解し復習
8		演習	その他パーカッション（シェイカーやカウベルなど）の 各ビートにおけるバリエーションを理解し実演	その他パーカッション（シェイカーやカウベルなど）の 各ビートにおけるバリエーションを理解し復習
9		演習	16ビートの実践。リード感覚に関する考察を理解し実演	16ビートの実践。リード感覚に関する考察を理解し復習
10		演習	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察を理解し実演	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察を理解し復習
11		演習	マイナスワン音源を使用したトレーニングの実施を理解し実演	マイナスワン音源を使用したトレーニングの実施を理解し復習
12		演習	リズム構造の理解とフィールの実践を理解し実演	リズム構造の理解とフィールの実践を理解し復習
13		演習	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用を理解し実演	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用を理解し復習
14		試験	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用を理解し実演	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用を理解し復習
15		演習	学期末試験実施と復習	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用を理解し復習
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression C-1 （Key chordwork 1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	土屋　剛
学科・コース	パフォーミングアーツ科　キーボードテクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	Diatonic ScaleとDiatonic Chordとの関係を通して調（キー）の重要性を説明できる。	Diatonic ScaleとDiatonic Chordとの関係をを楽器に置き換えて実践してみる。
2		講義	Diatonic ScaleとDiatonic Chordとの関係を通して調（キー）の重要性を説明できる。	Diatonic ScaleとDiatonic Chordとの関係をを楽器に置き換えて実践してみる。
3		講義	コード進行における主音・下属音・属音コードのそれぞれの働きを説明できる。	コード進行における主音・下属音・属音コードのそれぞれの働きを楽器に置き換えて実践してみる。
4		講義	コード進行における主音・下属音・属音コードのそれぞれの働き説明できる。	コード進行における主音・下属音・属音コードのそれぞれの働きを楽器に置き換えて実践してみる。
5		講義	平行調の仕組みを説明できる。	平行調の仕組みを楽器に置き換えて実践してみる。
6		講義	平行調の仕組みを説明できる。	平行調の仕組みを楽器に置き換えて実践してみる。
7		講義	Available Note Scaleを説明できる。	Available Note Scaleを楽器に置き換えて実践してみる。
8		講義	Available Note Scaleを説明できる。	Available Note Scaleを楽器に置き換えて実践してみる。
9		講義	Major Pentatonic Scaleの仕組みを説明できる。	Major Pentatonic Scaleの仕組みを楽器に置き換えて実践してみる。
10		講義	Major Pentatonic Scaleの仕組みを説明できる。	Major Pentatonic Scaleの仕組みを楽器に置き換えて実践してみる。
11		講義	MInor Pentatonic Scaleの仕組みを説明できる。	MInor Pentatonic Scaleの仕組みを楽器に置き換えて実践してみる。
12		講義	MInor Pentatonic Scaleの仕組みを説明できる。	MInor Pentatonic Scaleの仕組みを楽器に置き換えて実践してみる。
13		講義	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord（代理コード） またコードに割り当てるスケール例を説明できる。	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord（代理コード） を楽器に置き換えて実践してみる。
14		講義	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord（代理コード）説明できる。説明する。	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord（代理コード） を楽器に置き換えて実践してみる。
15		講義	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明できるようになる。	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を楽器に置き換えて実践してみる。
準備学習　時間外学習			様々な楽曲のコード進行を分析する基礎力と応用を身につけるための反復練習を行う。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression C-2 （Vocal Leading 4）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	河田　麻希
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	G　メジャースケールについて説明できる。	G　メジャースケール復習レポート作成
2		講義	コードシンボルとコードサウンド、分散和音と音程	G　メジャースケール(1)　コードシンボルとコードサウンド、分散和音と音程復習レポート作成
3		講義	G メジャースケールについて説明できる。	G メジャースケール復習レポート作成
4		講義	B♭メジャースケールについて説明できる。	B♭メジャースケール復習レポート作成
5		講義	B♭メジャースケール(2)　メジャーダイアトニックスケールとコード進行について説明できる。	B♭メジャースケール(2)　メジャーダイアトニックスケールとコード進行復習レポート作成
6		講義	A　マイナースケールについて説明できる。	A　マイナースケール復習レポート作成
7		講義	A　マイナースケールについて説明できる。	A　マイナースケール復習レポート作成
8		講義	中間試験及び中間課題の提出。	中間試験及び中間課題準備
9		講義	A♭メジャースケール。メジャーキーでのノンダイアトニックコードについて説明できる。	A♭メジャースケール。メジャーキーでのノンダイアトニックコード復習レポート作成
10		講義	E　マイナースケールについて説明できる。	E　マイナースケール復習レポート作成
11		講義	D メジャースケールについて説明できる。。	D メジャースケール復習レポート作成
12		講義	E♭ メジャースケール。　マイナーダイアトニックハーモニーについて説明できる。	E♭ メジャースケール。　マイナーダイアトニックハーモニー復習レポート作成
13		講義	D マイナースケールについて説明できる。	D マイナースケール復習レポート作成
14		講義	種々の調、音階、拍子記号、リズムによる練習について説明できる。。	種々の調、音階、拍子記号、リズムによる復習レポート作成
15		講義	期末試験及び期末課題の提出。	期末課題の提出。
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression C-2 （Gt chordwork 2）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	佐藤　敦
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ギターテクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりベーシストだけにではない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord（代理コード）を説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
2		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
3		講義	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
4		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
5		講義	Secondary Dominantの働きを説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
6		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
7		講義	Minor Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
8		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
9		講義	平行調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
10		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
11		講義	別な調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
12		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
13		演習	後期に学んだ理論を楽器を使い行う。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
14		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	未理解箇所の解明
15		演習	後期に学んだ項目の復習	未理解箇所の解明
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression C-2 （Ba chordwork 2）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	遠藤　敬三
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ベーステクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりベーシストだけにではない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord（代理コード）を説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
2		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
3		講義	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
4		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
5		講義	Secondary Dominantの働きを説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
6		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
7		講義	Minor Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
8		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
9		講義	平行調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
10		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
11		講義	別な調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
12		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
13		演習	後期に学んだ理論を楽器を使い行う。	次の予定Unitの熟読（予習）、未理解箇所の解明
14		テスト	小テストにて自己への理解度を確認させる。	未理解箇所の解明
15		演習	後期に学んだ項目の復習	未理解箇所の解明
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression C-2 （Percussion 2）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	大久保　宙
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ドラムテクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	パーカッションの基礎的なスタンダードなリズムの抽出とアナライズをテーマとする演習を行う。 テンポの捉え方とリズムトレーニング等の内容も積み重ねていく多角的な演習内容になる。 役割（アンサンブルスタンス）を理解する。						
到達目標	前期のシンプルなリズムフィールの応用を習得する事を目的とし、各種トレーニングの消化や自発的研究活動の延長線上にに於いて、タイム感の重要性を理解しグルーヴに対する「気付き」が生まれる事を目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	1年次のまとめ。蓄積したテクニックと表現力についての考察。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
2		演習	1年次で学習したパターンを織り交ぜたリズムの理解と実践	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
3		演習	1年次で学習したパターンを織り交ぜたリズムの理解と実践	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
4		演習	パーカッションとドラムの違い（楽器の仕組みや、フレーズ、背景など）	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
5		講義	課題曲（パート分け）	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
6		講義	課題曲（楽譜作成、要点説明）	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
7		演習	課題曲（パートごとに分かれたアンサンブル理解①）	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
8		演習	課題曲（パートごとに分かれたアンサンブル理解②）	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
9		演習	課題曲（全パート交えてのアンサンブル理解①）	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
10		演習	課題曲（全パート交えてのアンサンブル理解②）	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
11		演習	試験課題の整理と対策の検討	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
12		演習	期末試験を見据えての総チェック	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
13		演習	期末試験実施	未達成箇所の復習
14		演習	課題曲発表	未達成箇所の復習
15		演習	後期実施事項の復習	未達成箇所の復習
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression C-2 （Key chordwork 2）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	土屋　剛
学科・コース	パフォーミングアーツ科　キーボードテクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	キーボードについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	キーボードについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		講義	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord（代理コード） またコードに割り当てるスケール例を説明する。	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord（代理コード） を楽器に置き換えて実践してみる。
3		講義	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明できるようになる。	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を楽器に置き換えて実践してみる。
4		講義	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明できるようになる。	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を楽器に置き換えて実践してみる。
5		講義	Secondary Dominantの働きを説明できるようになる。	Secondary Dominantの働きを楽器に置き換えて実践してみる。
6		講義	Minor Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明できるようになる。	Minor Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を楽器に置き換えて実践してみる。
7		講義	Minor Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明できるようになる。	Minor Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を楽器に置き換えて実践してみる。
8		講義	平行調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明できるようになる。	平行調への転調の見抜き方をを楽器に置き換えて実践してみる。
9		講義	平行調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明できるようになる。	平行調への転調の見抜き方をを楽器に置き換えて実践してみる。
10		講義	別な調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明できるようになる。	別な調への転調の見抜き方をを楽器に置き換えて実践してみる。
11		講義	別な調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明できるようになる。	別な調への転調の見抜き方をを楽器に置き換えて実践してみる。
12		講義	後期に学んだ理論を楽器を使って実演できる。	後期に学んだ理論を楽器を楽器に置き換えて実践してみる。
13		講義	後期に学んだ理論を楽器を使って実演できる。	後期に学んだ理論を楽器を楽器に置き換えて実践してみる。
14		講義	テストと復習	全てのunitを確認し実演してみる。
15		講義	学んだ項目の総復習	学んだ項目の総復習
準備学習　時間外学習			様々な楽曲のコード進行を分析する基礎力と応用を身につけるための反復練習を行う。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Band Ensemble A-1 （Gt style 1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	藤井　豊
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ギターテクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ギターの基礎知識の向上 様々なビートにあった演奏方法の習得						
到達目標	講師に提示された譜面を初見で間違えずに演奏できるかどうか、また理論的な解釈で説明できるかどうか						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	ギターについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ギターについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （マイナー・メジャーペンタトニック） スケールを基にしたフレーズについて復習する
3		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （メジャースケール） スケールを基にしたフレーズについて復習する
4		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （マイナースケール） スケールを基にしたフレーズについて復習する
5		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （インターバル） スケールを基にしたフレーズについて復習する
6		演習	8ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる	8ビート主体の曲に対するアプローチ （コードストローク、ソロ）について復習する
7		演習	16ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる （コードストローク、ソロ）	16ビート主体の曲に対するアプローチ （コードストローク、ソロ）について復習する
8		演習	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用につい演奏できる。	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用について復習する
9		演習	シンコペーション （コードストローク、アルペジオ、ソロ）について演奏できる	シンコペーション （コードストローク、アルペジオ、ソロ）について復習する
10		演習	ミュートと空ピッキング （メトロノームを使った様々な練習法について）について演奏できる	ミュートと空ピッキング （メトロノームを使った様々な練習法について）について復習する
11		演習	楽譜の読み方と書き方について演奏できる	楽譜の読み方と書き方について復習する
12		演習	コードトーン （メジャー、マイナー） コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる	コードトーン （メジャー、マイナー） コードトーンを基にしたフレーズの習得について復習する
13		演習	主要四和音 （トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性）について演奏できる	主要四和音 （トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性）について復習する
14		演習	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）	コード進行の解析 （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）について復習する
15		演習	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）	コード進行の解析 （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）について復習する
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Band Ensemble A-1 （Ba style 1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	堀川　俊平
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ベーステクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	ベーシストとしての基礎力・表現力を養う。						
到達目標	ベーシストとして活躍するためのステージング、アンサンブル力が身に付く。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	ベースについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ベースについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	譜面の解説・読み方について演奏できる	譜面の解説・読み方について復習する
3		演習	運指の方法を知り楽曲に活かすについて演奏できる。	運指の方法を知り楽曲に活かすについて復習する
4		演習	課題曲にあった右手のフォームをマスターするについて演奏できる	課題曲にあった右手のフォームをマスターするについて復習する
5		演習	クリックのある練習になれ、アンサンブルについて演奏できる	クリックのある練習になれ、アンサンブルについて復習する
6		演習	指板の位置を正確に覚え、パフォーマンスについて演奏できる	指板の位置を正確に覚え、パフォーマンスについて復習する
7		演習	ペンタトニックコードについて演奏できる	ペンタトニックコードについて復習する
8		演習	音符の長さについ演奏できる	音符の長さについて復習する
9		演習	8ビートの基本について演奏できる	8ビートの基本について演奏できる
10		演習	ロックの基礎的な演奏方法について演奏できる	ロックの基礎的な演奏方法について演奏できる
11		演習	16ビートの基礎を学び楽曲について演奏できる	16ビートの基礎を学び楽曲について演奏できる
12		演習	ファンクの基礎的な演奏方法について演奏できる	ファンクの基礎的な演奏方法について演奏できる
13		演習	メジャー・マイナースケールについて演奏できる	メジャー・マイナースケールについて演奏できる
14		演習	休符を理解し、アンサンブルについ演奏できる	休符を理解し、アンサンブルについ演奏できる
15		演習	休符を理解し、アンサンブルについ演奏できる	休符を理解し、アンサンブルについ演奏できる
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Band Ensemble A-1 （Dr style 1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	奥　出矢
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ドラムテクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	ドラムを演奏する上で必要な基礎的な技術、知識を学ぶ。 譜面の理解度をあげ様々なジャンルのアンサンブル力を養う。						
到達目標	基礎的なスティックコントロールができる。譜面の読み書きができる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	ドラムについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ドラムについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	ドラム譜面の解説・読み方を説明できる	ドラム譜面の解説・読み方を復習する、
3		演習	ドラム譜面の書き方を説明できる	ドラム譜面の書き方を復習する、
4		演習	スティックの持ち方（マッチド・トラディショナル）を説明できる	スティックの持ち方（マッチド・トラディショナル）を復習する、
5		演習	打楽器に触れる	打楽器を復習する、
6		演習	正しい演奏フォームを説明できる	正しい演奏フォームを復習する、
7		演習	メジャーKeyマイナーKeyの代表的なコード進行を説明できる	メジャーKeyマイナーKeyの代表的なコード進行を復習する、
8		演習	マイナースケール、ブルーノートハーモニー等発展させたスケール・コードを説明できる	マイナースケール、ブルーノートハーモニー等発展させたスケール・コードを復習する、
9		演習	8ビートの仕組み、理解し演奏できる。	8ビートの仕組み、理解し演奏を復習する、
10		演習	16ビートの仕組み、理解し演奏できる	16ビートの仕組み、理解し演奏を復習する、
11		演習	ソロメイキングを学び演奏できる	ソロメイキングを学び演奏を復習する、
12		演習	シャッフル・3連系のグルーヴの習得し演奏できる	シャッフル・3連系のグルーヴの習得し演奏を復習する、
13		演習	シンコペーションを習得し演奏できる	シンコペーションを習得し演奏を復習する、
14		演習	Swing 16thのフレーズを習得し演奏できる	Swing 16thのフレーズを習得し演奏を復習する、
15		演習	Swing 16thのフレーズを習得し演奏できる	Swing 16thのフレーズを習得し演奏を復習する、
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Band Ensemble A-1 （Key style 1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	土屋　剛
学科・コース	パフォーミングアーツ科　キーボードテクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 楽譜の読み方など基礎的な知識を埋める。						
到達目標	楽譜の読み書きができる。ダイアトニックコードの成り立ちを理解しているなどの基礎的な理論、 キーボードの音が出せる、自分の好みの音色が使えるなどの実技の基礎的なものを習得する。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	キーボードについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	キーボードについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	楽譜の読み方　ト音を説明できる。	楽譜の読み方　ト音を復習する。
3		演習	楽譜の読み方　ヘ音を説明できる。	楽譜の読み方　ヘ音を復習する
4		演習	楽譜の書き方　音符を説明できる。	楽譜の書き方　音符を復習する。
5		演習	楽譜の書き方　記号を説明できる。	楽譜の書き方　記号を復習する。
6		演習	ダイアトニックコードを学び演奏できる。	ダイアトニックコードを復習する。
7		演習	音色を変えてのコード学び演奏できる。	音色を変えてのコードを復習する。
8		演習	コードアレンジ（和音の積み方）学び演奏できる。	コードアレンジ（和音の積み方を復習する。
9		演習	音色を変えてのコードアレンジ学び演奏できる。	音色を変えてのコードアレンジを復習する。
10		演習	オシレーターの説明学び演奏できる。	オシレーターの説明を復習する。
11		演習	自分好みの音色を作り。演奏できる。	自分好みの音色を復習する。
12		演習	コードトーン （メジャー、マイナー） コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる	コードトーンを復習する。 （メジャー、マイナー） コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる
13		演習	主要四和音 （トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性）について演奏できる	主要四和音を復習する。 （トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性）について演奏できる
14		演習	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）	コード進行の解析演奏を復習する。 （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）
15		演習	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Band Ensemble A-2 （Gt style 2）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	藤井　豊
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ギターテクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	コーダルとモーダルについて理解し、コードの分解と着地について理解を深める						
到達目標	講師に提示された譜面を初見で演奏しアドリブを演奏できるかどうか、また理論的な解釈で説明できるかどうか						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	ギターについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ギターについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	ダイアトニックとチャーチモードの関係性について説明できる。	ダイアトニックとチャーチモードの関係性を復習する。
3		演習	演奏における音楽理論について説明できる。 （チャーチモード/ドリアンスケール） スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 （チャーチモード/ドリアンスケール） スケールを基にしたフレーズの習得
4		演習	演奏における音楽理論 （チャーチモード/フリジアンスケール） スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 （チャーチモード/フリジアンスケール） スケールを基にしたフレーズの習得
5		演習	演奏における音楽理論について説明できる。 （チャーチモード/リディアンスケール） スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 （チャーチモード/リディアンスケール） スケールを基にしたフレーズの習得
6		演習	演奏における音楽理論について説明できる。 （チャーチモード/ミクソリディアンスケール） スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 （チャーチモード/ミクソリディアンスケール） スケールを基にしたフレーズの習得
7		演習	演奏における音楽理論について説明できる。 （チャーチモード/ロクリアンスケール） スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 （チャーチモード/ロクリアンスケール） スケールを基にしたフレーズの習得
8		演習	演奏における音楽理論について説明できる。 （メロディックマイナースケール） スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 （メロディックマイナースケール） スケールを基にしたフレーズの習得
9		演習	演奏における音楽理論について説明できる。 （ハーモニックマイナースケール） スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 （ハーモニックマイナースケール） スケールを基にしたフレーズの習得
10		演習	演奏における音楽理論について説明できる。 （ディミニッシュスケール） スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 （ディミニッシュスケール） スケールを基にしたフレーズの習得
11		演習	ノンダイアトニックコードについて説明できる。	ノンダイアトニックコードを復習する。
12		演習	コードの分解と着地について説明できる。	コードの分解と着地を復習する。
13		演習	アドリブ/モーダルとコーダルについて説明できる。	アドリブ/モーダルとコーダルを復習する。
14		演習	リズミックメソッドについて説明できる。	リズミックメソッドを復習する。
15		演習	講師の提示する楽譜でアドリブ演奏について説明できる。	講師の提示する楽譜を復習する。
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Band Ensemble A-2 （Ba style 2）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	堀川　俊平
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ベーステクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	アンサンブルを行うのに必要な基礎力を身につけ、家譜代楽曲を使用し、表現力を養う。						
到達目標	アンサンブルという音でのコミュニケーションを通して、自分を表現できる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	ベースについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ベースについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	ポップスの基礎的な演奏方法を習得し演奏する。	ポップスの基礎的な演奏方法を復習する。
3		演習	裏拍を理解し、グルーヴを理解し演奏する。	裏拍を理解し、グルーヴを復習する。
4		演習	R&Bの基礎的な演奏方法を習得し演奏する。	R&Bの基礎的な演奏方法を復習する。
5		演習	ソロのフレーズメイキングを習得し演奏する。	ソロのフレーズメイキングを復習する。
6		演習	ペンタトニックコードを習得し演奏する。	ペンタトニックコードを復習する。
7		演習	オンタイム・前ノリ・後ろノリを習得し演奏する。	オンタイム・前ノリ・後ろノリを復習する。
8		演習	アンサンブル内での効果的な演奏方法を課題曲を習得し演奏する。	アンサンブル内での効果的な演奏方法を課題曲を復習する。
9		演習	スラップの奏法、効果を習得し演奏する。	スラップの奏法、効果を復習する。
10		演習	ベースのコード引きを習得し演奏する。	ベースのコード引きを復習する。
11		演習	ベースのコード引きを習得し演奏する。	ベースのコード引きを復習する。
12		演習	DAWの利点を習得し演奏する。	DAWの利点を復習する。
13		演習	DAWを習得し演奏する。	DAWを復習する。
14		演習	LIVEを想定した音作り、パフォーマンスを習得し演奏する。	LIVEを想定した音作り、パフォーマンスを復習する。
15		演習	LIVEを想定した音作り、パフォーマンスを習得し演奏する。	LIVEを想定した音作り、パフォーマンスを復習する。
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Band Ensemble A-2 （Dr style 2）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	奥　出矢
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ドラムテクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	様々なジャンルのリズムを学ぶ。実践を想定しての効果的な演奏を習得。 電子機器の使用を習得。						
到達目標	様々なリズムの習得。DAWを使用したLIVEの実施。 電子ドラムの扱いを習得。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	ドラムについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ドラムについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	JAZZのフィールを習得し演奏する。	JAZZのフィールを復習する。
3		演習	コンビネーションfillの構築を習得し演奏する。	コンビネーションfillの構築を復習する。
4		演習	サンバ・ボサノバ・レゲエを習得し演奏する。	サンバ・ボサノバ・レゲエを復習する。
5		演習	ブラシの使用方法を習得し演奏する。	ブラシの使用方法を復習する。
6		演習	アンサンブルの理解、実践を習得し演奏する。	アンサンブルの理解、実践を復習する。
7		演習	ドラムのサウンドとアンサンブルを習得し演奏する。	ドラムのサウンドとアンサンブルを復習する。
8		演習	電子ドラムの実践的な使用方法を習得し演奏する。	電子ドラムの実践的な使用方法を復習する。
9		演習	コンガ・ボンゴ等のアンサンブルを習得し演奏する。	コンガ・ボンゴ等のアンサンブルを復習する。
10		演習	楽器のメンテナンスとその効果を習得し演奏する。	楽器のメンテナンスとその効果を復習する。
11		演習	DAWを使用してのドラミングを習得し演奏する。	DAWを使用してのドラミングを復習する。
12		演習	DAWを使用してのドラミングを習得し演奏する。	DAWを使用してのドラミングを復習する。
13		演習	DAWの実践的なアンサンブルを習得し演奏する。	DAWの実践的なアンサンブルを復習する。
14		演習	LIVEを想定してのステージングを習得し演奏する。	LIVEを想定してのステージングを復習する。
15		演習	DAWを使用してのドラミングを習得し演奏する。	DAWを使用してのドラミングを復習する。
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Band Ensemble A-2 （Key style 2）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	土屋　剛
学科・コース	パフォーミングアーツ科　キーボードテクニックコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 楽譜の読み方など基礎的な知識を埋める。 ダイアトニック以外のコードや、スケールなどより実践的なものを行う。						
到達目標	ダイアトニックコード以外のコードを理解しアレンジなどの理解力を高める。 演奏面ではボイシングを変更しよりプロフェッショナルな演奏力をつける。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	キーボードについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	キーボードについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	M7、7コードの成り立ちを習得し演奏する。	M7、7コードの成り立ちを復習する。
3		演習	m7、m9コードの成り立ちを習得し演奏する。	m7、m9コードの成り立ちを復習する。
4		演習	dim,augコードの成り立ちを習得し演奏する。	dim,augコードの成り立ちを復習する。
5		演習	ダイアトニックスケールを習得し演奏する。	ダイアトニックスケールを復習する。
6		演習	ナチュラル、メロディック、ハーモニック マイナースケールを習得し演奏する。	ナチュラル、メロディック、ハーモニック マイナースケールを復習する。
7		演習	1oct soloを習得し演奏する。	1oct soloを復習する。
8		演習	1oct solo+バッキングを習得し演奏する。	1oct solo+バッキングを復習する。
9		演習	2oct soloを習得し演奏する。	2oct soloを復習する。
10		演習	2oct solo+バッキングを習得し演奏する。	2oct solo+バッキングを復習する。
11		演習	midiを使っての演奏 課題曲の楽譜作成を習得し演奏する。	midiを使っての演奏 課題曲の楽譜作成を復習する。
12		演習	1oct soloを習得し演奏する。	1oct soloを復習する。
13		演習	1oct solo+バッキングを習得し演奏する。	1oct solo+バッキングを復習する。
14		演習	2oct soloを習得し演奏する。	2oct soloを復習する。
15		演習	2oct solo+バッキングを習得し演奏する。	2oct solo+バッキングを復習する。
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Band Ensemble B-1	必修選択	選択	年次	1	担当教員	藤井　豊 堀川　俊平 奥　出矢 土屋　剛
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ギターテクニックコース、ベーステクニックコース、ドラムテクニックコース、キーボードテクニックコース　1年	授業形態	演習	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴							
授業の学習内容	国内の音楽業界で活躍していく為には、スタンダードの楽曲の分析やアレンジの能力が必要となる。本講義ではスタンダード音楽理論の応用とその特徴を学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なスタンダード音楽理論の応用と作曲方法をアンサンブルで習得し実践できる						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	スタンダードの特徴を理解し実践する。	スタンダードの特徴を理解し実演する・
2		演習	スタンダードの特徴を理解しアンサンブルで実践する。	スタンダードの特徴を理解し実演する・
3		演習	ネオアコースティックを用いて表現する。	ネオアコースティックを理解し実演する・
4		演習	ネオアコースティックのアンサンブルを実践できる。	ネオアコースティックを理解し実演する・
5		演習	90年代POPSを用いてアレンジを研究し実践できる。	90年代スタンダードを理解し実演する
6		演習	90年代POPSを用いてアンサンブルを学び実践できる。	90年代スタンダードを理解し実演する
7		演習	80年代ロックを用いてアレンジを研究し実践できる。	80年代ロックを理解し実演する
8		演習	80年代ロックを用いてアンサンブルを学び実践できる。	80年代ロックを理解し実演する
9		演習	70年代ロックを用いてアレンジを研究し実践できる。	70年代ロックを理解し実演する
10		演習	70年代ロックを用いてアンサンブルを学び実践できる。	70年代ロックを理解し実演する
11		演習	70年代のアレンジの特徴を学び実践できる。	70年代のアレンジの特徴を理解し実演する・
12		演習	80年代のアレンジの特徴を学び実践できる。	80年代のアレンジの特徴を理解し実演する・
13		演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を理解し実演する・
14		演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを理解し実演する・
15		演習	テストと復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習　時間外学習			業界で活躍するスタンダードアレンジのスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Band Ensemble B-2	必修選択	選択	年次	1	担当教員	藤井　豊 堀川　俊平 奥　出矢 土屋　剛
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ギターテクニックコース、ベーステクニックコース、ドラムテクニックコース、キーボードテクニックコース　1年	授業形態	演習	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴							
授業の学習内容	国内の音楽業界で活躍していく為には、スタンダード楽曲の分析やアレンジの能力が必要となる。本講義ではスタンダード楽理論の応用とその特徴を学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なスタンダード音楽理論の応用と作曲方法をアンサンブルで習得し実践できる						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	シンガーソングライターの名曲を分析し説明ができる。	シンガーソングライターの名曲を調べて分析しレポート作成
2		演習	シンガーソングライターの名曲を分析し演奏する。	シンガーソングライターの名曲を分析し演奏する。
3		演習	R&Bの名曲を分析し説明と演奏ができる。	R&Bの名曲を分析し実演する。
4		演習	R&Bの名曲を分析しアンサンブルで実演する。	R&Bの名曲を分析し実演する。
5		演習	エレクトリック楽器とのコラボを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのコラボを分析し実演する。
6		演習	エレクトリック楽器とのアンサンブルを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのアンサンブルを分析し実演する。
7		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
8		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
9		演習	スタンダードバラードを分析し演奏できる。	スタンダードバラードを分析し実演する。
10		演習	スタンダードバラードをアンサンブルで演奏できる。	スタンダードバラードをアンサンブルを分析し実演する。
11		演習	ヒット曲の特徴を理解しながら演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
12		演習	ヒット曲の特徴を理解しながらアンサンブル演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
13		演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を分析し実演する。
14		演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを分析し実演する。
15		演習	テストと復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習　時間外学習			業界で活躍するスタンダードアレンジのスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	セッションアレンジゼミ　1	必修選択	選択	年次	2	担当教員	村田　隆行
学科・ｺｰｽ	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	村田隆行　　ttp://takayukimurata.com/about.html						
授業の学習内容	①「BANDアンサンブルをテーマに、プロフェッショナルな現場での急なアレンジや自身の演奏スタイルの応用までを習得する。」 ②「各パートの授業、理論の実践の場。」 ③「瞬発的なアンサンブルやアレンジの対応を求められる事で、自身の演奏課題が明確になる事。（アンサンブル力・楽器演奏力）この二つがプロフェッショナルとして通用するための課題が明確になり、それらを勉強・実践する事により、ステージや録音現場で堂々と演奏が出来き、自信に繋がっていく場になって欲しい。」 ①～③をふまえ、課題曲を中心に、みんなで演奏をする事、その結果どうなったかを録音し、みんなでチェックをする。リズム・ハーモニー・メロディー、これらのテーマを各楽器がどう考え、何に気をつけながら演奏しなければいけないのかをみんなで考察する。他パートが何を考えているのか、どう変化すればどの様なアンサンブルが生まれるのかをみんなで考える事により、自然とアンサンブルやバンド・アレンジに対する意識を各ミュージシャンが身につけてほしい。						
到達目標	①急なアレンジの変更・楽曲の提示を対応する事により、自身の楽器演奏レベルの向上、授業の実践をする事から自身の目標をさらに明確にする。 ②アンサンブル・アレンジに対するチームワーク意識と大切さを持ってもらう。 ③インストゥルメンタル・ミュージックとヴォーカルのためのアンサンブルの違いをこの授業から理解し、状況によりコントロール出来る様になる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	この授業の説明とチームの振り分け	
2		演習	課題曲①を使ってのアンサンブル/前半	・リズムキープ練習・アレンジの分析・すべての楽器担当者がメロディー、ハーモニーを分析する
3		講義	①のアレンジの考察と主にリズム・リアレンジ	・バンドアンサンブルに必要な担当楽器のセルフアレンジ力の幅を広げるためのトレーニング
4		演習	課題曲を使ってのアンサンブル/後半	・リズムキープ練習　・アレンジの分析　・リズムパターンの引き出しを増やす
5		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/前半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
6		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/後半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
7		演習	課題曲を使ってのアンサンブル②	・リズムキープ練習・アレンジの分析・すべての楽器担当者がメロディー、ハーモニーを分析する
8		講義	②のアレンジの考察と主にリズム・リアレンジ	・リズムキープ練習　・アレンジの分析　・リズムパターンの引き出しを増やす
9		講義	②のアレンジの考察と主にハーモニー・リアレンジ	・リズムキープ練習　・アレンジの分析　・リズムパターンの引き出しを増やす
10		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/前半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
11		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/後半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
12		演習	課題曲を使ってのアンサンブル③（課題曲まとめ）	課題曲のアレンジ発表
13		演習	課題曲を使ってのアンサンブル④（課題曲まとめ）	課題曲のアレンジ発表
14		講義	前期項目の総復習	前期未達成項目の復習
15		テスト	期末テスト実施と復習	前期未達成項目の復習
準備学習　時間外学習			スキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	セッションアレンジゼミ 2	必修選択	選択	年次	2	担当教員	村田　隆行
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	村田隆行　http://takayukimurata.com/about.html						
授業の学習内容	①「前期よりもリズム、コード感に特化し、プロフェッショナルな現場での急なアレンジや自身の演奏スタイルの応用までを習得する。」 ②「各パートの授業、理論の実践の場。」 ③「瞬発的なアンサンブルやアレンジの対応を求められる事で、自身の演奏課題が明確になる事。（アンサンブル力・楽器演奏力）この二つがプロフェッショナルとして通用するための課題が明確になり、それらを勉強・実践する事により、ステージや録音現場で堂々と演奏が出来き、自信に繋がっていく場になって欲しい。」 ①～③をふまえ、課題曲を中心に、みんなで演奏をする事、その結果どうなったかを録音し、みんなでチェックをする。リズム・ハーモニー・メロディー、これらのテーマを各楽器がどう考え、何に気をつけながら演奏しなければいけないのかをみんなで考察する。他パートが何を考えているのか、どう変化すればどの様なアンサンブルが生まれるのかをみんなで考える事により、自然とアンサンブルやバンド・アレンジに対する意識を各ミュージシャンが身につけてほしい。						
到達目標	①急なアレンジの変更・楽曲の提示を対応する事により、自身の楽器演奏レベルの向上、授業の実践をする事から自身の目標をさらに明確にする。 ②アンサンブル・アレンジに対するチームワーク意識と大切さを持ってもらう。 ③インストゥルメンタル・ミュージックとヴォーカルのためのアンサンブルの違いをこの授業から理解し、状況によりコントロール出来る様になる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	前期の振り返り	後期の予習
2		演習	課題曲①を使ってのアンサンブル/前半	・リズムキープ練習・アレンジの分析・すべての楽器担当者がメロディー、ハーモニーを分析する
3		講義	①のアレンジの考察と主にリズム・リアレンジ	・バンドアンサンブルに必要な担当楽器のセルフアレンジ力の幅を広げるためのトレーニング
4		演習	課題曲を使ってのアンサンブル/後半	・リズムキープ練習　・アレンジの分析　・リズムパターンの引き出しを増やす
5		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/前半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
6		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/後半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
7		演習	課題曲を使ってのアンサンブル②	・リズムキープ練習・アレンジの分析・すべての楽器担当者がメロディー、ハーモニーを分析する
8		演習	②のアレンジの考察と主にリズム・リアレンジ	・リズムキープ練習　・アレンジの分析　・リズムパターンの引き出しを増やす
9		演習	②のアレンジの考察と主にハーモニー・リアレンジ	・リズムキープ練習　・アレンジの分析　・リズムパターンの引き出しを増やす
10		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/前半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
11		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/後半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
12		演習	課題曲を使ってのアンサンブル③（課題曲まとめ）	課題曲のアレンジ発表
13		演習	課題曲を使ってのアンサンブル④（課題曲まとめ）	課題曲のアレンジ発表
14		講義	後期項目の総復習	後期未達成項目の復習
15		テスト	期末テスト実施と復習	後期未達成項目の復習
準備学習　時間外学習			スキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Basic Keyboard 1	必修選択	選択	年次	1	担当教員	宇田　隆志
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ヴォーカル＆ダンスコース　1年	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 メロディックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル 特有のスタイルについても学ぶ。キーボード歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。						
到達目標	理論、実技の基礎的なものを習得する。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	基礎練習とキーボードの使用法を理解できる	基礎練習とキーボードの使用法を実演する
2		演習	基本のコードとコードネームを理解できる	基本のコードとコードネームを理解し実演する
3		演習	G-C, Rock'n Roll, Bluesを理解できる	G-C, Rock'n Roll, Bluesを理解し実演する
4		演習	コード進行を理解し演奏できる	コード進行を理解し実演を録音する
5		演習	ペンタトニック、リフを理解できる	ペンタトニック、リフを実演できる
6		演習	Bluesについて理解できる	Bluesについて理解し実演する
7		演習	メジャースケールとダイアトニックコード1を理解できる	メジャースケールとダイアトニックコード1を復習し実演する
8		演習	メジャースケールとダイアトニックコード2を理解できる	メジャースケールとダイアトニックコード2を復習し実演する
9		演習	マイナースケールを理解できる	マイナースケールを理解し実演する
10		演習	Bossa Nova Dm7-G7 を理解できる	Bossa Nova Dm7-G7 を理解し実演する
11		演習	Blues Em riffのコードを理解できる	Blues Em riffを理解し実演する
12		演習	Blues Em riffのスケールを構築できる	Blues Em riffを理解し即興できる
13		演習	ストリングスを使って演奏する。	音色の整理を行いサウンドをつくる
14		演習	オルガンを使って演奏する。	音色の理解を深めサウンドをつくる
15		演習	試験と復習	1~14をまとめたレポート作成
準備学習　時間外学習			音楽理論全般を理解するための学習、演習の復習を繰り返す。週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Basic Keyboard 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	宇田　隆志
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ヴォーカル＆ダンスコース　1年	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 メロディックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル 特有のスタイルについても学ぶ。キーボード歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。						
到達目標	理論、実技の基礎的なものを習得する。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	シールドなど機材での音の変化を理解し実践できる	シールドなど機材での音の変化を理解し実演する
2		演習	コードの展開を理解し実践できる	コードの展開を理解し実演する
3		演習	G-C, Rock'n Roll, Bluesを理解し実践できる	G-C, Rock'n Roll, Bluesを理解し実演する
4		演習	2つ以上組み合わせる音色を理解し実践できる	2つ以上組み合わせる音色を理解し実演する
5		演習	ペンタトニック、オブリガートを理解し実践できる	ペンタトニック、オブリガートを理解し実演する
6		演習	Bluesを理解し実践できる	Bluesを理解し実演する
7		演習	メジャー、マイナー以外のスケール1を理解し実践できる	メジャー、マイナー以外のスケール1を理解し実演する
8		演習	メジャー、マイナー以外のスケール2を理解し実践できる	メジャー、マイナー以外のスケール2を理解し実演する
9		演習	ソロの構成を理解し実践できる	ソロの構成を理解し実演する
10		演習	各ジャンルでのバッキングを理解し実践できる	各ジャンルでのバッキングを理解し実演する
11		演習	各ジャンルでのriffを理解し実践できる	各ジャンルでのriffを理解し実演する
12		演習	ピッチベンドを使用したソロを理解し実践できる	ピッチベンドを使用したソロを理解し実演する
13		演習	エフェクト紹介１を理解し実践できる	エフェクト紹介１を理解し実演する
14		演習	エフェクト紹介２を理解し実践できる	エフェクト紹介２を理解し実演する
15		演習	試験と復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習　時間外学習			音楽理論全般を理解するための学習、演習の復習を繰り返す。週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Vocal Band Ensemble 1	必修選択	選択	年次	1	担当教員	森本　繁来 原田　由佳
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	国内の音楽業界で活躍していく為には、スタンダードの楽曲の分析やアレンジの能力が必要となる。本講義ではスタンダード音楽理論の応用とその特徴を学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なスタンダード音楽理論の応用と作曲方法をアンサンブルで習得し実践できる						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	スタンダードの特徴を理解し実践する。	スタンダードの特徴を理解し実演する・
2		演習	スタンダードの特徴を理解しアンサンブルで実践する。	スタンダードの特徴を理解し実演する・
3		演習	ネオアコースティックを用いて表現する。	ネオアコースティックを理解し実演する・
4		演習	ネオアコースティックのアンサンブルを実践できる。	ネオアコースティックを理解し実演する・
5		演習	90年代POPSを用いてアレンジを研究し実践できる。	90年代スタンダードを理解し実演する
6		演習	90年代POPSを用いてアンサンブルを学び実践できる。	90年代スタンダードを理解し実演する
7		演習	80年代ロックを用いてアレンジを研究し実践できる。	80年代ロックを理解し実演する
8		演習	80年代ロックを用いてアンサンブルを学び実践できる。	80年代ロックを理解し実演する
9		演習	70年代ロックを用いてアレンジを研究し実践できる。	70年代ロックを理解し実演する
10		演習	70年代ロックを用いてアンサンブルを学び実践できる。	70年代ロックを理解し実演する
11		演習	70年代のアレンジの特徴を学び実践できる。	70年代のアレンジの特徴を理解し実演する・
12		演習	80年代のアレンジの特徴を学び実践できる。	80年代のアレンジの特徴を理解し実演する・
13		演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を理解し実演する・
14		演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを理解し実演する・
15		演習	テストと復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習　時間外学習			業界で活躍するスタンダードアレンジのスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Vocal Band Ensemble 2	必修選択	選択	年次	1	担当教員	森本　繁来 原田　由佳
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	国内の音楽業界で活躍していく為には、スタンダード楽曲の分析やアレンジの能力が必要となる。本講義ではスタンダード楽理論の応用とその特徴を学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なスタンダード音楽理論の応用と作曲方法をアンサンブルで習得し実践できる						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	シンガーソングライターの名曲を分析し説明ができる。	シンガーソングライターの名曲を調べて分析しレポート作成
2		演習	シンガーソングライターの名曲を分析し演奏する。	シンガーソングライターの名曲を分析し演奏する。
3		演習	R&Bの名曲を分析し説明と演奏ができる。	R&Bの名曲を分析し実演する。
4		演習	R&Bの名曲を分析しアンサンブルで実演する。	R&Bの名曲を分析し実演する。
5		演習	エレクトリック楽器とのコラボを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのコラボを分析し実演する。
6		演習	エレクトリック楽器とのアンサンブルを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのアンサンブルを分析し実演する。
7		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
8		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
9		演習	スタンダードバラードを分析し演奏できる。	スタンダードバラードを分析し実演する。
10		演習	スタンダードバラードをアンサンブルで演奏できる。	スタンダードバラードをアンサンブルを分析し実演する。
11		演習	ヒット曲の特徴を理解しながら演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
12		演習	ヒット曲の特徴を理解しながらアンサンブル演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
13		演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を分析し実演する。
14		演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを分析し実演する。
15		演習	テストと復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習　時間外学習			業界で活躍するスタンダードアレンジのスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Vocal Performance 1	必修選択	選択	年次	1	担当教員	西野　恭平
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ヴォーカル＆ダンスコース、K-POPアーティストコース　1年	授業形態	演習	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴							
授業の学習内容	ヴォーカリストにとって必要な身体作り、必要なメソッドの習得、ソロアプローチ方やインプロテクニックを学ぶ						
到達目標	ヴォーカリストにとって必要な身体作り、必要なメソッドの習得、ソロアプローチ方やインプロテクニックを実践できる						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践、確認動画でチェックする。
2		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
3		演習	リズム＋グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
4		演習	リズム＋グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
5		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
6		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
7		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
8		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
9		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
10		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
11		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
12		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
13		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践確認動画でチェックする。
14		演習	試験	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
15		演習	試験総括（改善点を知る）	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
準備学習　時間外学習			ヴォーカリストとして必要なパフォーマンススキルを習得するために自習、週4Hの練習と動画チェック	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Vocal Performance 2	必修選択	選択	年次	1	担当教員	西野　恭平
学科・コース	パフォーミングアーツ科　ヴォーカル＆ダンスコース、K-POPアーティストコース　1年	授業形態	演習	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴							
授業の学習内容	ヴォーカリストにとって必要な身体作り、必要なメソッドの習得、ソロアプローチ方やインプロテクニックを学ぶ						
到達目標	ヴォーカリストにとって必要な身体作り、必要なメソッドの習得、ソロアプローチ方やインプロテクニックを実践できる						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践、確認動画でチェックする。
2		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
3		演習	リズム＋グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
4		演習	リズム＋グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
5		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
6		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
7		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
8		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
9		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
10		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
11		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
12		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
13		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践確認動画でチェックする。
14		演習	試験	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
15		演習	試験総括（改善点を知る）	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Piano Duo 1	必修選択	選択	年次	1	担当教員	潤　豊 小林　香央里
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界で活躍していく為には、ピアノと歌のアンサンブルを重点的に学ぶことが望まししい。本講義ではいくつかのピアノパターンにあわせた歌唱法を学び表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なアンサンブルスキルを習得し実践できる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	POPSリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
2		演習	POPSリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
3		演習	JAZZリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
4		演習	JAZZリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
5		演習	ROCKリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
6		演習	ROCKリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
7		演習	サンバ系リズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
8		演習	サンバ系リズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
9		演習	フリーのリズムを感じながらの表現法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
10		演習	フリーのリズムを感じながらのアドリブ法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
11		演習	JAZZリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
12		演習	JAZZリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
13		演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
14		演習	歌からスタートする音楽を学び実践できる	歌からスタートする音楽を学び実践できる
15		演習	試験	1-14をまとめてレポート作成
準備学習　時間外学習			アンサンブル力を身につける、リズムをよくするための繰り返し練習、週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Piano Duo 2	必修選択	選択	年次	1	担当教員	潤　豊 小林　香央里
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	リズム、ボリューム、コミュニケーション、曲の構成など、演奏を通してアンサンブル力を育てる						
到達目標	譜面を見ながら演奏もしくは歌唱できるようになる。						
評価方法と基準	実技試験100%%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	POPSリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
2		演習	POPSリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
3		演習	JAZZリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
4		演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
5		演習	ROCKリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
6		演習	ROCKリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
7		演習	サンバ系リズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
8		演習	サンバ系リズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
9		演習	フリーのリズムを感じながらの高度な表現法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
10		演習	フリーのリズムを感じながらの高度なアドリブ法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
11		演習	JAZZリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
12		演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
13		演習	JAZZリズムにあわせた高度な高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
14		演習	歌からスタートする高度な音楽を学び実践できる	歌からスタートする音楽を学び実践できる
15		演習	試験	1-14をまとめてレポート作成
準備学習　時間外学習			アンサンブル力を身につける、リズムをよくするための繰り返し練習、週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Song Writing 1	必修選択	選択	年次	1	担当教員	宇田　隆志
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界で活躍していく為には、楽曲の分析やオリジナル曲作曲、アレンジの能力が必要となる。本講義ではジャズ音楽理論の応用とその使用方法を学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なジャズ音楽理論の応用と作曲方法を習得し説明ができるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	楽器構造と特有な記譜法を理解し実演	楽器構造と特有な記譜法を理解し復習
2		演習	メトロノームを使用したを理解し実演。	メトロノームを使用したを理解し復習
3		演習	カホンの各ビートにおけるバリエーションを理解し実演	カホンの各ビートにおけるバリエーションを理解し復習
4		演習	ティンバレスの各ビートにおけるバリエーションを理解し実演	ティンバレスの各ビートにおけるバリエーションを理解し復習
5		演習	ゴーストモーションに関するを理解し実演	ゴーストモーションに関するを理解し復習
6		演習	フィルインに関する考察を理解し実演	フィルインに関する考察を理解し復習
7		演習	コンガの各ビートにおけるバリエーションを理解し実演	コンガの各ビートにおけるバリエーションを理解し復習
8		演習	その他パーカッション（シェイカーやカウベルなど）の各ビートにおけるバリエーションを理解し実演	その他パーカッション（シェイカーやカウベルなど）の各ビートにおけるバリエーションを理解し復習
9		演習	16ビートの実践。リード感覚に関する考察を理解し実演	16ビートの実践。リード感覚に関する考察を理解し復習
10		演習	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察を理解し実演	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察を理解し復習
11		演習	マイナスワン音源を使用したトレーニングの実施を理解し実演	マイナスワン音源を使用したトレーニングの実施を理解し復習
12		演習	リズム構造の理解とフィールの実践を理解し実演	リズム構造の理解とフィールの実践を理解し復習
13		演習	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用を理解し実演	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用を理解し復習
14		試験	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用を理解し実演	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用を理解し復習
15		演習	学期末試験実施と復習	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用を理解し復習
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Song Writing 2	必修選択	選択	年次	1	担当教員	宇田　隆志
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界で活躍していく為には、楽曲の分析やオリジナル曲作曲、アレンジの能力が必要となる。本講義ではジャズ音楽理論の応用とその使用方法を学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なジャズ音楽理論の応用と作曲方法を習得し説明ができるようになる。						
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	アレンジングを理解し説明ができる	アレンジング 復習レポート作成
2		講義	メロディーとハーモニーの関係。和声音と非和声音。コードシンボルを理解し説明ができる	和声音と非和声音。コードシンボルの復習レポート作成
3		講義	楽器グループと音域。ソロ、ユニゾン、オクターブメロディー。メロディーのアレンジメントを理解し説明ができる	楽器グループと音域の復習レポート作成
4		講義	4パートソリ。メカニカルヴォイシング（4ウェイクローズ、ドロップ2、ドロップ3、ドロップ2+4）を理解し説明ができる	4パートソリ。メカニカルヴォイシングの復習レポート作成
5		講義	4パートソリ。アプローチテクニック。ロワーインターヴァルリミットを理解し説明ができる	ロワーインターヴァルリミットの復習レポート作成
6		講義	2パートソリ、3パートソリを理解し説明ができる	2パートソリ、3パートソリの復習レポート作成
7		講義	中間課題の説明を理解し述べることができる。	中間課題レポート作成
8		講義	中間確認試験と復習	1-8の復習レポート作成
9		講義	ヴォイスリーディングとガイドトーンラインを理解し説明ができる	ヴォイスリーディングの復習レポート作成
10		講義	ガイドトーンバックグラウンドとスプレッドヴォイシングを理解し説明ができる	ガイドトーンバックグラウンドとスプレッドヴォイシングの復習レポート作成
11		講義	ガイドトーンラインの装飾とカウンターメロディーを理解し説明ができる	ガイドトーンラインの装飾とカウンターメロディー復習レポート作成
12		講義	インデペンデントリード。ソリとの混用を理解し説明ができる	インデペンデントリードの復習レポート作成
13		講義	アーティキュレーション。編曲の手順、復習、詳細、そして練習を理解し説明ができる	編曲の手順、復習、詳細、そして復習レポート作成
14		講義	期末課題の説明を理解し述べることができる。	期末課題に向けて復習レポート作成
15		講義	期末試験と復習	期末課題に向けて復習レポート作成
準備学習　時間外学習			ジャズ音楽理論の基礎と作曲方法の確認と復習を実践していく。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Dance foe Singer 1	必修選択	選択	年次	1	担当教員	木本　雄
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	アーティストのLiveや舞台のダンサー・振付						
授業の学習内容	曲に合わせてのリズムトレーニング、およびステージングから振り付けまで。						
到達目標	リズムを外さず、ステージ上でのパフォーマンスにぎこちなさを無くす。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践、確認動画でチェックする。
2		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
3		演習	リズム＋グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
4		演習	リズム＋グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
5		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
6		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
7		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
8		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
9		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
10		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
11		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
12		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
13		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践確認動画でチェックする。
14		演習	試験と復習	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
15		演習	試験総括（改善点を知る）	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
準備学習　時間外学習			正しい英語の発音、リズム、表現力を養うための繰り返し練習、週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Dance foe Singer 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	木本　雄
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴	アーティストのLiveや舞台のダンサー・振付						
授業の学習内容	曲に合わせてのリズムトレーニング、およびステージングから振り付けまで。						
到達目標	リズムを外さず、ステージ上でのパフォーマンスにぎこちなさを無くす。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践、確認動画でチェックする。
2		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
3		演習	リズム＋グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
4		演習	リズム＋グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム＋グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
5		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
6		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
7		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
8		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
9		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
10		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
11		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
12		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
13		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践確認動画でチェックする。
14		演習	試験と復習	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
15		演習	試験総括（改善点を知る）	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
準備学習　時間外学習			正しい英語の発音、リズム、表現力を養うための繰り返し練習、週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	J-POP Ensemble 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	細井　康行 宇田　隆志 小川　真司
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	国内の音楽業界で活躍していく為には、J-POPの楽曲の分析やアレンジの能力が必要となる。本講義ではJ-POP音楽理論の応用とその特徴を学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なJ-POP音楽理論の応用と作曲方法をアンサンブルで習得し実践できる						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	J-POPの特徴を理解し実践する。	J-POPの特徴を理解し実演する
2		演習	J-POPの特徴を理解しアンサンブルで実践する。	J-POPの特徴を理解し実演する
3		演習	ネオアコースティックを用いて表現する。	ネオアコースティックを理解し実演する
4		演習	ネオアコースティックのアンサンブルを実践できる。	ネオアコースティックを理解し実演する
5		演習	90年代POPSを用いてアレンジを研究し実践できる。	90年代POPSを理解し実演する
6		演習	90年代POPSを用いてアンサンブルを学び実践できる。	90年代POPSを理解し実演する
7		演習	80年代ロックを用いてアレンジを研究し実践できる。	80年代ロックを理解し実演する
8		演習	80年代ロックを用いてアンサンブルを学び実践できる。	80年代ロックを理解し実演する
9		演習	70年代ロックを用いてアレンジを研究し実践できる。	70年代ロックを理解し実演する
10		演習	70年代ロックを用いてアンサンブルを学び実践できる。	70年代ロックを理解し実演する
11		演習	70年代のアレンジの特徴を学び実践できる。	70年代のアレンジの特徴を理解し実演する
12		演習	80年代のアレンジの特徴を学び実践できる。	80年代のアレンジの特徴を理解し実演する
13		演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を理解し実演する
14		演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを理解し実演する
15		演習	テスト	1~14をまとめてレポート作成
準備学習　時間外学習			業界で活躍するJ-POPアレンジのスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	J-POP Ensemble 2	必修選択	選択	年次	2	担当教員	細井 康行 宇田 隆志 小川 真司
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	国内の音楽業界で活躍していく為には、J-POPの楽曲の分析やアレンジの能力が必要となる。本講義ではJ-POP音楽理論の応用とその特徴を学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なJ-POP音楽理論の応用と作曲方法をアンサンブルで習得し実践できる						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	シンガーソングライターの名曲を分析し説明ができる。	シンガーソングライターの名曲を調べて分析しレポート作成
2		演習	シンガーソングライターの名曲を分析し演奏する。	シンガーソングライターの名曲を分析し演奏する。
3		演習	R&Bの名曲を分析し説明と演奏ができる。	R&Bの名曲を分析し実演する。
4		演習	R&Bの名曲を分析しアンサンブルで実演する。	R&Bの名曲を分析し実演する。
5		演習	エレクトリック楽器とのコラボを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのコラボを分析し実演する。
6		演習	エレクトリック楽器とのアンサンブルを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのアンサンブルを分析し実演する。
7		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
8		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
9		演習	J-POPバラードを分析し演奏できる。	J-POPバラードを分析し実演する。
10		演習	J-POPバラードをアンサンブルで演奏できる。	J-POPバラードをアンサンブルを分析し実演する。
11		演習	ヒット曲の特徴を理解しながら演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
12		演習	ヒット曲の特徴を理解しながらアンサンブル演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
13		演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を分析し実演する。
14		演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを分析し実演する。
15		演習	テスト	1~14をまとめてレポート作成
準備学習　時間外学習			業界で活躍するJ-POPアレンジのスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナル体幹理論、コードプリント、発声に関するオリジナルプリント、既存の楽曲の歌詞と楽譜とハーモニー譜

科目名	著作権Ⅱ 1	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	峰松　毅
学科・コース	【音楽テクノロジー科】作曲＆アレンジャーデビュー/音楽プロデューサー/ゲームミュージック/レコーディング＆PA	授業 形態	講義・試験	総時間 （単位）	30 2単位		

教員の略歴	ビクターではカラオケのレコーディングディレクターを、バンダイではアニメ特撮系の音楽プロデューサーを務める。現在はライセンスゲートを設立しゲーム系の音楽配信を中心にライセンス事業を展開。
授業の学習内容	想像することの大切さとを通し、著作権の意義を教えます。著作権を軽視したことにより生じたトラブルの実例を通し、契約社会の現実を学びます。またグループワークを通し、ネット社会で見落とされがちな会話の重要性を体感させます。
到達目標	最終的には自分は何を誰にどのようにして伝えたいのかを考えさせます。※マネージャー、企画、作詞、作曲などいずれも自分は誰に何を伝えたいのかを考えさせ、社会の一員であることを考えさせます。
評価方法と基準	1）定期テスト（筆記60%　実技40%）

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	自己紹介と講義概要の説明	第一回目の授業は講師の自己紹介と講義の概要を伝えます。最後に宿題を提示。⇒A4一枚にまとめた物語を配布。5人のキャラクターが登場。好感の持てる順に並べます。その根拠をグループワークでを発表。自分の想像力と会話能力を実感させます。
2		講義	グループワーク。「創造」とは何か！を議論します	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。著作権の第一歩は想像することであり、いかに想像力を発揮していないかを体験させます。また人間関係がいかに重要で不可欠であるかを体験させます。次回の課題として原盤権を講義。第三者からの制作依頼を想定。どのような約束（契約）が必要かを宿題とします。
3		講義	原盤権と著作権の概念を事例を通しシミュレーションする体験教室	前回の課題をグループワークで検討。当たり前を見落としていること、契約の大切さを実感させます。現代の傾向として一般化される買い取り契約を講義。宿題として買取を求めらた場合を想定。
4		講義	プロデューサー、ディレクター、A&R、マネージャーの基本を学びます	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。著作権及び権利譲渡について講義。そのうえでプロデューサー、A＆R、ディレクター等、言葉の大切さを教えます。著作権使用料と徴収の仕組み、音楽出版社とjasracの関係について講義。ある設定を提示し、jasracとの契約を宿題として提示。
5		講義	作家の印税収入の仕組みを学びます。JASRACと音楽出版社について等	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。jasracの必要性及び問題点を講義。海外版権について講義。ある設定を提示。海外の版権を取り扱う場合の注意点を考えさせます。
6		講義	版権とその仕組みを学ぶ　～ビートルズとサンダーバードの場合～	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。キャラクタービジネスが注目された60年代をもとに権利を守ること活かすことを講義。次回の宿題として俳優のトラブルの実例を講義。どうすれば問題を回避できたか、マネージャーとは何かを考えさせます。
7		講義	もしもあなたがなマネージャーだったら！翻案権を考えます。＜女優土屋アンナの裁判事件＞	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。他人に物事を正確に伝えることの大切さを再度講義。太古の雨ごい儀式をどのようにとらえるかを考えさせます。（合理的か否か）
8		講義	雨ごいは合理的？著作権は別？論理性を考えます。	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。スポティファイと崩壊する？著作権ビジネスを考える。宿題として音楽業界の仕組みをイメージさせます。
9		講義	音楽出版社の調べ方とスポティファイを考える。自己PRを問う！	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。大きく変わる世界情勢とエンターテインメント業界を検討。今、アーティストに求められるものは何かを宿題として提示。
10		講義	世界情勢の混乱：今、アーティストのメッセージとは何か～問われる表現者の意識～	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。jasracの問題点を宿題として提示。
11		講義	JASRAC信託契約の落とし穴、原盤印税とは何か	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。
12		試験と面談	テストと2階企画ルームで個人別面談	面談では講義へのリクエストや不満などを自由に述べてもらいます。
13		講義	前期のまとめ	前期のまとめ。面談結果及び今後の講義の概要を伝えます。
14		実習	「明日への扉」の台本より著作権を考える	「明日への扉」での運営・制作スタッフとして実践する。
15		実習	「明日への扉」の台本より著作権を考える	「明日への扉」での運営・制作スタッフとして実践する。
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。	

【使用教科書・教材・参考書】

個人作成によるパワーポイントファイルとプロジェクターを使用。

科目名	著作権Ⅱ 2	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	峰松　毅
学科・コース	【音楽テクノロジー科】作曲&アレンジャーデビュー/音楽プロデューサー/ゲームミュージック/レコーディング&PA	授業 形態	講義・演習・実習等	総時間 （単位）	30 2単位		
教員の略歴	ビクターではカラオケのレコーディングディレクターを、バンダイではアニメ特撮系の音楽プロデューサーを務める。現在はライセンスゲートを設立しゲーム系の音楽配信を中心にライセンス事業を展開。						
授業の学習内容	想像することの大切さとを通し、著作権の意義を教えます。著作権を軽視したことにより生じたトラブルの実例を通し、契約社会の現実を学びます。またグループワークを通し、ネット社会で見落とされがちな会話の重要性を体感させます。						
到達目標	最終的には自分は何を誰にどのようにして伝えたいのかを考えさせます。※自分の職業を通して誰に何を伝えたいのかを考えさせ、社会の一員であることを考えさせます。						
評価方法と基準	1）定期テスト（筆記60%　実技40%）						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	著作者人格権から買い取り契約の落とし穴を考える	前期の総括及び後期の講義概要を説明。著作者人格権について講義。ミュージシャンに著作権は発生するかを課題とし次回のグループワークとする。
2		講義	事例をもとにミュージシャンに演奏の権利は発生するのかを考える	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。著作権使用料の基本を講義し、定額制配信を考えさせます。
3		講義	音楽配信の現状から定額制のち問題を問う	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。表現とは何かを講義。欧米とアジア（韓国と日本の演歌）の違い。課題としてある物語からどのような歌詞とメロディーが合うのかを考えさせます。
4		講義	欧米と日本の表現方法の違いを考える	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。俳優（アクター）とは何かを講義。芸能の仕事と著作権について考えさせます。
5		講義	問われる芸能人の問題意識を考える	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。イラスト、写真などの権利を講義。マネージャーと契約業務の例を提示。もしも自分がマネージャーだったらどうするかを宿題とします。
6		講義	マネージャーに問われる著作権意識	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。ライブを行う場合、アーティスト（実演家）とイベンターが確認しなければならない著作権とは何かを宿題とします。
7		講義	コンサートと著作権	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。洋楽をカバーする場合、日本語で歌う場合の注意点を宿題として考えさせます。
8		講義	歌謡曲とJ ポップの違いから著作権を考える	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。ウェブ上で注意すべき著作権を考える。ある動画配信を提示し著作権問題を含んでいるか否かを宿題として提示。
9		講義	YOUTUBEと著作権	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。動画配信の活かし方。表現することの難しさを問う。動画企画を宿題とします。
10		講義	表現者とは何か考えそこに発生する著作権を考える	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。ウェブビジネスを宿題として提示。
11		講義	web上の音楽ビジネスから著作権を考える	前回の課題をグループワークで検討し発表させます。
12		試験と面談	筆記テストと2階企画ルームで個人別面談	テスト及び後期講義の質疑応答。
13		講義	後期のまとめ	質疑応答の結果及びリクエスト講義
14		実習	卒業制作展での使用楽曲の著作権を確認する	卒業制作展での運営・制作スタッフとして実践する。
15		実習	卒業制作展DVD配布に伴う著作権を考える	卒業制作展での運営・制作スタッフとして実践する。
準備学習　時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。	

【使用教科書・教材・参考書】

個人作成によるパワーポイントファイルとプロジェクターを使用。

科目名	作編曲法 Basic 1	必修選択	選択	年次	2	担当教員	藤井丈司
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャー/音楽プロデューサー/ゲームミュージック	授業形態	講義・演習・実習等	総時間（単位）	30 2単位		
教員の略歴	プロデュース、アレンジ、ソングライティング、ギターなど、80年代中頃よりシンセサイザー・プログラマーとしてキャリアをスタートし、YMO、サザンオールスターズ等の作品に参加する。様々な分野で才能をマルチに発揮する日本を代表するアーティスト。						
授業の学習内容	作詞　作曲　アレンジ　録音　ミックス　楽曲制作の総合力をじっくりと身につける授業です。授業は提示された課題曲をテーマに、生徒が自由にオリジナル楽曲を作りながら進んでいきます。出来上がった楽曲は授業内で発表しお互いに活発な意見交換を行います。						
到達目標	歌詞のついたボーカル入りの楽曲制作がアレンジも含めて出来るようになる。 講師の修正リクエストに対応した制作能力を身につける。 前期では3曲のオリジナル曲を目標にします。						
評価方法と基準	1）定期テスト（筆記30%　実技70%）						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	ガイダンスと自分の好きな曲発表	
2		講義　演習	音楽の聴き方を身につける	
3		講義　演習	リズムとコード進行の基礎	次週課題提出
4		講義　課題提出	コードとメロディの基礎　　オリジナル曲デモ1提出	課題修正
5		講義　課題提出	インスト部分の作り方　　オリジナル曲デモ2提出	課題修正
6		講義　課題提出	歌詞の書き方　　ハモの付け方デモ3	課題修正
7		課題提出／発表	オリジナル曲①完成発表　意見交換	最終提出
8		講義	第2課題ーテーマ概説	次週課題提出
9		講義　課題提出	オリジナル曲②（曲のみ）提出～修正	課題修正
10		講義　課題提出	オリジナル曲②（アレンジ）提出～修正□	課題修正
11		課題提出／発表	リジナル曲②（歌詞付）提出　意見交換　夏休み課題	夏休み宿題に取り組む
12		課題提出／発表	夏休み制作③（歌詞付）提出	最終提出
13		振り返り	ここまでの振り返り　　秋休み課題発表	修正提出あり
14		講義・演習	ミュージカル「明日への扉」のSE,MEの作成	ミュージカル「明日への扉」のSE,MEの作成について、時間外にても作業を実施し、楽曲のブラッシュアップを図る。
15		講義・演習	ミュージカル「明日への扉」のBGMの作成	ミュージカル「明日への扉」のBGMの作成について、時間外にても作業を実施し、楽曲のブラッシュアップを図る。
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	作編曲法 Basic 2	必修選択	選択	年次	2	担当教員	藤井丈司
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャー/音楽プロデューサー/ゲームミュージック	授業形態	講義・演習・実習等	総時間（単位）	30 2単位		
教員の略歴	プロデュース、アレンジ、ソングライティング、ギターなど、80年代中頃よりシンセサイザー・プログラマーとしてキャリアをスタートし、YMO、サザンオールスターズ等の作品に参加する。様々な分野で才能をマルチに発揮する日本を代表するアーティスト。						
授業の学習内容	作詞　作曲　アレンジ　録音　ミックス　楽曲制作の総合力をじっくりと身につける授業です。後期はフルサイズの楽曲制作とグループ制作を中心に行います。出来上がった楽曲は授業内で発表しお互いに活発な意見交換を行います。						
到達目標	イントロ、間奏、カウンターメロディなど、よりプロ志向の楽曲制作が出来るようになる。 自分の目指した楽曲を作り、世の中にしっかりと発表していける制作能力を身につける。 秋学期も3曲のオリジナル曲を目標にします。						
評価方法と基準	1）定期テスト（筆記30%　実技70%）						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義	秋休み課題④発表	意見交換への準備
2		講義　演習	第5課題フルサイズ　楽曲構築のやり方	次週課題提出
3		講義　演習	ワンコーラスの提出　リズムとコード進行の基礎	課題修正
4		講義　課題提出	アレンジとフルサイズのデモを提出	課題修正
5		講義　課題提出	フルサイズの修正　歌詞提出と修正	課題修正
6		講義　課題提出	最終段階のデモ提出とミックスの修正をします。	課題修正
7		課題提出／発表	オリジナル曲⑤発表　意見交換	最終提出
8		講義	第6課題（グループ制作）の説明	次週課題提出
9		講義　課題提出	グループ内の組織と、どんなテーマを持って作っていくのかを発表します。	課題修正
10		講義　課題提出	ワンコーラスのデモをグループで発表します。意見交換と修正。	課題修正
11		課題提出／修正	フルサイズのデモをグループで発表します。意見交換と修正。	夏休み宿題あり
12		課題提出／修正	フルサイズ歌入りのデモを発表します。意見交換	最終提出
13		課題提出／発表	グループ制作⑥最終　振り返り	
14		講義・演習	卒業制作展においてSE制作を行う。	時間外にて学内及び自宅にて主体的に制作に取り組む。
15		講義・演習	卒業制作展においてBGM制作を行う。	時間外にて学内及び自宅にて主体的に制作に取り組む。
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	生楽器知識　1	必修選択	選択	年次	2	担当教員	隼田義博
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャー/音楽プロデューサー/ゲームミュージック/レコーディング&PA	授業形態	講義・実習	総時間（単位）	30 2単位		
教員の略歴	マイアミ大学音楽学部卒業。ジャズ・ミュージカルの作編曲、マルチメディア音源を音楽ライブラリ各社よりリリース、Discovery、National Geographic、FOX、FOX Sports、BBC、MTV、SONY Picturesなどをはじめとする国内外の各TV局の番組、プロモ、また映画のトレーラー等で多数使用される。						
授業の学習内容	一年を通して、リズムセクションそしてオーケストラ全ての管弦打楽器のプロの奏者を毎回順番にゲストに招き、楽器の実演と解説を聞き、質疑応答を通して楽器の特性や奏法の知識習得を目指します。サンプルライブラリの技術革新のおかげで生楽器を実際に使用する機会が少なくなった昨今、そうした知識を持つクリエイターやエンジニアは非常に有益です。この生楽器知識で得た情報は、作編曲・エンジニアリングをテーマとするどの授業であれ役立つものであり、また、自身のミュージシャンとしての学習過程において様々な場面で役立つ機会が幾度となく訪れると信じます。						
到達目標	リズムセクションと金管楽器の各楽器の形状、名前、音色をきちんと把握している。 リズムセクションと金管楽器の各楽器の音域、特性、奏法について説明することができる。 リズムセクションと金管楽器の各楽器のアンサンブルにおける役割を説明できる。 楽器の特性をしったうえで正しく作編曲およびレコーディング・ミキシングを実践できる。						
評価方法と基準	1）定期テスト（筆記60%　実技40%）						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1		講義	授業の心構えとガイダンス。各種楽器の分類とアンサンブルの形態について正しく説明することができる。	授業の心構えとガイダンス。各種楽器の分類とアンサンブルの形態について正しく説明することができる。振り返りと自習
2		講義	リズムセクション1：ドラムセットの各種パーツの役割、音域、音色、奏法について説明できる。	リズムセクション1：ドラムセットの各種パーツの役割、音域、音色、奏法について説明できる。振り返りと自習
3		講義	リズムセクション2：エレキベース、アコースティックベースの役割、音域、音色、奏法、各種パーツの役割について説明できる。	リズムセクション2：エレキベース、アコースティックベースの役割、音域、音色、奏法、各種パーツの役割について説明できる。振り返りと自習
4		講義	リズムセクション3：エレキギター、アコースティックギターの役割、音域、音色、奏法、各種パーツの役割について説明できる。	リズムセクション3：エレキギター、アコースティックギターの役割、音域、音色、奏法、各種パーツの役割について説明できる。振り返りと自習
5		講義	リズムセクション4：ピアノ、キーボードの役割、音域、音色、奏法、役割について説明できる。	リズムセクション4：ピアノ、キーボードの役割、音域、音色、奏法、役割について説明できる。振り返りと自習
6		講義	リズムセクション5：実際にグランドピアノ、アップライトピアノを見学に行き、その仕組みを学ぶ。（タカギクラヴィア訪問）	リズムセクション5：実際にグランドピアノ、アップライトピアノを見学に行き、その仕組みを学ぶ。（タカギクラヴィア訪問）振り返りと自習
7		講義	リズムセクション6：主にジャズポピュラーの現場におけるパーカッションの種類や役割について説明できる。	リズムセクション6：主にジャズポピュラーの現場におけるパーカッションの種類や役割について説明できる。振り返りと自習
8		講義	シンガー：男性女性シンガーの音域や歌唱法、アンサンブルにおける役割などを学び、説明できる。	シンガー：男性女性シンガーの音域や歌唱法、アンサンブルにおける役割などを学び、説明できる。振り返りと自習
9		講義	金管楽器1：トランペットとフリューゲルホルンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	金管楽器1：トランペットとフリューゲルホルンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習
10		講義	金管楽器2：トロンボーンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	金管楽器2：トロンボーンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習
11		講義	金管楽器3：ホルンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	金管楽器3：ホルンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習
12		講義	金管楽器4：チューバの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	金管楽器4：チューバの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習
13		講義・試験	前期を通して学習した各楽器に関するふりかえり、筆記試験の実施と解説。	
14		講義・実習	ミュージカルを想定したSEの制作、これまで学習した楽器を4つ以上使用	ミュージカルを想定したSEの制作、これまで学習した楽器を4つ以上使用しての創作活動
15		講義・実習	ミュージカルを想定した30～60秒サイズのBGMの制作、これまで学習した楽器を4つ以上使用	ミュージカルを想定した30～60秒サイズのBGMの制作、これまで学習した楽器を4つ以上使用しての創作活動
準備学習　時間外学習			リスニング課題として、毎回学習した楽器に関する曲を提示します。	

【使用教科書・教材・参考書】

参考書として：「はじめてのオーケストラ・スコア」 野本由紀夫（音楽之友社）

科目名	生楽器知識 2	必修選択	選択	年次	2	担当教員	隼田義博
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャー/音楽プロデューサー/ゲームミュージック/レコーディング&PA	授業形態	講義・実習	総時間（単位）	30 2単位		
教員の略歴	マイアミ大学音楽学部卒業。ジャズ・ミュージカルの作編曲、マルチメディア音源を音楽ライブラリ各社よりリリース、Discovery、National Geographic、FOX、FOX Sports、BBC、MTV、SONY Picturesなどをはじめとする国内外の各TV局の番組、プロモ、また映画のトレーラー等で多数使用される。						
授業の学習内容	一年を通して、リズムセクションそしてオーケストラ全ての管弦打楽器のプロの奏者を毎回順番にゲストに招き、楽器の実演と解説を聞き、質疑応答を通して楽器の特性や奏法の知識習得を目指します。サンプルライブラリの技術革新のおかげで生楽器を実際に使用する機会が少なくなった昨今、そうした知識を持つクリエイターやエンジニアは非常に有益です。この生楽器知識で得た情報は、作編曲・エンジニアリングをテーマとするどの授業であれ役立つものであり、また、自身のミュージシャンとしての学習過程において様々な場面で役立つ機会が幾度となく訪れると信じます。						
到達目標	木管楽器と弦楽器の各楽器の形状、名前、音色をきちんと把握している。 木管楽器と弦楽器の各楽器の音域、特性、奏法について説明することができる。 木管楽器と弦楽器の各楽器のアンサンブルにおける役割を説明できる。 楽器の特性をしったうえで正しく作編曲およびレコーディング・ミキシングを実践できる。						
評価方法と基準	1）定期テスト（筆記60%　実技40%）						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1		講義	木管楽器1：サックスの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	木管楽器1：サックスの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習
2		講義	木管楽器2：フルートの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	木管楽器2：フルートの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習
3		講義	木管楽器3：オーボエの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	木管楽器3：オーボエの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習
4		講義	木管楽器4：クラリネットの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	木管楽器4：クラリネットの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習
5		講義	木管楽器5：ファゴットの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	木管楽器5：ファゴットの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習
6		講義	弦楽器1：バイオリンとビオラの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	弦楽器1：バイオリンとビオラの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習
7		講義	弦楽器2：チェロの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	弦楽器2：チェロの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習
8		講義	弦楽器3：コントラバスの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	弦楽器3：コントラバスの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習
9		講義	弦楽器4：ハープの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	弦楽器4：ハープの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習
10		講義	その他の楽器1：アコーディオンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	その他の楽器1：アコーディオンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習
11		講義	その他の楽器2：三味線の歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	次週のプレゼンテーションに向けた各自まとめ作業
12		講義	後期に学習した各楽器をふりかえり、学習した内容を各自がまとめプレゼンテーションをおこなう。	試験に向けた振り返りと自習
13		講義・試験	1年間を通して学習した各楽器に関する筆記試験の実施と解説。	
14		講義・実習	卒業進級制作展を想定したSEの制作、これまで学習した楽器の要素を6つ以上使用すること	卒業進級制作展を想定したSEの制作に伴う創作活動
15		講義・実習	卒業進級制作展を想定した30～60秒サイズのBGMの制作、これまで学習した楽器の要素を6つ以上使用すること	卒業進級制作展を想定した30～60秒サイズのBGMの制作に伴う創作活動
準備学習　時間外学習			リスニング課題として、毎回学習した楽器に関する曲を提示します。	

【使用教科書・教材・参考書】

参考書として：「はじめてのオーケストラ・スコア」 野本由紀夫（音楽之友社）

科目名	インストゥルメンテーション　1	必修選択	選択	年次	2	担当教員	隼田義博
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャー／音楽プロデューサー／ゲームミュージック	授業形態	講義・実習	総時間（単位）	60 4単位		
教員の略歴	マイアミ大学音楽学部卒業。ジャズ・ミュージカルの作編曲、マルチメディア音源を音楽ライブラリ各社よりリリース、Discovery、National Geographic、FOX、FOX Sports、BBC、MTV、SONY Picturesなどをはじめとする国内外の各TV局の番組、プロモ、また映画のトレーラー等で多数使用される。						
授業の学習内容	この授業の直前のコマにおこなわれる「生楽器知識」であつかう楽器と連動し、その日に見た楽器についてさらに掘り下げながら、音域、奏法、音色、そしてその楽器のスコアリング等について総合的に学習します。オーケストラ、ビッグバンドのスコアなどを読み解きながら、DAWでのよりリアルな制作ができるよう、そしてレコーディングに必要なスコアを書くことをめざします。前期はリズムセクションと金管楽器について学習します。						
到達目標	リズムセクション、金管楽器の各楽器において、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。 様々なジャンルやスタイルにあわせた楽器のアレンジをサウンドで認識できる。						
評価方法と基準	1）定期テスト（筆記30%　実技70%）						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1		講義	授業の心構えとガイダンス。管弦打楽器の分類と、オーケストラとビッグバンドの編成について正しく説明することができる。	授業の心構えとガイダンス。管弦打楽器の分類と、オーケストラとビッグバンドの編成について正しく説明することができる。振り返りと自習
2		講義	ドラムの記譜について理解があり、ジャンルやスタイルに合わせたドラムのグルーヴについて認識できる。	ドラムの記譜について理解があり、ジャンルやスタイルに合わせたドラムのグルーヴについて認識できる。振り返りと自習
3		講義	ベースの記譜について理解があり、ジャンルやスタイルに合わせたベースのアレンジについて基礎的な理解がある。	ベースの記譜について理解があり、ジャンルやスタイルに合わせたベースのアレンジについて基礎的な理解がある。振り返りと自習
4		講義	ギターの記譜について理解があり、ジャンルやスタイルに合わせたギターのアレンジについて基礎的な理解がある。	ギターの記譜について理解があり、ジャンルやスタイルに合わせたギターのアレンジについて基礎的な理解がある。振り返りと自習
5		講義	ピアノ・キーボードの記譜について理解があり、ジャンルやスタイルに合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。	ピアノ・キーボードの記譜について理解があり、ジャンルやスタイルに合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。振り返りと自習
6		講義	リズムセクションのスコアをひもときながらその処方の確認、様々なジャンルやスタイルのアレンジについて基礎的な理解がある。	リズムセクションのスコアをひもときながらその処方の確認、様々なジャンルやスタイルのアレンジについて基礎的な理解がある。振り返りと自習
7		講義	パーカッションの記譜について理解があり、ジャンルやスタイルに合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。	パーカッションの記譜について理解があり、ジャンルやスタイルに合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。振り返りと自習
8		講義	シンガーのための記譜について理解があり、小編成からクワイヤーまで様々なジャンルやスタイルに合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。	シンガーのための記譜について理解があり、小編成からクワイヤーまで様々なジャンルやスタイルに合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。振り返りと自習
9		講義	トランペットの記譜について理解があり、様々なジャンルやスタイルに合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。	トランペットの記譜について理解があり、様々なジャンルやスタイルに合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。振り返りと自習
10		講義	トロンボーンの記譜について理解があり、様々なジャンルやスタイルに合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。	トロンボーンの記譜について理解があり、様々なジャンルやスタイルに合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。振り返りと自習
11		講義	ホルンの記譜について理解があり、様々なジャンルやスタイルに合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。	ホルンの記譜について理解があり、様々なジャンルやスタイルに合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。振り返りと自習
12		講義	チューバの記譜について理解があり、様々なジャンルやスタイルに合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。	チューバの記譜について理解があり、様々なジャンルやスタイルに合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。振り返りと自習
13		講義・試験	前期を通して学習した各楽器に関するふりかえり、筆記試験の実施と解説。	
14		講義・実習	ミュージカルを想定したSEの制作、これまで学習した楽器を4つ以上使用	ミュージカルを想定したSEの制作、これまで学習した楽器を4つ以上使用しての創作活動
15		講義・実習	ミュージカルを想定した30～60秒サイズのBGMの制作、これまで学習した楽器を4つ以上使用	ミュージカルを想定した30～60秒サイズのBGMの制作、これまで学習した楽器を4つ以上使用しての創作活動
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	インストゥルメンテーション　2	必修選択	選択	年次	2	担当教員	隼田義博
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャー／音楽プロデューサー／ゲームミュージック	授業形態	講義・実習	総時間（単位）	60 4単位		
教員の略歴	マイアミ大学音楽学部卒業。ジャズ・ミュージカルの作編曲、マルチメディア音源を音楽ライブラリ各社よりリリース、Discovery、National Geographic、FOX、FOX Sports、BBC、MTV、SONY Picturesなどをはじめとする国内外の各TV局の番組、プロモ、また映画のトレーラー等で多数使用される。						
授業の学習内容	この授業の直前のコマにおこなわれる「生楽器知識」であつかう楽器と連動し、その日に見た楽器についてさらに掘り下げながら、音域、奏法、音色、そしてその楽器のスコアリング等について総合的に学習します。オーケストラ、ビッグバンドのスコアなどを読み解きながら、DAWでのよりリアルな制作ができるよう、そしてレコーディングに必要なスコアを書くことをめざします。後期は木管楽器と弦楽器について学習します。						
到達目標	木管楽器、弦楽器の各楽器において、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。 様々なジャンルやスタイルにあわせた楽器のアレンジをサウンドで認識できる。						
評価方法と基準	1）定期テスト（筆記30%　実技70%）						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1		講義	サックスの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。	サックスの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。振り返りと自習
2		講義	フルート、ピッコロの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。	フルート、ピッコロの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。振り返りと自習
3		講義	オーボエ、イングリッシュホルンの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。	オーボエ、イングリッシュホルンの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。振り返りと自習
4		講義	クラリネット、バスクラリネットの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。	クラリネット、バスクラリネットの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。振り返りと自習
5		講義	ファゴット、コントラファゴットの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。	ファゴット、コントラファゴットの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。振り返りと自習
6		講義	バイオリンとビオラの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。	バイオリンとビオラの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。振り返りと自習
7		講義	チェロの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。	チェロの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。振り返りと自習
8		講義	コントラバスの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。	コントラバスの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。振り返りと自習
9		講義	ハープの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。	ハープの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。振り返りと自習
10		講義	諸外国の様々な民族楽器について考察。その歴史、音域、音色、奏法、アレンジなどを幅広く教養的に理解する。	諸外国の様々な民族楽器について考察。その歴史、音域、音色、奏法、アレンジなどを幅広く教養的に理解する。振り返りと自習
11		講義	生楽器以外の様々なサウンドデザインの素材について考察。シンセやエフェクトを用いてのサウンドFXの制作について。	プレゼンテーション準備
12		講義	1年間通して学習した全ての楽器の振り返りと、学習した内容を各自がまとめプレゼンテーションをおこなう。	試験準備
13		講義・試験	後期を通して学習した各楽器に関するふりかえり、筆記試験の実施と解説。	
14		講義・実習	ミュージカルを想定したSEの制作、これまで学習した楽器を4つ以上使用	ミュージカルを想定したSEの制作、これまで学習した楽器を4つ以上使用しての創作活動
15		講義・実習	ミュージカルを想定した30～60秒サイズのBGMの制作、これまで学習した楽器を4つ以上使用	ミュージカルを想定した30～60秒サイズのBGMの制作、これまで学習した楽器を4つ以上使用しての創作活動
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	ProTools Advance 1	必修選択	必修・選択必修・選択等	年次	2	担当教員	大村
学科・コース	音楽テクノロジー学科・レコーディング&PA	授業形態	講義・演習・実習等	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	レコーディングエンジニア歴24年						
授業の学習内容	業界の録音標準のアプリProToolsを、より実践的技術とスピードでオペレーションできるようにする						
到達目標	1曲の音楽制作過程のプリプロ段階からマスタングまでをProToolsを使用し、プロと同等のクオリティーで仕上げられる事ができる。						
評価方法と基準	1）定期テスト（実技）60%　2）定期テスト（筆記）40% プロレベルのスピード、正確性、クオリティーでのProToolsセッションのオペレーションで出来るようにする						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1		講義と演習	DAWルームの回線、I/Oを理解する	DAWルームの回線、I/Oを理解する 振り返り
2		講義と演習	新規セッションから5分でVoダビング出来るようにする	新規セッションから5分でVoダビング出来るようにする 振り返りと自習
3		講義と演習	プロレベルのVoダビング作業を出来るようにする	プロレベルのVoダビング作業を出来るようにする 振り返りと自習
4		講義と演習	Voダビング作業の効率化を行えるようにする	Voダビング作業の効率化を行えるようにする 振り返りと自習
5		講義と演習	ダビング終了から10分でコンピング終了出来るようにする	ダビング終了から10分でコンピング終了出来るようにする 振り返りと自習
6		講義と演習	円滑なVo、Choダビングのオペレーションをする	円滑なVo、Choダビングのオペレーションをする 振り返りと自習
7		講義と演習	新規マルチトラックから10分でダビングスタート出来るようにする	新規マルチトラックから10分でダビングスタート出来るようにする 振り返りと自習
8		講義と演習	VoのEDIT作業工程を理解する	VoのEDIT作業工程を理解する 振り返りと自習
9		講義と演習	VoのタイミングEDITを出来るようにする	VoのタイミングEDITを出来るようにする 振り返りと自習
10		講義と演習	VoのピッチEDIT工程を理解する	VoのピッチEDIT工程を理解する 振り返りと自習
11		講義と演習	VoのピッチEDITが出来るようにする	VoのピッチEDITが出来るようにする 振り返りと自習
12		講義と演習	Voのフォルマントを意識したEDITを理解する	Voのフォルマントを意識したEDITを理解する 振り返りと自習
13		試験	VoのピッチEDIT作業の実技テスト	これまでの授業を通じて学んだポイントをポートフォリオとしてまとめる
14		講義と演習	ミュージカルのライブレコーディングのシステム構築及びProToolsセッション作成について	ミュージカルのライブレコーディングのセッション作成について 振り返りと自習
15		講義と演習	ミュージカルのライブレコーディングセッションの編集と管理	ミュージカルのライブレコーディングセッションの編集と管理について 振り返りと自習
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

専用プリント

科目名	ProTools Advance	必修選択	必修・選択必修・選択等	年次	2	担当教員	大村
学科・コース	音楽テクノロジー学科・レコーディング&PA	授業形態	講義・演習・実習等	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	レコーディングエンジニア歴24年						
授業の学習内容	業界の録音標準のアプリProToolsを、より実践的技術とスピードでオペレーションできるようにする						
到達目標	1曲の音楽制作過程のプリプロ段階からマスタングまでをProToolsを使用し、プロと同等のクオリティーで仕上げられる事ができる。						
評価方法と基準	1）定期テスト（実技）60%　2）定期テスト（筆記）40% プロレベルのスピード、正確性、クオリティーでのProToolsセッションのオペレーションで出来るようにする						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1		講義と演習	マルチオーディオインポートからセッションのセッティングを	マルチオーディオインポートからセッションのセッティングをマスターする 振り返りと自習
2		講義と演習	高度なセッションセッティングを出来るようにする	高度なセッションセッティングを出来るようにする 振り返りと自習
3		講義と演習	アレンジャーとのAudioのやりとりを理解する	アレンジャーとのAudioのやりとりを理解する 振り返りと自習
4		講義と演習	アレンジャーとのAudioのやりとりを実践できるようにする	アレンジャーとのAudioのやりとりを実践できるようにする 振り返りと自習
5		講義と演習	プリプロ段階での曲のEDITを理解する	プリプロ段階での曲のEDITを理解する 振り返りと自習
6		講義と演習	プリプロから本番までのEDITを理解する	プリプロから本番までのEDITを理解する 振り返りと自習
7		講義と演習	本番でのブラッシュアップEDIT作業を理解する	本番でのブラッシュアップEDIT作業を理解する 振り返りと自習
8		講義と演習	本番のブラッシュアップ作業を出来るようにする	本番のブラッシュアップ作業を出来るようにする 振り返りと自習
9		講義と演習	実際に0からの楽曲制作での基本技術を理解する	実際に0からの楽曲制作での基本技術を理解する 振り返りと自習
10		講義と演習	0から楽曲をファイナルミックスまで持っていくことを出来る	0から楽曲をファイナルミックスまで持っていくことを出来るようにする 振り返りと自習
11		講義と演習	ファイナルミックスクオリティーをプロレベルまで持っていけ	ファイナルミックスクオリティーをプロレベルまで持っていけるようにする 振り返りと自習
12		講義と演習	マスター制作作業を出来るようにする	マスター制作作業を出来るようにする 振り返りと自習
13		試験	EDITとミックス完成までの実技テスト	これまでの授業を通じて学んだポイントをポートフォリオとしてまとめる
14		講義と演習	卒業進級制作のライブレコーディングのシステム構築及びProToolsセッション作成について	卒業進級制作のライブレコーディングに向けたシステム構築及びProToolsセッション作成について　振り返りと自習
15		講義と演習	卒業進級制作のライブレコーディングセッションの編集と管	卒業進級制作のライブレコーディングセッションの編集と管理について 振り返りと自習
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

専用プリント

科目名	サウンドメイキング　1	必修選択	選択	年次	2	担当教員	今関邦裕
学科・コース	音楽テクノロジー科・作曲&アレンジャー/音楽プロデューサー/ゲームミュージック/レコーディング&PA	授業形態	講義・演習・実習	総時間（単位）	60 4単位		
教員の略歴	フリーランスのサウンドエンジニア。2015年4月よりTSMで講師を始める。						
授業の学習内容	ミキシングの基礎知識、応用、ミキシングの観点からアレンジやレコーディングの重要性を学ぶ。作曲コースのコンペ授業での反省とアドバイス、実演を交えてミキシングによる伝え方を学ぶ。ジャンルという枠にとらわれず、音楽の聴き方を学び様々な音楽に触れる。						
到達目標	楽曲の在り方をミキシングの視点から感じる。　楽曲が伝えたい事を作り手の立場になって一・制作者になる。楽曲が持つ可能性を広げる。						
評価方法と基準	1）定期テスト（実技試験：100%）						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・演習・実演	サウンドエンジニアから見る音楽ビジネスの説明と音楽のあり方と表現の仕方①	※作曲家コースは自作曲・プリプロの授業を取ってる生徒は
2		講義・演習・実演	サウンドエンジニアから見る音楽ビジネスの説明と音楽のあり方と表現の仕方②	課題曲のパラデータを常に用意しておく事。
3		講義・演習・実演	Consolenの使い方① 基礎。ミキシング理論①	※RECコースも常に参考曲を用意できるよう心がける事。
4		講義・演習・実演	Consolenの使い方② 基礎。ミキシング理論②	
5		講義・演習・実演	Consolenの使い方③ 基礎。ミキシング理論③	※150分の中で自作曲のレコーディングがしたい生徒は
6		講義・演習・実演	Consolenの使い方④ 基礎。ミキシング理論④	前もって言えば授業で扱います。
7		講義・演習・実演	マイキング・ミキシングのアプローチ方法。プリプロの改善。エフェクトの使い方1。	
8		講義・演習・実演	マイキング・ミキシングのアプローチ方法。プリプロの改善。エフェクトの使い方2。	
9		講義・演習・実演	マイキング・ミキシングのアプローチ方法。プリプロの改善。エフェクトの使い方3。	
10		講義・演習・実演	マイキング・ミキシングのアプローチ方法。プリプロの改善。エフェクトの使い方4。	
11		講義・演習・実演	マイキング・ミキシングのアプローチ方法。プリプロの改善。エフェクトの使い方5。	
12		講義・演習・実演	マイキング・ミキシングのアプローチ方法。プリプロの改善。エフェクトの使い方6。	
13		試験	ミキシングの応用技術を活かしたプリプロ提出楽曲のリミックス作品提出	
14		講義・演習	ミュージカルのライブレコーディングのシステム構築及びProToolsセッション作成について	ミュージカルのライブレコーディングのセッション作成について振り返りと自習
15		講義・演習	ミュージカルのライブレコーディングセッションの編集と管理について	ミュージカルのライブレコーディングセッションの編集と管理について振り返りと自習
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	サウンドメイキング　2	必修選択	選択	年次	2	担当教員	今関邦裕
学科・コース	音楽テクノロジー科・作曲&アレンジャー/音楽プロデューサー/ゲームミュージック/レコーディング&PA	授業形態	講義・演習・実習	総時間（単位）	60 4単位		
教員の略歴	フリーランスのサウンドエンジニア。2015年4月よりTSMで講師を始める。						
授業の学習内容	ミキシングの基礎知識、応用、ミキシングの観点からアレンジやレコーディングの重要性を学ぶ。作曲コースのコンペ授業での反省とアドバイス、実演を交えてミキシングによる伝え方を学ぶ。ジャンルという枠にとらわれず、音楽の聴き方を学び様々な音楽に触れる。						
到達目標	楽曲の在り方をミキシングの視点から感じる。　楽曲が伝えたい事を作り手の立場になって一・制作者になる。楽曲が持つ可能性を広げる。						
評価方法と基準	1）定期テスト（実技試験：100%）						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・演習・実演	マイキング・ミキシングのアプローチ方法。プリプロの改善。エフェクトの使い方8。	※作曲家コースは自作曲・プリプロの授業を取ってる生徒は
2		講義・演習・実演	マイキング・ミキシングのアプローチ方法。プリプロの改善。エフェクトの使い方9。	課題曲のパラデータを常に用意しておく事。
3		講義・演習・実演	マイキング・ミキシングのアプローチ方法。プリプロの改善。エフェクトの使い方10。	※RECコースも常に参考曲を用意できるよう心がける事。
4		講義・演習・実演	マイキング・ミキシングのアプローチ方法。プリプロの改善。エフェクトの使い方11。	
5		講義・演習・実演	マイキング・ミキシングのアプローチ方法。プリプロの改善。エフェクトの使い方12。	※150分の中で自作曲のレコーディングがしたい生徒は
6		講義・演習・実演	マイキング・ミキシングのアプローチ方法。プリプロの改善。エフェクトの使い方13。	前もって言えば授業で扱います。
7		講義・演習・実演	マイキング・ミキシングのアプローチ方法。プリプロの改善。エフェクトの使い方14。	
8		講義・演習・実演	マイキング・ミキシングのアプローチ方法。プリプロの改善。エフェクトの使い方15。	
9		講義・演習・実演	マイキング・ミキシングのアプローチ方法。プリプロの改善。エフェクトの使い方16。	
10		講義・演習・実演	マイキング・ミキシングのアプローチ方法。プリプロの改善。エフェクトの使い方17。	
11		講義・演習・実演	マイキング・ミキシングのアプローチ方法。プリプロの改善。エフェクトの使い方18。	
12		講義・演習・実演	マイキング・ミキシングのアプローチ方法。プリプロの改善。エフェクトの使い方19。	
13		試験	ミキシングの応用技術を活かしたプリプロ提出楽曲のリミックス作品提出	
14		講義・演習	卒業進級制作のライブレコーディングのシステム構築及びProToolsセッション作成について	卒業進級制作のライブレコーディングに向けたシステム構築及びProToolsセッション作成について　振り返りと自習
15		講義・演習	卒業進級制作のライブレコーディングセッションの編集と管理について	卒業進級制作のライブレコーディングセッションの編集と管理について 振り返りと自習
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	MA&ラジオ番組制作　1	必修選択	選択	年次	2.3	担当教員	松浦敏昭
学科・コース	音楽テクノロジー・レコーディング&PA	授業形態	講義・演習等	総時間（単位）	60 4単位		
教員の略歴	ビクター青山スタジオでのマスタリング・エンジニアを経てラジオ業界へ。ディレクターとパーソナリティーを務め、有名企業のCMナレーションも担当。						
授業の学習内容	映像に音楽やナレーションをマルチトラックで録音する、MAの基礎を学ぶ。PRO TOOLSの基本操作。パンチ・インとトラックダウン。　ラジオ番組の企画、構成、制作の基礎を学ぶ。ナレーションの滑舌とイントネーションやフリートークの組み立て。						
到達目標	映画やアニメのアフレコ、ナレーションなど、収録内容に応じたマイクセッテイングとディレクション、PRO TOOLSの操作を身につける。　ラジオ番組制作において、収録と生放送の違いを学び、起承転結を踏まえた話の組み立てが出来るようになる。						
評価方法と基準	1）定期テスト（実技試験：100%）						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1		講義・演習	シラバス概要　スタジオのシステム構成　マイクアレンジ	シラバス概要　スタジオのシステム構成　マイクアレンジ 振り返りと自習。
2		講義・演習	ドキュメンタリー番組のMA演習	ドキュメンタリー番組のMA演習 振り返りと自習。
3		講義・演習	ラジオ　AMとFM　ステレオの定位　ナレーション練習	ラジオ番組を聞いて、レポート提出
4		講義・演習	LEGO ムービーの吹き替えMA演習　基礎	LEGO ムービーの吹き替えMA演習　基礎 振り返りと自習。
5		講義・演習	LEGO ムービーの吹き替えMA演習　応用	LEGO ムービーの吹き替えMA演習　応用 振り返りと自習。
6		講義・演習	ラジオ　ナレーション収録　ニュース原稿	ラジオ番組を聞いて、レポート提出
7		講義・演習	テレビ番組のMA演習　基礎	テレビ番組のMA演習　基礎 振り返りと自習。
8		講義・演習	テレビ番組のMA演習　応用	テレビ番組のMA演習　応用 振り返りと自習。
9		講義・演習	ラジオ　プロツールス　音楽編集　コマーシャル　告知原稿	ラジオ番組を聞いて、レポート提出
10		講義・演習	外国映画の吹き替えMA演習	外国映画の吹き替えMA演習 振り返りと自習。
11		講義・演習	ラジオ　プロツールス　ジングル制作　イントロ紹介	ラジオ番組を聞いて、レポート提出
12		試験	授業のまとめ　試験	
13		講義・演習	テレビ番組のMA演習　ラジオ収録番組シミュレーション	振り返りレポートまとめ、次回授業時に提出。
14		講義・演習	ミュージカルのライブレコーディングのMAシステム構築及びProToolsセッション作成について	ミュージカルのライブレコーディングのMAシステム構築及びProToolsセッション作成について 振り返りと自習。
15		講義・演習	ミュージカルのライブレコーディングセッションのMA編集と管理について	ミュージカルのライブレコーディングセッションのMA編集と管理について 振り返りと自習。
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	MA&ラジオ番組制作　2	必修選択	選択	年次	2.3	担当教員	松浦敏昭
学科・コース	音楽テクノロジー・レコーディング&PA	授業形態	講義・演習等	総時間（単位）	60 4単位		
教員の略歴	ビクター青山スタジオでのマスタリング・エンジニアを経てラジオ業界へ。ディレクターとパーソナリティーを務め、有名企業のCMナレーションも担当。						
授業の学習内容	映像に音楽やナレーションをマルチトラックで録音する、MAの基礎を学ぶ。PRO TOOLSの基本操作。パンチ・インとトラックダウン。　ラジオ番組の企画、構成、制作の基礎を学ぶ。ナレーションの滑舌とイントネーションやフリートークの組み立て。						
到達目標	映画やアニメのアフレコ、ナレーションなど、収録内容に応じたマイクセッテイングとディレクション、PRO TOOLSの操作を身につける。　ラジオ番組制作において、収録と生放送の違いを学び、起承転結を踏まえた話の組み立てが出来るようになる。						
評価方法と基準	1）定期テスト（実技試験：100%）						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1		講義・演習	ドキュメンタリー番組のMA演習　基礎	ドキュメンタリー番組のMA演習　基礎 振り返りと自習。
2		講義・演習	ドキュメンタリー番組のMA演習　応用	ドキュメンタリー番組のMA演習　応用 振り返りと自習。
3		講義・演習	ラジオ　生放送のシミュレーション　フリートーク	ラジオ番組を聞いて、レポート提出
4		講義・演習	LEGO ムービーの吹き替えMA演習　基礎	LEGO ムービーの吹き替えMA演習　基礎 振り返りと自習。
5		講義・演習	LEGO ムービーの吹き替えMA演習　応用	LEGO ムービーの吹き替えMA演習　応用 振り返りと自習。
6		講義・演習	ラジオ　生放送のシミュレーション　フリートーク	ラジオ番組を聞いて、レポート提出
7		講義・演習	テレビ番組のMA演習　基礎	テレビ番組のMA演習　基礎 振り返りと自習。
8		講義・演習	テレビ番組のMA演習　応用	テレビ番組のMA演習　応用 振り返りと自習。
9		講義・演習	ラジオ　プロツールス　ジングル制作　ニュース原稿	ラジオ番組を聞いて、レポート提出
10		講義・演習	外国映画の吹き替えMA演習　基礎	外国映画の吹き替えMA演習　基礎 振り返りと自習。
11		講義・演習	外国映画の吹き替えMA演習　応用	ラジオ番組を聞いて、レポート提出
12		試験	授業のまとめ　試験	
13		講義・演習	テレビ番組のMA演習　ラジオ生放送シミュレーション	振り返りレポートまとめ、次回授業時に提出。
14		講義・演習	卒業進級制作のライブレコーディングのMAシステム構築及びProToolsセッション作成について	卒業進級制作のライブレコーディングに向けたMAシステム構築及びProToolsセッション作成について　振り返りと自習
15		講義・演習	卒業進級制作のライブレコーディングセッションのMA編集と管理について	卒業進級制作のライブレコーディングセッションのMA編集と管理について 振り返りと自習
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Rec Advance 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	前田基彦
学科・ｺｰｽ	音楽テクノロジー・レコーディング＆PA	授業 形態	演習	総時間 （単位）	120 8単位		
教員の略歴	フリーランスエンジニア。自身のスタジオを中心に活動。バンド/声優/劇伴/映画サラウンド等幅広いジャンルに関わる。						
授業の学習内容	エンジニアの仕事に関わる上達項目を習得する授業です。上達知識を得る事で他科目の深い理解を深められます。難しい項目満載ですが判りやすく授業をしますので頑張って参加し学習してください。実技と座学で機材＆音との接しかたや楽曲の捉え方まで多義に渡り解説します。服装はエンジニアリングを行うにふさわしい格好（行動しやすい靴や服で参加する事。スカートは避ける事。） 持ち物は、①授業内で使用する音源等持ち帰り用 USBメモリ・ハードディスクなどの外部記憶媒体　②自分のリファレンス（基準）となるヘッドフォンまたはイヤホン（接続はTRSまたはミニTRS）						
到達目標	レコーディングの実践ワークフロー理解、機材の上級使用方法習得、レコーディング業界標準のProtools(プロツールス)の現場レベルの使用方法習得。						
評価方法と基準	1）定期テスト（実技試験：100%）						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	1年間の計画　セッティングトレーニング	1年間の計画　セッティングトレーニング 振り返りと自習。
2		演習	セッティングトレーニング	セッティングトレーニング 振り返りと自習。
3		演習	レコーディングセッティングについて	レコーディングセッティングについて 振り返りと自習。
4		演習	レコーディング演習	レコーディング演習 振り返りと自習。
5		演習	ヴォーカルピッチ修正	ヴォーカルピッチ修正 振り返りと自習。
6		演習	ミックスダウン演習	ミックスダウン演習 振り返りと自習。
7		演習	3Pバンドレコーディング演習	3Pバンドレコーディング演習 振り返りと自習。
8		演習	3Pバンドレコーディング＆ミキシング	3Pバンドレコーディング＆ミキシング 振り返りと自習。
9		演習	4Pバンドレコーディング	4Pバンドレコーディング 振り返りと自習。
10		演習	4Pバンドレコーディング＆ミキシング	4Pバンドレコーディング＆ミキシング 振り返りと自習。
11		演習	明日への扉に向けて　機材廻りの解説1	配布資料確認 MADI DANTE確認 振り返りと自習。
12		演習	明日への扉に向けて　機材廻りの解説2	システムプラン構築　フロー理解 振り返りと自習。
13		演習	総括としての演習試験	ノート復習
14		講義・演習	ミュージカルのライブレコーディングのシステム構築及びProToolsセッション作成について	ミュージカルのライブレコーディングのセッション作成について 振り返りと自習
15		講義・演習	ミュージカルのライブレコーディングセッションの編集と管理について	ミュージカルのライブレコーディングセッションの編集と管理について 振り返りと自習
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

JAPRS サウンドレコーディング技術概論　　Sound & Recording マガジン

科目名	Rec Advance 2	必修選択	選択	年次	2	担当教員	前田基彦
		授業形態	演習	総時間（単位）	120 8単位		
学科・コース	音楽テクノロジー・レコーディング＆PA						
教員の略歴	フリーランスエンジニア。自身のスタジオを中心に活動。バンド/声優/劇伴/映画サラウンド等幅広いジャンルに関わ						
授業の学習内容	エンジニアの仕事に関わる上達項目を習得する授業です。上達知識を得る事で他科目の深い理解を深められます。難しい項目満載ですが判りやすく授業をしますので頑張って参加し学習してください。実技と座学で機材＆音との接しかたや楽曲の捉え方まで多義に渡り解説します。服装はエンジニアリングを行うにふさわしい格好（行動しやすい靴や服で参加する事。スカートは避ける事。） 持ち物は、①授業内で使用する音源等持ち帰り用 USBメモリ・ハードディスクなどの外部記憶媒体　②自分のリファレンス（基準）となるヘッドフォンまたはイヤホン（接続はTRSまたはミニTRS）						
到達目標	レコーディングの実践ワークフロー理解、機材の上級使用方法習得、レコーディング業界標準のProtools(プロツールス)の現場レベルの使用方法習得。						
評価方法と基準	1）定期テスト（実技試験：100%）						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	明日への扉　ミックス作業　1 データ整理	明日への扉　ミックス作業　1 データ整理 振り返りと自習。
2		演習	明日への扉　ミックス作業　2 ノイズリダクション	明日への扉　ミックス作業　2 ノイズリダクション 振り返りと自習。
3		演習	明日への扉　ミックス作業　3 トリートメント	明日への扉　ミックス作業　3 トリートメント 振り返りと自習。
4		演習	明日への扉　ミックス作業　4 バランス調整	明日への扉　ミックス作業　4 バランス調整 振り返りと自習。
5		演習	5Pバンドレコーディング	5Pバンドレコーディング 振り返りと自習。
6		演習	ミックスダウン	ミックスダウン 振り返りと自習。
7		演習	明日への扉　ミックス作業　5 空間表現	明日への扉　ミックス作業　5 空間表現 振り返りと自習。
8		演習	明日への扉　ミックス作業　6 オートメーション	明日への扉　ミックス作業　6 オートメーション 振り返りと自習。
9		演習	卒業制作展代表バンドレコーディング	卒業制作展代表バンドレコーディング 振り返りと自習。
10		演習	卒業制作展代表バンドレコーディングダビング＆	卒業制作展代表バンドレコーディングダビング＆ミキシング 振り返りと自習。
11		演習	サラウンドについて	サラウンドについて 振り返りと自習。
12		演習	マスタリングについて	マスタリングについて 振り返りと自習。
13		演習	総括	ノート復習
14		講義・演習	卒業進級制作のライブレコーディングのシステム構築及びProToolsセッション作成について	卒業進級制作のライブレコーディングに向けたシステム構築及びProToolsセッション作成について　振り返りと自習
15		講義・演習	卒業進級制作のライブレコーディングセッションの編集と管理について	卒業進級制作のライブレコーディングセッションの編集と管理について 振り返りと自習
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

JAPRS サウンドレコーディング技術概論　　Sound & Recording マガジン

科目名	プランニング＆プレゼンテーション1	必修選択	選択	年次	2	担当教員	伊波　達也
学科・コース		授業形態	講義	総時間（単位）	60 4		

教員の略歴	フリー編集者＆ライター　JICC出版局（現・宝島社）にて『バンドやろうぜ』『宝島』ほか編集業務に従事。フリーランス後は、音楽雑誌。カルチャー誌、単行本、新書ほかで編集・ライティングに従事中
授業の学習内容	企画立案は、あらゆるクリエイティブワークにとっての大本になるスキルです。出版、映像、商品開発、イベントほか何を作るにも企画書作成はマストの作業です。そのスキルをさまざまな企画立案ワークショップを通じて、身につけてもらいます。同時に、立案した企画を相手に伝えるプレゼンテーションも重要です。企画をプレゼンテーションするスキルを身につけるために、さまざまなプレゼンテーションをしてもらいます。企画立案のできるクリエイターになってもらうための座学、ワークショップ、プレゼンテーションを組み合わせて授業を展開していきます。1コマ目は座学。2コマ目はプレゼンテーションが基本となります。
到達目標	企画立案ということについて理解します。実際に企画書をかけるようになります。企画をわかりやすく伝えるプレゼンテーションができるようになります。自分の立案した企画について、常に見直し、手を加え、バージョンアップできるようになります。
評価方法と基準	前期課題のオリエンテーションを7週目でおこない、12週目で提出＆プレゼンテーションをおこないます。13週目に講評とまとめをおこない、評価の6割は前期課題で行います。残りの4割は毎週のワークショップによる評価とします。

授業計画・内容

回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	講義	当講義内容と習得出来る知識・技術を理解させる。	本日の授業の上で自分が企画したいコンテンツを構想する。
2	講義	企画立案とクリエティブワークを実施する。	本日の授業の上でプレゼンテーションしたいコンテンツの資料を調べておく。
3	講義	プレゼンテーションの必要性と社会的効果を学ぶ。	本日の授業の上で自分が企画したいプレゼン資料を構想する。
4	講義	構成（プロット）について学び、企画書作成に取り掛かる。	授業に引き続き企画書を作成し提出。
5	講義	プレゼンテーション内での「企画書」と概要書の役割を担う「企画書」の違い、特徴や意味合いの違いを理解する。	本日の授業の上で意味合いの違う2種類の企画書を作成し提出。
6	講義	ターゲットのプロファイリングの必要性を学ぶ。	本日の授業の上で自分が企画したいコンテンツのターゲット層をプロファイリングして提出。
7	講義	宣伝プロモーションとは何かを伝え、必要性と各媒体効果を学ぶ。	本日の授業の上で自分の企画のプロモーション案を考案し提出。
8	講義	マーケティングの必要性を学ぶ。	本日の授業の上でコンテンツ読者からどのようなことが求められているか考察し提出。
9	講義	クリエイティブな仕事とは、働き方や日頃の生活における観点を学ぶ。	本日の授業の上で最近のコンテンツから気になった点を考察し、改善案を提出する。
10	講義	競合商品について考案し、個としてのコンテンツに成るまでを学ぶ。	本日の授業の上で自分が企画したいコンテンツの競合商品を調べて提出。
11	講義	メディアの特性を理解する。	紙媒体での広告とSNS上の広告の特性・ターゲット層を考察し提出。
12	講義	「明日への扉」に出演するアーティストをピックアップし企画書を作成する。	授業に引き続き企画書を作成し提出。
13	講義	「明日への扉」出演アーティストへの取材原稿を作成、アポイントを取る。	授業外でも引き続きアーティストとアポイントを取る。
14	講義	コンテンツにおけるプロモーション案を考案して作成。	提出されたプロモーション案を基に実行していく。
15	講義	「明日への扉」出演アーティストへの取材をもとに作品を作成。	授業に引き続き広告を作成し、提出。

準備学習　時間外学習	各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。

【使用教科書・教材・参考書】　その都度、臨機応変にプリント配布や参考文献の紹介

科目名	プランニング＆プレゼンテーション2	必修選択	選択	年次	2	担当教員	伊波達也
学科・コース	【音楽テクノロジー科】メディアクリエーターコース	授業形態	講義	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	フリー編集者＆ライター　JICC出版局（現・宝島社）にて『バンドやろうぜ』『宝島』ほか編集業務に従事。フリーランス後は、音楽雑誌。カルチャー誌、単行本、新書ほかで編集・ライティングに従事中						
授業の学習内容	あらゆるクリエイティブワークにとっての大本になるスキルである企画について、理解してもらったところで、後期は自分の作ってみたい作品の企画書を作成してもらいます。通常は出版企画ですが、学生の要望に応じて、映像、商品開発、イベントほか何の企画でもオッケーです。最終的に企画書として仕上げることはもちろんですが、企画書に盛り込むさまざまな項目について、考え、調べ、まとめるということを体験してもらうことに重点をおいていきます。前期同様、毎時間、単発企画のプレゼテーションをおこなってもらいます。1コマ目は座学と企画書作成のためのワークショップ。2コマ目はプレゼンテーションをおこないます。						
到達目標	前期で理解した企画立案について企画書作りを通じて大切さをさらに理解できます。自分の作りたい作品を企画書をかけるようになります。さらにプレゼンテーションをブラッシュアップします。						
評価方法と基準	後期課題のオリエンテーションを1週目でおこない、12週目で提出＆プレゼンテーションをおこないます。13週目に講評とまとめをおこない、評価の6割は後期課題でおこないます。残りの4割は毎週のワークショップによる評価とします。これは前期同様です。						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	講義	当講義内容と習得出来る知識・技術を理解させる。	企画のテーマを告知し企画構成を作成し提出。
2	講義	自分の作る作品のテーマを考察し企画書を作成する。	授業に引き続き企画書を作成し提出。
3	講義	作品をめぐるマーケティングを実施、作品の上でヒントとなる資料やサイトを検索する。	資料となるサイトに対しての評価を調べて信憑性や類似するサイトを調べる。
4	講義	想定競合作品の研究、同業種でターゲット層が同じものを見つけ分析する。	本企画以外でターゲット層が好むアーティストや文化、趣味・趣向を検索し提出。
5	講義	想定ユーザーを定め、本作品が個となるための特徴があるか、需要が有るか検証する。	検証したものを資料にまとめて提出。
6	講義	講義5を踏まえコンセプトを決める。	初回企画書がコンセプトのテーマに沿っているか、沿っていない場合は手直し提出。
7	講義	作品の宣伝プロモーション、マーケティングの必要性と媒体効果を調べる。	本日の講義を聞いて本作品をプロモーションするにあたり最適な媒体はどこか考察して提出。
8	講義	前回の講義を踏まえ広告を作成する。	授業に引き続き広告のデザインを作成し、提出。
9	講義	作品の目次・プロットの役割や意味合いを理解する。	自身の作品に目次・プロットを作成し提出。
10	講義	原稿・絵コンテ・パースを仕上げる。	授業に引き続き原稿を作成し提出。自身の作品をターゲット層に見てもらい感想を貰う。
11	講義	他者からの評価より想定していたテーマが理にかなっているか検証する。	他己評価を受けての感想を800字以内のレポートにまとめて提出。
12	講義	卒業制作展に出演するアーティストをピックアップし企画書を作成する。	授業に引き続き企画書を作成し提出。
13	講義	卒業制作展出演アーティストへの取材原稿を作成、アポイントを取る。	授業外でも引き続きアーティストとアポイントを取る。
14	講義	コンテンツにおけるプロモーション案を考案して作成。	提出されたプロモーション案を基に実行していく。
15	講義	卒業制作展出演アーティストへの取材をもとに作品を作成。	授業に引き続き広告を作成し、提出。
準備学習　時間外学習	各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。		

【使用教科書・教材・参考書】　その都度、臨機応変にプリント配布や参考文献の紹介

科目名	コンサートAdvance 1 （PA Advance 1）	必修選択	選択	年次	2	担当教員	松本義正
学科・コース	音楽テクノロジー科・PAエンジニアコース	授業形態	演習	総時間（単位）	90 6		

教員の略歴	（株）N&N、（有）クルーズでのPA業務経歴を経て、現在はフリーランスのPAエンジニア。実務歴30年。
授業の学習内容	音響デジタル卓、マイク、エフェクター、スピーカー、ワイヤレスシステム等の様々な音響機材に対しての知識力と操作方法を身につけ、PAエンジニアに必要とされる知識や技術はもちろん、行動力や体力を備える。 PAアシスタントとして実際の現場で必要とされる人材を育成する。
到達目標	コンサートや舞台現場のPAアシスタントとして即戦力の人材になる。 デジタル卓のSYSTEMを自らの力で構築出来る。
評価方法と基準	実技試験（70%） 授業態度（30%）

授業計画・内容

回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1	演習	コミュニケーション力を養う。1年生と顔	後輩とコミュニケーションをとる。
2	演習	デジタルミキサー①　LS9	学んだ卓の説明書を見て、機材にも触れて、授業内容の復習と自主的に学ぶ意識を持つ。
3	演習	デジタルミキサー②　Si-Compact	学んだ卓の説明書を見て、機材にも触れて、授業内容の復習と自主的に学ぶ意識を持つ。
4	演習	デジタルミキサー③　X32	学んだ卓の説明書を見て、機材にも触れて、授業内容の復習と自主的に学ぶ意識を持つ。
5	演習	デジタルミキサー④　CL5	学んだ卓の説明書を見て、機材にも触れて、授業内容の復習と自主的に学ぶ意識を持つ。
6	演習	デジタルミキサー⑤　SD8	学んだ卓の説明書を見て、機材にも触れて、授業内容の復習と自主的に学ぶ意識を持つ。
7	演習	インサート①　アナログ卓　COMP,GAT	インサートについて調べておく。
8	演習	インサート②　デジタル卓　COMP,GAT	インサートについて復習する。
9	演習	モニター①　モニターの概念	モニターオペレーターの仕事を調べる
10	演習	モニター②　アナログ卓でのモニターの	モニターの概念を自分なりに調べる。
11	演習	モニター③　デジタル卓でのモニター卓の組み方	モニターの概念を自分なりに調べる。
12	演習	ミュージカル「明日への扉」にPAスタッフとして参加する。	現場において気付いた事柄をまとめておく。
13	演習	ミュージカル「明日への扉」にPAスタッフとして参加する。	現場において気付いた事柄をまとめておく。
14	演習	モニター④　IEM　PSM1000を使っての	モニターの概念を自分なりに調べる。
15	試験	テスト　デジタル卓を使ってのシステム	試験で出来なかった部分を気づきとしてメ
準備学習　時間外学習		授業で学んだ内容についての復習レポート作成し、PA機材を調べる。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	コンサートAdvance 1 （照明　Advance 1）	必修選択	選択	年次	2	担当教員	鈴木昌広
学科・コース	音楽テクノロジー・照明スタッフコース	授業形態	演習	総時間（単位）	60 4		

教員の略歴	H6~H21 (株)綜合舞台 勤務 / H21~フリーランスとしてコンサート現場を中心に照明業務全般を担当。実務歴25年。
授業の学習内容	照明業界での必要最低限の基礎知識や基礎技術をこの授業枠で会得しなければ、現場で機能する人材になることができない。またチームワークが大切な職業であるため、火曜日の照明ワークショップと共に人とのコミュニケーション能力の向上も育成ポイント。前述の基礎知識や技術を学生間や学生講師間で議論しながらイメージを膨らます事が不可欠になるので、”会話”しながら授業を進めていく。
到達目標	①1年次から更に増した基礎知識と基礎技術の向上を現場(学内イベント)で生かす。 ②特に演習時はグループ作業が多いため、様々な事柄をコミュニケーションをとって解決できる人材になる。 ③照明家の楽しさや難しさを共感、共有できる授業にする事が最大の目標。
評価方法と基準	1）定期試験60%　2）各授業ごとの課題試験20%　3）実技作業20% *出席が必須。各週の授業内容を確実に理解しないと次ステップに進むのは厳しい。時間外学習は自主的にすることも必要。

授業計画・内容

回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1	演習	各種器材を改めて仕込み、特性を再認識。以降の照明プラン時に役立てる	資料など読み返し器材のイメージは把握する
2	演習	電源、信号など照明における必要な基礎知識の説明や計算ができる	左記を様々なケースで反復学習
3	演習	擬似パイプ回路を使っての仕込み・撤去ができる	左記を様々なケースで反復学習
4	演習	前週の仕込みを再度トライ。更にサオの使い方を把握する	左記を様々なケースで反復学習
5	演習	ユニット入れ込み方法や電気容量計算できる①	電気に関する参考資料(教科書)を読む
6	演習	実際の現場(学園祭)に向けて準備作業。過去習得したものを生かすことができる	現場に向けた資料作り
7	演習	5週から難易度の上がった電気容量計算できる②	電気に関する参考資料(教科書)を読む
8	演習	照明データ表の書き方を習得。データー表を書くことができる	左記を様々なケースで反復学習
9	演習	照明プログラム、時間内に打ち込んで実機と机上データのギャップを把握ができる	左記を様々なケースで反復学習
10	演習	前週のものを各自発表。他人の照明を見て違うパターンのイメージ作りができる	課題曲を聞いてイメージ作りする
11	演習	PINspotのCue出し方法とPINの操作がわかる	左記を様々なケースで反復学習
12	演習	「明日への扉」スタッフとして参加し、照明の仕込み、扱い方、プラン、イメージを理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
13	演習	「明日への扉」スタッフとして参加し、舞台照明の演出を理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
14	演習	学校イベントに向けて充分な準備ができる	職業体験等イベントの資料を事前にまとめておく
15	試験	試験	1~11週の総復習をレポート作成。

準備学習　時間外学習	事前学習60分・時間外学習は時間でなく各項目3パターン

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	ムービング Advance1	必修選択	選択	年次	2	担当教員	橋本真也
学科・コース	音楽テクノロジー科・照明ライティング	授業形態	演習	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	TSM卒業後、照明会社PACに就職し、現在はフリーランスの照明家として、ライブやコンサート、芝居、施設照明のプランニング、ムービングライトのオペレーターとして活躍。ムービング講師15年以上。						
授業の学習内容	現代のコンサートや舞台、その他様々なイベントに於ける照明演出で必須となったムービングライト。その特性と機能を学ぶことは、照明会社に就職する上でも非常に有利な条件となります。照明概論や照明BASICとも連動し、学校行事や企業プロジェクトイベント等でオペレートができるように、また将来的にエンターテイメント業界で活躍できる人材となれるよう指導していきます。						
到達目標	仕込みに応じて、パッチの変更、設定が出来るようにする。 エフェクトを利用した、様々なシーンの作成。 細かな機能を覚えることにより、スムーズにシーンの作成、修正ができるようにする。						
評価方法と基準	試験60%（実技試験） 出席率40%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	1年次の復習	授業で学んだ内容を復習し、覚える。
2	演習	パッチ、ステージセットアップ、パンチルト設定。	授業で学んだ内容を復習し、覚える。
3	演習	パッチ、アトリビュート設定関連、マクロ。	本日の授業を基に出された課題をレポートとして提出する。
4	演習	SHOW作成を一人ずつ。	授業で学んだ内容を機材に触れて復習する。
5	演習	メンテナンス、ムービング本体設定。	授業で学んだ内容を機材に触れて復習する。
6	演習	エフェクト応用	授業で学んだ内容を機材に触れて復習する。
7	演習	プリセットフィルター、アップデートオプション、ストアオプション。	授業で学んだ内容を実際に機材に触れて復習する。
8	演習	小復習。	復習として今までに学んだ内容に聞き逃しがないかを確認し、質問事項にしてまとめる。
9	演習	ATコピー、マスター関連、フリーズ。	授業で学んだ内容を機材に触れて復習する。
10	演習	アトリビュートタイム、ディレイ。	本日の授業を基に出された課題をレポートとして提出する。
11	演習	モジュレーター。	本日の授業を基に出された課題をレポートとして提出する。
12	演習	GrandMA3D SHOW作成。	授業で学んだ内容を機材に触れて復習する。
13	演習	テスト、SHOW作成関連。	試験にて出来なかった部分を復習する。
14	演習	「明日への扉」照明スタッフとして参加し、実際の現場で必要となるムービングの仕込み、扱い方、プラン、イメージを理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
15	演習	「明日への扉」照明スタッフとして参加し、実際の現場で必要となるムービングの仕込み、扱い方、プラン、イメージを理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
準備学習　時間外学習		基本的にレポート等にまとめてアウトプット。可能であればonPCを利用して復習。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	コンサートAdvance 1 （楽器リペア3）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	石井正人
学科・コース	音楽テクノロジー科・楽器リペア＆テクニシャンコース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	120 8		
教員の略歴	姉妹校ギタークラフトコース卒。2002年フジゲン（株）に入社し、リペアスタッフ長、店舗店長、国内営業所長などを歴任。2011年退社後、フリーランスのセットアッパーとして活動。「パーフェクト・ギター・セットアップ・メソッド」の著者。リペア実務歴16年。						
授業の学習内容	プロのリペアマンやセットアッパーとして、キャリアをスタートできるよう、ニーズの多く、かつ高度な技術を必要とする修理における実技指導を行う。実習をメインとし、授業内での技術習得を目指す。						
到達目標	・リペアマンの評価において、ひとつの基準とも言える、フレットの交換技術を習得する。 ・多種多様なミュージシャンに対応すべく、セットアップアレンジを研究検証させ、その基礎を作る。						
評価方法と基準	実技評価80%、準備学習・時間外学習20% 上記到達目標2項目を各40%とし、実技評価とする。プロとして通用する水準に達する事を理想レベルとし、指導や手解き無しで仕上げる事ができる事を標準レベルとする。 尚、授業時間中に終わらなかった作業については、時間外学習課題として課し、その達成度も評価基準とする。						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	備学習　時間外学習(学習課題
1	演習	複雑な環境下におけるフレット擦り合わせの実習。 理想：時間内に、正確な作業が行える事　標準：見立てを誤らずに作業を行える事	フレット擦り合わせについて復習レポートを作成。
2	演習	ナット交換の実習。理想：時間内に確実な作業を行える事　標準：確実な作業を行える事	ナット交換について復習レポートを作成。
3	演習	フレット交換作業の実習（ボルトオンタイプ）①　フレット抜き～指板修正　理想：学んだ手順通りに、時間内に作業を行える事　標準：学んだ手順通りに作業を行える事	フレット交換作業（ボルトオンタイプ）について復習レポートを作成。
4	演習	フレット交換作業の実習（ボルトオンタイプ）②　フレット準備～フレット打ち　理想：学んだ手順通りに、時間内に作業を行える事　標準：学んだ手順通りに作業を行える事	フレット交換作業（ボルトオンタイプ）について復習レポートを作成。
5	演習	フレット交換作業の実習（ボルトオンタイプ）③　フレットの擦り合わせ～仕上げ　理想：学んだ手順通りに、時間内に作業を行える事　標準：学んだ手順通りに作業を行える事	フレット交換作業（ボルトオンタイプ）について復習レポートを作成。
6	演習	フレット交換作業の実習（ボルトオンタイプ）④　ナット製作～弦張り、セットアップ　理想：学んだ手順通りに、時間内に作業を行える事　標準：学んだ手順通りに作業を行える事	フレット交換作業（ボルトオンタイプ）について復習レポートを作成。
7	演習	フレット交換作業の実習（セットネックタイプ）①　フレット抜き～指板修正　理想：学んだ手順通りに、時間内に作業を行える事　標準：学んだ手順通りに作業を行える事	フレット交換作業（セットネックタイプ）について復習レポートを作成。
8	演習	フレット交換作業の実習（セットネックタイプ）②　フレット準備～フレット打ち　理想：学んだ手順通りに、時間内に作業を行える事　標準：学んだ手順通りに作業を行える事	フレット交換作業（セットネックタイプ）について復習レポートを作成。
9	演習	フレット交換作業の実習（セットネックタイプ）③フレットの擦り合わせ～仕上げ　理想：学んだ手順通りに、時間内に作業を行える事　標準：学んだ手順通りに作業を行える事	フレット交換作業（セットネックタイプ）について復習レポートを作成。
10	演習	フレット交換作業の実習（セットネックタイプ）④　ナット製作～弦張り、セットアップ　理想：学んだ手順通りに、時間内に作業を行える事　標準：学んだ手順通りに作業を行える事	フレット交換作業（セットネックタイプ）について復習レポートを作成。
11	演習	セットアップアレンジの研究検証作業実習　ランダムにセットアップのコンセプトを提示し、それに準じたセットアップに仕上げ、各々で結果を検証する　理想：時間内に、コンセプトに準じたセットアップを行える事　標準：コンセプトに準じたセットアップを行える事	セットアップアレンジの研究検証作業について復習レポートを作成。
12	演習	明日への扉に参加し、劇中バンドの楽器メンテナンスを行う。	実際のメンテナンス業務の報告と気づいた点をまとめてレポート提出する。
13	演習	明日への扉に参加し、楽器スタッフとしての現場力やコミュニケーション力を養う。	イベント参加で気づいた点をまとめてレポート提出する。
14	演習	セットアップアレンジの研究検証作業実習　ランダムにセットアップのコンセプトを提示し、それに準じたセットアップに仕上げ、各々で結果を検証する　理想：時間内に、コンセプトに準じたセットアップを行える事　標準：コンセプトに準じたセットアップを行える事	※授業内に終わらなかった作業は時間外
15	試験	セットアップアレンジの実習　前回授業をテスト形式で行い、その仕上がり具合や理解度を見る	総まとめとしてのレポートを作成。
準備学習　時間外学習		準備学習として、毎回の授業において、良かった事や悪かった事を書き出し、反省、次への対策を練る事を習慣付ける	

科目名	楽器リペアAdvance1	必修選択	選択	年次	2年	担当教員	石井正人
学科・コース	音楽テクノロジー科・楽器リペア＆テクニシャンコース	授業形態	演習	総時間（単位）	90 6		
教員の略歴	姉妹校ギタークラフトコース卒。2002年フジゲン（株）に入社し、リペアスタッフ長、店舗店長、国内営業所長などを歴任。2011年退社後、フリーランスのセットアッパーとして活動。「パーフェクト・ギター・セットアップ・メソッド」の著者。リペア講師歴7年。						
授業の学習内容	プロのリペアマンやセットアッパーとして、キャリアをスタートできるよう、ニーズの多く、かつ高度な技術を必要とする修理における実技指導を行う。講義、演習をメインとし、基本的な手法や目指すべき仕上がり具合を見せ伝える事に加え、それらを通じて、多種多様な楽器に対応できるよう、応用を効かせられるようになる為の、軸となる見方や考え方を習得させる。						
到達目標	・リペアマンの評価において、ひとつの基準とも言える、フレットの交換手順や理想的な仕上がり具合を覚える ・様々なセットアップのアレンジ手法を見せ、考察させ、各々の感覚と擦り合わせて、各自のセットアップの軸を作る						
評価方法と基準	テスト70%（筆記試験100%）、出席率30%　理解度をチェックする筆記試験を行う。100～90点をAとし、89～75点をB、74～60点をC、59～45点をD、44～30点をE、それ以下をFとする。						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	複雑な環境下におけるフレット擦り合わせに関する講義、演習。理想：内容を理解し、的確な状況判断ができるようになる事。	授業内容の復習レポートを作成。
2	演習	ナット交換の講義、演習。 理想：内容を理解し、的確な作業判断ができるようになる事。	授業内容の復習レポートを作成。
3	演習	フレット交換作業の講義、演習（ボルトオンタイプ）①　フレット抜き～指板修正。理想：手順や理想的な仕上がり具合を覚え、状況に応じて的確な作業判断ができる事。	授業内容の復習レポートを作成。
4	演習	フレット交換作業の講義、演習（ボルトオンタイプ）②　フレット準備～フレット打ち。理想：手順や理想的な仕上がり具合を覚え、状況に応じて的確な作業判断ができる事。	授業内容の復習レポートを作成。
5	演習	フレット交換作業の講義、演習（ボルトオンタイプ）③　フレットの擦り合わせ～仕上げ。理想：手順や理想的な仕上がり具合を覚え、状況に応じて的確な作業判断ができる事。	授業内容の復習レポートを作成。
6	演習	フレット交換作業の講義、演習（ボルトオンタイプ）④　ナット製作～弦張り、セットアップ。理想：手順や理想的な仕上がり具合を覚え、状況に応じて的確な作業判断ができる事。	授業内容の復習をし、他の楽器も題材にして作業をする。
7	演習	フレット交換作業の講義、演習（セットネックタイプ）①　フレット抜き～指板修正。理想：ボルトオンタイプとのアプローチの違いを理解し、的確な作業判断ができる事。	授業内容の復習をし、他の楽器も題材にして作業をする。
8	演習	フレット交換作業の講義、演習（セットネックタイプ）②　フレット準備～フレット打ち。理想：ボルトオンタイプとのアプローチの違いを理解し、的確な作業判断ができる事。	授業内容の復習をし、他の楽器も題材にして作業をする。
9	演習	フレット交換作業の講義、演習（セットネックタイプ）③　フレットの擦り合わせ～仕上げ。理想：ボルトオンタイプとのアプローチの違いを理解し、的確な作業判断ができる事。	授業内容の復習をし、他の楽器も題材にして作業をする。
10	演習	フレット交換作業の講義、演習（セットネックタイプ）④　ナット製作～弦張り、セットアップ　理想：ボルトオンタイプとのアプローチの違いを理解し、的確な作業判断ができる事。	授業内容の復習をし、他の楽器も題材にして作業をする。
11	演習	セットアップアレンジについての講義、演習①　エレキギターのセットアップアレンジ　様々なコンセプトに応じたセットアップアレンジを見せながら、そこに至る経緯や判断理由などを指導する。理想：コンセプトに応じたセットアップアレンジの判断ができるようになる。	授業内で使用した物と異なる楽器のセットアップを研究する。
12	演習	セットアップアレンジについての講義、演習②　エレキベースのセットアップアレンジ　様々なコンセプトに応じたセットアップアレンジを見せながら、そこに至る経緯や判断理由などを指導する　理想：コンセプトに応じたセットアップアレンジの判断ができるようになる。	授業内で使用した物と異なる楽器のセットアップを研究する。
13	演習	明日への扉に参加し、劇中バンドの楽器メンテナンスを行う。	実際のメンテナンス業務の報告と気づいた点をまとめてレポート提出する。
14	演習	明日への扉に参加し、楽器スタッフとしての現場力やコミュニケーション力を養う。	イベント参加で気づいた点をまとめてレポート提出する。
15	試験	筆記復習試験。試験後は答え合わせを行う事で、更に理解度を深める。	試験で出来なかった箇所について見直し、理解できるようにする。
準備学習　時間外学習		準備学習として、毎回の授業において、良かった事や悪かった事を書き出し、反省、次への対策を練る事を習慣付ける。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	コンサートAdvance 1 （Vecter Works Basic1）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	川原宏幸
学科・コース	音楽テクノロジー科・舞台制作コース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴	国内外アーティスト・アイドル・声優等のコンサートやイベントの舞台監督歴25年。						
授業の学習内容	図面製作ソフトベクターワークスの基本的な使い方を学び、実践で扱える技術を身につける。						
到達目標	ベクターワークスを使い、図形作成を習得し、舞台スタッフに必要な舞台図面が書けるようになることを目標とする。						
評価方法と基準	●実技試験70% ●課題提出30%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1	演習	オリエンテーション	基本的なPC操作の復習レポートを作成。
2	演習	ベクターワークスに慣れる①	授業内容の復習レポートを作成。
3	演習	ベクターワークスに慣れる②	授業内容の復習レポートを作成。
4	演習	直線・曲線を自由に描く	直線、曲線を描く復習レポートを作成。
5	演習	多角線を描く	多角線を描く復習レポートを作成。
6	演習	図形を描く	図形を描く復習レポートを作成。
7	演習	線と図形を組み合わせて描く	図形を描く復習レポートを作成。
8	演習	縮尺を理解し、慣れて使う①	授業内容の復習レポートを作成。
9	演習	縮尺を理解し、慣れて使う②	授業内容の復習レポートを作成。
10	演習	劇場図面を理解する①	様々な劇場の図面を調べてみる。
11	演習	劇場図面を理解する②	様々な劇場の図面を調べてみる。
12	演習	明日への扉の舞台演出部として参加。ミュージカル舞台の図面を作成する。	明日への扉の図面作成と資料の整理
13	演習	明日への扉の舞台演出部として参加。ミュージカル舞台の図面を作成する。	明日への扉の図面作成と資料の整理
14	演習	簡易図面を作成する	授業内容の復習レポートを作成。
15	演習	前期まとめ	前期まとめの復習レポートを作成。
準備学習　時間外学習		授業内容の復習レポートを作成し、資料のまとめ、整理をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

ベクターワークス　トレーニングブックより抜粋

科目名	コンサートAdvance 1 （照明デザイン1）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	林之弘
学科・コース	音楽テクノロジー科・照明スタッフコース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴	㈱六工房　代表取締役、日本照明家協会理事、日本照明家協会一級技能士。実務歴27年。						
授業の学習内容	①職業意識の啓発を促し、ヒューマンスキル及びビジネスマナーを身につける。 ②現場のルールとともに舞台照明に関する知識と技能を習得する。						
到達目標	①前期中に予定されているミュージカル「明日への扉」で、仕込み、本番、撤去ができ、1年生スタッフに指導できる。 ②日本照明家協会技能認定2級試験合格						
評価方法と基準	ペーパーテストにて、仕込み、本番、撤去に必要な専門用語、機材知識の理解度を測定。						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1	演習	「安全に作業をするために」①が解答できる	「安全に作業をするために」について復習レポートを作成。
2	演習	「安全に作業をするために」②が解答できる	「安全に作業をするために」について復習レポートを作成。
3	演習	「舞台用語」照明関連の用語が解答できる	「舞台用語」照明関連の用語について復習レポートを作成。
4	演習	「舞台用語」舞台関連の用語が解答できる	「舞台用語」舞台関連の用語が解答できる
5	演習	「照明家に必要な基礎知識」（電気について）が解答できる	「照明家に必要な基礎知識」について復習レポートを作成。
6	演習	「照明家に必要な基礎知識」（光について）に解答できる	「照明家に必要な基礎知識」（光について）に解答できる
7	演習	「照明操作卓のシステム」に解答できる	「照明操作卓のシステム」について復習レポートを作成。
8	演習	ヴィジュアライザーソフト①基本が理解できる	ヴィジュアライザーソフトについて復習レポートを作成。
9	演習	ヴィジュアライザーソフト②作図できる	ヴィジュアライザーソフトについて復習レポートを作成。
10	演習	ヴィジュアライザーソフト③パッチができる	ヴィジュアライザーソフトについて復習レポートを作成。
11	演習	前期まとめ	前期まとめについて復習レポートを作成。
12	演習	「明日への扉」スタッフとして参加し、照明の仕込み、扱い方、プラン、イメージを理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
13	演習	「明日への扉」スタッフとして参加し、舞台照明の演出を理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
14	演習	ミュージカル公演の振り返り	前期まとめの復習レポートを作成。
15	演習	前期まとめテスト	テストの振り返り。出来なかった部分の確認。
準備学習　時間外学習		授業内容について復習レポートを作成。	

【使用教科書・教材・参考書】

舞台・テレビジョン照明技術者　技能認定試験問題集《2級》

科目名	コンサートAdvance 2 （PA Advance 2）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	松本義正
学科・コース	音楽テクノロジー科・PAエンジニアコース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	90 6		
教員の略歴	（株）N&N、（有）クルーズでのPA業務経歴を経て、現在はフリーランスのPAエンジニア。実務歴30年。						
授業の学習内容	楽器をオペレートするために必要となる音作りの知識と技術を学ぶ。 本番時のトラブル等に対処できる行動力を養う。 PAアシスタントとして実際の現場で必要とされる人材を育成する。						
到達目標	歌ものだけではなく、バンドのオペレートも出来るようになる。 イベント本番時のトラブル等に対処できるような行動力をつける。						
評価方法と基準	実技試験（70%） 授業態度（30%）						

授業計画・内容

回数	授業形態	学習内容	備学習　時間外学習(学習課題
1	演習	音作り①　DRUM単体を学ぶ	CDなどで自分の好きな音を探す
2	演習	音作り②　DRUM全体を学ぶ	CDなどで自分の好きな音を探し準備しておく。
3	演習	音作り③　BASS,GTRを学ぶ	CDなどで自分の好きな音を探し準備しておく。
4	演習	音作り④　KEY,PERCを学ぶ	CDなどで自分の好きな音を探し準備しておく。
5	演習	音作り⑤　BAND全体を学ぶ	CDなどで自分の好きな音を探し準備しておく。
6	演習	ライブ本番実習①	事前に曲をしっかり聞いておく。
7	演習	ライブ本番実習②	事前に曲をしっかり聞いておく。
8	演習	ワイヤレス実習について理解する	PCの最低限の使い方を確認してお
9	演習	Workbenchの使用方法を学ぶ	Workbenchの最低限の使い方
10	演習	Ablrton Liveの使用方法を学ぶ	Ablrton Liveの最低限の使い方
11	演習	卒業制作展に向けての最終確認	資料を集めておく
12	実習	卒業制作展でPAを担当する。	現場で気付いた事柄をまとめておく。
13	実習	卒業制作展でPAを担当する。	現場で気付いた事柄をまとめておく。
14	演習	卒業制作展の反省	反省点をまとめて、後輩へ引き継ぐための資料まとめをする。
15	試験	試験。仕込みバラシ。	少ない人数で短い時間でやる練習
準備学習　時間外学習		授業で学んだ内容についての復習レポート作成し、PA機材を調べる。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	コンサートAdvance 2 （照明　Advance 2）	必修選択	選択	年次	2	担当教員	鈴木昌広
学科・コース	音楽テクノロジー・照明スタッフコース	授業形態	演習	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	H6~H21 (株)綜合舞台 勤務 / H21~フリーランスとしてコンサート現場を中心に照明業務全般を担当。実務歴25年。						
授業の学習内容	基本的に反復した授業内容。繰り返し必要最低限の基礎知識や基礎技術をこの授業枠で会得しなければ、現場で機能する人材になることができない。またチームワークが大切な職業であるため、火曜日の照明ワークショップと共に人とのコミュニケーション能力の向上も育成ポイント。前述の基礎知識や技術を学生間や学生講師間で議論しながらイメージを膨らます事が不可欠になるので、”会話”しながら授業を進めていく。						
到達目標	①前期から更に増した基礎知識と基礎技術の向上を現場(学内イベント)で生かす。②特に演習時はグループ作業が多いため、様々な事柄をコミュニケーションをとって解決できる人材になる。③照明家の楽しさや難しさを共感、共有できる授業にする事が最大の目標。						
評価方法と基準	1）定期試験30%　2）各授業ごとの課題試験10%　3）実技作業10% *出席が必須。各週の授業内容を確実に理解しないと次ステップに進むのは厳しい。時間外学習は自主的にすることも必要。						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1	演習	プランナーオペレーター等グループ作業での机上による明かり作りができる	各自課題曲決めと残作業
2	演習	前週内容を発表し、各自の照明内容を分析する事ができる	分析した上で様々な曲テーマで反復学習
3	演習	シュートにおけるさおの使い方、現場で求められるさおの技術を習得する	左記を様々なケースで反復学習
4	演習	器材の愛情を養い、メンテナンスを通じて仕組みを知り工具の使い方や器材の構造を覚える	左記を様々な器材でメンテナンス
5	演習	コミュニケーションをとりながら仕込み、さおの操作ができる	左記を様々なケースで反復学習
6	演習	プランナーオペレーター等グループ作業での机上による明かり作りができる	各自課題曲決めと残作業
7	演習	前週内容を発表し、各自の照明内容を分析する事ができる	分析した上で様々な曲テーマで反復学習
8	演習	シュートにおけるさおの使い方、現場で求められるさおの技術を習得する	左記を様々なケースで反復学習
9	演習	器材の愛情を養い、メンテナンスを通じて仕組みを知り工具の使い方や器材の構造を覚える	左記を様々な器材でメンテナンス
10	演習	シュートにおけるさおの使い方、現場で求められるさおの技術を習得する	左記を様々なケースで反復学習
11	演習	演目に対する理解と明かり作りの実践、イベントの明かり作り、打ち込みができる①	各自与えられた演目の内容を深く理解する
12	演習	卒業制作展の照明スタッフとして参加し、照明の仕込み、扱い方、プラン、イメージを理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
13	演習	卒業制作展の照明スタッフとして参加し、照明の仕込み、扱い方、プラン、イメージを理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
14	演習	演目に対する理解と明かり作りの実践、イベントの明かり作り、打ち込みができる②	各自与えられた演目の内容を深く理解する
15	試験	後期試験　/　総まとめの質疑応答、卒業イベントへの準備	2年間の総まとめ
準備学習　時間外学習		事前学習60分・時間外学習は時間でなく各項目3パターン	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	ムービング Advance2	必修選択	選択	年次	2	担当教員	橋本真也
学科・コース	音楽テクノロジー科・照明ライティング	授業形態	演習	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	TSM卒業後、照明会社PACに就職し、現在はフリーランスの照明家として、ライブやコンサート、芝居、施設照明のプランニング、ムービングライトのオペレーターとして活躍。ムービング講師15年以上。						
授業の学習内容	現代のコンサートや舞台、その他様々なイベントに於ける照明演出で必須となったムービングライト。その特性と機能を学ぶことは、照明会社に就職する上でも非常に有利な条件となります。照明概論や照明BASICとも連動し、学校行事や企業プロジェクトイベント等でオペレートができるように、また将来的にエンターテイメント業界で活躍できる人材となれるよう指導していきます。						
到達目標	各種機能への理解を深め、ビジュアライザーを使い、多い台数への対応。 明かりのバランス、シーンの構成を考慮し、ムービングライトを使用するポイントを考える。						
評価方法と基準	試験60%（実技試験） 出席率40%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	前期復習。明かりのバランスを考える。	授業で学んだ内容を復習し、覚える。
2	演習	ビジュアライザーを使ってマトリックスなどの練習。	授業で学んだ内容を復習し、覚える。
3	演習	フィクスチャーデータ作成。	本日の授業を基に出された課題をレポートとして提出する。
4	演習	仕込みに関して。、	授業で学んだ内容を機材に触れて復習する。
5	演習	DMXin, リモートコントロール。	授業で学んだ内容を機材に触れて復習する。
6	演習	アリーナ、パール、onPC	授業で学んだ内容を機材に触れて復習する。
7	演習	セットアップに関して詳しく。	授業で学んだ内容を実際に機材に触れて復習する。
8	演習	小復習。	復習として今までに学んだ内容に聞き逃しがないかを確認し、質問事項にしてまとめる。
9	演習	プリセット復習。	授業で学んだ内容を機材に触れて復習する。
10	演習	個別にわからない所を学ぶ。	本日の授業を基に出された課題をレポートとして提出する。
11	演習	課題明かり作り。	ディスカッション
12	演習	課題明かり作り。	ディスカッション
13	演習	テスト、明かり作り。	ディスカッション
14	演習	卒業制作展に照明スタッフとして参加し、実際の現場で必要となるムービングの仕込み、扱い方、プラン、イメージを理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
15	演習	卒業制作展に照明スタッフとして参加し、実際の現場で必要となるムービングの仕込み、扱い方、プラン、イメージを理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
準備学習　時間外学習		基本的にレポート等にまとめてアウトプット。可能であればonPCを利用して復習。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	コンサートAdvance 2 （楽器リペア4）	必修選択	選択	年次	2	担当教員	石井正人
学科・コース	音楽テクノロジー科・楽器リペア＆テクニシャンコース	授業形態	実習	総時間（単位）	120 8		

教員の略歴	姉妹校ギタークラフトコース卒。2002年フジゲン（株）に入社し、リペアスタッフ長、店舗店長、国内営業所長などを歴任。2011年退社後、フリーランスのセットアッパーとして活動。「パーフェクト・ギター・セットアップ・メソッド」の著者。リペア実務歴16年。
授業の学習内容	プロのリペアマンやセットアッパーとして、キャリアをスタートできるよう、ニーズの多く、かつ高度な技術を必要とする修理における実技指導を行う。実習をメインとし、授業内での技術習得を目指す。
到達目標	・トリマーやテンプレートを用いた木部加工技術を習得する。 ・ネックの折れやアコースティックギターのトップ板割れなどの木部修正技術を習得する。 ・前期で培ったセットアップアレンジを更に研究検証させ、実践的なスキルにまで昇華させる。
評価方法と基準	実技評価90%、準備学習・時間外学習10% 上記到達目標3項目を各30%とし、実技評価とする。プロとして通用する水準に達する事を理想レベルとし、指導や手解き無しで仕上げる事ができる事を標準レベルとする。尚、授業時間中に終わらなかった作業については、時間外学習課題として課し、その達成度も評価基準とする。

授業計画・内容

回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1	演習	木工加工技術の実習①　テンプレートの作成　理想：時間内に、正確なテンプレートの作成が行える事　標準：正確なテンプレートの作成が行える事	テンプレートの作成について復習レポートを作成。
2	演習	木工加工技術の実習②　トリマーを用いた木部加工　理想：時間内に、正確な加工が行える事　標準：正確な加工が行える事	トリマーを用いた木部加工について復習レポートを作成。
3	演習	木部修正技術の実習①　折れた木部の修正（準備～接着）　理想：時間内に、正しく作業を行える事　標準：正しく作業を行える事	折れた木部の修正について復習レポートを作成。
4	演習	木部修正作業の実習②　折れた木部の修正（成形～仕上げ）　理想：時間内に、正しく作業を行える事　標準：正しく作業を行える事	折れた木部の修正について復習レポートを作成。
5	演習	木部修正作業の実習③　割れた木部の修正（準備～接着）　理想：時間内に、正しく作業を行える事　標準：正しく作業を行える事	割れた木部の修正について復習レポートを作成。
6	演習	木部修正作業の実習④　割れた木部の修正（成形～仕上げ）　理想：時間内に、正しく作業を行える事　標準：正しく作業を行える事	割れた木部の修正について復習レポートを作成。
7	演習	木部修正作業の実習⑤　剥がれた木部の再接着（剥がし～再接着）　理想：時間内に、正しく作業を行える事　標準：正しく作業を行える事	剥がれた木部の再接着について復習レポートを作成。
8	演習	木部修正作業の実習⑥　剥がれた木部の再接着（成形～仕上げ）　理想：時間内に、正しく作業を行える事　標準：正しく作業を行える事	剥がれた木部の再接着について復習レポートを作成。
9	演習	セットアップ作業の実習①　ボルトオンギターのセットアップ　ランダムにセットアップのコンセプトを提示し、それに準じたセットアップに仕上げる　理想：時間内に、コ	ボルトオンギターのセットアップについて復習レポートを作成。
10	演習	セットアップ作業の実習②　セットネックギターのセットアップ　ランダムにセットアップのコンセプトを提示し、それに準じたセットアップに仕上げる　理想：時間内に、コ	セットネックギターのセットアップについて復習レポートを作成。
11	演習	セットアップ作業の実習③　エレキベースのセットアップ　ランダムにセットアップのコンセプトを提示し、それに準じたセットアップに仕上げる　理想：時間内に、コン	エレキベースのセットアップについて復習レポートを作成。
12	演習	セットアップ作業の実習④　アコースティックギターのセットアップ　ランダムにセットアップのコンセプトを提示し、それに準じたセットアップに仕上げる　理想：時間内	アコースティックギターのセットアップについて復習レポートを作成。
13	演習	卒業制作展に参加し、出演バンドの楽器メンテナンスを行う。	実際のメンテナンス作業の報告と気づいた点をまとめてレポート提出する。
14	演習	卒業制作展に参加し、楽器スタッフとしての現場力やコミュニケーション力を養う。	イベント参加で気づいた点をまとめてレポート提出する。
15	試験	セットアップの実習　セットアップ作業をテスト形式で行い、その仕上がり具合や理解度を見る	総まとめとしてのレポートを作成。
準備学習　時間外学習		準備学習として、毎回の授業において、良かった事や悪かった事を書き出し、反省、次への対策を練る事を習慣付ける	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	コンサートAdvance 2 （楽器リペアAdvance2）	必修選択	選択	年次	2年	担当教員	石井正人
学科・コース	音楽テクノロジー科・楽器リペア＆テクニシャンコース	授業形態	演習	総時間（単位）	90 6		
教員の略歴	姉妹校ギタークラフトコース卒。2002年フジゲン（株）に入社し、リペアスタッフ長、店舗店長、国内営業所長などを歴任。2011年退社後、フリーランスのセットアッパーとして活動。「パーフェクト・ギター・セットアップ・メソッド」の著者。リペア講師歴7年。						
授業の学習内容	プロのリペアマンやセットアッパーとして、キャリアをスタートできるよう、ニーズの多く、かつ高度な技術を必要とする修理における実技指導を行う。講義、演習をメインとし、基本的な手法や目指すべき仕上がり具合を見せ伝える事に加え、それらを通じて、多種多様な楽器に対応できるよう、応用を効かせられるようになる為の、軸となる見方や考え方を習得させる。						
到達目標	・トリマーやテンプレートを用いた木部加工技術の指導 ・ネックの折れやアコースティックギターのトップ板割れなどの木部修正技術の指導 ・前期で培ったセットアップアレンジを更に研究検証させ、実践的なスキルにまで昇華させる						
評価方法と基準	テスト70%（筆記試験と実技試験） 出席率30%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	木工加工技術の講義、演習①　テンプレートの作成。 理想：手順を覚え、的確な判断が行えるようになる事。	授業内容の復習をする。
2	演習	木工加工技術の講義、演習②　トリマーを用いた木部加工。理想：手順を覚え、的確な判断が行えるようになる事。	授業内容の復習をする。
3	演習	木部修正技術の講義、演習①　折れた木部の修正（準備～接着）。理想：手順を覚え、的確な判断が行えるようになる事。	授業内容の復習をする。
4	演習	木部修正作業の講義、演習②　折れた木部の修正（成形～仕上げ）。理想：手順を覚え、的確な判断が行えるようになる事。	授業内容の復習をする。
5	演習	木部修正作業の講義、演習③　割れた木部の修正（準備～接着）。理想：手順を覚え、的確な判断が行えるようになる事。	授業内容の復習をする。
6	演習	木部修正作業の講義、演習④　割れた木部の修正（成形～仕上げ）。理想：手順を覚え、的確な判断が行えるようになる事。	授業内容の復習をする。
7	演習	木部修正作業の講義、演習⑤　剥がれた木部の再接着（剥がし～再接着）。理想：手順を覚え、的確な判断が行えるようになる事。	授業内容の復習をする。
8	演習	木部修正作業の講義、演習⑥　剥がれた木部の再接着（成形～仕上げ）。理想：手順を覚え、的確な判断が行えるようになる事。	授業内容の復習をする。
9	演習	セットアップ作業の講義、演習①　ボルトオンギターのセットアップ　セットアップのコンセプトを提示した上で、それに準じたセットアップに仕上げ、各々にチェックさせる事で、アレンジ手法とその意図、サウンドなどの感覚をリンクさせていく。理想：手順を覚え、的確な判断が行えるようになる事。	授業内容の復習をし、他の楽器も題材にして作業をする。
10	演習	セットアップ作業の講義、演習②　セットネックギターのセットアップ　セットアップのコンセプトを提示した上で、それに準じたセットアップに仕上げ、各々にチェックさせる事で、アレンジ手法とその意図、サウンドなどの感覚をリンクさせていく。理想：手順を覚え、的確な判断が行えるようになる事。	授業内容の復習をし、他の楽器も題材にして作業をする。
11	演習	セットアップ作業の講義、演習③　エレキベースのセットアップ　セットアップのコンセプトを提示した上で、それに準じたセットアップに仕上げ、各々にチェックさせる事で、アレンジ手法とその意図、サウンドなどの感覚をリンクさせていく。理想：手順を覚え、的確な判断が行えるようになる事。	授業内で使用した物と異なる楽器のセットアップを研究する。
12	演習	セットアップ作業の講義、演習④　アコースティックギターのセットアップ　セットアップのコンセプトを提示した上で、それに準じたセットアップに仕上げ、各々にチェックさせる事で、アレンジ手法とその意図、サウンドなどの感覚をリンクさせていく。理想：手順を覚え、的確な判断が行えるようになる事。	授業内で使用した物と異なる楽器のセットアップを研究する。
13	演習	卒業制作展に参加し、出演バンドの楽器メンテナンスを行う。	実際のメンテナンス作業の報告と気づいた点をまとめてレポート提出する。
14	演習	卒業制作展に参加し、楽器スタッフとしての現場力やコミュニケーション力を養う。	イベント参加で気づいた点をまとめてレポート提出する。
15	試験	筆記試験と実技試験を実施。 試験後は答え合わせを行う事で、更に理解度を深める。	試験後は答え合わせを行う事で、更に理解度を深める。
準備学習　時間外学習		準備学習として、毎回の授業において、良かった事や悪かった事を書き出し、反省、次への対策を練る事を習慣付ける。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	コンサートAdvance 2 （照明デザイン2）	必修選択	選択	年次	2	担当教員	林之弘
学科・コース	音楽テクノロジー科・照明スタッフコース	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	㈱六工房　代表取締役、日本照明家協会理事、日本照明家協会一級技能士。実務歴27年。						
授業の学習内容	日本照明家協会技能認定2級試験合格を目標とする。 ①職業意識の啓発を促し、ヒューマンスキル及びビジネスマナーを身につける。 ②現場のルールとともに舞台照明に関する知識と技能を習得する。						
到達目標	①前期中に予定されているミュージカル「明日への扉」で、仕込み、本番、撤去ができ、1年生スタッフに指導できる。 ②日本照明家協会技能認定2級試験合格。						
評価方法と基準	筆記試験として、日本照明家協会技能認定2級試験（80%正解で合格）の点数を評価とする。						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1	演習	照明機器①が解答できる	照明機器について復習レポートを作成。
2	演習	照明機器②が解答できる	照明機器について復習レポートを作成。
3	演習	「公演が行われる場の人たち」①が解答できる	「公演が行われる場の人たち」①について復習レポートを作成。
4	演習	「公演が行われる場の人たち」②が解答できる	「公演が行われる場の人たち」②について復習レポートを作成。
5	演習	「舞台機構と舞台照明設備」①が解答できる	「舞台機構と舞台照明設備」①について復習レポートを作成。
6	演習	「舞台機構と舞台照明設備」②が解答できる	「舞台機構と舞台照明設備」②について復習レポートを作成。
7	演習	「舞台における照明の仕事」①が解答できる	「舞台における照明の仕事」①について復習レポートを作成。
8	演習	「舞台における照明の仕事」②が解答できる	「舞台における照明の仕事」②について復習レポートを作成。
9	演習	仮設システムを使った照明の仕事①が解答できる	仮設システムを使った照明の仕事①について復習レポートを作成。
10	演習	仮設システムを使った照明の仕事②が解答できる	仮設システムを使った照明の仕事②について復習レポートを作成。
11	演習	後期まとめ授業	後期まとめ授業の復習レポートを作成。
12	演習	進級卒業制作展の照明スタッフとして参加し、実際の現場で必要となる照明の仕込み、扱い方、プラン、イメージを理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
13	演習	進級卒業制作展の照明スタッフとして参加し、照明オペレートの実践と撤収作業を学ぶ。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
14	演習	技能認定試験	試験で不明確だった部分を調べる。
15	演習	照明実務/We are TSM渋谷に向けて	We are TSM渋谷の資料作成。
準備学習　時間外学習		授業内容について復習レポートを作成。	

【使用教科書・教材・参考書】

舞台・テレビジョン照明技術者　技能認定試験問題集《2級》

科目名	コンサートテクニック3 （PAワークショップ3）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	東徹郎 松本義正
		授業 形態	演習	総時間 （単位）	120 8		
学科・コース	音楽テクノロジー科 PAエンジニアコース						

教員の略歴	東：エムテック所属のPAエンジニアとして、数多くのコンサートやイベント等を手掛ける。実務歴34年。 松本：フリーランスのPAエンジニアとして、数多くのコンサートやイベント等をてがける。実務歴30年。
授業の学習内容	学内イベントや学外イベント、ホール実習などを行なっていく中で基礎的な音響知識の実践を行なっていく。 打合せ、プランニング、仕込み、リハーサル、サウンドチェック、本番、バラシの一連の流れを実際のイベントを通して学び、経験とする。
到達目標	PAスタッフとしての基礎的な現場力を身につけ、上級生が下級生に教える中から、自分自身の理解力をより深めると共に同セクション内の人間関係をも構築する。学内イベントやホール実習を通し、他セクション、ホールスタッフ、演者などとの良好な関係づくりを構築する中から、人としての成長を促し、業界で即戦力として活躍できる人材の育成を目指す。
評価方法と基準	筆記試験と実技試験

授業計画・内容

回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1	演習	顔合わせ自己紹介、機材の持ち方と安全管理について学ぶ。	機材の持ち方と安全管理について復習レポートを作成。
2	演習	マイクとスタンドの種類、ケーブルの巻き方を学ぶ。	マイクとスタンドの種類、ケーブルの巻き方について復習レポートを作成。
3	演習	PA仕込みの練習を行なう。	PA仕込みについて復習レポートを作成。
4	演習	仕込み練習・学園祭セクション決めを行なう。	学園祭セクションで打合せを行なう。
5	演習	仕込み練習・学園祭プランを立てる。	学園祭プランを立てるための打合せや稽古立会い等を行なう。
6	演習	学園祭反省会・明日への扉映像を見た上でセクションを決める。	学園祭反省会・明日への扉映像を見た上でセクションを決める。
7	演習	仕込み練習/LIVE8を学ぶ。	仕込み練習/LIVE8を学ぶ。
8	演習	仕込み練習/Work Benchを学ぶ。	仕込み練習/Work Benchを学ぶ。
9	演習	仕込み練習/DVSを学ぶ。	仕込み練習/DVSを学ぶ。
10	演習	外部ホール実習①外部ホールでの搬入搬出、仕込み、舞台機構、使用マナー等を学ぶ。	外部ホール実習①外部ホールでの搬入搬出、仕込み、舞台機構、使用マナー等を学ぶ。
11	演習	ホール実習②外部ホールで音環境を理解する。	ホール実習②外部ホールで音環境を理解する。
12	演習	ホール実習③外部ホールでのライブシミュレーションを行なう。	ホール実習③外部ホールでのライブシミュレーションを行なう。
13	演習	明日への扉スタッフとして参加し、仕込み、リハーサルを行なう。	明日への扉スタッフとして参加し、仕込み、リハーサルを行なう。
14	演習	明日への扉スタッフとして参加し、本番、ばらしを行なう。	明日への扉スタッフとして参加し、本番、ばらしを行なう。
15	演習	筆記試験と実技試験	筆記試験と実技試験
準備学習　時間外学習		授業内容の復習をレポートとして作成する。イベント等の打合せ、リハーサル立会い、プランニングや資料作成を行なう。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	コンサートテクニック3 （照明ワークショップ3）	必修選択	選択	年次	2	担当教員	佐々木 鈴木
学科・コース	音楽テクノロジー科・照明スタッフ、照明ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ	授業形態	演習	総時間（単位）	120 8		
教員の略歴	佐々木：大手照明会社に11年間勤務し、他方面の照明オペレートを経験。現在フリーランスの照明家として活動。実務歴26年。 鈴木：H6~H21（株)綜合舞台 勤務 / H21~フリーランスとしてコンサート現場を中心に照明業務全般を担当。実務歴25年。						
授業の学習内容	舞台照明の仕事をするにあたり、基礎を踏まえた内容の授業をメインとする。現場で求められる人間性、技術力、行動力などの人材育成を目的とした実習として、ベーシック、アドバンスを活かした現場総合力を身につけるための授業。実習を繰り返すことで現場で求められる基礎知識と動きなどを覚え即戦力になる人材を育成する。						
到達目標	照明基礎のベーシック、アドバンスを活かしたより実践的な技術の習得と学年を超えた照明スタッフとしてのコミュニケーション力を学び、より現場らしい業務内容の体験の中で社会人になる意識を持たせる。メンテナンスを通じて器材の仕組みや工具の使い方を学ぶ。仕込みバラシと明かり作り作業の反復練習で照明効果の理解を深める。						
評価方法と基準	実技試験50% 筆記試験50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1	演習	火曜の授業の確認や学校イベントなどの把握と協調関係の大事さなどを学ぶ。	授業時に取ったメモを見返して理解を深める。
2	演習	教室機材の器材を覚える。	授業で学んだ内容を復習する。
3	演習	実際に明かりを出しながら基本明かりの解説をし、理解する。	授業で学んだ内容を復習する。
4	演習	光と影が表わす印象と表現を理解す	授業で学んだ内容を復習する。
5	演習	光の方向性や色から受けるイメージを	様々なイメージを日常や映像を通して膨ら
6	演習	テーマに沿った明かりを表現してみる	授業で学んだ内容を機材に触れて復習する。
7	演習	電気基礎の理解をする。	授業内容に即した課題をレポートとして提出する。
8	演習	調光信号とユニットの理解をする。	授業で学んだ内容を機材に触れて復習する。
9	演習	仕込み図を作成する。	授業で学んだ内容を復習する。
10	演習	仕込みバラシをしてみる。	前週の仕込み図を完成させる。
11	演習	前期を終えるにあたり質問復習をする	質問疑問をまとめてくる。
12	演習	イベントに向けての事前準備をする。	台本や資料に目を通しておく。
13	演習	「明日への扉」照明スタッフとして参加し、実際の現場で必要となる照明の仕込み、扱い方、プラン、イメージを理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
14	演習	「明日への扉」照明スタッフとして参加し、実際の現場で必要となる照明の仕込み、扱い方、プラン、イメージを理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
15	演習	実技試験と筆記試験を行う。	自身で答え合わせをし、分からなかった事について調べクリアにしておく。
準備学習　時間外学習		常に帰ってからの復習と理解を深め、実習や現場での動きに活かせるようにする。	

【使用教科書・教材・参考書】

ステージ舞台入門

科目名	コンサートテクニック3 （舞台制作ワークショップ3）	必修選択	選択	年次	2	担当教員	川原宏幸
学科・コース	音楽テクノロジー科・舞台制作コース	授業形態	演習	総時間（単位）	90 6		
教員の略歴	国内外アーティスト・アイドル・声優等のコンサートやイベントの舞台監督を担当。実務歴25年。						
授業の学習内容	テキストを中心に舞台の基礎を学び、アイドルイベントやお笑いイベント、学園祭、明日への扉公演の舞台監督、舞台制作スタッフに必要な知識と技術を実践的に学ぶ。						
到達目標	●知識と基に、作業工程や操作法を身につける。 ●舞台全体を把握できることを目的とする。 ●座学と実習を繰り返して、舞台監督としての成長を目指す。						
評価方法と基準	●資料作成物により評価30% ●イベント後のレポート提出40% ●出席状況30%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1	演習	オリエンテーション	自己紹介内容準備。
2	演習	基本用語①：舞台用語に慣れ	スタッフ赤本の復習レポート作成と予習
3	演習	基本用語②：舞台セットについ	スタッフ赤本の復習レポート作成と予習
4	演習	基本用語③：舞台進行について	イベント打合せ、資料の作成
5	演習	学園祭準備	イベント打合せ、資料の作成
6	演習	学園祭反省会・引き継ぎ作業	学園祭時に使用した資料の整理をする。
7	演習	基本用語④：各セクションにつ	実習準備
8	演習	備品理解①：箱馬・平台	実習準備
9	演習	備品理解②：幕について	イベント打合せ、資料の作成
10	演習	備品理解③：舞台を創る	イベント打合せ、資料の作成
11	演習	備品理解④：大道具部材の準	授業内容を復習しレポートを作成。
12	演習	備品理解⑤：繋ぐ・切る・結ぶ	授業内容を復習しレポートを作成。
13	演習	明日への扉の舞台演出部として参加。 ミュージカル舞台の仕込み、進行、転換等を実践的に学ぶ。	打合せ、稽古立会い、資料の作成。
14	演習	明日への扉の舞台演出部として参加。 ミュージカル舞台の仕込み、進行、転換等を実践的に学ぶ。	撤収作業から現状復帰までを行なう。
15	演習	前期まとめ、試験	前期のまとめを復習しレポートを作成。
準備学習　時間外学習		授業内容の復習レポートを作成し、イベントの打合せ、タイムテーブルや進行表等の資料作成を行なう。	

【使用教科書・教材・参考書】

スタッフ赤本・コース教材（メジャー・手袋・カッター）

科目名	コンサートテクニック3 （楽器テクニシャンワークショップ3）	必修選択	選択	年次	2	担当教員	水見博
学科・コース	音楽テクノロジー科楽器ﾘﾍﾟｱ&ﾃｸﾆｼｬﾝｺｰｽ	授業形態	演習	総時間（単位）	90 6		
教員の略歴	株式会社チームアクティブにて楽器テクニシャン、舞台監督として活動。実務歴26年。						
授業の学習内容	楽器テクニシャンとして基礎、機材メンテナンス、現場における所作まで実習を伴い学習する。 ドラムセットのセッティング、ギター、ベース、アンプなどの扱い方、電源の取り方、サウンドメイキングなどを学び、アーティストとの関わり方やマナーも身につけて即戦力を養う。						
到達目標	楽器テクニシャンとして　学内でのライブイベント等の現場を経験し、対応力、コミュニケーション、機材メンテナンスなどの技術を身につけることで、楽器テクニシャンとしての職業選択を持たせ、アーティストから必要とされる知識、技術を身につける。						
評価方法と基準	筆記試験及び実技試験						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1	演習	オリエンテーション	スケジュールの調整と必要な道具、備品を揃える。
2	演習	楽器、機材のメンテナンスとリストの作成を学ぶ（1）	メンテナンス機材の選定をする。
3	演習	楽器、機材のメンテナンスとリストの作成を学ぶ（2）	メンテナンス機材の復旧確認をする。
4	演習	学内イベントに向けて考査、考察（1）	イベント実施内容資料収集
5	演習	学内イベントで現場に必要な知識と技術を学ぶ。	実施イベント資料の復習
6	演習	学園祭楽器テクニシャン業務について考査する。	実施イベント資料に基づいての考察
7	演習	学園祭反省会と終了報告書作成	実施イベント資料に基づいての考察
8	演習	楽器、機材のメンテナンスとリストの作成を学ぶ（3）	メンテナンス機材の選定
9	演習	楽器、機材のメンテナンスとリストの作成を学ぶ（4）	メンテナンス機材の復旧確認
10	演習	ミュージカル明日への扉について考察する。	昨年実施資料の復習、今年度資料の考察
11	演習	校内機材への深認識、再確認をし共有する。	校内機材の使用方向考察
12	演習	学内イベントに向けて考査、考察（2）	イベント実施内容の収集と資料作成。
13	演習	明日への扉で楽器テクニシャンスタッフの実践経験を積む。	明日への扉の資料作成と反省点をまとめる。
14	演習	明日への扉で楽器テクニシャンスタッフの実践経験を積む。	明日への扉の資料作成と反省点をまとめる。
15	試験	テスト	前期のまとめをレポート作成する。
準備学習　時間外学習		授業内容の復習と各種イベントの打合せ、資料作成をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	コンサートテクニック3 （舞台監督演習Advance 1）	必修選択	選択	年次	2	担当教員	北 英樹
学科・コース	音楽テクノロジー科・舞台制作コース	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	コンサートや演劇、イベント等の舞台監督として活動。実務歴35年。						
授業の学習内容	舞台監督、舞台制作者に必要となる知識と実際の現場で役立つ技術を学ぶ。						
到達目標	舞台制作の知識に関しての応用力の理解と実技を身につける。						
評価方法と基準	1.実技試験（ ４０ ％ ） ２.筆記試験 （ ６０％ ）３.課題（ ０％ ）						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1	演習	舞台美術 の素材に関して学ぶ	舞台美術の素材について復習レポートを作成。
2	演習	舞台演出 に関して学ぶ	舞台演出について復習レポートを作成。
3	演習	学園祭制作全般を理解する	1年次の学園祭資料を準備しておく。
4	演習	舞台での安全に関して学ぶ	舞台での安全について復習レポートを作成。
5	演習	学園祭の舞台制作業務を学ぶ	学園祭内容の周知と打合せ参加及び資料の作成。
6	演習	禁止行為解除 に関して学ぶ	禁止行為解除について復習レポートを作成。
7	演習	禁止行為解除申請資料の作成	禁止行為解除について復習レポートを作成。
8	演習	舞台美術に関しての応用知識を学ぶ	舞台美術について復習レポートを作成。
9	演習	舞台での足場 に関しての知識を学ぶ	舞台で使用される足場について復習レポートを作成。
10	演習	舞台監督に関しての応用知識 1	舞台監督について復習レポートを作成。
11	演習	舞台監督に関しての応用知識 2	舞台監督について復習レポートを作成。
12	演習	フルハーネス安全帯 に関しての知識を学ぶ	フルハーネス安全帯について復習レポートを作成。
13	演習	明日への扉の舞台監督スタッフとして稽古立会いから仕込み、リハーサル進行を行う。	舞台監督について復習レポートを作成。
14	演習	明日への扉の舞台監督スタッフとして積込、搬入搬出、仕込み、本番進行、撤収作業の進行を行う。	舞台監督について復習レポートを作成。
15	試験	試験	前期のまとめをレポート作成する。
準備学習　時間外学習		準備学習として各授業のテーマを調べ、時間外学習として授業週内に必ず復習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

学内に有る全ての機材の使用

科目名	コンサートテクニック3 （イベントスタッフワーク3）	必修選択	選択	年次	2	担当教員	大島直子
学科・コース	音楽テクノロジー科・舞台制作＆ステージデザイナー、コンサート企画制作コース	授業形態	演習	総時間（単位）	60 4		
教員の略歴	イベントやコンサートの制作・進行、事務局、発表会、企業物などオールジャンルの仕事をしています。実務歴17年。						
授業の学習内容	2年生は卒業制作であり、1年生は進級制作でもある「weareTSM渋谷!DA TOKYO!」のイベントを実施・制作。1年間の集大成のイベントを各学科・コースや合同日（葛西校）を連携しながら、進行及び制作業務を行う。						
到達目標	2年生が中心となり、各学科・コースの枠を超えて、 イベントを新規で作り上げていく為のコミュニケーション能力を身につける。 イベント本番の役割をシミュレーションし、事前準備の大切さや見やすい資料作成の基本を目指す。						
評価方法と基準	本番終了後の報告書の作成を筆記試験として評価する。 授業出席やイベントリハーサルの準備、本番を実技試験として評価する。						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1	演習	●「学園祭」「明日への扉」の概要説明 ●舞台・制作・運営のチーム分け、演目担当分け ●各担当ごとに連絡先交換と各グループで挨拶	今後1つのチームとして作業するため、授業以外でもコミュニケーションをとる意識を持つ。
2	講義	●「学園祭の演目説明 ●「学園祭の昨年の資料確認	データを管理し、いつでも見れる見せられる環境を整えておく。
3	演習	●舞台監督と制作の役割・内容説明 ●打合せ内容の共有	授業内容について復習しレポートを作成。
4	演習	●各演目担当チームごとに、担当教務に挨拶にいく ●打合せ内容の共有	イベント資料を管理し、チームで共有する環境を整えておく。
5	演習	●各演目の現状確認（報告会）、昨年の反省点の確認・改善点　おさらい	※舞台・運営と合同ミーティング情報共有をする。
6	演習	●各演目の現状確認（報告会）、必要資料を作成する ●制作チームごとにミーティング●シーバーの使い方 ※資料の締め切り確認	※舞台・運営と合同ミーティング情報共有をする。
7	演習	●「学園祭」の反省会、資料まとめ ●「明日への扉」映像を見る	イベント資料を管理し、次年度のために整理しておく。
8	演習	●「明日への扉」結団式にて主旨、目的を理解する。	結団式内容をレポートにまとめる。
9	演習	●「明日への扉」の舞台監督と制作の役割・内容説明 ●担当割り、スケジュール確認	資料作成。
10	演習	●「明日への扉」現状確認（報告会）、昨年の反省点の確認・改善点　おさらい、稽古場のパミリを行う。	資料作成。
11	演習	●「明日への扉」台本読み、ト書きの説明 ●外部リハーサルに向けての資料作り・控室おさえなど	資料作成。
12	演習	「明日への扉」の制作スタッフとして稽古に立会い、内容変更等情報共有する。	打合せ、資料等を完成させ、イベントの成功を目指す準備をしっかり行なう。
13	演習	「明日への扉」の舞台監督、制作スタッフとして本番を行う。	打合せ、資料等を完成させ、イベントの成功を目指す準備をしっかり行なう。
14	演習	●「明日への扉」の終了報告書作成 ●各演目・担当ごとに反省会・次回にむけての改善点 ●2年生から1年生への引き継ぎ　資料作成など	終了報告書作成のための資料をまとめる。
15	演習	●「明日への扉」の今年の映像確認 ●試験	引き継ぎ事項をまとめておく。
準備学習　時間外学習		打合せや授業内容についての資料やレポートを作成。	

【使用教科書・教材・参考書】

昨年の学園祭資料、明日への扉2018公演DVD、資料

科目名	コンサートテクニック4 （PAワークショップ4）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	東徹郎 松本義正
学科・コース	音楽テクノロジー科 PAエンジニアコース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	120 8		

教員の略歴	東：エムテック所属のPAエンジニアとして、数多くのコンサートやイベント等を手掛ける。実務歴34年。 松本：フリーランスのPAエンジニアとして、数多くのコンサートやイベント等をてがける。実務歴30年。
授業の学習内容	学内イベントや学外イベント、ホール実習などを行なっていく中で基礎的な音響知識の実践を行なっていく。 進級制作展、卒業制作展を成功に導くためのプランニングやオペレーションを学ぶ。
到達目標	PAスタッフとしての基礎的な現場力を身につけ、上級生が下級生に教える中から、自分自身の理解力をより深めると共に同セクション内の人間関係をも構築する。学内イベントやホール実習を通し、他セクション、ホールスタッフ、演者などとの良好な関係づくりを構築する中から、人としての成長を促し、業界で即戦力として活躍できる人材の育成を目指す。
評価方法と基準	筆記試験と実技試験

授業計画・内容

回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1	演習	仕込練習/LS9の操作方法を修得する。	LS9の操作方法について復習レポートを作成。
2	演習	仕込練習/X32の操作方法を修得する。	X32の操作方法について復習レポートを作成。
3	演習	仕込練習/QL5の操作方法を修得する。	QL5の操作方法について復習レポートを作成。
4	演習	仕込練習/CL5の操作方法を修得する。	CL5の操作方法について復習レポートを作成。
5	演習	仕込練習/SD8の操作方法を修得する。	SD8の操作方法について復習レポートを作成。
6	演習	ホール実習④外部ホールでのアコギ弾き語りライブシミュレーションを行なう。	外部ホールでのアコギ弾き語りライブについて復習レポートを作成。
7	演習	ホール実習④外部ホールでのピアノ弾き語りライブシミュレーションを行なう。	外部ホールでのピアノ弾き語りライブについて復習レポートを作成。
8	演習	ホール実習③外部ホールでのバンドライブシミュレーションを行なう。	外部ホールでのバンドライブについて復習レポートを作成。
9	演習	We are TSM渋谷のセクション決めを行ない、打合せをする。	セクションごとの打合せ内容をまとめ資料を作成する。
10	演習	We are TSM渋谷打合せ、プランニングをする。	We are TSM渋谷プランの整理をする。
11	演習	We are TSM渋谷リハーサルを行なう。（1）	We are TSM渋谷リハーサルについて修正変更点をまとめる。
12	演習	We are TSM渋谷リハーサルを行なう。（2）	We are TSM渋谷リハーサルについて修正変更点をまとめる。
13	演習	We are TSM渋谷に参加し、プランニング、リハーサル立会い、資料作成を行なう。	明日への扉スタッフとして参加し、仕込み、リハーサルを行なう。
14	演習	We are TSM渋谷に参加し、積込、搬入搬出、仕込みから本番、バラシまで行なう。	明日への扉スタッフとして参加し、本番、ばらしを行なう。
15	演習	We are反省会、アーカイブ作成	筆記試験と実技試験
準備学習　時間外学習			

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	コンサートテクニック4 （照明ワークショップ4）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	佐々木 鈴木
学科・コース	音楽テクノロジー科・照明スタッフ、照明ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ	授業 形態	演習	総時間 （単位）	120 8		

教員の略歴	佐々木：大手照明会社に11年間勤務し、他方面の照明オペレートを経験。現在フリーランスの照明家として活動。実務歴26年。 鈴木：H6~H21 (株)綜合舞台 勤務 / H21~フリーランスとしてコンサート現場を中心に照明業務全般を担当。実務歴25年。
授業の学習内容	舞台照明の仕事をするにあたり基礎を踏まえた内容の授業をメインとし現場で求められる人間性、技術力、行動力などの人材育成を目的とした実習としベーシック、アドバンスを活かした現場総合力を身につけるための授業。実習を繰り返すことで現場で求められる基礎知識と動きなどを覚え即戦力になる人材を育成する。
到達目標	照明基礎のベーシック、アドバンスを活かしたより実践的な技術の習得と学年を超えた照明スタッフとしてのコミュニケーション力を学びより現場らしい業務内容の体験の中で社会人になる意識を持たせる。メンテナンスを通じて器材の仕組みや工具の使い方を学ぶ。仕込みバラシと明かり作り作業の反復練習で照明効果の理解を深める。
評価方法と基準	実技試験50% 筆記試験50%

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1	演習	仕込みバラシをしてみて応用力コミュニケーション力等を身につけること	仕込み図を完成させ当日発表。
2	演習	照明においてのメンテナンス技術を身につける	工具について調べてレポートを作成。
3	演習	仕込みバラシをしてみて応用力コミュニケーション力等を身につけること	仕込み図を完成させ当日発表する。
4	演習	内容考察や符割りプランニングなどの理解	内容考察や符割りプランニングについて復習レポートを作成。
5	演習	仕込みバラシをしてみて応用力コミュニケーション力等を身につけること	仕込み図を完成させ当日発表する。
6	演習	課題曲や個人選曲で発表する	選曲しておく。
7	演習	仕込みバラシをしてみて応用力コミュニケーション力等を身につけること	仕込み図を完成させ当日発表する。
8	演習	課題曲や個人選曲で発表する	選曲しておく。
9	演習	仕込みバラシをしてみて応用力コミュニケーション力等を身につけること	仕込み図を完成させ当日発表する。
10	演習	課題曲や個人選曲で発表する	選曲しておく。
11	演習	卒業公演に向けての机上準備を学ぶ	卒業公演の各種資料をまとめておく。
12	演習	後期まとめとして質問や復習	教科書ノートなどのおさらいをしておく。
13	演習	卒業制作展の照明スタッフとして参加し、実際の現場で必要となる照明の仕込み、扱い方、プラン、イメージを理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
14	演習	卒業制作展の照明スタッフとして参加し、実際の現場で必要となる照明の仕込み、扱い方、プラン、イメージを理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
15	試験	実技試験と筆記試験を行う。	自身で答え合わせをし、分からなかった事について調べクリアにしておく。
準備学習　時間外学習		課題曲の選曲や仕込み図を作成し、授業内容の復習レポートを作成する。	

【使用教科書・教材・参考書】

ステージ舞台入門

科目名	コンサートテクニック4 （舞台制作ワークショップ4）	必修選択	選択	年次	2	担当教員	川原宏幸
学科・コース	音楽テクノロジー科・舞台制作コース	授業形態	演習	総時間（単位）	90 6		
教員の略歴	国内外アーティスト・アイドル・声優等のコンサートやイベントの舞台監督を担当。実務歴25年。						
授業の学習内容	アイドルイベントやお笑いイベント等を通して舞台監督、舞台制作スタッフに必要な知識と技術を実践的に学ぶ。 また、実習にて舞台機構を操作し習得する。 卒業進級制作展に向けての打合せや作業を行なう。						
到達目標	舞台公演に必要な知識・使用操作方技術を身につけ、公演の進行を自分自身で行えるようになる						
評価方法と基準	●資料作成物により評価・イベント後のレポート提出・出席状況を基に、評価する						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	備学習　時間外学習(学習課題
1	演習	後期オリエンテーション	PC操作・スタッフ赤本の復習
2	演習	卒業進級制作展開催役割分担	授業内容の整理。
3	演習	地絣り・カーペットを敷く	授業内容の復習レポートを作
4	演習	幕を吊る・道具を飾る	授業内容の復習レポートを作
5	演習	ホールを理解しセットを考察す	授業内容の復習、資料のまとめをレポートとして作成。
6	演習	学内イベントを進行する①	実習準備をする。
7	演習	学内イベントを進行する②	実習準備をする。
8	演習	卒業進級制作展演出内容作業	打合せ、資料作成。
9	演習	卒業進級制作展演出内容作業	打合せ、資料作成し、仕込み作業
10	演習	卒業進級制作展演出内容作業	資料作成、会場仕込み、撤去作業。
11	演習	卒業進級制作展演出内容作業	資料作成、会場仕込み、撤去作業。
12	演習	卒業進級制作展演出内容作業	資料作成、会場仕込み、撤去作業。
13	演習	卒業進級制作展にスタッフとして	打合せ、リハーサル立会い、資料の作成。
14	演習	卒業進級制作展にスタッフとして	撤収作業から現状復帰までを行なう。
15	試験	最終考察試験	復習レポートを作成。
準備学習　時間外学習		授業内容の復習レポートを作成し、イベントの打合せ、タイムテーブルや進行表等の資料作成を行なう。	

【使用教科書・教材・参考書】

スタッフ赤本

科目名	コンサートテクニック4 （楽器テクニシャンワークショップ4）	必修選択	選択	年次	2	担当教員	水見博
学科・コース	音楽テクノロジー科楽器ﾘﾍﾟｱ&ﾃｸﾆｼｬﾝｺｰｽ	授業形態	演習	総時間（単位）	90 6		
教員の略歴	株式会社チームアクティブにて楽器テクニシャン、舞台監督として活動。実務歴26年。						
授業の学習内容	楽器テクニシャンとして基礎、機材メンテナンス、現場における所作まで実習を伴い学習する。 ドラムセットのセッティング、ギター、ベース、アンプなどの扱い方、電源の取り方、サウンドメイキングなどを学び、アーティストとの関わり方やマナーも身につけて即戦力を養う。						
到達目標	楽器テクニシャンとして　学内でのライブイベント等の現場を経験し、対応力、コミュニケーション、機材メンテナンスなどの技術を身につけることで、楽器テクニシャンとしての職業選択を持たせ、アーティストから必要とされる知識、技術を身につける。						
評価方法と基準	筆記試験及び実技試験						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1	演習	オリエンテーション	スケジュールの調整と必要な道具、備品を揃える。
2	演習	楽器、機材のメンテナンスとリストの作成を学ぶ（5）	メンテナンス機材の選定をする。
3	演習	楽器、機材のメンテナンスとリストの作成を学ぶ（6）	メンテナンス機材の復旧を確認しておく。
4	演習	学内イベントに向けて考査、考察（3）	イベント実施内容資料を収集する。
5	演習	学内イベントに向けて考査、考察（4）	イベント実施内容資料を収集する。
6	演習	学内イベントに向けて考査、考察（5）	イベント実施内容資料を収集する。
7	演習	楽器、機材のメンテナンスとリストの作成を学ぶ（7）	メンテナンス機材の選定をする。
8	演習	楽器、機材のメンテナンスとリストの作成を学ぶ（8）	メンテナンス機材の復旧を確認しておく。
9	演習	WE ARE TSM渋谷への考察	昨年実施資料の復習、今年度資料の考察
10	演習	WE ARE TSM渋谷リハーサルの準備、考察	昨年実施資料の復習、今年度資料の考察
11	演習	WE ARE TSM渋谷リハーサルの準備、考察	昨年実施資料の復習、今年度資料の考察
12	演習	WE ARE TSM渋谷外部ホールリハーサルの準備、考察	昨年実施資料の復習、今年度資料の考察
13	演習	WE ARE TSM渋谷のスタッフとして現場実習を行う。	WE ARE TSM渋谷の打合せ、資料作成。
14	演習	WE ARE TSM渋谷のスタッフとして現場実習を行う。	WE ARE TSM渋谷終了報告書を作成する。
15	試験	試験	後期のまとめを作成する。
準備学習　時間外学習		授業内容の復習と各種イベントの打合せ、資料作成をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	コンサートテクニック4 （舞台監督演習Advance 2）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	北 英 樹
学科・コース	音楽テクノロジー科・舞台制作コース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴	コンサートや演劇、イベント等の舞台監督として活動。実務歴35年。						
授業の学習内容	舞台監督、舞台制作者に必要となる知識と実際の現場で役立つ技術を学ぶ。						
到達目標	舞台制作の知識に関しての応用力の理解と実技を身につける。						
評価方法と基準	1.実技試験（ ４０ ％ ） ２.筆記試験 （６０％）３.課題（０％）						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1	演習	舞台制作に関しての応用を学ぶ	1年次～2年次前期の舞台制作授業の復習をする
2	演習	譜面に関して学ぶ	譜面 について復習レポートを作成する
3	演習	舞台監督に関しての復習	1年次～2年次前期の舞台監督授業の復習をする
4	演習	舞台での映像に関して	舞台に於ける映像について調べる
5	演習	舞台での安全に関しての復習	1年次～2年次前期の舞台安全授業の復習
6	演習	舞台監督の現場での現状について	現場での舞台監督の仕事について調べてレポートを作成。
7	演習	舞台演出に関しての復習	1年次～2年次前期の舞台演出授業の復習をする
8	演習	様々な舞台演出について	様々な舞台演出について調べてレポートを作成。
9	演習	舞台監督に関して学ぶ	舞台監督 とは 何かを調べてレポートを作成。
10	演習	We are TSM渋谷の資料作成を行う（1）	打合せに参加し、イベント内容を把握しておく。
11	演習	We are TSM渋谷の資料作成を行う（2）	打合せを元に資料を修正していく。
12	演習	We areリハーサル会場仕込みと進行を行う	リハで変更のあった箇所の資料修正。
13	演習	We are TSM渋谷にスタッフとして参加する。	打合せ、リハーサル立会い、資料の作成。
14	演習	We are TSM渋谷にスタッフとして参加する。	撤収作業から現状復帰までを行なう。
15	試験	試験	後期のまとめをレポート作成する。
準備学習　時間外学習		準備学習として各授業のテーマを調べ、時間外学習として授業週内に必ず復習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

学内に有る全ての機材の使用

科目名	コンサートテクニック4 （イベントスタッフワーク4）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大島直子
学科・コース	音楽テクノロジー科・舞台制作＆ステージデザイナー、コンサート企画制作コース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	60 4		
教員の略歴	イベントやコンサートの制作・進行、事務局、発表会、企業物などオールジャンルの仕事をしています。実務歴17年。						
授業の学習内容	2年生は卒業制作であり、1年生は進級制作でもある「weareTSM渋谷!DA TOKYO!」のイベントを実施・制作。 1年間の集大成のイベントを各学科・コースや合同日（葛西校）を連携しながら、進行及び制作業務を行う。						
到達目標	2年生が中心となり、各学科・コースの枠を超えて、 イベントを新規で作り上げていく為のコミュニケーション能力を身につける。 イベント本番の役割をシミュレーションし、事前準備の大切さや見やすい資料作成の基本を目指す。						
評価方法と基準	本番終了後の報告書の作成を筆記試験として評価する。 授業出席やイベントリハーサルの準備、本番を実技試験として評価する。						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1	演習	●「weareTSM渋谷!DA TOKYO!」の概要説明 ●舞台・制作・運営のチーム分け、演目担当分け ●各担当ごとに連絡先交換と各グループで挨拶	今後1つのチームとして作業するため、授業以外でもコミュニケーションをとる意識を持つ。
2	演習	●「weareTSM渋谷!DA TOKYO!」の演目説明	授業内容について復習しレポートを作成。
3	演習	●「weareTSM渋谷!DA TOKYO!」の昨年の映像確認	映像データを管理し、いつでも見れる見せられる環境を整えておく。
4	演習	●「weareTSM渋谷!DA TOKYO!」の昨年の映像確認 ●舞台監督と制作の役割・内容説明	映像データを管理し、いつでも見れる見せられる環境を整えておく。
5	演習	●各演目担当チームごとに、担当教務に挨拶にいく	イベント資料を管理し、チームで共有する環境を整えておく。
6	演習	【2年生のみ】 ●各演目の現状確認（報告会）、昨年の反省点の確認・改善点　おさらい	申し送り事項について復習しレポートを作成。
7	演習	【2年生のみ】 ●各演目の現状確認（報告会）、昨年の反省点の確認・改善点　おさらい	※舞台・運営と合同ミーティング 情報共有をする。
8	演習	●各演目の現状確認（報告会）、必要資料を作成する ●・制作チームごとにミーティング●シーバーの使い方 ※資料の締め切り確認　※葛西制作と顔合わせ	授業内容について復習しておく。
9	演習	●各演目の現状確認（報告会）、必要資料を作成する ●リハーサルに向けての資料作り・控室おさえなど ※資料の締め切り確認	資料作成。
10	演習	●各演目の現状確認（報告会）、必要資料を作成する ●リハーサルに向けての資料作り・控室おさえなど ※資料の締め切り確認	資料作成。
11	演習	●各演目の現状確認（報告会）、必要資料を作成する ●外部リハーサルに向けての資料作り・控室おさえなど ※資料の締め切り確認	資料作成。
12	演習	「weareTSM渋谷!DA TOKYO!」の制作スタッフとしてイベントに取り組む。	打合せ、資料等を完成させ、イベントの成功を目指す準備をしっかり行なう。
13	演習	「weareTSM渋谷!DA TOKYO!」の制作スタッフとしてイベントに取り組む。	打合せ、資料等を完成させ、イベントの成功を目指す準備をしっかり行なう。
14	演習	●「weareTSM渋谷!DA TOKYO!」の終了報告書作成 ●各演目・担当ごとに反省会・次回にむけての改善点 ●2年生から1年生への引き継ぎ　資料作成など	終了報告書作成のための資料をまとめる。
15	演習	●「weareTSM渋谷!DA TOKYO!」の　今年の映像確認 ●2年生から1年生への引き継ぎ　資料など	引き継ぎ事項をまとめておく。
準備学習　時間外学習		打合せや授業内容についての資料やレポートを作成。	

【使用教科書・教材・参考書】

昨年のweare公演DVD/学内PC(4F)/昨年の資料（2年生）

科目名	機材メンテナンス1	必修選択	選択	年次	2	担当教員	東徹郎
学科・コース	音楽テクノロジー科 PAエンジニアコース	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	コンサートやフェス、他様々なイベントのPAエンジニアとして活動し34年の経歴を持つ。						
授業の学習内容	基礎的な工具の使い方やハンダづけなどを習得し、日頃使用する機材のメンテナンス方法を学ぶことで、機材に対する知識と愛情を深めていく。						
到達目標	学んだ知識と技術を基に、日常使用する機材の保守メンテナンスを自ら行えるようにする。						
評価方法と基準	筆記試験と実技試験						

授業計画・内容

回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1	講義	工具の種類と用途を理解し、注意すべき点を把握する。	工具の種類と用途についての復習レポートを作成。
2	講義	半田付け①下処理を学ぶ。	半田付けの下処理について復習レポートを作成。
3	講義	半田付け②キャノンフォンとケーブルの半田付けを学ぶ。	キャノンフォンとケーブルの半田付けについて復習レポートを作成。
4	講義	半田付け③プラグとケーブルの半田付けを学ぶ。	プラグとケーブルの半田付けについて復習レポートを作成。
5	講義	半田付け④NL4の半田付けを学ぶ。	NL4の半田付けについて復習レポートを作成。
6	講義	マイクロフォンのメンテナンス方法を学ぶ。	マイクロフォンのメンテナンス方法について復習レポートを作成。
7	講義	マイクスタンドのメンテナンス方法を学ぶ。	マイクスタンドのメンテナンス方法について復習レポートを作成。
8	講義	パワーアンプのメンテナンス方法を学ぶ。	パワーアンプのメンテナンス方法について復習レポートを作成。
9	講義	ケーブル類のメンテナンスを学ぶ（1）	ケーブル類のメンテナンスについて復習レポートを作成。
10	講義	ケーブル類のメンテナンスを学ぶ（2）	ケーブル類のメンテナンスについて復習レポートを作成。
11	講義	デジタルミキサーのメンテナンスを学ぶ。	デジタルミキサーのメンテナンスについて復習レポートを作成。
12	講義	デジタルデータの整理方法を学ぶ。	デジタルデータの整理方法について復習レポートを作成。
13	講義	明日への扉で使用する音響機材のメンテナンスを事前に行なう。	メンテナンスした機材のリストを整理する。
14	講義	明日への扉で不具合の出た機材のメンテナンスをする。	メンテナンスした機材のリストを整理する。
15	試験	筆記試験と実技試験	前期のまとめをレポートとして作成する。
準備学習　時間外学習		授業内容についての復習レポートを作成し、学校のPA機材のメンテナンスを各自で行なう。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	機材メンテナンス2	必修選択	選択	年次	2	担当教員	東徹郎
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
学科・コース	音楽テクノロジー科 PAエンジニアコース						

教員の略歴	コンサートやフェス、他様々なイベントのPAエンジニアとして活動し34年の経歴を持つ。
授業の学習内容	基礎的な工具の使い方やハンダづけなどを習得し、日頃使用する機材のメンテナンス方法を学ぶことで、機材に対する知識と愛情を深めていく。
到達目標	学んだ知識と技術を基に、日常使用する機材の保守メンテナンスを自ら行えるようにする。
評価方法と基準	筆記試験と実技試験

授業計画・内容

回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1	講義	スピーカーのメンテナンス方法を学ぶ（1）	学内にあるスピーカーの状態を調べておく。
2	講義	スピーカーのメンテナンス方法を学ぶ（2）	スピーカーの構造をあらためて復習する。
3	講義	スピーカーのメンテナンス方法を学ぶ（3）	学内機材のメンテナンスを進めておく。
4	講義	アナログミキサーのメンテナンスを学ぶ（1）	学内にあるアナログミキサーの状態を調べておく。
5	講義	アナログミキサーのメンテナンスを学ぶ（2）	授業内容の復習レポートを作成する。
6	講義	アナログミキサーのメンテナンスを学ぶ（3）	学内機材のメンテナンスを進めておく。
7	講義	ワイヤレスシステムのトラブル対策を学ぶ（1）	学内にあるワイヤレスシステムの状態を調べておく。
8	講義	ワイヤレスシステムのトラブル対策を学ぶ（2）	授業内容の復習レポートを作成する。
9	講義	ワイヤレスシステムのトラブル対策を学ぶ（3）	学内機材のメンテナンスを進めておく。
10	講義	We areで使用する機材のメンテナンスをする、（1）	学内にある機材の状態を調べる。
11	講義	We areで使用する機材のメンテナンスをする、（2）	メンテナンスした機材のリストを整理する。
12	講義	We areで使用する機材のメンテナンスをする、（3）	メンテナンスを各自進めておく。
13	講義	We areで不具合の出た機材のメンテナンスをする。	イベント時に問題が起きた機材の情報をまとめておく。
14	講義	We areで不具合の出た機材のメンテナンスをする。	イベント時に問題が起きた機材の情報をまとめておく。
15	試験	筆記試験と実技試験	前期のまとめをレポートとして作成する。
準備学習　時間外学習		授業内容についての復習レポートを作成し、学校のPA機材のメンテナンスを各自で行なう。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	舞台機構調整士Ⅱ(1)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	小瀬高夫
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
学科・コース	音楽テクノロジー・PAエンジニアコース						

教員の略歴	一級舞台機構調整技能士。株式会社ヴァーゴ設立。2010年より(株)サンフォニックス入社。実務歴41年。
授業の学習内容	音の性質、音響心理、電気の基礎、アース、ノイズ、電気音響機器、楽器音、音楽の判断、簡易PAセット組み上げおよび調整を学ぶ。
到達目標	7月に実施の3級舞台機構調整技能士（厚生労働省）の取得。
評価方法と基準	小テスト、学習ジャーナル、筆記試験、実技試験

授業計画・内容

回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1	講義	講師紹介、、授業の進め方、教科書、3級舞台機構調整技能士	シラバス、教科書、確認しておく事。
2	講義	筆記試験解説　作業試験練習	先週の復習、本日の予習
3	講義	筆記試験解説　作業試験練習	先週の復習、本日の予習
4	講義	筆記試験解説　作業試験練習	先週の復習、本日の予習
5	講義	筆記試験解説　作業試験練習	先週の復習、本日の予習
6	講義	筆記試験解説　作業試験練習	先週の復習、本日の予習
7	講義	筆記試験解説　作業試験練習	先週の復習、本日の予習
8	講義	筆記試験解説　作業試験練習	先週の復習、本日の予習
9	講義	筆記試験解説　作業試験練習	先週の復習、本日の予習
10	講義	筆記試験解説　作業試験練習	先週の復習、本日の予習
11	講義	筆記試験解説　作業試験練習	先週の復習、本日の予習
12	講義	筆記試験解説　作業試験練習	先週の復習、本日の予習
13	講義	「明日への扉」音響スタッフとして参加し、仕込み、バラシ、プラン、オペレート等を理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
14	講義	「明日への扉」音響スタッフとして参加し、仕込み、バラシ、プラン等を理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
15	講義	筆記試験　作業試験振り返り	試験を終えての感想をまとめる。
準備学習　時間外学習		現場に積極的に参加する事。予習、復習を必ず行う事。体調管理しっかりする事。	

【使用教科書・教材・参考書】

PA入門改訂版、ステージ、PA、照明用語事典、舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション3級

科目名	舞台機構調整士Ⅱ(2)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	小瀬高夫
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
学科・コース	音楽テクノロジー・PAエンジニアコース						
教員の略歴	一級舞台機構調整技能士。株式会社ヴァーゴ設立。2010年より(株)サンフォニックス入社。実務歴41年。						
授業の学習内容	音の性質、音響心理、電気の基礎、アース、ノイズ、電気音響機器、楽器音、音楽の判断、PAシステム組み上げおよび調整を学ぶ。						
到達目標	PAシステムを組み上げられるようになる。音波の性質を理解して調整ができるようになる。						
評価方法と基準	小テスト、学習ジャーナル、筆記試験、実技試験						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	備学習　時間外学習(学習課題
1	講義	マイク種類、ダイナミック、コンデンサ	マイク種類、ダイナミック、コンデンサーマイクについて復習レポートを作成。
2	講義	ワイヤレスマイク、指向性	ワイヤレスマイク、指向性について復習レポートを作成。
3	講義	スピーカー、エンクロージャー、	スピーカー、エンクロージャーについて復習レポートを作成。
4	講義	スピーカーシステム、ヘッドフォン	スピーカーシステム、ヘッドフォンについて復習レポートを作成。
5	講義	プロセッサー、クロスオーバー、パワー	プロセッサー、クロスオーバー、パワーアンプについて復習レポートを作成。
6	講義	アナログとデジタル、ミキシングコンソ	アナログとデジタル、ミキシングコンソールについて復習レポートを作成。
7	講義	インプットモジュール、HAの性能	インプットモジュール、HAの性能について復習レポートを作成。
8	講義	イコライザー、AUX	イコライザー、AUXについて復習レポートを作成。
9	講義	マスターセクション	マスターセクションについて復習レポートを作成。
10	講義	エフェクターの種類、周波数系エフェクター、GEQ,PEQ	エフェクターの種類、周波数系エフェクター、GEQ,PEQ　について復習レポートを作成
11	講義	ダイナミクス系エフェクター	ダイナミクス系エフェクターについて復習レポートを作成。
12	講義	空間系エフェクター	空間系エフェクターについて復習レポートを作成。
13	講義	卒業制作展に音響スタッフとして参加し仕込み、バラシ、プラン、オペレート等を理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
14	講義	卒業制作展に音響スタッフとして参加し、仕込み、バラシ、プラン、オペレート等を理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
15	講義	期末試験（筆記、実技）	後期の復習、期末試験の準備
準備学習　時間外学習		現場に積極的に参加する事。予習、復習を必ず行う事。体調管理しっかりする事。	

【使用教科書・教材・参考書】

PA入門改訂版、ステージ、PA、照明用語事典、舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション3級

科目名	音響学1	必修選択	選択	年次	2	担当教員	小瀬高夫
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
学科・コース	音楽テクノロジー・PAエンジニアコース						

教員の略歴	一級舞台機構調整技能士。株式会社ヴァーゴ設立。2010年より(株)サンフォニックス入社。実務歴41年。
授業の学習内容	音の性質、音響心理、電気の基礎、アース、ノイズ、電気音響機器、楽器音、音楽の判断、簡易PAセット組み上げおよび調整を学ぶ。
到達目標	7月に実施の3級舞台機構調整技能士（厚生労働省）の取得。
評価方法と基準	小テスト、学習ジャーナル、筆記試験、実技試験

授業計画・内容

回数	授業形態	学習内容	備学習　時間外学習(学習課題
1	講義	講師紹介、、授業の進め方、教科書、3級舞台機構調整技能士	シラバス、教科書、確認しておく事。
2	講義	筆記試験解説　作業試験練習（ケーブル巻き、マイクスタンド、PA卓等の仕込み）	ケーブル巻き、マイクスタンド、PA卓等の仕込みについて復習レポートを作成。
3	講義	筆記試験解説　作業試験練習（マイキング、PA卓の扱い方）	マイキング、PA卓の扱い方について復習レポートを作成。
4	講義	筆記試験解説　作業試験練習（ポン出し、フェーダー操作）	ポン出し、フェーダー操作について復習レポートを作成。
5	講義	筆記試験解説　作業試験練習（台本読み、試験官とのやりとり）	台本読み、試験官とのやりとりについて復習レポートを作成。
6	講義	筆記試験解説　作業試験練習（一連の流れを通して行う）	一連の流れ作業について復習レポートを作成。
7	講義	筆記試験解説　作業試験練習（制限時間内に作業をする）	制限時間内に作業をするについて復習レポートを作成。
8	講義	筆記試験解説　作業試験練習（生徒別問題点修正）	自分の問題点を補うための練習をする。
9	講義	筆記試験解説　作業試験練習（反復練習①）	自主練習をする。
10	講義	筆記試験解説　作業試験練習（反復練習②）	自主練習をする。
11	講義	筆記試験解説　作業試験練習（反復練習③1）	自主練習をする。
12	講義	試験を終えての反省点、問題点の考査	試験を終えての反省点をレポートにまとめておく。
13	講義	明日への扉のPAスタッフとして舞台音響の経験を積む（1）	稽古立会い、資料の作成。
14	講義	明日への扉のPAスタッフとして舞台音響の経験を積む（2）	資料の整理、終了報告まとめ。
15	講義	筆記試験解説　作業試験練習	先週の復習、本日の予習
準備学習　時間外学習		現場に積極的に参加する事。予習、復習を必ず行う事。体調管理しっかりする事。	

【使用教科書・教材・参考書】

PA入門改訂版、ステージ、PA、照明用語事典、舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション3級

科目名	音響学2	必修選択	選択	年次	2	担当教員	小瀬高夫
学科・コース	音楽テクノロジー・PAエンジニアコース	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	一級舞台機構調整技能士。株式会社ヴァーゴ設立。2010年より(株)サンフォニックス入社。実務歴41年。						
授業の学習内容	音の性質、音響心理、電気の基礎、アース、ノイズ、電気音響機器、楽器音、音楽の判断、PAシステム組み上げおよび調整を学ぶ。						
到達目標	PAシステムを組み上げられるようになる。音波の性質を理解して調整ができるようになる。						
評価方法と基準	小テスト、学習ジャーナル、筆記試験、実技試験						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1	講義	マイク種類、ダイナミック、コンデンサー	マイク種類、ダイナミック、コンデンサーマイクについて復習レポートを作成
2	講義	ワイヤレスマイク、指向性	ワイヤレスマイク、指向性について復習レポートを作成。
3	講義	スピーカー、エンクロージャー、	スピーカー、エンクロージャーについて復習レポートを作成。
4	講義	スピーカーシステム、ヘッドフォン	スピーカーシステム、ヘッドフォンについて復習レポートを作成。
5	講義	プロセッサー、クロスオーバー、パワー	プロセッサー、クロスオーバー、パワーアンプについて復習レポートを作成
6	講義	アナログとデジタル、ミキシングコンソ	アナログとデジタル、ミキシングコンソールについて復習レポートを作成
7	講義	インプットモジュール、HAの性能	インプットモジュール、HAの性能について復習レポートを作成。
8	講義	イコライザー、AUX	イコライザー、AUXについて復習レポートを作成。
9	講義	マスターセクション	マスターセクションについて復習レポートを作成。
10	講義	エフェクターの種類、周波数系エフェクター、GEQ,PEQ	エフェクターの種類、周波数系エフェクター、GEQ,PEQについて復習レポートを作成
11	講義	ダイナミクス系エフェクター	ダイナミクス系エフェクターについて復習レポートを作成。
12	講義	空間系エフェクター	空間系エフェクターについて復習レポートを作成。
13	講義	卒業制作展に音響スタッフとして参加し、実際の現場で必要となる仕込み、バラシ、プラン、オペレート等を理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
14	講義	卒業制作展に音響スタッフとして参加し、実際の現場で必要となる仕込み、バラシ、プラン、オペレート等を理解する。	現場において気付いた事柄をまとめてレポート提出する。
15	講義	期末試験（筆記、実技）	後期の復習、期末試験の準備
準備学習　時間外学習		現場に積極的に参加する事。予習、復習を必ず行う事。体調管理しっかりする事。	

【使用教科書・教材・参考書】

PA入門改訂版、ステージ、PA、照明用語事典、舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション3級

科目名	Vecter Works Advance1	必修選択	選択	年次	2	担当教員	川原宏幸
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
学科・コース	音楽テクノロジー科・舞台制作コース						
教員の略歴	国内外アーティスト・アイドル・声優等のコンサートやイベントの舞台監督を担当。実務歴25年。						
授業の学習内容	ライブハウスから劇場・アリーナまでの各様々なサイズの公演図面を作成する。						
到達目標	実際の公演で使用される舞台図面を作成するスキルを身につける。						
評価方法と基準	●実技試験70% ●課題提出30%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1	講義	基本操作復習・確認	基本的なPC操作の復習レポートを作成。
2	講義	図面を作成①:ライブハウスサイズ	ライブハウスサイズ図面作成の復習レポートを作成。
3	講義	図面を作成②:ライブハウスサイズ	ライブハウスサイズ図面作成の復習レポートを作成。
4	講義	図面を作成③:ホールサイズ	ホールサイズ図面作成の復習レポートを作成。
5	講義	図面を作成④:学園祭セット図作成	学園祭図面作成の復習レポートを作成。
6	講義	図面を作成⑤:学園祭まとめ	学園祭資料を整理
7	講義	図面を作成⑥:ホールサイズ	ホールサイズ図面作成の復習レポートを作成。
8	講義	図面を作成⑦:ホールサイズ	ホールサイズ図面作成の復習レポートを作成。
9	講義	図面を作成⑧:舞台セット図基本	舞台セット図作成の復習レポートを作成。
10	講義	図面を作成⑨:舞台セット図応用	舞台セット図作成の復習レポートを作成。
11	講義	図面を作成⑩:舞台平面図作成	舞台平面図作成の復習レポートを作成。
12	講義	図面を作成⑪:舞台断面図制作	舞台平面図作成の復習レポートを作成。
13	実習	明日への扉の舞台演出部として参加。ミュージカル舞台の図面を作成する。	明日への扉の図面作成と資料の整理
14	実習	明日への扉の舞台演出部として参加。ミュージカル舞台の図面を作成する。	明日への扉の図面作成と資料の整理
15	講義	前期まとめ	前期まとめの復習レポートを作成。
準備学習　時間外学習		授業内容の復習レポートを作成。	

【使用教科書・教材・参考書】

ベクターワークス　トレーニングブックより抜粋・実公演図面

科目名	Vecter Works Advance2	必修選択	選択	年次	2	担当教員	川原宏幸
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
学科・コース	音楽テクノロジー科　舞台監督・制作コース						

教員の略歴	国内外アーティスト・アイドル・声優等のコンサートやイベントの舞台監督を担当。実務歴25年。
授業の学習内容	ライブハウスから劇場・アリーナまでの様々なサイズの公演図面を作成する。
到達目標	実際の公演で使用される舞台図面を作成するスキルを身につける。
評価方法と基準	●実技試験70% ●課題提出30%

授業計画・内容

回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1	講義	前期内容を確認	基本的なベクターワークスの復習レポートを作成。
2	講義	シンボル登録の理解	シンボル登録について復習レポートを作成。
3	講義	シンボル登録の展開操作	シンボル登録について復習レポートを作成。
4	講義	立体図形を創る	立体図形について復習レポートを作成。
5	講義	立面図を作る①	立面図について復習レポートを作成。
6	講義	立面図を作る②	立面図について復習レポートを作成。
7	講義	外部リハーサル会場の図面作成①	リハーサル会場図面の復習レポートを作成。
8	講義	外部リハーサル会場の図面作成②	リハーサル会場図面の復習レポートを作成。
9	講義	We AreTSM演目別図面展開①	舞台セット図の復習レポートを作成。
10	講義	We AreTSM演目別図面展開②	舞台セット図の復習レポートを作成。
11	講義	We AreTSM演目別図面展開③	舞台セット図の復習レポートを作成。
12	講義	We AreTSM演目別図面展開④	舞台セット図の復習レポートを作成。
13	講義	卒業進級制作展の舞台進行チームとして参加。コンサートイベント舞台の図面を作成する。	卒業進級制作展の図面作成と資料の整理
14	講義	卒業進級制作展の舞台進行チームとして参加。コンサートイベント舞台の図面を作成する。	卒業進級制作展の図面作成と資料の整理
15	講義	年度末課題試験	後期まとめの復習レポートを作成。
準備学習　時間外学習		授業内容の復習レポートを作成し、卒業進級制作展の準備を行う。	

【使用教科書・教材・参考書】

ベクターワークス　トレーニングブックより抜粋・実公演図面

科目名	舞台史1	必修選択	選択	年次	2	担当教員	吾郷順治
		授業形態	講義	総時間（単位）	60 4		
学科・コース	音楽テクノロジー科・舞台制作、照明スタッフコース						
教員の略歴	舞台美術デザイナー＆空間デザイナー（コンサート、ミュージカル、ストレートプレイ、イベント等々）として活動。実務歴38年。						
授業の学習内容	紀元前からの舞台の歴史や、劇場、舞台美術について学びます。舞台スタッフとして最低限必要な教養を身につけ、また舞台美術の知識を通してイマジネイションを広げていきます。						
到達目標	舞台の歴史を知ることで様々なエンターテイメントに興味を持ち、これからの新しいイベントや舞台を創造しゆく、創造力豊かな舞台スタッフとしての人材を育成する。						
評価方法と基準	筆記試験と実技試験						

授業計画・内容

回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1	講義	舞台の歴史について概要説明し、流れを理解する。	
2	講義	古代ギリシア演劇～中世～	古代ギリシア演劇についてグループ研究し、レポートにまとめる
3	講義	古代ギリシア演劇を映像で鑑賞する	
4	講義	シェイクスピアの作品に触れる	シェイクスピア作品についてグループ研究し、レポートにまとめる
5	講義	シェイクスピア演劇を映像で鑑賞する	
6	講義	紀元前からの劇場について学ぶ	紀元前からの劇場について調べ、レポートにまとめる
7	講義	ローマ時代の劇場について学ぶ	ローマ時代の劇場について調べ、レポートにまとめる
8	講義	フランス演劇、スペイン演劇、ロシア演劇について学ぶ	フランス演劇、スペイン演劇、ロシア演劇について調べ、レポートにまとめる
9	講義	フランスのシュールレアリスム演劇、ミュージカル演劇、ピンターについて学ぶ	フランスのシュールレアリスム演劇、ミュージカル演劇、ピンターについて調べ、レポートにまとめる
10	講義	日本の古典演劇、能、狂言、歌舞伎、落語について学ぶ	能、狂言、歌舞伎、落語について調べ、レポートにまとめる
11	講義	日本舞台史～近世①～（新派・新劇の登場）について学ぶ	新派・新劇について調べ、レポートにまとめる
12	講義	日本舞台史～近世②～（宝塚歌劇団、松竹少女歌劇団）について学ぶ	宝塚歌劇団、松竹少女歌劇団について調べ、レポートにまとめる
13	講義	日本舞台史～現代～（小劇場演劇、アングラ演劇）について学ぶ	小劇場演劇、アングラ演劇について調べ、レポートにまとめる
14	講義	劇団四季、2.5次元ミュージカルなど最近の舞台公演について学ぶ	劇団四季、2.5次元ミュージカルについて調べ、レポートにまとめる
15	試験	試験	総まとめをレポートにまとめる
準備学習　時間外学習		授業内容の復習をレポートにまとめる。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	舞台史2	必修選択	選択	年次	2	担当教員	吾郷順治
学科・コース	音楽テクノロジー科・舞台制作、照明スタッフコース	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	舞台美術デザイナー＆空間デザイナー（コンサート、ミュージカル、ストレートプレイ、イベント等々）として活動。実務歴38年。						
授業の学習内容	舞台のルーツを考え、現在の舞台を知る。						
到達目標	舞台の歴史を知ることで、これからの新しいイベント、舞台を創造しゆく知識を習得することができ、創造力豊かな舞台スタッフとしての人材を育成する。						
評価方法と基準	レポート課題 50% 実技試験 50%						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	講義	古代エフェリスの舞台から歴史を学ぶ	古代エフェリスについて調べる
2	講義	現代とエフェリスとの共通点を学ぶ	ヨーロッパ舞台の歴史を調べる、グループワークで研究しレポートにまとめる。
3	講義	ヨーロッパからの舞台の躍進を学ぶ	ローマ時代の舞台について研究する
4	講義	ローマ時代のからの舞台のルーツを学ぶ	世界のイベントの数を調べる
5	講義	現在と過去のイベントの変遷を学ぶ	舞台とは何か、事前に研究する。
6	講義	生と死、舞台との関わりを学ぶ	前半講義のまとめレポートにまとめレポート課題として提出する。
7	講義	前半講義確認テスト　筆記	前半確認テスト　筆記
8	講義	日本の舞台の歴史を学ぶ	日本芸術について研究する。
9	講義	歌舞伎のルーツを学ぶ	ミュージカルについて研究する
10	講義	歴史からミュージカルを学ぶ	舞台と歴史の変遷について考察する
11	講義	舞台の歴史から変遷の流れを学ぶ	舞台美術と歴史について研究する
12	講義	ミュージカル「キャッツ」を学ぶ	美術と舞台についての関係を考察①
13	講義	デザイン画と舞台の可能性①	美術と舞台についての関係を考察①
14	講義	デザイン画と舞台の可能性②	舞台史の授業の振り返りを行う
15	講義	後期復習テスト　筆記	後期テスト　筆記
準備学習　時間外学習		授業内容の復習をレポートにまとめる。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	舞台スタッフ基礎講座１	必修選択	選択	年次	2	担当教員	北　英樹
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
学科・コース	音楽テクノロジー科・舞台制作コース						
教員の略歴	コンサートや演劇、イベント等の舞台監督として活動。実務歴３５年。						
授業の学習内容	舞台美術 、PA、照明、楽器テクニシャン、特殊効果等の舞台制作及び舞台監督を目指す学生にとって有益となる他セクションの仕事を学ぶ講義及び実技。						
到達目標	将来的に仕事での即戦力となるべく、舞台美術、舞台制作、PA、照明、楽器テクニシャン、特殊効果等の基本的知識を知り、作業内容を習得する。						
評価方法と基準	1.実技試験（ ５０ ％ ） ２.筆記試験 （ ５０％ ）						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1	講義	舞台美術（基礎舞台の設営）に関して	舞台美術とは何かを調べる。
2	講義	PAの基礎知識に関して	PAとは何かを調べる。
3	講義	舞台制作の応用知識に関して	1年時の舞台制作授業の復習。
4	講義	PAの機材に関して	PAの機材について調べる。
5	講義	PAのシステムに関して	PAのシステムとは何かを調べる。
6	講義	照明の基礎知識に関して	照明とは何かを調べる。
7	講義	照明の機材に関して	照明の機材について調べる。
8	講義	照明のシステムに関して	照明のシステムとは何かを調べる。
9	講義	ミュージカルの舞台演出について①	資料をまとめて整理する。
10	講義	ミュージカルの舞台演出について②	資料をまとめて整理する。
11	講義	特殊効果に関して	特殊効果 とは何かを調べる。
12	講義	楽器と楽器のセッティング に関して	楽器とは何かを調べる。
13	講義	舞台での足場に関して	舞台での足場 とは 何か調べる。
14	講義	前期テスト（ 筆記 及び 実技 ）	前期の全ての授業内容の復習
15	講義	舞台メイクに関して	舞台メイクについて復習レポート作成。
準備学習　時間外学習		準備学習 各授業のテーマを調べて下さい　時間外学習 授業日の曜日に必ず復習して下さい	

【使用教科書・教材・参考書】

学内に有る全ての機材の使用

科目名	舞台スタッフ基礎講座2	必修選択	選択	年次	2	担当教員	北　英樹
		授業形態	講義	総時間（単位）	60 4		
学科・コース	音楽テクノロジー科・舞台制作コース						
教員の略歴	コンサートや演劇、イベント等の舞台監督として活動。実務歴35年。						
授業の学習内容	舞台美術 、PA、照明、楽器テクニシャン、特殊効果等の舞台制作及び舞台監督を目指す学生にとって有益となる他セクションの仕事を学ぶ講義及び実技。						
到達目標	将来的に仕事での即戦力となるべく、舞台美術、舞台制作、PA、照明、楽器テクニシャン、特殊効果等の基本的知識を知り、作業内容を習得する。						
評価方法と基準	1.実技試験（ ５０ ％ ） ２.筆記試験 （ ５０％ ）						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1	講義	舞台スタッフの打合せスキルを学ぶ。	資料をまとめて整理する。
2	講義	舞台、照明、PAの各図面について学ぶ。	課題の図面を作成して提出する。
3	講義	舞台の様々なスタッフ(トランスポート、プロンプター等)について知る。	授業内容についての復習レポートを作成する。
4	講義	舞台の様々なスタッフ(レーザー、電飾等)について知る。	授業内容についての復習レポートを作成する。
5	講義	PAステージスタッフの仕事を学ぶ。	授業内容についての復習レポートを作成する。
6	講義	PAハウスエンジニアの仕事を学ぶ。	授業内容についての復習レポートを作成する。
7	講義	PA機材の名前を覚える。	授業内容についての復習レポートを作成する。
8	講義	照明の仕込み方法を学ぶ。	授業内容についての復習レポートを作成する。
9	講義	照明の一般調光オペレートを学ぶ。	授業内容についての復習レポートを作成する。
10	講義	照明のムービングについて学ぶ。	授業内容についての復習レポートを作成する。
11	講義	照明のムービングオペレートを学ぶ。	授業内容についての復習レポートを作成する。
12	講義	安全管理について学ぶ。	授業内容についての復習レポートを作成する。
13	講義	足場の組み方を学ぶ。	舞台での足場 とは 何か調べる。
14	試験	前期復習テスト(筆記 及び 実技)	前期の全ての授業内容の復習
15	講義	舞台スタッフの相関図を作成する。	
準備学習　時間外学習		準備学習 各授業のテーマを調べて下さい　時間外学習 授業日の曜日に必ず復習して下さい	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	舞台制作プランニング１	必修選択	選択	年次	2	担当教員	川原宏幸
学科・コース	音楽テクノロジー科　舞台監督・制作コース	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	国内外アーティスト・アイドル・声優等のコンサートやイベントの舞台監督を担当。実務歴25年。						
授業の学習内容	●イベントやコンサートにおける舞台監督の業務を把握し演目内容を進行していく能力を身につける ●資料作成などを元に、学内イベントを経験して実習を行っていく						
到達目標	●知識を元に作業を繰り返すことで、自分自身の判断能力を上げる。						
評価方法と基準	筆記試験及び実技試験						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	備学習　時間外学習(学習課題
1	講義	オリエンテーション	自己紹介内容を事前に準備。
2	講義	舞台知識①：舞台監督の作業	舞台監督の作業について復習レポートを作成。
3	講義	舞台知識②：公演内容資料の	公演内容資料の理解について復習レポートを作成。
4	講義	舞台知識③：図面の理解	図面の理解について復習レポートを作成。
5	講義	学園祭準備	学園祭の打合せ、制作資料の作成。
6	講義	学園祭反省会・引き継ぎ作業	学園祭時に使用した資料の整理。
7	講義	舞台知識④：各スタッフとの共	各スタッフとの共有作業についての復習レポート作成。
8	講義	高所・仮設作業の理解	高所・仮設作業について復習レポートを作成。
9	講義	知識応用①：墨出し	墨出しについて復習レポートを作成。
10	講義	知識応用②：タッパ決め	タッパ決めについて復習レポートを作成。
11	講義	知識応用③：リハーサル進行	リハーサル進行について復習レポートを作成。
12	講義	知識応用④：公演進行の方法	公演進行の方法について復習レポートを作成。
13	講義	明日への扉の舞台演出部として参加。ミュージカル舞台の仕込み、進行、転換等を実践的に学ぶ	打合せ、稽古立会い、資料の作成。
14	講義	明日への扉の舞台演出部として参加。ミュージカル舞台の仕込み、進行、転換等を実践的に学ぶ	撤収作業から現状復帰までを行なう。
15	試験	試験	前期まとめの復習レポートを作成。
準備学習　時間外学習		授業内容の復習レポートを作成し、学園祭や明日への扉の打合せ、資料作成を行う。	

【使用教科書・教材・参考書】

スタッフ赤本

科目名	舞台制作プランニング２	必修選択	選択	年次	2	担当教員	川原宏幸
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
学科・コース	音楽テクノロジー科　舞台監督・制作コース						
教員の略歴	国内外アーティスト・アイドル・声優等のコンサートやイベントの舞台監督を担当。実務歴25年。						
授業の学習内容	公演内容を把握し、必要な資料作成を行う。Excel・PowerPointを使って資料作成を行う						
到達目標	公演開催において、計画的に進行するための資料を作成するスキルを身につける。						
評価方法と基準	筆記試験及び実技試験						

授業計画・内容

回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1	講義	後期オリエンテーション	前期授業内容を復習しておく。
2	講義	WeAreTSM開催会場の理解	WeAreTSM開催会場について復習レポートを作成。
3	講義	制作マニュアル作成①	制作マニュアル作成について復習レポートを作成。
4	講義	制作マニュアル作成②	制作マニュアル作成について復習レポートを作成。
5	講義	制作マニュアル作成③	制作マニュアル作成について復習レポートを作成。
6	講義	マニュアルの印刷製本	印刷した台本を読む。
7	講義	照明・音響仕込み図の理解	照明・音響仕込み図について復習レポートを作成。
8	講義	We AreTSM演出内容作業①	We are TSM渋谷の打合せを行う。
9	講義	We AreTSM演出内容作業②	We are TSM渋谷の資料を作成する。
10	講義	We AreTSM演出内容作業③	We are TSM渋谷のリハーサルを行う。
11	講義	We AreTSM演出内容作業④	We are TSM渋谷のリハーサルを行う。
12	講義	We AreTSM演出内容作業⑤	リハーサルについての資料をまとめる。
13	実習	卒業進級制作展にスタッフとして	打合せ、リハーサル立会い、資料の作成。
14	実習	卒業進級制作展にスタッフとして	撤収作業から現状復帰までを行なう。
15	試験	試験	後期まとめの復習レポートを作成。
準備学習　時間外学習		授業内容の復習レポート作成とWe are TSM渋谷の打合せ、資料作成を行う。	

【使用教科書・教材・参考書】

スタッフ赤本

科目名	Creater's Recording概論 A-2	必修選択	選択	年次	1	担当教員	前田基彦
学科・ｺｰｽ	音楽テクノロジー科・PAエンジニアコース	授業形態	講義	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	フリーランスエンジニア。自身のスタジオを中心に活動。バンド/劇伴/映画サラウンド等幅広いジャンルに関わる。実務歴25年。						
授業の学習内容	レコーディングに関する基礎項目を習得する授業です。基礎知識を得る事で自身の専攻項目の関係/理解を深められます。難しい項目もありますが判りやすく授業をしますので頑張って参加し学習してください。実技と座学で機材＆音との接しかたや楽曲の捉え方まで多義に渡り解説します。服装はエンジニアリングを行うにふさわしい格好（行動しやすい靴や服で参加する事。スカートは避ける事。） 持ち物は、①授業内で使用する音源等持ち帰り用 USBメモリ・ハードディスクなどの外部記憶媒体　②自分のリファレンス（基準）となるヘッドフォンまたはイヤホン（接続はTRSまたはミニTRS）						
到達目標	レコーディングのワークフロー理解、機材の基礎的使用方法習得、レコーディング業界標準のProtools(プロツールス)の基本的な使用方法習得。						
評価方法と基準	1）筆記テスト50% 2）実技テスト50%						

授業計画・内容

回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	講義	１年間の計画 機材廻り信号の流れ①を理解する。	ノート復習する。
2	講義	音の聴き方を学ぶ。	楽曲準備　解析復習をレポートにまとめる。
3	講義	プロツールスについて理解する。	WEBサイト閲覧しレポートを作成する。
4	講義	マイクについての知識を学ぶ。	マイク情報を収集しレポートを作成。
5	講義	エフェクターについての知識を学ぶ。	エフェクター情報を収集しレポートを作成。
6	講義	機材廻り信号の流れについての知識を学ぶ。	ノート復習する。
7	講義	レコーディングの基礎知識を学ぶ。	シグナルフローについて復習レポートを作成。
8	講義	学園祭総括。世の中にある機材の情報収集をする。	WEBサイト閲覧により機材情報を収集しまとめる。
9	講義	音の聴き方を学ぶ。	楽曲準備し、解析復習レポートを作成。
10	講義	レコーディング技術を学ぶ。	シグナルフローについて復習レポートを作成。
11	講義	明日への扉 Recチームのワークフロー	配布資料確認
12	講義	サラウンドについて学ぶ。	配布資料確認の上、サラウンドについて復習レポートを作成。
13	講義	試験を実施する。	試験内容の不明点を明確にする。
14	講義	ライブRECシステムについて学ぶ。	配布資料確認の上、ライブRECシステムについて復習レポートを作成。
15	講義	後期授業の総括をする。	ノート復習
準備学習　時間外学習		授業内容の復習やWEBサイト閲覧によりレポートを作成。	

【使用教科書・教材・参考書】

JAPRS サウンドレコーディング技術概論　Sound & Recording マガジン

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression A-3 （Vocal Traning 3）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	潤　豊 橋元美沙 國末　慶宏
学科・ｺｰｽ	パフォーミングアーツ科	授業 形態	講義	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	ヴォーカリストで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではヴォーカリスにおける応用とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なヴォーカリストの応用と活用方法を習得し実践できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを実践できる□	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを動画チェック
2		演習	高度な歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェックする
3		演習	高度な歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェック
4		演習	メロディーC～Gまでを歌い実践できる。	メロディーC～Gまでを動画チェックする
5		演習	高度な歌唱→4分音符のメロディーC ～Gまでを歌い実践できる。	歌唱→4分音符のメロディーC ～Gまでを歌い動画チェックする
6		演習	高度な歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
7		演習	高度な歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。　。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
8		演習	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
9		演習	高度な歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
10		演習	高度な歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
11		演習	高度な歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
12		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
13		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる□	アカペラアンサンブルを動画チェックする
14		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる□	アカペラアンサンブルを動画チェックする□
15		演習	試験	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
準備学習　時間外学習			ヴォーカルに必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression A-3 （Gt hamonic concept 3）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	小南　数麿
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	ギターを演奏する上での基礎を勉強する。 ハーモニックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル 特有のスタイルについても学ぶ。ギター歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。						
到達目標	理論、実技の基礎的なものを習得する。 ギターを演奏する際に音を変更したり、アンサンブル上でなじむ音階を選択することを目標とする。						
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	コードアルペジオ：メジャー編を理解し演奏する。	コードアルペジオ：メジャー編を復習する。
2		演習	コードアルペジオ：メジャー編を理解し演奏する。	コードアルペジオ：メジャー編を復習する。
3		演習	コードアルペジオ：マイナー編を理解し演奏する。	コードアルペジオ：マイナー編を復習する。
4		演習	コードネーム理解方を理解し演奏する。	コードネーム理解方を理解し演奏する。
5		演習	キーの概念を理解し演奏する。	キーの概念を復習する。
6		演習	ダイアトニックコードを理解し演奏する。	ダイアトニックコードを復習する。
7		演習	コード進行の解釈を理解し演奏する。	コード進行の解釈を復習する。
8		演習	リズムパターンを理解し演奏する。	リズムパターンを復習する。
9		演習	シャッフルについてを理解し演奏する。	シャッフルについてを復習する。
10		演習	ブルースについてを理解し演奏する。	ブルースについてを復習する。
11		演習	ペンタトニックスケールを理解し演奏する。	ペンタトニックスケールを復習する。
12		演習	ブルーススケールに理解し演奏する。	ブルーススケールを復習する。
13		演習	ブルースセッションを理解し演奏する。	ブルースセッションを復習する。
14		演習	モーダルとコーダルを理解し演奏する。	モーダルとコーダルを復習する。
15		演習	自由演奏を理解し演奏する。	自由演奏を復習する。
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷・東京ダンス＆アクターズ専門学校

科目名	Expression A-3 （Ba bassline concept 3）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	小川　真司
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	現代音楽を弾くためのリズムやベースパートの成り立ちが主な内容で、その種類と手法を紹介し、体感することをテーマとする。前期で体得した4分、8分、16分の音符、を使用した楽曲で使用できる技術を習得し、音楽的感性の成長に繋げる。スタンダード・ミディ・ファイルを使用し、授業にて体感させ目標とされる演奏基準に到達するためのトレーニング方、考え方、自己修正などを教授する。						
到達目標	音符の長さや、記号、曲調を楽譜から情報を読み取ったうえで 実際にはない装飾音符などを自在に演奏することを目標とする。						
評価方法と基準	定期テスト、実技60％（後期で学んだ内容を演奏に織り交ぜることができる） 理解力40％（後期に学んだ内容を説明することができる）						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	シャッフルビートのリズム的な捉え方とジャンルとの関係について説明する。（エクササイズ）	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
2		演習	トリプレットフィールのリズムの捉え方と楽曲について説明する。 （エクササイズ）	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
3		演習	トリプレットフィールのリズムの捉え方と楽曲について説明する。 （エクササイズ）	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
4		講義	ハマーオンとプルオフの使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを説明する。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
5		演習	ハマーオンとプルオフの使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを体得する。（エクササイズ）	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
6		講義	スライドダウン、スライドアップを使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを説明する。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
7		演習	スライドダウン、アップを使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを体得する。（エクササイズ）	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
8		講義	16ビートにおけるシンコペーションパターンについて説明する。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
9		演習	16ビートにおけるシンコペーションパターンを体得する。（エクササイズ）	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
10		講義	バウンス・ビートのリズム的な捉え方と基本的なパターンを説明する。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
11		演習	バウンス・ビートの基本的なパターンを体得する。（エクササイズ）	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
12		講義	ゴーストノートを使用した時のグルーヴ的な違いを説明する。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
13		演習	ゴーストノートを使用した時のグルーヴ的な違いを体得する。 （エクササイズ）	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
14		演習	前期に学んだ基礎的なビートを使用した上で後期に学んだ 装飾音符や音楽記号を用いて演奏する	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
15		演習	前期に学んだ基礎的なビートを使用した上で後期に学んだ 装飾音符や音楽記号を用いて演奏する	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression A-3 （Dr control Theory 3）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	星山　哲也
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	現代音楽における初歩的なスタンダードグルーヴの抽出とアナライズをテーマとする演習を行う。テキストに沿った各種トレーニングと並行して、アンサンブルスタンス、パルスイメージ、サウンドスケープ、リズムトレーニング等の内容も積み重ねていく多角的な演習内容になる。						
到達目標	ワールドスタンダードなシンプルなリズムフィールの応用を習得する事を目的とし、各種トレーニングの消化や自発的研究活動の延長線上にに於いて、タイム感の重要性を理解しグルーヴに対する「気付き」が生まれる事を目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	トリプレットフィールの習得。3連符を構成要素とするリズムの理解と実践。	テキスト内で提示された段階的プラクティスを消化する(Step1~3)
2		演習	ハネた16ビートの実践。拍内のリズム構造の理解とバウンスフィールの考察。	テキスト内で提示された段階的プラクティスを消化する(Step1~4)
3		演習	ハネた16ビートの実践。拍内のリズム構造の理解とバウンスフィールの考察。	テキスト内で提示された段階的プラクティスを消化する(Step1~4)
4		演習	ハネた16ビートの実践。キックパターンのバリエーションによるフィールの構築	テキスト内で提示された段階的プラクティスを消化する(Step1~3)
5		演習	6連符に包括されたハネ系16ビートの実践。ゴーストノートのコントロール。	テキスト内で提示された段階的プラクティスを消化する(Step1~4)
6		演習	ハネ方の度合いに関する考察。バウンスポイントの把握とハネ率の実践。	テキスト内で提示された段階的プラクティスを消化する(Step1~2)
7		演習	チャートリーディングを伴う8ビートの実践。課題曲(Chapter20)の解析。	関連課題曲の抽出と研究（8ビート）
8		演習	チャートリーディングを伴う8ビートの実践。課題曲(Chapter21)の解析。	関連課題曲の抽出と研究（8ビート）
9		演習	チャートリーディングを伴う16ビートの実践。課題曲(Chapter22)の解析。	関連課題曲の抽出と研究（16ビート）
10		演習	チャートリーディングを伴う16ビートの実践。課題曲(Chapter23)の解析。	関連課題曲の抽出と研究（16ビート）
11		演習	チャートリーディングを伴う16ビートの実践。課題曲(Chapter24)の解析。	関連課題曲の抽出と研究（16ビート）
12		演習	シャッフルビートの実践。課題曲(Chapter25)の解析。	関連課題曲の抽出と研究（シャッフル）
13		演習	1年次のまとめ。蓄積したテクニックと表現力についての考察。	振り返りとしての総復習
14		演習	ハネた16ビートを複雑化した応用パターンの解析と理解。	テキストに基づいた基礎リズムの発展系の理解・練習
15		演習	1年次で学習したパターンを織り交ぜたリズムの理解と実践	1年次のまとめから応用させたフレーズの創造
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression A-3 （Key Plaing technic 3）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宇田　隆志
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴	声優歌手鈴村健一、小野大輔、伊藤かな恵、入野自由etc等アーティストのライブツアー、ライブアレンジ、またRECに参加。						
授業の学習内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 メロディックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル 特有のスタイルについても学ぶ。キーボード歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。 オシレーターなどをうまく使い思い通りのサウンドを作る。						
到達目標	理論、実技の基礎的なものを習得する。 キーボードを演奏する際に音を変更したり、アンサンブル上でなじむ音階を選択することを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	シールドなど機材での音の変化を理解する。	シールドなど機材での音の変化を理解し復習。
2		演習	コードの展開の変化を理解する。	コードの展開を理解し復習。
3		演習	G-C, Rock'n Roll, Bluesの変化を理解する。	G-C, Rock'n Roll, Bluesを理解し復習。
4		演習	オシレーターを2つ以上組み合わせる音色の変化を理解する。	オシレーターを2つ以上組み合わせる音色を理解し復習。
5		演習	ペンタトニック、オブリガートの変化を理解する。	ペンタトニック、オブリガートを理解し復習。
6		演習	Bluesについての変化を理解する。	Bluesについてを理解し復習。
7		講義	メジャー、マイナー以外のスケール1の変化を理解する。	メジャー、マイナー以外のスケール1を理解し復習。
8		講義	メジャー、マイナー以外のスケール2の変化を理解する。	メジャー、マイナー以外のスケール2を理解し復習。
9		講義	ソロの構成の変化を理解する。	ソロの構成を理解し復習。
10		演習	各ジャンルでのバッキングの変化を理解する。	各ジャンルでのバッキングを理解し復習。
11		演習	各ジャンルでのriffの変化を理解する。	各ジャンルでのriffを理解し復習。
12		演習	ピッチベンドを使用したソロの変化を理解する。	ピッチベンドを使用したソロを理解し復習。
13		講義	エフェクト紹介1の変化を理解する。	エフェクト紹介1を理解し復習。
14		講義	エフェクト紹介2の変化を理解する。	エフェクト紹介2を理解し復習。
15		演習	後期の重要ポイントと復習	後期の重要ポイントと復習を理解し復習。
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression A-4 （Vocal Traning 3）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	潤　豊 橋元美沙 國末　慶宏
学科・ｺｰｽ	パフォーミングアーツ科	授業 形態	講義	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	ヴォーカリストで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではヴォーカリスにおける応用とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なヴォーカリストの応用と活用方法を習得し実践できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを実践できる	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを動画チェック
2		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェックする
3		演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェック
4		演習	メロディーC～Gまでを歌い実践できる。	メロディーC～Gまでを動画チェックする
5		演習	高度な歌唱歌唱→4分音符のメロディーC ～Gまでを歌い実践できる。	歌唱→4分音符のメロディーC ～Gまでを歌い動画チェックする
6		演習	高度な歌唱歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
7		演習	高度な歌唱歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。　。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
8		演習	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
9		演習	高度な歌唱歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
10		演習	高度な歌唱歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
11		演習	高度な歌唱歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
12		演習	高度な歌唱歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
13		演習	高度な歌唱アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする
14		演習	高度な歌唱アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする
15		演習	試験	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression A-4 （Gt hamonic concept 4）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	小南　数麿
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ギターの基礎知識の向上 様々なビートにあった演奏方法の習得						
到達目標	講師に提示された譜面を初見で間違えずに演奏できるかどうか、また理論的な解釈で説明できるかどうか						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	ギターについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ギターについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （マイナー・メジャーペンタトニック） スケールを基にしたフレーズについて復習する
3		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （メジャースケール） スケールを基にしたフレーズについて復習する
4		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （マイナースケール） スケールを基にしたフレーズについて復習する
5		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （インターバル） スケールを基にしたフレーズについて復習する
6		演習	8ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる	8ビート主体の曲に対するアプローチ （コードストローク、ソロ)について復習する
7		演習	16ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる （コードストローク、ソロ）	16ビート主体の曲に対するアプローチ （コードストローク、ソロ)について復習する
8		演習	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用につい演奏できる。	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用について復習する
9		演習	シンコペーション （コードストローク、アルペジオ、ソロ)について演奏できる	シンコペーション （コードストローク、アルペジオ、ソロ)について復習する
10		演習	ミュートと空ピッキング （メトロノームを使った様々な練習法について）について演奏できる	ミュートと空ピッキング （メトロノームを使った様々な練習法について）について復習する
11		演習	楽譜の読み方と書き方について演奏できる	楽譜の読み方と書き方について復習する
12		演習	コードトーン （メジャー、マイナー） コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる	コードトーン （メジャー、マイナー） コードトーンを基にしたフレーズの習得について復習する
13		演習	主要四和音 （トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性）について演奏できる	主要四和音 （トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性）について復習する
14		演習	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）	コード進行の解析 （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）について復習する
15		演習	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）	コード進行の解析 （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）について復習する
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression A-4 （Ba bassline concept 4）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	小川　真司
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	ベーシストとしての基礎力・表現力を養う。						
到達目標	ベーシストとして活躍するためのステージング、アンサンブル力が身に付く。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	ベースについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ベースについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	譜面の解説・読み方について演奏できる	譜面の解説・読み方について復習する
3		演習	運指の方法を知り楽曲に活かすについて演奏できる。	運指の方法を知り楽曲に活かすについて復習する
4		演習	課題曲にあった右手のフォームをマスターするについて演奏できる	課題曲にあった右手のフォームをマスターするについて復習する
5		演習	クリックのある練習になれ、アンサンブルについて演奏できる	クリックのある練習になれ、アンサンブルについて復習する
6		演習	指板の位置を正確に覚え、パフォーマンスについて演奏できる	指板の位置を正確に覚え、パフォーマンスについて復習する
7		演習	ペンタトニックコードについて演奏できる	ペンタトニックコードについて復習する
8		演習	音符の長さについ演奏できる	音符の長さについて復習する
9		演習	8ビートの基本について演奏できる	8ビートの基本について演奏できる
10		演習	ロックの基礎的な演奏方法について演奏できる	ロックの基礎的な演奏方法について演奏できる
11		演習	16ビートの基礎を学び楽曲について演奏できる	16ビートの基礎を学び楽曲について演奏できる
12		演習	ファンクの基礎的な演奏方法について演奏できる	ファンクの基礎的な演奏方法について演奏できる
13		演習	メジャー・マイナースケールについて演奏できる	メジャー・マイナースケールについて演奏できる
14		演習	休符を理解し、アンサンブルについ演奏できる	休符を理解し、アンサンブルについ演奏できる
15		演習	休符を理解し、アンサンブルについ演奏できる	休符を理解し、アンサンブルについ演奏できる
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression A-4 （Dr control Theory 4）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	星山　哲也
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ドラムを演奏する上で必要な基礎的な技術、知識を学ぶ。 譜面の理解度をあげ様々なジャンルのアンサンブル力を養う。						
到達目標	基礎的なスティックコントロールができる。譜面の読み書きができる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	ドラムについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ドラムについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	ドラム譜面の解説・読み方を説明できる	ドラム譜面の解説・読み方を復習する、
3		演習	ドラム譜面の書き方を説明できる	ドラム譜面の書き方を復習する、
4		演習	スティックの持ち方（マッチド・トラディショナル）を説明できる	スティックの持ち方（マッチド・トラディショナル）を復習する、
5		演習	打楽器に触れる	打楽器を復習する、
6		演習	正しい演奏フォームを説明できる	正しい演奏フォームを復習する、
7		演習	メジャーKeyマイナーKeyの代表的なコード進行を説明できる	メジャーKeyマイナーKeyの代表的なコード進行を復習する、
8		演習	マイナースケール、ブルーノートハーモニー等発展させたスケール・コードを説明できる	マイナースケール、ブルーノートハーモニー等発展させたスケール・コードを復習する、
9		演習	8ビートの仕組み、理解し演奏できる。	8ビートの仕組み、理解し演奏を復習する、
10		演習	16ビートの仕組み、理解し演奏できる	16ビートの仕組み、理解し演奏を復習する、
11		演習	ソロメイキングを学び演奏できる	ソロメイキングを学び演奏を復習する、
12		演習	シャッフル・3連系のグルーヴの習得し演奏できる	シャッフル・3連系のグルーヴの習得し演奏を復習する、
13		演習	シンコペーションを習得し演奏できる	シンコペーションを習得し演奏を復習する、
14		演習	Swing 16thのフレーズを習得し演奏できる	Swing 16thのフレーズを習得し演奏を復習する、
15		演習	Swing 16thのフレーズを習得し演奏できる	Swing 16thのフレーズを習得し演奏を復習する、
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression A-4 （Key Plaing technic 4）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宇田　隆志
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴	声優歌手鈴村健一、小野大輔、伊藤かな恵、入野自由etc等アーティストのライブツアー、ライブアレンジ、またRECに参加。						
授業の学習内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 楽譜の読み方など基礎的な知識を埋める。						
到達目標	楽譜の読み書きができる。ダイアトニックコードの成り立ちを理解しているなどの基礎的な理論、 キーボードの音が出せる、自分の好みの音色が使えるなどの実技の基礎的なものを習得する。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	キーボードについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	キーボードについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	楽譜の読み方　ト音を説明できる。	楽譜の読み方　ト音を復習する。
3		演習	楽譜の読み方　ヘ音を説明できる。	楽譜の読み方　ヘ音を復習する
4		演習	楽譜の書き方　音符を説明できる。	楽譜の書き方　音符を復習する。
5		演習	楽譜の書き方　記号を説明できる。	楽譜の書き方　記号を復習する。
6		演習	ダイアトニックコードを学び演奏できる。	ダイアトニックコードを復習する。
7		演習	音色を変えてのコード学び演奏できる。	音色を変えてのコードを復習する。
8		演習	コードアレンジ（和音の積み方）学び演奏できる。	コードアレンジ（和音の積み方を復習する。
9		演習	音色を変えてのコードアレンジ学び演奏できる。	音色を変えてのコードアレンジを復習する。
10		演習	オシレーターの説明学び演奏できる。	オシレーターの説明を復習する。
11		演習	自分好みの音色を作り。演奏できる。	自分好みの音色を復習する。
12		演習	コードトーン （メジャー、マイナー） コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる	コードトーンを復習する。 （メジャー、マイナー） コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる
13		演習	主要四和音 （トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性）について演奏できる	主要四和音を復習する。 （トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性）について演奏できる
14		演習	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）	コード進行の解析演奏を復習する。 （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）
15		演習	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression B-3 （Vocal Leading 5）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	河田　麻希
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	イヤートレーニング2を理解し説明できる。	授業概要の説明とイヤートレーニング2の復習レポート作成
2		講義	実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーの復習レポート作成
3		講義	実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーの復習レポート作成
4		講義	実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーの復習レポート作成
5		講義	実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーの復習レポート作成
6		講義	実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーの復習レポート作成
7		講義	実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーの復習レポート作成
8		講義	中間試験、中間課題の発表・提出。	中間試験及び中間課題準備
9		講義	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：ミクソリディアンを理解し説明できる。	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：ミクソリディアンの復習レポート作成
10		講義	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：リディアンを理解し説明できる。	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：リディアンの復習レポート作成
11		講義	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：ドリアンを理解し説明できる。	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：ドリアンの復習レポート作成
12		講義	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：フリジアンを理解し説明できる。	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：フリジアンの復習レポート作成
13		講義	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：ロクリアンを理解し説明できる。	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：ロクリアンの復習レポート作成
14		講義	ダイアトニック・モード（ダイアトニック・コード・スケール）を理解し説明できる。	ダイアトニック・モード（ダイアトニック・コード・スケール）の復習レポート作成
15		講義	学期末試験及び、学期末課題の発表・提出。	学期末課題の発表・提出。
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷・東京ダンス＆アクターズ専門学校

科目名	Expression B-3 （Gt melodic concept 3）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	佐藤　敦
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ギターの基礎知識の向上 様々なビートにあった演奏方法の習得						
到達目標	講師に提示された譜面を初見で間違えずに演奏できるかどうか、また理論的な解釈で説明できるかどうか						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	ギターについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ギターについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （マイナー・メジャーペンタトニック） スケールを基にしたフレーズについて復習する
3		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （メジャースケール） スケールを基にしたフレーズについて復習する
4		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （マイナースケール） スケールを基にしたフレーズについて復習する
5		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （インターバル） スケールを基にしたフレーズについて復習する
6		演習	8ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる	8ビート主体の曲に対するアプローチ （コードストローク、ソロ）について復習する
7		演習	16ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる （コードストローク、ソロ）	16ビート主体の曲に対するアプローチ （コードストローク、ソロ）について復習する
8		演習	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用につい演奏できる。	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用について復習する
9		演習	シンコペーション （コードストローク、アルペジオ、ソロ）について演奏できる	シンコペーション （コードストローク、アルペジオ、ソロ）について復習する
10		演習	ミュートと空ピッキング （メトロノームを使った様々な練習法について）について演奏できる	ミュートと空ピッキング （メトロノームを使った様々な練習法について）について復習する
11		演習	楽譜の読み方と書き方について演奏できる	楽譜の読み方と書き方について復習する
12		演習	コードトーン （メジャー、マイナー） コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる	コードトーン （メジャー、マイナー） コードトーンを基にしたフレーズの習得について復習する
13		演習	主要四和音 （トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性）について演奏できる	主要四和音 （トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性）について復習する
14		演習	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）	コード進行の解析 （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）について復習する
15		演習	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）	コード進行の解析 （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）について復習する
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression B-3 （Ba groove analize 3）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤　敬三
学科・ｺｰｽ	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	ベーシストとしての基礎力・表現力を養う。						
到達目標	ベーシストとして活躍するためのステージング、アンサンブル力が身に付く。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	ベースについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ベースについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	譜面の解説・読み方について演奏できる	譜面の解説・読み方について復習する
3		演習	運指の方法を知り楽曲に活かすについて演奏できる。	運指の方法を知り楽曲に活かすについて復習する
4		演習	課題曲にあった右手のフォームをマスターするについて演奏できる	課題曲にあった右手のフォームをマスターするについて復習する
5		演習	クリックのある練習になれ、アンサンブルについて演奏できる	クリックのある練習になれ、アンサンブルについて復習する
6		演習	指板の位置を正確に覚え、パフォーマンスについて演奏できる	指板の位置を正確に覚え、パフォーマンスについて復習する
7		演習	ペンタトニックコードについて演奏できる	ペンタトニックコードについて復習する
8		演習	音符の長さについ演奏できる	音符の長さについて復習する
9		演習	8ビートの基本について演奏できる	8ビートの基本について演奏できる
10		演習	ロックの基礎的な演奏方法について演奏できる	ロックの基礎的な演奏方法について演奏できる
11		演習	16ビートの基礎を学び楽曲について演奏できる	16ビートの基礎を学び楽曲について演奏できる
12		演習	ファンクの基礎的な演奏方法について演奏できる	ファンクの基礎的な演奏方法について演奏できる
13		演習	メジャー・マイナースケールについて演奏できる	メジャー・マイナースケールについて演奏できる
14		演習	休符を理解し、アンサンブルについ演奏できる	休符を理解し、アンサンブルについ演奏できる
15		演習	休符を理解し、アンサンブルについ演奏できる	休符を理解し、アンサンブルについ演奏できる
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression B-3 （Dr groove maiking 3）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	奥　出矢
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴	ドラムテクニック系のクラスを長く担当する。滋慶グループ全校統一テキストも作成している。						
授業の学習内容	ドラムを演奏する上で必要な基礎的な技術、知識を学ぶ。 譜面の理解度をあげ様々なジャンルのアンサンブル力を養う。						
到達目標	基礎的なスティックコントロールができる。譜面の読み書きができる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	ドラムについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ドラムについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	ドラム譜面の解説・読み方を説明できる	ドラム譜面の解説・読み方を復習する、
3		演習	ドラム譜面の書き方を説明できる	ドラム譜面の書き方を復習する、
4		演習	スティックの持ち方（マッチド・トラディショナル）を説明できる	スティックの持ち方（マッチド・トラディショナル）を復習する、
5		演習	打楽器に触れる	打楽器を復習する、
6		演習	正しい演奏フォームを説明できる	正しい演奏フォームを復習する、
7		演習	メジャーKeyマイナーKeyの代表的なコード進行を説明できる	メジャーKeyマイナーKeyの代表的なコード進行を復習する、
8		演習	マイナースケール、ブルーノートハーモニー等発展させたスケール・コードを説明できる	マイナースケール、ブルーノートハーモニー等発展させたスケール・コードを復習する、
9		演習	8ビートの仕組み、理解し演奏できる。	8ビートの仕組み、理解し演奏を復習する、
10		演習	16ビートの仕組み、理解し演奏できる	16ビートの仕組み、理解し演奏を復習する、
11		演習	ソロメイキングを学び演奏できる	ソロメイキングを学び演奏を復習する、
12		演習	シャッフル・3連系のグルーヴの習得し演奏できる	シャッフル・3連系のグルーヴの習得し演奏を復習する、
13		演習	シンコペーションを習得し演奏できる	シンコペーションを習得し演奏を復習する、
14		演習	Swing 16thのフレーズを習得し演奏できる	Swing 16thのフレーズを習得し演奏を復習する、
15		演習	Swing 16thのフレーズを習得し演奏できる	Swing 16thのフレーズを習得し演奏を復習する、
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression B-3 （Key hamonic concept 3）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	土屋　剛
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 楽譜の読み方など基礎的な知識を埋める。						
到達目標	楽譜の読み書きができる。ダイアトニックコードの成り立ちを理解しているなどの基礎的な理論、 キーボードの音が出せる、自分の好みの音色が使えるなどの実技の基礎的なものを習得する。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	キーボードについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	キーボードについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	楽譜の読み方　ト音を説明できる。	楽譜の読み方　ト音を復習する。
3		演習	楽譜の読み方　ヘ音を説明できる。	楽譜の読み方　ヘ音を復習する
4		演習	楽譜の書き方　音符を説明できる。	楽譜の書き方　音符を復習する。
5		演習	楽譜の書き方　記号を説明できる。	楽譜の書き方　記号を復習する。
6		演習	ダイアトニックコードを学び演奏できる。	ダイアトニックコードを復習する。
7		演習	音色を変えてのコード学び演奏できる。	音色を変えてのコードを復習する。
8		演習	コードアレンジ（和音の積み方）学び演奏できる。	コードアレンジ（和音の積み方を復習する。
9		演習	音色を変えてのコードアレンジ学び演奏できる。	音色を変えてのコードアレンジを復習する。
10		演習	オシレーターの説明学び演奏できる。	オシレーターの説明を復習する。
11		演習	自分好みの音色を作り。演奏できる。	自分好みの音色を復習する。
12		演習	コードトーン （メジャー、マイナー） コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる	コードトーンを復習する。 （メジャー、マイナー） コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる
13		演習	主要四和音 （トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性）について演奏できる	主要四和音を復習する。 （トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性）について演奏できる
14		演習	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）	コード進行の解析演奏を復習する。 （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）
15		演習	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Expression B-4 （Vocal Leading 7）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	河田　麻希
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	イヤートレーニング3を復習理解し説明ができる	イヤートレーニング3の復習・確認レポート作成
2		講義	ペンタトニック・スケール（メジャー、マイナー）理解し説明ができる	ペンタトニック・スケール（メジャー、マイナー）の復習確認レポート作成
3		講義	モード・スケールを繰り返し習得し理解し説明ができる	モード・スケール確認レポート作成
4		講義	モード・スケールを繰り返し習得し理解し説明ができる	モード・スケール確認レポート作成
5		講義	モード・スケールを繰り返し習得し理解し説明ができる	モード・スケール確認レポート作成
6		講義	クロマチック・スケールとスケール・モードの習得し理解し説明ができる	クロマチック・スケールとスケール・モードの復習確認レポート作成
7		講義	クロマチック・アプローチを含むメロディー習得し理解し説明ができる	クロマチック・アプローチを含むメロディー確認レポート作成
8		講義	中間試験、中間課題の発表・提出。	中間試験、中間課題準備
9		講義	転調について実践習得し理解し説明ができる	転調について実践確認レポート作成
10		講義	転調を含むメロディーを作って習得し理解し説明ができる	転調を含むメロディー確認レポート作成
11		講義	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー習得し理解し説明ができる	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー確認レポート作成
12		講義	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー習得し理解し説明ができる	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー確認レポート作成
13		講義	無調的なメロディー習得し理解し説明ができる	無調的なメロディー確認レポート作成
14		講義	無調的なメロディー習得し理解し説明ができる	無調的なメロディー確認レポート作成
15		講義	学期末試験及び、学期末課題の発表・提出。	学期末課題の発表・提出。
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression B-4 （Gt melodic concept 4）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	佐藤　敦
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	ギターを演奏する上での基礎を勉強する。 ハーモニックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル特有のスタイルについても学ぶ。ギター歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。						
到達目標	理論、実技をさらに実践的なものに。作曲等も含めてプロミュージシャンとしての礎を築く。 現場に出た際に必要な楽譜読みや、演奏技術、知識を得ることを目標とする。						
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	前期のおさらい	前期のおさらい
2		演習	マイナースケール	マイナースケール
3		演習	ハーモニックマイナースケール	ハーモニックマイナースケール
4		演習	ハーモニックマイナーパーフェクトフィフスビロウ	ハーモニックマイナーパーフェクトフィフスビロウ
5		演習	メロディックマイナー	メロディックマイナー
6		演習	スパニッシュスケール	スパニッシュスケール
7		演習	スパニッシュジプシースケール	スパニッシュジプシースケール
8		演習	ジプシースケール	ジプシースケール
9		演習	アドリブ：モーダル	アドリブ：モーダル
10		演習	アドリブ：コーダル	アドリブ：コーダル
11		演習	アドリブ：コードの分解	アドリブ：コードの分解
12		演習	ハーモニックメソッド	ハーモニックメソッド
13		演習	メロディックメソッド	メロディックメソッド
14		演習	リズミックメソッド	リズミックメソッド
15		演習	自由演奏	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression B-4 （Ba groove analize 4）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤　敬三
学科・ｺｰｽ	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	現代音楽におけるリズム、音色、各パートの成り立ちの抽出が主な内容で、その種類と手法、また発展や大元を体感することをテーマとする。ジャンルの違いを把握し表現をするためにビートの感じ方に関する段階的なメニューを消化し、音楽的感性の成長に繋げる。スタンダードミディ・ファイルを使用し授業にて体感させ目標とされる演奏基準に到達するためのトレーニング方、考え方、自己修正などを教授する。						
到達目標	各ジャンルにおける歴史や背景を把握し過去と現代の各ジャンルの違いや価値観を理解することを目標とする。 自身がそのジャンルの音楽に適切だと思うフレーズを選択できることを目標とする。						
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	ディスコビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）	ディスコビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）
2		講義	リズム＆ブルースの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	リズム＆ブルースの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。
3		演習	リズム＆ブルースのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）	リズム＆ブルースのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）
4		講義	モータウン・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	モータウン・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。
5		演習	モータウン・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）	モータウン・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）
6		講義	ファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	ファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。
7		演習	初期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）	初期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）
8		講義	中期のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	中期のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。
9		演習	中期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）	中期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）
10		講義	近代のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	近代のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。
11		演習	近代のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）	近代のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）
12		講義	フュージョンの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	フュージョンの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。
13		演習	フュージョンのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）	フュージョンのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）
14		講義	前期、後期合わせ自身が良いと思ったジャンルの音楽の長所を発表する。	前期、後期合わせ自身が良いと思ったジャンルの音楽の長所を発表する。
15		演習	前週に行った内容を元にそのジャンルの音楽を演奏する。	前週に行った内容を元にそのジャンルの音楽を演奏する。
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression B-4 （Dr groove maiking 4）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	奥　出矢
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	現代音楽で頻出する難易度の高いリズムの抽出と分析が主な内容となる。幾つかの代表的な奏法を実践し、特化した技術、知識を学ぶ。ラテン音楽やジャズにも触れ総合的に音楽の理解を深めていく。						
到達目標	世界共通のリズムを習得する事を目的とし、各種練習の消化や自発的研究活動の延長線上において、様々な音楽ジャンルの要素を昇華して主体的にリズムの構築が出来る能力を身につける事を目標とする。						
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	スウィング奏法（4ビート）の習得と基礎理解	スウィング奏法（4ビート）の習得と基礎理解
2		演習	スウィング奏法（4ビート）の習得と4種類のリズムの組み合わせのトレーニング	スウィング奏法（4ビート）の習得と4種類のリズムの組み合わせのトレーニング
3		演習	スウィング奏法（4ビート）の習得。手足の連動性が複雑化した応用	スウィング奏法（4ビート）の習得。手足の連動性が複雑化した応用
4		演習	モータウンの歴史的背景、代表曲からのグルーヴ抽出	モータウンの歴史的背景、代表曲からのグルーヴ抽出
5		演習	スネア．スリップが特徴的なファンクスタイルの実践	スネア．スリップが特徴的なファンクスタイルの実践
6		演習	ニューオリンズ系の3:2型リズムを活かしたビートの実践	ニューオリンズ系の3:2型リズムを活かしたビートの実践
7		演習	シンコペーション色が強いファンクスタイルの実践	シンコペーション色が強いファンクスタイルの実践
8		演習	JB系のファンク － Chapter55（テキスト）	JB系のファンク － Chapter55（テキスト）
9		演習	セカンドライン・フィールのロック － Chapter56	セカンドライン・フィールのロック － Chapter56
10		演習	ストレート・フィールのファンク － Chapter57	ストレート・フィールのファンク － Chapter57
11		演習	バウンス・フィールのファンク － Chapter58	バウンス・フィールのファンク － Chapter58
12		演習	6/8フィールのファンク・ロック　－ Chapter59	6/8フィールのファンク・ロック　－ Chapter59
13		演習	ラテン・フィールのファンク － Chapter60	ラテン・フィールのファンク － Chapter60
14		演習	ファンク・セカンドラインフィール・ストレートフィールを織り交ぜた応用	ファンク・セカンドラインフィール・ストレートフィールを織り交ぜた応用
15		演習	バウンス・フィール・6/8フィールラテン・フィールのファンクを織り交ぜた応用	バウンス・フィール・6/8フィールラテン・フィールのファンクを織り交ぜた応用
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression B-4 （Key hamonic concept 4）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	土屋　剛
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	1年時、2年前期に習得した実技や理論をさらに発展させて現場でも使えるようにしていく。 より複雑なコード、スケール、それぞれのジャンル特有のスタイルについても学ぶ。						
到達目標	理論、実技をさらに実践的なものに。作曲等も含めてプロミュージシャンとしての礎を築く。 現場に出た際に必要な楽譜読みや、演奏技術、知識を得ることを目標とする。						
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	循環コードの説明4-5-6-3	循環コードの説明4-5-6-3
2		演習	前週からのテンションノート１	前週からのテンションノート１
3		演習	テンションノート２	テンションノート２
4		演習	Walking Bassを交えたアルペジオ奏法	Walking Bassを交えたアルペジオ奏法
5		演習	ペンタトニック、リフ	ペンタトニック、リフ
6		演習	Rock でのriff	Rock でのriff
7		演習	ブルースのコード進行	ブルースのコード進行
8		講義	テンションノートを使用したソロワーク	テンションノートを使用したソロワーク
9		講義	楽譜の読み方（現場へ出るための再確認）	楽譜の読み方（現場へ出るための再確認）
10		演習	オンコードの説明	オンコードの説明
11		演習	ディミニッシュ、オーギュメントの説明	ディミニッシュ、オーギュメントの説明
12		演習	ロクリアンの説明	ロクリアンの説明
13		講義	エフェクト紹介１	エフェクト紹介１
14		講義	エフェクト紹介２	エフェクト紹介２
15		演習	後期の重要ポイントと復習	後期の重要ポイントと復習
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression C-3 （Vocal Leading 6）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	河田　麻希
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	イヤートレーニング2を理解し説明できる。	授業概要の説明とイヤートレーニング2の復習レポート作成
2		講義	実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーの復習レポート作成
3		講義	実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：順次進行の多い、水平的なメロディーの復習レポート作成
4		講義	実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーの復習レポート作成
5		講義	実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：跳躍、幅広い跳躍を含む、垂直的なメロディーの復習レポート作成
6		講義	実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーの復習レポート作成
7		講義	実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーを理解し説明できる。	実際のメロディー：モチーフを発展させたメロディーの復習レポート作成
8		講義	中間試験、中間課題の発表・提出。	中間試験及び中間課題準備
9		講義	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：ミクソリディアンを理解し説明できる。	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：ミクソリディアンの復習レポート作成
10		講義	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：リディアンを理解し説明できる。	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：リディアンの復習レポート作成
11		講義	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：ドリアンを理解し説明できる。	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：ドリアンの復習レポート作成
12		講義	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：フリジアンを理解し説明できる。	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：フリジアンの復習レポート作成
13		講義	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：ロクリアンを理解し説明できる。	モード（ダイアトニック・コード・スケール）：ロクリアンの復習レポート作成
14		講義	ダイアトニック・モード（ダイアトニック・コード・スケール）を理解し説明できる。	ダイアトニック・モード（ダイアトニック・コード・スケール）の復習レポート作成
15		講義	学期末試験及び、学期末課題の発表・提出。	学期末課題の発表・提出。
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷・東京ダンス＆アクターズ専門学校

科目名	Expression C-3 （Gt chord work 3）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	佐藤　敦
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりベーシストだけにではない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	もとの調のドミナント→転調後のドミナント　転調の種類	もとの調のドミナント→転調後のドミナント　転調の種類
2		講義	小テストにて自己への理解度を確認させる。	小テストにて自己への理解度を確認させる。
3		講義	同主調への転調（短3度、長6度）	同主調への転調（短3度、長6度）
4		講義	小テストにて自己への理解度を確認させる。	小テストにて自己への理解度を確認させる。
5		講義	.属調、下属調への転調（完全4度、完全5度）①	.属調、下属調への転調（完全4度、完全5度）①
6		講義	小テストにて自己への理解度を確認させる。	小テストにて自己への理解度を確認させる。
7		講義	.属調、下属調への転調（完全4度、完全5度）②	.属調、下属調への転調（完全4度、完全5度）②
8		講義	小テストにて自己への理解度を確認させる。	小テストにて自己への理解度を確認させる。
9		講義	M7コードの説明	M7コードの説明
10		講義	小テストにて自己への理解度を確認させる。	小テストにて自己への理解度を確認させる。
11		講義	７コードの説明	７コードの説明
12		講義	小テストにて自己への理解度を確認させる。	小テストにて自己への理解度を確認させる。
13		講義	前期に学んだ理論を楽器を使い行う。	前期に学んだ理論を楽器を使い行う。
14		講義	前期項目の復習	前期項目の復習
15		講義	期末テスト実施と復習	期末テスト実施
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression C-3 （Ba chord work 3）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤　敬三
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりベーシストだけにではない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	ディスコビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）	ディスコビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）
2		講義	リズム＆ブルースの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	リズム＆ブルースの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。
3		演習	リズム＆ブルースのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）	リズム＆ブルースのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）
4		講義	モータウン・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	モータウン・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。
5		演習	モータウン・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）	モータウン・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）
6		講義	ファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	ファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。
7		演習	初期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）	初期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）
8		講義	中期のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	中期のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。
9		演習	中期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）	中期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）
10		講義	近代のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	近代のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。
11		演習	近代のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）	近代のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）
12		講義	フュージョンの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	フュージョンの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。
13		演習	フュージョンのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）	フュージョンのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。（エクササイズ）
14		講義	前期、後期合わせ自身が良いと思ったジャンルの音楽の長所を発表する。	前期、後期合わせ自身が良いと思ったジャンルの音楽の長所を発表する。
15		演習	前週に行った内容を元にそのジャンルの音楽と復習	前週に行った内容を元にそのジャンルの音楽を演奏する。
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression C-3 （Percussion 3）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大久保　宙
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	パーカッションの基礎的なスタンダードなリズムの抽出とアナライズをテーマとする演習を行う。 テンポの捉え方とリズムトレーニング等の内容も積み重ねていく多角的な演習内容になる。						
到達目標	パーカッションの基礎を習得する事を目的とし、各種トレーニングの消化や自発的研究活動の延長線上にに於いて、タイム感の重要性を理解しグルーヴに対する発見が生まれる事を目標とする。						
評価方法と基準	実技よる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	楽器構造と特有な記譜法の理解。	楽器構造と特有な記譜法の理解。
2		演習	メトロノームを使用した練習の紹介。	メトロノームを使用した練習の紹介。
3		演習	カホンの各ビートにおけるバリエーションの実践。	カホンの各ビートにおけるバリエーションの実践。
4		演習	ティンバレスの各ビートにおけるバリエーションの実践。	ティンバレスの各ビートにおけるバリエーションの実践。
5		演習	ゴーストモーションに関する考察。	ゴーストモーションに関する考察。
6		演習	フィルインに関する考察。	フィルインに関する考察。
7		演習	コンガの各ビートにおけるバリエーションの実践。	コンガの各ビートにおけるバリエーションの実践。
8		演習	その他パーカッション（シェイカーやカウベルなど）の 各ビートにおけるバリエーションの実践。	その他パーカッション（シェイカーやカウベルなど）の 各ビートにおけるバリエーションの実践。
9		演習	16ビートの実践。リード感覚に関する考察。	16ビートの実践。リード感覚に関する考察。
10		演習	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察。	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察。
11		演習	マイナスワン音源を使用したトレーニングの実施	マイナスワン音源を使用したトレーニングの実施
12		演習	リズム構造の理解とフィールの実践。	リズム構造の理解とフィールの実践。
13		演習	８ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用	８ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用
14		試験	学期末試験実施	学期末試験実施
15		演習	前期実施項目の復習と復習	未達成箇所の復習
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression C-3 （Key chord work 3）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	土屋　剛
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりベーシストだけにではない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	楽器構造と特有な記譜法の理解。	楽器構造と特有な記譜法の理解。
2		演習	メトロノームを使用した練習の紹介。	メトロノームを使用した練習の紹介。
3		演習	カホンの各ビートにおけるバリエーションの実践。	カホンの各ビートにおけるバリエーションの実践。
4		演習	ティンバレスの各ビートにおけるバリエーションの実践。	ティンバレスの各ビートにおけるバリエーションの実践。
5		演習	ゴーストモーションに関する考察。	ゴーストモーションに関する考察。
6		演習	フィルインに関する考察。	フィルインに関する考察。
7		演習	コンガの各ビートにおけるバリエーションの実践。	コンガの各ビートにおけるバリエーションの実践。
8		演習	その他パーカッション（シェイカーやカウベルなど）の 各ビートにおけるバリエーションの実践。	その他パーカッション（シェイカーやカウベルなど）の 各ビートにおけるバリエーションの実践。
9		演習	16ビートの実践。リード感覚に関する考察。	16ビートの実践。リード感覚に関する考察。
10		演習	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察。	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察。
11		演習	マイナスワン音源を使用したトレーニングの実施	マイナスワン音源を使用したトレーニングの実施
12		演習	リズム構造の理解とフィールの実践。	リズム構造の理解とフィールの実践。
13		演習	８ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用	８ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用
14		試験	学期末試験実施	学期末試験実施
15		テスト	期末テスト実施と復習	未理解箇所の解明
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression C-4 （Vocal Leading 8）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	河田　麻希
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	イヤートレーニング3を復習理解し説明ができる	イヤートレーニング3の復習・確認レポート作成
2		講義	ペンタトニック・スケール（メジャー、マイナー）理解し説明ができる	ペンタトニック・スケール（メジャー、マイナー）の復習確認レポート作成
3		講義	モード・スケールを繰り返し習得し理解し説明ができる	モード・スケール確認レポート作成
4		講義	モード・スケールを繰り返し習得し理解し説明ができる	モード・スケール確認レポート作成
5		講義	モード・スケールを繰り返し習得し理解し説明ができる	モード・スケール確認レポート作成
6		講義	クロマチック・スケールとスケール・モードの習得し理解し説明ができる	クロマチック・スケールとスケール・モードの復習確認レポート作成
7		講義	クロマチック・アプローチを含むメロディー習得し理解し説明ができる	クロマチック・アプローチを含むメロディー確認レポート作成
8		講義	中間試験、中間課題の発表・提出。	中間試験、中間課題準備
9		講義	転調について実践習得し理解し説明ができる	転調について実践確認レポート作成
10		講義	転調を含むメロディーを作って習得し理解し説明ができる	転調を含むメロディー確認レポート作成
11		講義	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー習得し理解し説明ができる	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー確認レポート作成
12		講義	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー習得し理解し説明ができる	ノンファンクショナル・ハーモニーにおけるメロディー確認レポート作成
13		講義	無調的なメロディー習得し理解し説明ができる	無調的なメロディー確認レポート作成
14		講義	無調的なメロディー習得し理解し説明ができる	無調的なメロディー確認レポート作成
15		講義	学期末試験及び、学期末課題の発表・提出。	学期末課題の発表・提出。
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression C-4 （Gt chord work 4）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	佐藤　敦
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりベーシストだけにではない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	ギターについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ギターについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （マイナー・メジャーペンタトニック） スケールを基にしたフレーズについて復習する
3		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （メジャースケール） スケールを基にしたフレーズについて復習する
4		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （マイナースケール） スケールを基にしたフレーズについて復習する
5		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （インターバル） スケールを基にしたフレーズについて復習する
6		演習	8ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる	8ビート主体の曲に対するアプローチ （コードストローク、ソロ）について復習する
7		演習	16ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる （コードストローク、ソロ）	16ビート主体の曲に対するアプローチ （コードストローク、ソロ）について復習する
8		演習	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用につい演奏できる。	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用について復習する
9		演習	シンコペーション （コードストローク、アルペジオ、ソロ）について演奏できる	シンコペーション （コードストローク、アルペジオ、ソロ）について復習する
10		演習	ミュートと空ピッキング （メトロノームを使った様々な練習法について）について演奏できる	ミュートと空ピッキング （メトロノームを使った様々な練習法について）について復習する
11		演習	楽譜の読み方と書き方について演奏できる	楽譜の読み方と書き方について復習する
12		演習	コードトーン （メジャー、マイナー） コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる	コードトーン （メジャー、マイナー） コードトーンを基にしたフレーズの習得について復習する
13		演習	主要四和音 （トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性）について演奏できる	主要四和音 （トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性）について復習する
14		演習	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）	コード進行の解析 （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）について復習する
15		演習	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）	コード進行の解析 （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）について復習する
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression C-4 （Ba chord work 4）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤　敬三
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりベーシストだけにではない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	ベースについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ギターについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （マイナー・メジャーペンタトニック） スケールを基にしたフレーズについて復習する
3		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （メジャースケール） スケールを基にしたフレーズについて復習する
4		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （マイナースケール） スケールを基にしたフレーズについて復習する
5		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （インターバル） スケールを基にしたフレーズについて復習する
6		演習	8ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる	8ビート主体の曲に対するアプローチ （コードストローク、ソロ）について復習する
7		演習	16ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる （コードストローク、ソロ）	16ビート主体の曲に対するアプローチ （コードストローク、ソロ）について復習する
8		演習	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用につい演奏できる。	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用について復習する
9		演習	シンコペーション （コードストローク、アルペジオ、ソロ）について演奏できる	シンコペーション （コードストローク、アルペジオ、ソロ）について復習する
10		演習	ミュートと空ピッキング （メトロノームを使った様々な練習法について）について演奏できる	ミュートと空ピッキング （メトロノームを使った様々な練習法について）について復習する
11		演習	楽譜の読み方と書き方について演奏できる	楽譜の読み方と書き方について復習する
12		演習	コードトーン （メジャー、マイナー） コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる	コードトーン （メジャー、マイナー） コードトーンを基にしたフレーズの習得について復習する
13		演習	主要四和音 （トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性）について演奏できる	主要四和音 （トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性）について復習する
14		演習	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）	コード進行の解析 （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）について復習する
15		演習	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）	コード進行の解析 （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）について復習する
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression C-4 （Percussion 4）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大久保　宙
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	パーカッションの基礎的なスタンダードなリズムの抽出とアナライズをテーマとする演習を行う。 テンポの捉え方とリズムトレーニング等の内容も積み重ねていく多角的な演習内容になる。 役割（アンサンブルスタンス）を理解する。						
到達目標	前期のシンプルなリズムフィールの応用を習得する事を目的とし、各種トレーニングの消化や自発的研究活動の延長線上にに於いて、タイム感の重要性を理解しグルーヴに対する「気付き」が生まれる事を目標とする。						
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ギターについての基礎知識（演奏フォームや様々な奏法について） ウォームアップフレーズについて復習する
2		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （マイナー・メジャーペンタトニック） スケールを基にしたフレーズについて復習する
3		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （メジャースケール） スケールを基にしたフレーズについて復習する
4		演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （マイナースケール） スケールを基にしたフレーズについて復習する
5		講義	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 （インターバル） スケールを基にしたフレーズについて復習する
6		講義	8ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる	8ビート主体の曲に対するアプローチ （コードストローク、ソロ）について復習する
7		演習	16ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる （コードストローク、ソロ）	16ビート主体の曲に対するアプローチ （コードストローク、ソロ）について復習する
8		演習	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用につい演奏できる。	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用について復習する
9		演習	シンコペーション （コードストローク、アルペジオ、ソロ）について演奏できる	シンコペーション （コードストローク、アルペジオ、ソロ）について復習する
10		演習	ミュートと空ピッキング （メトロノームを使った様々な練習法について）について演奏できる	ミュートと空ピッキング （メトロノームを使った様々な練習法について）について復習する
11		演習	楽譜の読み方と書き方について演奏できる	楽譜の読み方と書き方について復習する
12		演習	コードトーン （メジャー、マイナー） コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる	コードトーン （メジャー、マイナー） コードトーンを基にしたフレーズの習得について復習する
13		演習	主要四和音 （トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性）について演奏できる	主要四和音 （トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性）について復習する
14		演習	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）	コード進行の解析 （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）について復習する
15		演習	コード進行の解析演奏できる （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）	コード進行の解析 （ダイアトニックトニックとコードアルペジオの関係性について）について復習する
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Expression C-4 （Key chord work 4）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	土屋　剛
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりベーシストだけにではない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	楽器構造と特有な記譜法の理解。	楽器構造と特有な記譜法の理解。
2		演習	メトロノームを使用した練習の紹介。	メトロノームを使用した練習の紹介。
3		演習	カホンの各ビートにおけるバリエーションの実践。	カホンの各ビートにおけるバリエーションの実践。
4		演習	ティンバレスの各ビートにおけるバリエーションの実践。	ティンバレスの各ビートにおけるバリエーションの実践。
5		演習	ゴーストモーションに関する考察。	ゴーストモーションに関する考察。
6		演習	フィルインに関する考察。	フィルインに関する考察。
7		演習	コンガの各ビートにおけるバリエーションの実践。	コンガの各ビートにおけるバリエーションの実践。
8		演習	その他パーカッション（シェイカーやカウベルなど）の 各ビートにおけるバリエーションの実践。	その他パーカッション（シェイカーやカウベルなど）の 各ビートにおけるバリエーションの実践。
9		演習	16ビートの実践。リード感覚に関する考察。	16ビートの実践。リード感覚に関する考察。
10		演習	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察。	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察。
11		演習	マイナスワン音源を使用したトレーニングの実施	マイナスワン音源を使用したトレーニングの実施
12		演習	リズム構造の理解とフィールの実践。	リズム構造の理解とフィールの実践。
13		演習	８ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用	８ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用
14		試験	学期末試験実施	学期末試験実施
15		テスト	期末テスト実施と復習	未理解箇所の解明
準備学習　時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Semi Private Lesson 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	榎本　弘幸 奥　出矢 佐藤　敦 有田　清幸 小林　幸恵
学科・コース		授業 形態	演習	総時間 （単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	ミュージシャン、アーティストにとって必要不可欠な音階を学び、ソロアプローチ法やそのテクニックを学ぶ。						
到達目標	メジャースケールの5パターン、メジャーペンタトニックスケールの5パターン、ダイヤトニックアルペジオの使い方、ソロ奏法ができるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点：100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	メジャー・スケールのハーモニーを理解する。	メジャー・スケールのハーモニーの復習を行い実演する。
2		演習	1、3、5度のコード・トーンからスケールを始める方法を理解し実演できる。	1、3、5度のコード・トーンから始める方法 の復習を行い実演する。
3		演習	メジャー・スケールパターン・トライアド・アルペジオ使い方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン4のトライアド・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
4		演習	1、3、5度のコード・トーンから始める方法を理解し実演できる。	1、3、5度のコード・トーンから始める方法の復習を行い実演する。
5		演習	メジャー・スケールパターン2のトライアド・アルペジオ使い方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン2のトライアド・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
6		演習	1、3、5度のコード・トーンから始める方法を理解し実演できる。	1、3、5度のコード・トーンから始める方法の復習を行い実演する。
7		演習	メジャー・スケールパターン1のトライアド・アルペジオの使い方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン1のトライアド・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
8		演習	1、3、5度のコード・トーンから始める方法を理解し実演できる。	1、3、5度のコード・トーンから始める方法の復習を行い実演する。
9		演習	メジャー・スケールパターン3のトライアド・アルペジオ使い方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン3のトライアド・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
10		演習	メジャー・スケールパターン5のトライアド・アルペジオ使い方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン5のトライアド・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
11		演習	メジャー、マイナー、ディミニッシュ、sus4、オーギゥメントアルペジオ使い方を理解し実演できる。	メジャー、マイナー、ディミニッシュ、sus4、オーギゥメントアルペジオ使い方の復習を行い実演する。
12		演習	メジャー・スケールパターン4の7th・アルペジオ使い方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン4の7th・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
13		演習	メジャー・スケールパターン2の7th・アルペジオ使い方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン2の7th・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
14		演習	メジャー・スケールパターン1の7th・アルペジオ使い方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン1の7th・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
15		演習	試験	試験
準備学習　時間外学習			各スケール練習、コードワーク復習を1日1時間を基本に繰り返す。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Semi Private Lesson 2	必修選択	選択	年次	2	担当教員	榎本　弘幸 奥　出矢 佐藤　敦 有田　清幸 小林　幸恵
学科・コース		授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	アンサンブルコミュニケーション力と、インスト楽曲での各楽器の演奏バリエーションを学ぶ。						
到達目標	ミュージシャンにとって必要な読譜力を学び、様々なスタイルの楽曲を様々なキーで演奏する。						
評価方法と基準	実技による採点：100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	譜面の読み方、パート作りを行い書く写すことができる。	譜面の読み方、パート作りを行い書く写し譜面作成する。
2		演習	ブルースのコード進行の理解し演奏できる。	ブルースのコード進行の復習をし演奏を録音する。
3		演習	パートのバリエーションとソロの応用を行い実演する。	パートのバリエーションとソロの応用を復習をし演奏を録音する。
4		演習	ブルースのシャッフルスタイルの理解し12小節、８ビートブルースの演奏する。	ブルースのシャッフルスタイルの復習をし演奏を録音する。
5		演習	ブルースのシャッフルスタイルの理解しブルースのシャッフルスタイル曲の演奏する。	ブルースのシャッフルスタイルの復習をし演奏を録音する。
6		演習	8小節ブルース＋ブリッジの理解しブルースのシャッフルスタイル曲の演奏する。	8小節ブルース＋ブリッジ復習をし演奏を録音する。
7		演習	8小節ブルース＋ブリッジの理解し、ブルースのシャッフルスタイル曲の演奏する。	8小節ブルース＋ブリッジ復習をし演奏を録音する。
8		演習	シンコペーションと分数コードの理解しブルース＋ブリッジ構成曲の演奏する。	シンコペーションと分数コードの復習をし演奏を録音する。
9		演習	シンコペーションと分数コードの理解しシンコペーションと分数コード曲の演奏する。	シンコペーションと分数コードの理解をし復習をし演奏を録音する。
10		演習	シンコペーションと分数コードを理解しシンコペーションと分数コード曲の演奏。	シンコペーションと分数コードを理解し復習をし演奏を録音する。
11		演習	シンコペーション、分数コードの理解しロックスタイルのシンコペーションと分数コード曲の演奏する。	シンコペーション、分数コードの理解し復習をし演奏を録音する。
12		演習	レゲエスタイルの理解とロックスタイルのシンコペーションと分数コード曲の演奏する。	レゲエスタイルの理解復習をし演奏を録音する。
13		演習	レゲエスタイルの理解しレゲエスタイル曲の演奏する。	レゲエスタイルの理解復習をし演奏を録音する。
14		演習	6/8拍子のロックスタイルの理解しKey=CMのレゲエスタイル曲の演奏する。	6/8拍子のロックスタイルの理解復習をし演奏を録音する。
15		演習	テスト	テスト
準備学習　時間外学習			各スケール練習、コードワーク復習を1日1時間を基本に繰り返す。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	セッションアレンジゼミ 1	必修選択	選択	年次	2	担当教員	村田 隆行
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	村田隆行 ://takayukimurata.com/about.html						
授業の学習内容	①「BANDアンサンブルをテーマに、プロフェッショナルな現場での急なアレンジや自身の演奏スタイルの応用までを習得する。」 ②「各パートの授業、理論の実践の場。」 ③「瞬発的なアンサンブルやアレンジの対応を求められる事で、自身の演奏課題が明確になる事。（アンサンブル力・楽器演奏力）この二つがプロフェッショナルとして通用するための課題が明確になり、それらを勉強・実践する事により、ステージや録音現場で堂々と演奏が出来き、自信に繋がっていく場になって欲しい。」 ①～③をふまえ、課題曲を中心に、みんなで演奏をする事、その結果どうなったかを録音し、みんなでチェックをする。リズム・ハーモニー・メロディー、これらのテーマを各楽器がどう考え、何に気をつけながら演奏しなければいけないのかをみんなで考察する。他パートが何を考えているのか、どう変化すればどの様なアンサンブルが生まれるのかをみんなで考える事により、自然とアンサンブルやバンド・アレンジに対する意識を各ミュージシャンが身につけてほしい。						
到達目標	①急なアレンジの変更・楽曲の提示を対応する事により、自身の楽器演奏レベルの向上、授業の実践をする事から自身の目標をさらに明確にする。 ②アンサンブル・アレンジに対するチームワーク意識と大切さを持ってもらう。 ③インストゥルメンタル・ミュージックとヴォーカルのためのアンサンブルの違いをこの授業から理解し、状況によりコントロール出来る様になる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	この授業の説明とチームの振り分け	
2		演習	課題曲①を使ってのアンサンブル/前半	・リズムキープ練習・アレンジの分析・すべての楽器担当者がメロディー、ハーモニーを分析する
3		講義	①のアレンジの考察と主にリズム・リアレンジ	・バンドアンサンブルに必要な担当楽器のセルフアレンジ力の幅を広げるためのトレーニング
4		演習	課題曲を使ってのアンサンブル/後半	・リズムキープ練習　・アレンジの分析　・リズムパターンの引き出しを増やす
5		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/前半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
6		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/後半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
7		演習	課題曲を使ってのアンサンブル②	・リズムキープ練習・アレンジの分析・すべての楽器担当者がメロディー、ハーモニーを分析する
8		講義	②のアレンジの考察と主にリズム・リアレンジ	・リズムキープ練習　・アレンジの分析　・リズムパターンの引き出しを増やす
9		講義	②のアレンジの考察と主にハーモニー・リアレンジ	・リズムキープ練習　・アレンジの分析　・リズムパターンの引き出しを増やす
10		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/前半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
11		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/後半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
12		演習	課題曲を使ってのアンサンブル③（課題曲まとめ）	課題曲のアレンジ発表
13		演習	課題曲を使ってのアンサンブル④（課題曲まとめ）	課題曲のアレンジ発表
14		講義	前期項目の総復習	前期未達成項目の復習
15		テスト	期末テスト実施と復習	前期未達成項目の復習
準備学習　時間外学習			スキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	セッションアレンジゼミ 2	必修選択	選択	年次	2	担当教員	村田 隆行
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴	村田隆行 http://takayukimurata.com/about.html						
授業の学習内容	①「前期よりもリズム、コード感に特化し、プロフェッショナルな現場での急なアレンジや自身の演奏スタイルの応用までを習得する。」 ②「各パートの授業、理論の実践の場。」 ③「瞬発的なアンサンブルやアレンジの対応を求められる事で、自身の演奏課題が明確になる事。（アンサンブル力・楽器演奏力）この二つがプロフェッショナルとして通用するための課題が明確になり、それらを勉強・実践する事により、ステージや録音現場で堂々と演奏が出来き、自信に繋がっていく場になって欲しい。」 ①～③をふまえ、課題曲を中心に、みんなで演奏をする事、その結果どうなったかを録音し、みんなでチェックをする。リズム・ハーモニー・メロディー、これらのテーマを各楽器がどう考え、何に気をつけながら演奏しなければいけないのかをみんなで考察する。他パートが何を考えているのか、どう変化すればどの様なアンサンブルが生まれるのかをみんなで考える事により、自然とアンサンブルやバンド・アレンジに対する意識を各ミュージシャンが身につけてほしい。						
到達目標	①急なアレンジの変更・楽曲の提示を対応する事により、自身の楽器演奏レベルの向上、授業の実践をする事から自身の目標をさらに明確にする。 ②アンサンブル・アレンジに対するチームワーク意識と大切さを持ってもらう。 ③インストゥルメンタル・ミュージックとヴォーカルのためのアンサンブルの違いをこの授業から理解し、状況によりコントロール出来る様になる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		講義	前期の振り返り	後期の予習
2		演習	課題曲①を使ってのアンサンブル/前半	・リズムキープ練習・アレンジの分析・すべての楽器担当者がメロディー、ハーモニーを分析する
3		講義	①のアレンジの考察と主にリズム・リアレンジ	・バンドアンサンブルに必要な担当楽器のセルフアレンジ力の幅を広げるためのトレーニング
4		演習	課題曲を使ってのアンサンブル/後半	・リズムキープ練習　・アレンジの分析　・リズムパターンの引き出しを増やす
5		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/前半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
6		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/後半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
7		演習	課題曲を使ってのアンサンブル②	・リズムキープ練習・アレンジの分析・すべての楽器担当者がメロディー、ハーモニーを分析する
8		演習	②のアレンジの考察と主にリズム・リアレンジ	・リズムキープ練習　・アレンジの分析　・リズムパターンの引き出しを増やす
9		演習	②のアレンジの考察と主にハーモニー・リアレンジ	・リズムキープ練習　・アレンジの分析　・リズムパターンの引き出しを増やす
10		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/前半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
11		演習	メロディストやアンサンブル・リーダーのシャッフル/後半	・バンドメンバーにその楽曲の演奏イメージをどうすれば明確に伝える事が出来るのか？を研究
12		演習	課題曲を使ってのアンサンブル③（課題曲まとめ）	課題曲のアレンジ発表
13		演習	課題曲を使ってのアンサンブル④（課題曲まとめ）	課題曲のアレンジ発表
14		講義	後期項目の総復習	後期未達成項目の復習
15		テスト	期末テスト実施と復習	後期未達成項目の復習
準備学習　時間外学習			スキル習得。準備復習研究時間として週4時間	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	オーケストレーション　1	必修選択	選択	年次	3	担当教員	隼田義博
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャーデビュー/音楽プロデューサー	授業形態	講義・実習	総時間（単位）	60 4単位		
教員の略歴	マイアミ大学音楽学部卒業。ジャズ・ミュージカルの作編曲、マルチメディア音源を音楽ライブラリ各社よりリリース、Discovery、National Geographic、FOX、FOX Sports、BBC、MTV、SONY Picturesなどをはじめとする国内外の各TV局の番組、プロモ、また映画のトレーラー等で多数使用される。						
授業の学習内容	2年時に履修した「インストゥルメンテーション」で学習した管弦打楽器の各種楽器についての理解をもとに、1年を通してビッグバンドとオーケストラのためのラージアンサンブルのための書法、そしてDAWでの制作における生楽器とサウンドデザイン（シンセや様々なFX）の素材とのハイブリッドな音の構造にも領域を広げていきます。前期では主にポップスやジャズにおけるブラスアンサンブル（2管編成～ビッグバンドまで）のスコアをひもときながら、基礎的な書法を学習し自己の作編曲作品にいかしていきます。						
到達目標	各種金管楽器の特性、アーティキュレーションについて理解がある。 コードネームから様々なボイシングと、メロディラインを作る知識がある。 小編成（2～5管編成）のブラスアレンジができる。 ビッグバンドの基礎的な書法の理解があり、簡単なアレンジができる。						
評価方法と基準	1）定期テスト（実技試験：100%）						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1		講義	今後の授業の予定とガイダンス。インストゥルメンテーションとの違い、オーケストレーションの意義の確認。	今後の授業の予定とガイダンス。インストゥルメンテーションとの違い、オーケストレーションの意義の確認。振り返りと自習
2		講義	コードとスケールの理論、トランペット、トロンボーン、サックス各種の楽器法、リズムセクションの書法をスコアで確認。	コードとスケールの理論、トランペット、トロンボーン、サックス各種の楽器法、リズムセクションの書法をスコアで確認。振り返りと自習
3		講義	ユニゾンとハーモニーについて考察。ユニゾン、オクターブユニゾンによる楽器の重なりから音色の変化を感じ取ることができる。	ユニゾンとハーモニーについて考察。ユニゾン、オクターブユニゾンによる楽器の重なりから音色の変化を感じ取ることができる。振り返りと自習
4		講義	ハーモニーについての考察①　2～3管編成におけるアレンジのバリエーションと、ボイシングの理解がある。	ハーモニーについての考察①　2～3管編成におけるアレンジのバリエーションと、ボイシングの理解がある。振り返りと自習
5		講義	ハーモニーについての考察②　4～5管編成におけるアレンジのバリエーションと、ボイシングの理解がある。	ハーモニーについての考察②　4～5管編成におけるアレンジのバリエーションと、ボイシングの理解がある。振り返りと自習
6		講義	ビッグバンドにおけるトランペットセクションの書法について考察。そのアレンジ、ボイシングについて基礎理解がある。	ビッグバンドにおけるトランペットセクションの書法について考察。そのアレンジ、ボイシングについて基礎理解がある。振り返りと自習
7		講義	ビッグバンドにおけるトロンボーンセクションの書法について考察。そのアレンジ、ボイシングについて基礎理解がある。	ビッグバンドにおけるトロンボーンセクションの書法について考察。そのアレンジ、ボイシングについて基礎理解がある。振り返りと自習
8		講義	ビッグバンドにおける8ブラス（トランペットとトロンボーン）について考察。そのアレンジ、ボイシングについて基礎理解がある。	ビッグバンドにおける8ブラス（トランペットとトロンボーン）について考察。そのアレンジ、ボイシングについて基礎理解がある。振り返りと自習
9		講義	ビッグバンドにおけるサックスセクションの書法について考察。そのアレンジ、ボイシングについて基礎理解がある。	ビッグバンドにおけるサックスセクションの書法について考察。そのアレンジ、ボイシングについて基礎理解がある。振り返りと自習
10		講義	ビッグバンドにおけるフルアンサンブルの書法について考察。そのアレンジ、ボイシングについて基礎理解がある。	ビッグバンドにおけるフルアンサンブルの書法について考察。そのアレンジ、ボイシングについて基礎理解がある。振り返りと自習
11		講義	スコアリーディング①　ビッグバンドの作品分析、そのアレンジやボイシングについて理解がある。	スコアリーディング①　ビッグバンドの作品分析、そのアレンジやボイシングについて理解がある。振り返りと自習
12		講義	スコアリーディング②　ビッグバンドの作品分析、そのアレンジやボイシングについて理解がある。	試験準備
13		試験	これまで学習したビッグバンドの基礎的な処方について確認する試験を実施するとともに、アレンジ作品の提出。	
14		講義・実習	ミュージカルを想定したSEの制作、これまで学習した楽器を4つ以上使用	ミュージカルを想定したSEの制作、これまで学習した楽器を4つ以上使用しての創作活動
15		講義・実習	ミュージカルを想定した30～60秒サイズのBGMの制作、これまで学習した楽器を4つ以上使用	ミュージカルを想定した30～60秒サイズのBGMの制作、これまで学習した楽器を4つ以上使用しての創作活動
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	オーケストレーション　2	必修選択	選択	年次	3	担当教員	隼田義博
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャーデビュー/音楽プロデューサー	授業形態	講義・実習	総時間（単位）	60 4単位		
教員の略歴	マイアミ大学音楽学部卒業。ジャズ・ミュージカルの作編曲、マルチメディア音源を音楽ライブラリ各社よりリリース、Discovery、National Geographic、FOX、FOX Sports、BBC、MTV、SONY Picturesなどをはじめとする国内外の各TV局の番組、プロモ、また映画のトレーラー等で多数使用される。						
授業の学習内容	前期に学習したブラスアンサンブルの知識と理解のうえに、後期では主にクラシックのオーケストラスコアをひもときながら、オーケストレーションの基礎的な書法を学習するとともに、ポップス、劇版、サウンドデザインなどのジャンルにおいてDAWでのハイブリッドなオーケストレーションを作品に反映できることを目指します。						
到達目標	木管楽器と弦楽器、打楽器の特性、アーティキュレーションについて理解がある。 コードネームから様々なボイシングと、メロディラインを作る知識がある。 オーケストラの書法について基礎的な理解があり、譜面を書くことができる。 DAWでのオーケストラサウンド、サウンドデザイン要素とのハイブリッドな作品を制作できる。						
評価方法と基準	1）定期テスト（実技試験：100%）						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1		講義	クラシック、フィルムスコア、サウンドデザインの作品をひもときながら、オーケストレーションの意義と学習についてディスカッション。	クラシック、フィルムスコア、サウンドデザインの作品をひもときながら、オーケストレーションの意義と学習についてディスカッション。振り返りと自習
2		講義	弦楽器各種の楽器法についてふりかえり、書法をスコアで確認。	弦楽器各種の楽器法についてふりかえり、書法をスコアで確認。振り返りと自習
3		講義	弦楽器のボイシング、アレンジについて考察、その理解をもとにサウンドの分析ができる。	弦楽器のボイシング、アレンジについて考察、その理解をもとにサウンドの分析ができる。振り返りと自習
4		講義	金管楽器各種の楽器法についてふりかえり、オーケストラにおける書法をスコアで確認。	金管楽器各種の楽器法についてふりかえり、オーケストラにおける書法をスコアで確認。振り返りと自習
5		講義	金管楽器のボイシング、アレンジについて考察、その理解をもとにサウンドの分析ができる。	金管楽器のボイシング、アレンジについて考察、その理解をもとにサウンドの分析ができる。振り返りと自習
6		講義	パーカッション各種の楽器法についてふりかえり、オーケストラにおける書法をスコアで確認。	パーカッション各種の楽器法についてふりかえり、オーケストラにおける書法をスコアで確認。振り返りと自習
7		講義	パーカッションのアレンジについて考察、その理解をもとにサウンドの分析ができる。	パーカッションのアレンジについて考察、その理解をもとにサウンドの分析ができる。振り返りと自習
8		講義	木管各種の楽器法についてふりかえり、オーケストラにおける書法をスコアで確認。	木管各種の楽器法についてふりかえり、オーケストラにおける書法をスコアで確認。振り返りと自習
9		講義	木管楽器のアレンジについて考察、その理解をもとにサウンドの分析ができる。	木管楽器のアレンジについて考察、その理解をもとにサウンドの分析ができる。振り返りと自習
10		講義	サウンドデザインの考察①　生楽器以外のシンセやサウンドFXの素材について知識と理解があり、曲中でのサウンド分析ができる。	サウンドデザインの考察①　生楽器以外のシンセやサウンドFXの素材について知識と理解があり、曲中でのサウンド分析ができる。振り返りと自習
11		講義	サウンドデザインの考察②　オーケストラサウンドとサウンドデザイン素材とのハイブリッドなサウンドの分析ができる。	サウンドデザインの考察②　オーケストラサウンドとサウンドデザイン素材とのハイブリッドなサウンドの分析ができる。振り返りと自習
12		講義	サウンドデザインの考察③　サウンドデザインの素材のみで作られたトラックの分析ができる。	試験準備
13		試験	これまで学習したオーケストラの基礎的な処方について確認する試験を実施するとともに、アレンジ作品の提出。	
14		講義・実習	ミュージカルを想定したSEの制作、これまで学習した楽器を4つ以上使用	ミュージカルを想定したSEの制作、これまで学習した楽器を4つ以上使用しての創作活動
15		講義・実習	ミュージカルを想定した30～60秒サイズのBGMの制作、これまで学習した楽器を4つ以上使用	ミュージカルを想定した30～60秒サイズのBGMの制作、これまで学習した楽器を4つ以上使用しての創作活動
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	サウンドプロデュース 1	必修選択	選択	年次	3	担当教員	今関邦裕
学科・コース	音楽テクノロジー科・作曲&アレンジャーデビュー/音楽プロデューサー/レコーディングエンジニア/レコーディング&PAエンジニア	授業形態	講義・演習・実習	総時間（単位）	60 4単位		
教員の略歴	フリーランスのサウンドエンジニア。2015年4月よりTSMで講師を始める。						
授業の学習内容	ミキシングの基礎知識、応用、ミキシングの観点からアレンジやレコーディングの重要性を学ぶ。作曲コースのコンペ授業での反省とアドバイス、実演を交えてミキシングによる伝え方を学ぶ。卒業制作に向けてマスタリングの基礎応用。						
到達目標	実際の現場で通用するエンジニアの立ち振る舞い、技術を身に付けることができる。						
評価方法と基準	1）定期テスト（実技試験：100%）						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・演習・実演	スタジオワークでの作法① ミックスルーティングの作り方①	※作曲家コースは自作曲・プリプロの授業を取ってる生徒は
2		講義・演習・実演	スタジオワークでの作法② ミックスルーティングの作り方②	課題曲のパラデータを常に用意しておく事。
3		講義・演習・実演	ミキシングの応用技術習得・実践1	※RECコースも常に参考曲を用意できるよう心がける事。
4		講義・演習・実演	ミキシングの応用技術習得・実践2	
5		講義・演習・実演	ミキシングの応用技術習得・実践3	※150分の中で自作曲のレコーディングがしたい生徒は
6		講義・演習・実演	マスタリング基礎	前もって言えば授業で扱います。
7		講義・演習・実演	マスタリング応用	
8		講義・演習・実演	ミキシングの応用技術習得・実践4	
9		講義・演習・実演	ミキシングの応用技術習得・実践5	
10		講義・演習・実演	ミキシングの応用技術習得・実践6	
11		講義・演習・実演	ミキシングの応用技術習得・実践7	
12		講義・演習・実演	ミキシングの応用技術習得・実践8	
13		試験	ミキシングの応用技術を活かした課題曲の提出	
14		講義・演習	ミュージカルのライブレコーディングのシステム構築及びProToolsセッション作成について	ミュージカルのライブレコーディングのセッション作成について振り返りと自習
15		講義・演習	ミュージカルのライブレコーディングセッションの編集と管理について	ミュージカルのライブレコーディングセッションの編集と管理について振り返りと自習
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	サウンドプロデュース 2	必修選択	選択	年次	3	担当教員	今関邦裕
学科・コース	音楽テクノロジー科・作曲&アレンジャーデビュー/音楽プロデューサー/レコーディングエンジニア/レコーディング&PAエンジニア	授業形態	講義・演習・実習	総時間（単位）	60 4単位		
教員の略歴	フリーランスのサウンドエンジニア。2015年4月よりTSMで講師を始める。						
授業の学習内容	ミキシングの基礎知識、応用、ミキシングの観点からアレンジやレコーディングの重要性を学ぶ。作曲コースのコンペ授業での反省とアドバイス、実演を交えてミキシングによる伝え方を学ぶ。卒業制作に向けてマスタリングの基礎応用。						
到達目標	実際の現場で通用するエンジニアの立ち振る舞い、技術を身に付けることができる。						
評価方法と基準	1）定期テスト（実技試験：100%）						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・演習・実演	ミキシングの応用技術習得・実践10	※作曲家コースは自作曲・プリプロの授業を取ってる生徒は
2		講義・演習・実演	ミキシングの応用技術習得・実践11	課題曲のパラデータを常に用意しておく事。
3		講義・演習・実演	ミキシングの応用技術習得・実践12	※RECコースも常に参考曲を用意できるよう心がける事。
4		講義・演習・実演	ミキシングの応用技術習得・実践13	
5		講義・演習・実演	ミキシングの応用技術習得・実践14	※150分の中で自作曲のレコーディングがしたい生徒は
6		講義・演習・実演	ミキシングの応用技術習得・実践15	前もって言えば授業で扱います。
7		講義・演習・実演	ミキシングの応用技術習得・実践16	
8		講義・演習・実演	ミキシングの応用技術習得・実践17	
9		講義・演習・実演	ミキシングの応用技術習得・実践18	
10		講義・演習・実演	ミキシングの応用技術習得・実践19	
11		講義・演習・実演	ミキシングの応用技術習得・実践20	
12		講義・演習・実演	ミキシングの応用技術習得・実践21	
13		試験	ミキシングの応用技術を活かした課題曲の提出	
14		講義・演習	卒業進級制作のライブレコーディングのシステム構築及びProToolsセッション作成について	卒業進級制作のライブレコーディングに向けたシステム構築及びProToolsセッション作成について　振り返りと自習
15		講義・演習	卒業進級制作のライブレコーディングセッションの編集と管理について	卒業進級制作のライブレコーディングセッションの編集と管理について 振り返りと自習
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	CD制作　1	必修選択	選択	年次	3	担当教員	野崎 貴潤
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャーデビュー/音楽プロデューサー/レコーディングエンジニア/レコーディング&PAエンジニア	授業形態	実習・演習	総時間（単位）	120 8単位		

教員の略歴	作・編曲、プロデュース、エンジニアリングなどの音楽制作に関わって30年
授業の学習内容	三年間の学習の総決算として，現実に近い環境・形態で，限りなくプロクォリティに近い音楽アルバム制作を出来る様に力をつける
到達目標	自分達でサウンドプロデュース・スケジュール作成・ミュージシャン発注等を総合した「トータルプロデュース」の力を発揮できる
評価方法と基準	1）定期テスト（実技試験：50%、作品提出：50%）

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1		実習・演習	テーマ決定・チーム編成	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
2		実習・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
3		実習・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
4		実習・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
5		実習・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
6		実習・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
7		実習・演習	10分以上のアレンジ・レコーディング・編集済み作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
8		実習・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
9		実習・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
10		実習・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
11		実習・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
12		実習・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
13		試験	20分以上のアレンジ・レコーディング・編集済み作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
14		実習・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
15		実習・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
準備学習　時間外学習			余裕を持った作成環境を作る為に，効率的な授業・授業外のスケジューリングを心がける	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	CD制作　2	必修選択	選択	年次	3	担当教員	野崎 貴潤
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャーデビュー・音楽プロデューサー・作曲&ミュージシャン・作曲&レコーディング・レコーディングエンジニア・レコーディングDPAエンジニア	授業形態	実習・演習	総時間（単位）	120 8単位		

教員の略歴	作・編曲、プロデュース、エンジニアリングなどの音楽制作に関わって30年
授業の学習内容	三年間の学習の総決算として，現実に近い環境・形態で，限りなくプロクォリティに近い音楽アルバム制作を出来る様に力をつける
到達目標	自分達でサウンドプロデュース・スケジュール作成・ミュージシャン発注等を総合した「トータルプロデュース」の力を発揮できる
評価方法と基準	1）定期テスト（実技試験：50%、作品提出：50%）

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1		演習	30分以上のアレンジ・レコーディング・編集済み作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
2		演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
3		演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
4		演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
5		演習	40分以上の全アレンジ・レコーディング・編集済み	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
6		演習	ミキシング	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
7		演習	ミキシング	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
8		演習	ミキシング	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
9		演習	全作品ミキシング済み作品提出及び確認	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
10		演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
11		演習	マスタリング	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
12		演習	全作品マスタリング済み作品提出及び確認	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
13		演習	ジャケット・パッケージ制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
14		演習	全作品マスタリング済み作品提出及び確認	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
15		演習	全作品マスタリング済み作品提出及び確認	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
準備学習　時間外学習			余裕を持った作成環境を作る為に，効率的な授業・授業外のスケジューリングを心がける	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Rec Basic 1	必修選択	選択	年次	1・3	担当教員	田中実
		授業形態	講義・演習・実習	総時間（単位）	60 4単位		
学科・コース	音楽テクノロジー・レコーディング&PA/音楽プロデューサー						

教員の略歴	SHANGRI-LA スタジオ所属　近年は映画やドラマなどの劇伴作品のレコーディングに多く携わる。
授業の学習内容	①実際にプロの録音現場で使われている機材を使用して、円滑にレコーディング作業ができるようになる。　②レコーディング時のミュージシャンなどのコミュニケーション、ディレクションなどを体験してみる。
到達目標	①プロ現場の機材の取り扱いができる。 ②卒業後にレコーディングスタジオで即戦力として働ける。
評価方法と基準	1）定期テスト（実技試験：100%）

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1		講義・演習	スタジオの説明。卓電源の入れ方、切り方	スタジオの説明。卓電源の入れ方、切り方 振り返りと自習。
2		講義・演習	SSL エクスターナル、センターモジュールの	SSL エクスターナル、センターモジュールの説明 振り返りと自習
3		講義・演習	SSL インラインコンソールの説明	SSL インラインコンソールの説明 振り返りと自習。
4		講義・演習	マイクとスタンドの種類	マイクとスタンドの種類 振り返りと自習。
5		講義・演習	SSL AUX センド、エコーとCUE BOXの使い	SSL AUX センド、エコーとCUE BOXの使い方 振り返りと自習
6		講義・演習	Vocal RECのセッティング	Vocal RECのセッティング 振り返りと自習。
7		講義・演習	Vocal REC シュミレーション	Vocal REC シュミレーション 振り返りと自習。
8		講義・演習	Vocal REC 実際にレコーディングしてみる①	Vocal REC 実際にレコーディングしてみる① 振り返りと自習
9		講義・演習	前週の反省点などを改善、トーレニング	前週の反省点などを改善、トーレニング 振り返りと自習。
10		講義・演習	Vocal REC 実際にレコーディングしてみる②	Vocal REC 実際にレコーディングしてみる② 振り返りと自習
11		講義・演習	前週の反省点などを改善、トーレニング	前週の反省点などを改善、トーレニング 振り返りと自習。
12		試験	試験	試験対策　復習
13		講義・演習	前期の復習	前期に覚えたことを復習
14		講義・演習	ミュージカルのライブレコーディングのシステム構築及びProToolsセッション作成について	ミュージカルのライブレコーディングのセッション作成について 振り返りと自習
15		講義・演習	ミュージカルのライブレコーディングセッションの編集と管	ミュージカルのライブレコーディングセッションの編集と管理について 振り返りと自習
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Rec Basic 2	必修選択	選択	年次	1・3	担当教員	田中実
		授業形態	講義・演習・実習	総時間（単位）	60 4単位		
学科・コース	音楽テクノロジー・レコーディング&PA/音楽プロデューサー						
教員の略歴	SHANGRI-LA スタジオ所属　近年は映画やドラマなどの劇伴作品のレコーディングに多く携わる。						
授業の学習内容	①実際にプロの録音現場で使われている機材を使用して、円滑にレコーディング作業ができるようになる。　②レコーディング時のミュージシャンなどのコミュニケーション、ディレクションなどを体験してみる。						
到達目標	①プロ現場の機材の取り扱いができる。 ②卒業後にレコーディングスタジオで即戦力として働ける。						
評価方法と基準	1）定期テスト（実技試験：100%）						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1		講義・演習	前期の復習	前期の復習 振り返りと楽器知識の予習。
2		講義・演習	ドラム・ベースレコーディングセッティング練習①	ドラム・ベースレコーディングセッティング練習① 振り返りと楽器知識の予習。
3		講義・演習	ギター・キーボードレコーディングセッティング練習②	ギター・キーボードレコーディングセッティング練習② 振り返りと楽器知識の予習。
4		講義・演習	各種楽器レコーディング演習	各種楽器レコーディング演習 振り返りと楽器知識の予習。
5		講義・演習	前週の反省点などを改善、トーレニング	前週の反省点などを改善、トーレニングにつ
6		講義・演習	3人編成バンドレコーディングセッティング練習①	3人編成バンドレコーディングセッティング練習① 振り返りと自習。
7		講義・演習	4人編成バンドレコーディングセッティング練習②	4人編成バンドレコーディングセッティング練習② 振り返りと自習。
8		講義・演習	5～6人編成バンドレコーディングセッティング練習③	5～6人編成バンドレコーディングセッティング練習③ 振り返りと自習。
9		講義・演習	バンドレコーディング演習①	バンドレコーディング演習① 振り返りと自習。
10		講義・演習	バンドレコーディング演習②	バンドレコーディング演習② 振り返りと自習。
11		講義・演習	前週の反省点などを改善、トーレニング	前週の反省点などを改善、トーレニング
12		試験	実技試験	試験対策　復習
13		講義・演習	後期の復習	後期に覚えたことを復習
14		講義・演習	卒業進級制作のライブレコーディングのシステム構築及びProToolsセッション作成について	卒業進級制作のライブレコーディングに向けたシステム構築及びProToolsセッション作成について　振り返りと自習
15		講義・演習	卒業進級制作のライブレコーディングセッションの編集と管理について	卒業進級制作のライブレコーディングセッションの編集と管理について 振り返りと自習
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Rec ワークショップ 1	必修選択	選択	年次	1・3	担当教員	前田基彦
学科・コース	音楽テクノロジー・レコーディングエンジニア/レコーディング&PAエンジニア/レコーディング&PA	授業形態	演習	総時間（単位）	60 4単位		
教員の略歴	フリーランスエンジニア。自身のスタジオを中心に活動。バンド/劇伴/映画サラウンド等幅広いジャンルに関わる。						
授業の学習内容	エンジニアの仕事に関わる基礎項目を習得する授業です。基礎知識を得る事で他科目の理解を深められます。難しい項目もありますが判りやすく授業をしますので頑張って参加し学習してください。実技と座学で機材＆音との接しかたや楽曲の捉え方まで多義に渡り解説します。服装はエンジニアリングを行うにふさわしい格好（行動しやすい靴や服で参加する事。スカートは避ける事。） 持ち物は、①授業内で使用する音源等持ち帰り用 USBメモリ・ハードディスクなどの外部記憶媒体　②自分のリファレンス（基準）となるヘッドフォンまたはイヤホン（接続はTRSまたはミニTRS）						
到達目標	レコーディングのワークフロー理解、機材の基礎的使用方法習得、レコーディング業界標準のProtools(プロツールス)の基本的な使用方法習得。						
評価方法と基準	1）定期テスト（実技試験：100%）						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	1年間の計画　機材廻り信号の流れ①	ノート復習
2		演習	音の聴き方①	楽曲準備　解析復習
3		演習	プロツールスについて	WEBサイト閲覧
4		演習	マイク①	マイク情報収集
5		演習	エフェクター①	エフェクター情報収集
6		演習	機材廻り信号の流れ②	ノート復習
7		演習	レコーディング①	シグナルフロー復習
8		演習	学園祭総括　世の中にある機材の情報収集	WEBサイト閲覧
9		演習	音の聴き方②	楽曲準備　解析復習
10		演習	レコーディング②	シグナルフロー復習
11		演習	明日への扉に向けて　機材廻りの解説①	配布資料確認
12		演習	明日への扉に向けて　機材廻りの解説②	配布資料確認
13		講義・演習	ミュージカルのライブレコーディングのシステム構築及びProToolsセッション作成について	ミュージカルのライブレコーディングのセッション作成について 振り返りと自習
14		講義・演習	ミュージカルのライブレコーディングセッションの編集と管理について	ミュージカルのライブレコーディングセッションの編集と管理について 振り返りと自習
15		試験・演習	明日への扉　ライブミックス	ワークフロー復習
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

JAPRS サウンドレコーディング技術概論　Sound & Recording マガジン

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Rec ワークショップ　2	必修選択	選択	年次	1・3	担当教員	前田基彦
学科・コース	音楽テクノロジー・レコーディングエンジニア/レコーディング&PAエンジニア/レコーディング&PA	授業形態	演習	総時間（単位）	60 4単位		
教員の略歴	フリーランスエンジニア。自身のスタジオを中心に活動。バンド/劇伴/映画サラウンド等幅広いジャンルに関わる。						
授業の学習内容	エンジニアの仕事に関わる基礎項目を習得する授業です。基礎知識を得る事で他科目の理解を深められます。難しい項目もありますが判りやすく授業をしますので頑張って参加し学習してください。実技と座学で機材＆音との接しかたや楽曲の捉え方まで多義に渡り解説します。服装はエンジニアリングを行うにふさわしい格好（行動しやすい靴や服で参加する事。スカートは避ける事。） 持ち物は、①授業内で使用する音源等持ち帰り用USBメモリ・ハードディスクなどの外部記憶媒体　②自分のリファレンス（基準）となるヘッドフォンまたはイヤホン（接続はTRSまたはミニTRS）						
到達目標	レコーディングのワークフロー理解、機材の基礎的使用方法習得、レコーディング業界標準のProtools(プロツールス)の基本的な使用方法習得。						
評価方法と基準	1）定期テスト（実技試験：100%）						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		演習	ライブRec総括とミックス作業概要説明	ノート復習
2		演習	マイク②　楽器録音①	録音ファイル復習聴取
3		演習	楽器録音②　エフェクター③	プラグイン復習操作
4		演習	楽器録音②　エフェクター④	プラグイン復習操作
5		演習	サラウンド①	サラウンド情報収集
6		演習	サラウンド①	サラウンド情報収集
7		演習	ハンダ付け①	ケーブルチェック
8		演習	明日への扉　ミックス作業	ワークフロー復習
9		演習	音の聴き方③	楽曲準備　解析復習
10		演習	サラウンド④	サラウンド情報収集
11		演習	テスト　マスタリングについて	配布資料確認
12		演習	ラウドネスレベルについて	配布資料確認
13		試験・演習	総括としての演習試験	ノート復習
14		講義と演習	卒業進級制作のライブレコーディングのシステム構築及びProToolsセッション作成について	卒業進級制作のライブレコーディングに向けたシステム構築及びProToolsセッション作成について　振り返りと自習
15		講義と演習	卒業進級制作のライブレコーディングセッションの編集と管理について	卒業進級制作のライブレコーディングセッションの編集と管理について振り返りと自習
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

JAPRS サウンドレコーディング技術概論　　Sound & Recording マガジン

科目名	ソングライティングゼミ 2―1	必修選択	選択	年次	2	担当教員	宇津本
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャー/音楽プロデューサー/ゲームミュージック	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 2単位		

教員の略歴	1994年、DEENにドラムス・コーラス担当として加入。 「未来のために」（日本テレビプロ野球中継テーマソング・オリコン1位獲得） 「夢であるように」（namco テイルズ・オブ・ディスティニー テーマソング） 「MY LOVE」（フジテレビドラマ・風の行方 主題歌） などの作曲を手がける。 また、クレジットはされていないものの「ひとりじゃない」（ドラゴンボールGT エンディングテーマソング）の作詞も一部手がけた。 2000年にDEENを脱退後、フリーランスで作曲・プロデュース活動。NHK「音の風景」BGM、au携帯電話CMソング、ダノンヨーグルトCMソングなどを作曲・制作。 2005年株式会社ビーイングにディレクターとして入社。美元智衣（ビーグラムレコーズ）、アツミサオリ（ランティス）などの原盤制作・マネジメントを担当、オーディション事務局を兼任。この間に音楽制作の現場で、ボーカルレコーディング、育成中の新人の歌唱指導を多数経験する。 2010年に独立、神部冬馬（ベルウッドレコード）のアルバムプロデュース、ジェームス小野田（米米クラブ）・上野優華（キングレコード）などへの楽曲提供。プライベートスタジオで主宰するプロ志望者向けの音楽塾からはGacharic Spin （ビクター）メンバー・ねんね、岩永知佳（郷ひろみコンサート・宮本亜門演出のミュージカルなどの編曲者）、関根佑樹（MS.OOJA、上野優華などの編曲者）を輩出。
授業の学習内容	楽曲制作のプロセス、作曲理論と実践、作詞理論と実践、劇伴音楽の作曲と制作、クリエイティブの方法論、トータルプロデュースから観た楽曲の役割を学ぶ。課題を随時提出して「楽曲デモ」のクオリティーの向上をはかる。
到達目標	映画・アニメ・ドラマ・ゲームで使用され、メジャーリリースされるクオリティーの楽曲の作詞・作曲・編曲・デモ制作ができるだけの知識とスキルの修得。
評価方法と基準	定期テスト（筆記40%　実技60%）

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	作詞作曲概論、本ゼミの講義全体の流れ	作詞作曲概論、本ゼミの講義全体の流れについて振り返りレポートをまとめる。
2		講義・演習	作詞・作曲の目的と目標とプロセス① 日本の音楽業界における作詞作曲の役割口	作詞・作曲の目的と目標とプロセス① 日本の音楽業界における作詞作曲の役割について振り返りレポートをまとめる。
3		講義・演習	作詞・作曲の目的と目標とプロセス② 日本の音楽業界における作詞・作曲の実際の流れ	作詞・作曲の目的と目標とプロセス② 日本の音楽業界における作詞・作曲の実際の流れについて振り返りレポートをまとめる。
4		講義・演習	作詞・作曲の目的と目標とプロセス③ 誰のために作詞・作曲をするのか？	作詞・作曲の目的と目標とプロセス③ 誰のために作詞・作曲をするのか？ について振り返りレポートをまとめる。
5		講義・演習	作曲理論①コード・Keyとは？コードとは？ベースラインとは？	作曲理論①コード・Keyとは？コードとは？ベースラインとは？について振り返りレポートをまとめる。
6		講義・演習	作曲理論②コード・基本的なコードの構成音	作曲理論②コード・基本的なコードの構成音について振り返りレポートをまとめる。
7		講義・演習	作曲理論③応用的なコード・特殊なコードの構成音、およびテンション	作曲理論③応用的なコード・特殊なコードの構成音、およびテンションについて振り返りレポートをまとめ
8		講義・演習	作曲理論④メロディーあるいはモチーフのつくり方	作曲理論④メロディーあるいはモチーフのつくり方について振り返りレポートをまとめる。
9		講義・演習	作曲理論⑤劇伴について	作曲理論⑤劇伴について振り返りレポートをまとめる。
10		講義・演習	楽曲分析の方法 すべてのコードを「Ckey」に直して、相対的なコードとして楽曲を分析する方法を学びます。	楽曲分析の方法 すべてのコードを「Ckey」に直して、相対的なコードとして楽曲を分析する方法について振り返りレポートをまとめる。
11		講義・演習	楽曲分析をみんなで実際にやってみる 前週学んだ楽曲分析の方法をつかってみんなで実際に楽曲を分析してみます。また、楽曲分析の課題を指示します。	楽曲分析をみんなで実際にやってみる 楽曲分析の課題に対して、レポートをまとめる。
12		講義・演習	楽曲分析の個別指導	次回テストに向けたデモ楽曲の制作
13		試験	楽曲分析の個別指導・作曲スキルのまとめ	楽曲分析の個別指導・作曲スキルのまとめについて振り返り、レポートをまとめる。
14		講義・演習	ミュージカル「明日への扉」のSE,MEの作成	ミュージカル「明日への扉」のSE,MEの作成について、時間外にても作業を実施し、楽曲のブラッシュアップを図る。
15		講義・演習	ミュージカル「明日への扉」のBGMの作成	ミュージカル「明日への扉」のBGMの作成について、時間外にても作業を実施し、楽曲のブラッシュアップを図る。
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	ソングライティングゼミ 2―2	必修選択	選択	年次	2	担当教員	宇津本
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャー/音楽プロデューサー/ゲームミュージック	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 2単位		

教員の略歴	1994年、DEENにドラムス・コーラス担当として加入。 「未来のために」（日本テレビプロ野球中継テーマソング・オリコン1位獲得） 「夢であるように」（namco テイルズ・オブ・ディスティニー テーマソング） 「MY LOVE」（フジテレビドラマ・風の行方 主題歌） などの作曲を手がける。 また、クレジットはされていないものの「ひとりじゃない」（ドラゴンボールGT エンディングテーマソング）の作詞も一部手がけた。 2000年にDEENを脱退後、フリーランスで作曲・プロデュース活動。NHK「音の風景」BGM、au携帯電話CMソング、ダノンヨーグルトCMソングなどを作曲・制作。 2005年株式会社ビーイングにディレクターとして入社。美元智衣（ビーグラムレコーズ）、アツミサオリ（ランティス）などの原盤制作・マネジメントを担当、オーディション事務局を兼任。この間に音楽制作の現場で、ボーカルレコーディング、育成中の新人の歌唱指導を多数経験する。 2010年に独立、神部冬馬（ベルウッドレコード）のアルバムプロデュース、ジェームス小野田（米米クラブ）・上野優華（キングレコード）などへの楽曲提供。プライベートスタジオで主宰するプロ志望者向けの音楽塾からはGacharic Spin （ビクター）メンバー・ねんね、岩永知佳（郷ひろみコンサート・宮本亜門演出のミュージカルなどの編曲者）、関根佑樹（MS.OOJA、上野優華などの編曲者）を輩出。
授業の学習内容	楽曲制作のプロセス、作曲理論と実践、作詞理論と実践、劇伴音楽の作曲と制作、クリエイティブの方法論、トータルプロデュースから観た楽曲の役割を学ぶ。課題を随時提出して「楽曲デモ」のクオリティーの向上をはかる。
到達目標	映画・アニメ・ドラマ・ゲームで使用され、メジャーリリースされるクオリティーの楽曲の作詞・作曲・編曲・デモ制作ができるだけの知識とスキルの修得。
評価方法と基準	定期テスト（筆記40%　実技60%）

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	楽曲制作のプロセス1　POPS編	楽曲制作のプロセス1　POPS編 振り返りと自習。
2		講義・演習	楽曲制作のプロセス2　ROCK編	楽曲制作のプロセス2　ROCK編 振り返りと自習。
3		講義・演習	楽曲制作のプロセス3　劇版編	楽曲制作のプロセス3　劇版編 振り返りと自習。
4		講義・演習	楽曲制作のプロセスについての学習到達度を筆記試験で検証	
5		講義・演習	作曲理論1　POPS編	作曲理論1　POPS編 振り返りと自習。
6		講義・演習	作曲理論2　ROCK編	作曲理論2　ROCK編 振り返りと自習。
7		講義・演習	作曲理論3　劇版編	作曲理論3　劇版編 振り返りと自習。
8		講義・演習	作曲理論についての学習到達度を課題提出で検証	
9		講義・演習	作詞理論1　POPS編	作詞理論1　POPS編 振り返りと自習。
10		講義・演習	作詞理論2　ROCK編	作詞理論2　ROCK編 振り返りと自習。
11		講義・演習	作詞理論3	作詞理論3 振り返りと自習。
12		講義・演習	作詞理論についての学習到達度を課題提出で検証	
13		試験	定期テスト	
14		講義・演習	卒業制作展においてSE制作を行う。	時間外にて学内及び自宅にて主体的に制作に取り組む。
15		講義・演習	卒業制作展においてBGM制作を行う。	時間外にて学内及び自宅にて主体的に制作に取り組む。
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	プリプロダクションゼミ 1	必修 選択	選択	年次	1.2.3	担当教員	勝守 理 深井 誠
学科・コース	音楽テクノロジー科・作曲&アレンジャーデビュー/音楽プロデューサー/作曲&アレンジャー/ゲームミュージック/DJパフォーマー&トラックメーカー	授業 形態	講義・演習・実習	総時間 （単位）	120 8単位		
教員の略歴	30年間にわたり作編曲家、プロデューサー等に従事						
授業の学習内容	実際にクライアントさんから発注を頂いた案件を授業枠の中で少人数のグループを組み試行錯誤しながら進めていき作品を完成させる。						
到達目標	発注を頂いたクライアントさんからの採用をコンペで勝ち取る作品を作る。その過程の中で今の音楽業界で本当に必要とされる制作能力、プロデュース能力、作曲能力、作詞能力、編曲能力、グループワークの実践力、コミュニケーション能力、などを身につける。						
評価方法と基準	1）定期テスト（実技試験：100%）□ ※3回のコンペの成績（優勝、準優勝、佳作、提出、未提出）+夏休み課題提出の合計点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業内容ガイダンス、第1クール課題発注、チーム分け	実習1に向けて作曲作業
2		講義・演習	第1クール実習1	実習2に向けて作詞、編曲作業
3		講義・演習	第1クール実習2	第1クールコンペに向けて録音、ミックス
4		講義・演習	第1クールコンペ、第2クール課題発注、チーム分け	実習1に向けて作曲作業
5		講義・演習	第2クール実習1	実習2に向けて作詞、編曲作業
6		講義・演習	第2クール実習2	実習3に向けて録音、編集作業
7		講義・演習	第2クール実習3	コンペに向けてミックス、マスタリング作業
8		講義・演習	第2クールコンペ、第3クール課題発注、チーム分け	実習1に向けて作曲作業
9		講義・演習	第3クール実習1	実習2に向けて作詞、編曲作業
10		講義・演習	第2クール実習2	実習3に向けて録音、編集作業
11		講義・演習	第2クール実習3	コンペに向けてミックス、マスタリング作業
12		試験	第3クールコンペ、夏休み課題発注、チーム分け	夏休み課題制作
13		講義・演習	夏休み課題発表	作品の管理とまとめ
14		講義・演習	ミュージカル「明日への扉」のSE,MEを第2クールのチームにてコライトを活用して作成	ミュージカル「明日への扉」のSE,MEの作成について、時間外にても作業を実施し、楽曲のブラッシュアップを図る。
15		講義・演習	ミュージカル「明日への扉」のBGMを第2クールのチームにてコライトを活用して作成	ミュージカル「明日への扉」のBGMの作成について、時間外にても作業を実施し、楽曲のブラッシュアップを図る。
準備学習　時間外学習				

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	プリプロダクションゼミ 2	必修 選択	選択	年次	1.2.3	担当教員	勝守 理 深井 誠
学科・コース	音楽テクノロジー科・作曲&アレンジャーデビュー/音楽プロデューサー/作曲&アレンジャー/ゲームミュージック/DJパフォーマー&トラックメーカー	授業 形態	講義・演習・実習	総時間 （単位）	120 8単位		
教員の略歴	30年間にわたり作編曲家、プロデューサー等に従事						
授業の学習内容	実際にクライアントさんから発注を頂いた案件を授業枠の中で少人数のグループを組み試行錯誤しながら進めていき作品を完成させる。						
到達目標	発注を頂いたクライアントさんからの採用をコンペで勝ち取る作品を作る。その過程の中で今の音楽業界で本当に必要とされる制作能力、プロデュース能力、作曲能力、作詞能力、編曲能力、グループワークの実践力、コミュニケーション能力、などを身につける。						
評価方法と基準	1）定期テスト（実技試験：100%）□ ※3回のコンペの成績（優勝、準優勝、佳作、提出、未提出）+夏休み課題提出の合計点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	第4クール課題発注、チーム分け	実習1に向けて作曲作業
2		講義・演習	第4クール実習1	実習2に向けて作詞、編曲作業
3		講義・演習	第4クール実習2	実習3に向けて録音、編集作業
4		講義・演習	第4クール実習3	コンペに向けてミックス、マスタリング作業
5		講義・演習	第4クールコンペ、第5クール課題発注、チーム分け	実習1に向けて作曲作業
6		講義・演習	第5クール実習1	実習2に向けて作詞、編曲作業
7		講義・演習	第5クール実習2	実習3に向けて録音、編集作業
8		講義・演習	第5クール実習3	コンペに向けてミックス、マスタリング作業
9		講義・演習	第5クールコンペ、第6クール課題発注、チーム分け	実習1に向けて作曲作業
10		講義・演習	第6クール実習1	実習2に向けて作詞、編曲作業
11		講義・演習	第6クール実習2	実習3に向けて録音、編集作業
12		講義・演習	第6クール実習3	コンペに向けてミックス、マスタリング作業
13		試験	第6クールコンペ、春休み課題発注、チーム分け	作品の管理とまとめ
14		講義・演習	卒業制作展においてSE制作を第5クールのチームにてコライトを活用して行う。	時間外にて学内及び自宅にて主体的に制作に取り組む。
15		講義・演習	卒業制作展においてBGM制作を第5クールのチームにてコライトを活用して行う。	時間外にて学内及び自宅にて主体的に制作に取り組む。
準備学習　時間外学習				

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	ダンスミュージックアナライズ　1	必修選択	選択	年次	2.3	担当教員	横野康平
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャーデビュー/音楽プロデューサー/作曲&アレンジャー/ゲームミュージック	授業形態	講義・実習	総時間（単位）	60 4単位		
教員の略歴	10年以上現役で作曲編曲家活動を行っている。講師活動は4年以上。						
授業の学習内容	①世界中に存在するダンスミュージックの技法を分析し各自技のレパートリーに取り入れコンペで目立つ楽曲を出せるようにするのが目的。②プリプロやセルフプロディースと関連づけコンペ対策にする。③各ジャンルに収まらない作品作りに努めてもらいたい。③ビルボードランキングやBeatport、YouTubeなどから技法を見つけ出し作曲やマニュピレート、トラックメイキングに必要なミックス技法を研究分析し実際にその技法を使ってコピーまたはオリジナルを作る。						
到達目標	学んだ技法を自由自在に各自の作品へ取り入れることが出来るようになる。						
評価方法と基準	定期テスト（実技試験：100%） ※1コーラステストのクオリティ：70%　音色作りのクオリティ：30%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1		講義・実習	Electro House-ダンスミュージックの基本的なオートメー書などを理解し使えるようになる事	Electro House-ダンスミュージックの基本的なオートメー書などを理解し使えるようになる事　振り返りと自習。
2		講義・実習	Electro Pop-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる事	Electro Pop-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる事 振り返りと自習。
3		講義・実習	FrenchHouse-フィルターを多用したシーン展開が出来るようになる事	FrenchHouse-フィルターを多用したシーン展開が出来るようになる事 振り返りと自習。
4		講義・実習	Complextro House-音色又はフレーズのコラージュで楽曲を制作出来るようになる事	Complextro House-音色又はフレーズのコラージュで楽曲を制作出来るようになる事 振り返りと自習。
5		講義・実習	Drum&Bass-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる	Drum&Bass-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる 振り返りと自習。
6		講義・実習	DubStep-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる	DubStep-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる 振り返りと自習。
7		講義・実習	OldSchoolHipHop-用意したサンプルを使い制作出来るようになる	OldSchoolHipHop-用意したサンプルを使い制作出来るようになる 振り返りと自習。
8		講義・実習	DirtyTrap-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる	DirtyTrap-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる 振り返りと自習。
9		講義・実習	DeepTrap又はChill Trap-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる	DeepTrap又はChill Trap-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる 振り返りと自習。
10		講義・実習	GlitchHop-スイングしたビートを作れるようになる	GlitchHop-スイングしたビートを作れるようになる 振り返りと自習。
11		講義・実習	2step-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる	2step-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる 振り返りと自習。
12		講義・実習	TropicalHouse-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる	TropicalHouse-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる 振り返りと自習。
13		試験	で学んだ事を使って①コーラス制作を約180分完了させる事	
14		講義・演習	ミュージカル「明日への扉」のSE,MEをダンスミュージックの要素を取り入れて作成	ミュージカル「明日への扉」のSE,MEの作成について、時間外にても作業を実施し、楽曲のブラッシュアップを図る。
15		講義・演習	ミュージカル「明日への扉」のBGMをダンスミュージックの要素を取り入れて作成	ミュージカル「明日への扉」のBGMの作成について、時間外にても作業を実施し、楽曲のブラッシュアップを図る。
準備学習　時間外学習				

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	ダンスミュージックアナライズ　2	必修選択	選択	年次	2.3	担当教員	横野康平
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャーデビュー/音楽プロデューサー/作曲&アレンジャー/ゲームミュージック	授業形態	講義・実習	総時間（単位）	60 4単位		
教員の略歴	10年以上現役で作曲編曲家活動を行っている。講師活動は4年以上。						
授業の学習内容	①世界中に存在するダンスミュージックの技法を分析し各自技のレパートリーに取り入れコンペで目立つ楽曲を出せるようにするのが目的。②プリプロやセルフプロディースと関連づけコンペ対策にする。③各ジャンルに収まらない作品作りに努めてもらいたい。③ビルボードランキングやBeatport、YouTubeなどから技法を見つけ出し作曲やマニュピレート、トラックメイキングに必要なミックス技法を研究分析し実際にその技法を使ってコピーまたはオリジナルを作る。						
到達目標	学んだ技法を自由自在に各自の作品へ取り入れることが出来るようになる。						
評価方法と基準	定期テスト（実技試験：100%） ※1コーラステストのクオリティ：70%　音色作りのクオリティ：30%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1		講義と実習	FutureHouse-用意した参考曲のコピーをまず出来るように	FutureHouse-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる 振り返りと自習。
2		講義と実習	Kawaii bass-kawaii音をふんだんに使い解説を元に実施に	Kawaii bass-kawaii音をふんだんに使い解説を元に実施に作ってみる 振り返りと自習。
3		講義と実習	Future bass-切ないコード進行の分析を行った後Dropで使われている	Future bass-切ないコード進行の分析を行った後Dropで使われている手法を習得する 振り返りと自習。
4		講義と実習	Wave（ジャンル）の習得 - 変化するPadやワイドなベースなど分析し参	Wave（ジャンル）の習得 - 変化するPadやワイドなベースなど分析し参考曲を元に作ってみる 振り返りと自習。
5		講義と実習	Lofisound-LofiHipHopなどに使われる手法を習得し作品を	Lofisound-LofiHipHopなどに使われる手法を習得し作品をつくってみる 振り返りと自習。
6		講義と実習	EuroBteat-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる	EuroBteat-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる 振り返りと自習。
7		講義と実習	TropicalHouse-用意した参考曲のコピーをまず出来るようにな	TropicalHouse-用意した参考曲のコピーをまず出来るようになる 振り返りと自習。
8		講義と実習	2000年代初期RnB。参考曲を分析し実際作	2000年代初期RnB。参考曲を分析し実際作ってみる 振り返りと自習。
9		講義と実習	ElectroSwing-BigBandSampleなどをサンプリングし説明を参考にし実際	ElectroSwing-BigBandSampleなどをサンプリングし説明を参考にし実際に作ってみる 振り返りと自習。
10		講義と実習	ElectroJazz - Anomalieなどの楽曲を参考にシンセとジャズの融合を研	ElectroJazz - Anomalieなどの楽曲を参考にシンセとジャズの融合を研究し混ぜれるようになる 振り返りと自習。
11		講義と実習	ElectroJazz - FKJなどの楽曲を参考にシンセとジャズの融合を研究し	ElectroJazz - FKJなどの楽曲を参考にシンセとジャズの融合を研究し混ぜれるようになる 振り返りと自習。
12		講義と実習	2019年Billboard Ranking top30内の楽曲と分析と	2019年Billboard Ranking top30内の楽曲と分析と技術の習得 振り返りと自習。
13		試験	後期で学んだ事を使って1コーラスdemoを180分で	
14		講義・演習	卒業制作展においてSE制作をダンスミュージックの要素を取り入れて行う。	時間外にて学内及び自宅にて主体的に制作に取り組む。
15		講義・演習	卒業制作展においてBGM制作をダンスミュージックの要素を取り入れて行う。	時間外にて学内及び自宅にて主体的に制作に取り組む。
準備学習　時間外学習				

科目名	シンセサイジング&DTM Advance 1	必修選択	選択	年次	2.3	担当教員	阿瀬
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャーデビュー/音楽プロデューサー/作曲&アレンジャー/ゲームミュージック	授業形態	講義・実習・演習	総時間（単位）	60 4単位		

教員の略歴	作曲家、マニピュレーター、ギタリスト。2010年プロデューサー佐久間正英に見い出されエレクトロニカ・ユニットCojokでデビュー。現在はCMや映画音楽に携わり2020年最新作はポカリスエットCM「ポカリNEO合唱 ドキュメンタリー完全版」音楽担当。サンレコ誌では製品レビュー執筆も多数手がける。
授業の学習内容	1.複数のDAWを使いサウンド構築でのレベルの高い技法を身につける。 2.業界標準音源パッケージNative Instruments社 KOMPLETE 12 ULTIMATE収録の音源&シンセの使い方をマスター。 3.クリエーターとしての楽曲のミキシング・テクニックを身につける。
到達目標	学習したテクニックを取り入れ、楽曲にインパクト、力強さ、説得力を与え、多くの人の耳に届くサウンドになる。クリエーターとして作曲からミックスまでの仕事を受けれるようになる。
評価方法と基準	定期テスト(実技試験:100%) ＊楽曲（30秒ほど）のクオリティ：70%　ミキシングのバランス：30%

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1		講義と実習	講師制作の楽曲プロジェクトを公開し音源やシンセをどのように使ってるか解説。	左記振り返りと復習
2		講義と実習	シンセ、プラグインのオートメーション・テクニック	シンセ、プラグインのオートメーション・テクニック。振り返りと自習。
3		講義と実習	ディレイ、リバーブの効果的な使い方	ディレイ、リバーブの効果的な使い方。振り返りと自習
4		講義と実習	アルペジエイターを使用したシンセフレーズの組み立て	アルペジエイターを使用したシンセフレーズの組み立て。振り返りと自習。
5		講義と実習	MASSIVE Xの仕組みを学ぶ	NI MASSIVE Xの仕組みを学ぶ。振り返りと自習
6		講義と実習	MASSIVE Xで目的の音色を作れるようにする	MASSIVE Xで目的の音色を作れるようにする。振り返りと自習。
7		講義と実習	RK-01でエレクトロニックなベースとリズムを組み立てる	RK-01でエレクトロニックなベースとリズムを組み立てる。振り返りと自習。
8		講義と実習	STRUMMED ACOUSTIC 2を使ったアコギの打ち込み	STRUMMED ACOUSTIC 2を使ったアコギの打ち込み。振り返りと自習。
9		講義と実習	ELECTRIC SUNBURSTを使ったエレキギターの打ち込み	ELECTRIC SUNBURSTを使ったエレキギターの打ち込み。振り返りと自習。
10		講義と実習	SESSION STRINGS PRO 2を使ったストリングスの打ち込み	SESSION STRINGS PRO 2を使ったストリングスの打ち込み。振り返りと自習。
11		講義と実習	RISE & HITを使用し楽曲にリバース音とアタック音を加えて楽曲にインパクトを与える	RISE & HITを使用しリバース音とアタック音を加えて楽曲にインパクトを与える。振り返りと自習。
12		講義と実習	EVOLVEのループを使用しエレクトロニックなリズムの構築	EVOLVEのループを使用しエレクトロニックなリズムの構築。振り返りと自習。
13		試験	講師が用意するデータを元に曲の構築	試験対策・復習
14		講義と実習	ミュージカルを想定したSEの制作	ミュージカルを想定したSEの制作に伴う創作活動
15		講義と実習	ミュージカルを想定した30～60秒サイズのBGMの制作	ミュージカルを想定した30～60秒サイズのBGMの制作に伴
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	シンセサイジング&DTM Advance 2	必修選択	選択	年次	2.3	担当教員	阿瀬
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャーデビュー/音楽プロデューサー/作曲&アレンジャー/ゲームミュージック	授業形態	講義・実習・演習	総時間（単位）	60 4単位		
教員の略歴	作曲家、マニピュレーター、ギタリスト。2010年プロデューサー佐久間正英に見い出されエレクトロニカ・ユニットCojokでデビュー。現在はCMや映画音楽に携わり2020年最新作はポカリスエットCM「ポカリNEO合唱 ドキュメンタリー完全版」音楽担当。サンレコ誌では製品レビュー執筆も多数手がける。						
授業の学習内容	1.複数のDAWを使いサウンド構築でのレベルの高い技法を身につける。 2.業界標準音源パッケージNative Instruments社 KOMPLETE 12 ULTIMATE収録の音源&シンセの使い方をマスター。 3.クリエーターとしての楽曲のミキシング・テクニックを身につける。						
到達目標	学習したテクニックを取り入れ、楽曲にインパクト、力強さ、説得力を与え、多くの人の耳に届くサウンドになる。クリエーターとして作曲からミックスまでの仕事を受けれるようになる。						
評価方法と基準	定期テスト(実技試験:100%) ＊楽曲（30秒ほど）のクオリティ：70%　ミキシングのバランス：30%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1		講義と実習	EMOTIVE STRINGSを使用したストリングスのレガート・フレーズの打ち込み	EMOTIVE STRINGSを使用したストリングスのレガート・フレーズの打ち込み。振り返りと自習。
2		講義と実習	ACTION STRINGSとキースイッチを組み合わせたストリングス・パターン組み立て	ACTION STRINGSとキースイッチを組み合わせたストリングス・パターン組み立て。振り返りと自習。
3		講義と実習	DAMAGEで映画音楽のような迫力あるリズムを構築	DAMAGEで映画音楽のような迫力あるリズムを構築。振り返りと自習。
4		講義と実習	シネマティック音源THRILLを使用したSE制作	THRILLを使用したSE制作。振り返りと自習。
5		講義と実習	音源ではなく生ドラム素材（講師が用意）の処理を学ぶ	音源ではなく生ドラム素材（講師が用意）の処理を学ぶ。振り返りと自習。
6		講義と実習	オーケストラ音源SYMPHONY ESSENTIALSを学ぶ1	SYMPHONY ESSENTIALSを学ぶ1。振り返りと自習。
7		講義と実習	オーケストラ音源SYMPHONY ESSENTIALSを学ぶ2	SYMPHONY ESSENTIALSを学ぶ2。振り返りと自習。
8		講義と実習	映像音楽を制作する際のDAWやシンセの使い方を学ぶ	映像音楽を制作する際のDAWやシンセの使い方を学ぶ。振り返りと自習。
9		講義と実習	クリエーターとして必要なミックス・テクニックを学ぶ	クリエーターとして必要なミックス・テクニックを学ぶ。振り返りと自習。
10		講義と実習	クリエーターとしてデモ提出で大切なマスタリングを学ぶ	クリエーターとしてデモ提出で大切なマスタリングを学ぶ。振り返りと自習。
11		講義と実習	各DAWの音質を聞き比べて特性を理解する	自作楽曲のパラデータ（全てオーディオで）があれば持参してください
12		試験	講師が用意するデータを元に曲の構築	試験対策・復習
13		試験	シンサイジングで身につけた技術を活用して1コーラスのインスト音源を作成して提出	シンサイジングで身につけた技術を活用して1コーラスのインスト音源を作成について、振り返りレポート作成。
14		講義と実習	卒業進級制作展を想定したSEの制作	卒業進級制作展を想定したSEの制作に伴う創作活動
15		講義と実習	卒業進級制作展を想定した30～60秒サイズのBGMの制作	卒業進級制作展を想定した30～60秒サイズのBGMの制作
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	アレンジング with Sibelius 1	必修選択	選択	年次	3	担当教員	大貫和紀
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャーデビュー/作曲&アレンジャー/音楽プロデューサー/ゲームミュージック	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 2単位		
教員の略歴	作・編曲家、レコーディングエンジニア、音楽プロデューサーなど、音楽制作全般に関わること22年						
授業の学習内容	**楽譜制作ソフトの定番であるSibeliusの使い方をマスターするとともに、アレンジを構築する際にDAWで音を探しながら行う方法から脱却し頭の中のイメージから構築する方法を習得する**						
到達目標	**Sibeliusの使い方を理解し入力ができるようにする。管楽器の特性を理解して2管のアレンジができるようになる。**						
評価方法と基準	1）定期テスト（実技試験：100%）						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	リードシートの作成方法について	リードシートの作成方法について 振り返りと自習。
2		講義・演習	リードシートの作成の演習	リードシートの作成の演習 振り返りと自習。
3		講義・演習	リードシート+ピアノ伴奏譜の作成につ	リードシート+ピアノ伴奏譜の作成について 振り返りと自習。
4		講義・演習	リードシート+ピアノ伴奏譜の作成の演	リードシート+ピアノ伴奏譜の作成の演習 振り返りと自習。
5		講義・演習	リズム譜の作成	リズム譜の作成 振り返りと自習。
6		講義・演習	リードシート+ピアノ+リズム譜を作成	リードシート+ピアノ+リズム譜を作成 振り返りと自習。
7		講義・演習	ギター譜を作成について	ギター譜を作成について 振り返りと自習。
8		講義・演習	ギター譜を作成の演習	ギター譜を作成の演習 振り返りと自習。
9		講義・演習	イントロを作成について	イントロを作成について 振り返りと自習。
10		講義・演習	アウトロを作成について	アウトロを作成について 振り返りと自習。
11		講義・演習	管楽器のレンジとトランスポーズ	管楽器のレンジとトランスポーズ 振り返りと自習。
12		講義・演習	ユニゾンとガイドトーンのアレンジ	ユニゾンとガイドトーンのアレンジ 振り返りと自習。
13		試験	前期のアレンジ課題の提出	
14		講義・演習	ミュージカル「明日への扉」のSE,MEの譜面作成	ミュージカル「明日への扉」のSE,MEの譜面作成の作業の続き
15		講義・演習	ミュージカル「明日への扉」のBGMの譜面作成	ミュージカル「明日への扉」のBGMの譜面作成の作業の続き
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	アレンジング with Sibelius 2	必修選択	選択	年次	3	担当教員	大貫和紀
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャーデビュー/作曲&アレンジャー/音楽プロデューサー/ゲームミュージック	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 2単位		
教員の略歴	作・編曲家、レコーディングエンジニア、音楽プロデューサーなど、音楽制作全般に関わること22年						
授業の学習内容	**楽譜制作ソフトの定番であるSibeliusの使い方をマスターするとともに、アレンジを構築する際にDAWで音を探しながら行う方法から脱却し頭の中のイメージから構築する方法を習得する**						
到達目標	**Sibeliusの使い方を理解し、管楽器の特性を理解して5管+ストリングスのアレンジができるようになる。**						
評価方法と基準	1）定期テスト（実技試験：100%）						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	インストゥルメンテーションを理解する。	インストゥルメンテーションを理解する。 振り返りと自習。
2		講義・演習	管弦楽器によるSolo Unisonのアレンジ	管弦楽器によるSolo Unisonのアレンジ 振り返りと自習。
3		講義・演習	2part Soliの構築が出来る様になる。	2part Soliの構築が出来る様になる。 振り返りと自習。
4		講義・演習	4way close Drop2 Drop3 Drop2+4のVoicingの構築	4way close Drop2 Drop3 Drop2+4のVoicingの構築 振り返りと自習。
5		講義・演習	4part Soliの構築が出来る様になる。	4part Soliの構築が出来る様になる。 振り返りと自習。
6		講義・演習	3part Soliの構築が出来る様になる。	3part Soliの構築が出来る様になる。 振り返りと自習。
7		講義・演習	5part Soliの構築が出来る様になる。	5part Soliの構築が出来る様になる。 振り返りと自習。
8		講義・演習	Spread voicingとアプローチノート	Spread voicingとアプローチノート 振り返りと自習。
9		講義・演習	Guide Tone backing	Guide Tone backing 振り返りと自習。
10		講義・演習	Inner voicing embellisment	Inner voicing embellisment 振り返りと自習。
11		講義・演習	5管と弦を含むアレンジ1	5管と弦を含むアレンジ1 振り返りと自習。
12		講義・演習	5管と弦を含むアレンジ2	5管と弦を含むアレンジ2 振り返りと自習。
13		試験	後期アレンジ課題提出	
14		講義・演習	卒業制作展においてSE制作を行う。	時間外にて学内及び自宅にて主体的に制作に取り組む。
15		講義・演習	卒業制作展においてBGM制作を行う。	時間外にて学内及び自宅にて主体的に制作に取り組む。
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	ProTools for Creator's 1	必修選択	選択	年次	3	担当教員	大貫和紀
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャーデビュー/作曲&アレンジャー/音楽プロデューサー/ゲームミュージック	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 2単位		
教員の略歴	作・編曲家、レコーディングエンジニア、音楽プロデューサーなど、音楽制作全般に関わること22年						
授業の学習内容	**Pro Tools Softの理解と基本的なミキシング、マスタリング方法を学ぶ**						
到達目標	**Pro Tools Softの理解と基本的な打ち込み、ミキシング、マスタリング Maができる様になる。**						
評価方法と基準	1）定期テスト（実技試験：100%）						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	Pro Toolsの基本に対する理解。	Pro Toolsの基本に対する理解。 振り返りと自習。
2		講義・演習	セッションのセットアップが出来る。。	セッションのセットアップが出来る。 振り返りと自習。
3		講義・演習	オーディオをインポート、トラックの並べ変えについて	オーディオをインポート、トラックの並べ変えについて 振り返りと自習
4		講義・演習	定位とボリュームをセットアップ	定位とボリュームをセットアップ 振り返りと自習。
5		講義・演習	Eqに配置と基本的な使用方法	Eqに配置と基本的な使用方法 振り返りと自習。
6		講義・演習	コンプレッサー配置と基本的な使用方法	コンプレッサー配置と基本的な使用方法 振り返りと自習。
7		講義・演習	リバーブ配置と基本的な使用方法	リバーブ配置と基本的な使用方法 振り返りと自習。
8		講義・演習	空間系エフェクト配置と基本的な使用方法	空間系エフェクト配置と基本的な使用方法 振り返りと自習。
9		講義・演習	Automationを作成	Automationを作成 振り返りと自習。
10		講義・演習	マスタートラックとサブミックスバス	マスタートラックとサブミックスバス 振り返りと自習。
11		講義・演習	Mastering EQ を設定してmixを整える	Mastering EQ を設定してmixを整える 振り返りと自習。
12		講義・演習	Limiter と Compressionを設定	Limiter と Compressionを設定 振り返りと自習。
13		試験	前期課題のmixの提出	データの整理と管理
14		講義・演習	ミュージカル「明日への扉」のSE,MEの作成	ミュージカル「明日への扉」のSE,MEの作成について、時間外にても作業を実施し、楽曲のブラッシュアップを図る。
15		講義・演習	ミュージカル「明日への扉」のBGMの作成	ミュージカル「明日への扉」のBGMの作成について、時間外にても作業を実施し、楽曲のブラッシュアップを図る。
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	ProTools for Creator's 2	必修選択	選択	年次	3	担当教員	大貫和紀
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャーデビュー/作曲&アレンジャー/音楽プロデューサー/ゲームミュージック	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 2単位		
教員の略歴	作・編曲家、レコーディングエンジニア、音楽プロデューサーなど、音楽制作全般に関わること22年						
授業の学習内容	**Pro Tools Softの理解と基本的なミキシング、マスタリング方法を学ぶ**						
到達目標	**Pro Tools Softの理解と基本的な打ち込み、ミキシング、マスタリング Maができる様になる。**						
評価方法と基準	1）定期テスト（実技試験：100%）						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	バーチャルインストゥルツ1	バーチャルインストゥルツ1 振り返りと自習。
2		講義・演習	バーチャルインストゥルツ2	バーチャルインストゥルツ2 振り返りと自習。
3		講義・演習	エラスティックタイムとオーディオ	エラスティックタイムとオーディオ 振り返りと自習。
4		講義・演習	外部サンプルをロードする。	外部サンプルをロードする。 振り返りと自習。
5		講義・演習	外部サンプルでリズムの構築	外部サンプルでリズムの構築 振り返りと自習。
6		講義・演習	ループ素材のタイムストレッチ	ループ素材のタイムストレッチ 振り返りと自習。
7		講義・演習	Post Production	Post Production 振り返りと自習。
8		講義・演習	Ma作業の基本	Ma作業の基本 振り返りと自習。
9		講義・演習	Ma作業1　映像とのシンクについて	Ma作業1　映像とのシンク1 振り返りと自習。
10		講義・演習	Ma作業2　映像とのシンク2	Ma作業2　映像とのシンク2 振り返りと自習。
11		講義・演習	Mastering1 エフェクトの種類	Mastering1 エフェクトの種類 振り返りと自習。
12		講義・演習	Mastering2 エフェクトの配置	Mastering2 エフェクトの配置 振り返りと自習。
13		試験	後期mix課題提出	データの整理と管理
14		講義・演習	卒業制作展においてSE制作を行う。	時間外にて学内及び自宅にて主体的に制作に取り組む。
15		講義・演習	卒業制作展においてBGM制作を行う。	時間外にて学内及び自宅にて主体的に制作に取り組む。
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	セルフプロデュース 1	必修選択	選択	年次	2.3	担当教員	藤井丈司
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャーデビュー/音楽プロデューサー/作曲&アレンジャー/ゲームミュージック	授業形態	講義・演習・実習等	総時間（単位）	90 6単位		
教員の略歴	プロデュース、アレンジ、ソングライティング、ギターなど、80年代中頃よりシンセサイザー・プログラマーとしてキャリアをスタートし、YMO、サザンオールスターズ等の作品に参加する。様々な分野で才能をマルチに発揮する日本を代表するアーティスト。						
授業の学習内容	「セルフプロデュース」は、自分のための音楽制作全般を学べる講座です。 年間でオリジナル楽曲（作詞／作曲／アレンジ／歌入れ／ミックス）を6曲提出します。 そして提出した楽曲は、エンジニアコース／マネジメントコース／ボーカルコースの学生と合同の総選挙を行い、毎回ランキングを決めます。また「ソフトシンセの使い方」「J-POPの歴史」も授業として行います。歴史の授業の詳細は、最初の授業の時にスケジュールを渡します。						
到達目標	「プリプロ」のようにクライアントからのOKではなく、同じ学校の同世代から支持される楽曲を作れる。						
評価方法と基準	定期テスト（実技試験：100%）						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1		講義	ガイダンスと自分の好きな曲発表	
2		講義	アコギソフトの使い方① 歴史①	オリジナル曲制作
3		講義	アコギソフトの使い方② 歴史②	オリジナル曲制作
4		講義	アコギソフトの使い方③ 歴史③	オリジナル曲制作
5		演習	制作日	オリジナル曲制作
6		発表	第1回発表	
7		講義	ドラムの打ち込み方① 歴史④	オリジナル曲制作
8		講義	ドラムの打ち込み方② 歴史⑤	オリジナル曲制作
9		講義	ドラムの打ち込み方③ 歴史⑥	オリジナル曲制作
10		演習	制作日	オリジナル曲制作
11		発表	第2回発表	
12		発表	第3回発表	
13		講義	アナログシンセの使い方（歴史⑦	オリジナル曲制作
14		講義・演習	ミュージカル「明日への扉」のSE,MEの作成	ミュージカル「明日への扉」のSE,MEの作成について、時間外にても作業を実施し、楽曲のブラッシュアップを図る。
15		講義・演習	ミュージカル「明日への扉」のBGMの作成	ミュージカル「明日への扉」のBGMの作成について、時間外にても作業を実施し、楽曲のブラッシュアップを図る。
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	セルフプロデュース 2	必修選択	選択	年次	2.3	担当教員	藤井丈司
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャーデビュー/音楽プロデューサー/作曲&アレンジャー/ゲームミュージック	授業形態	講義・演習・実習等	総時間（単位）	90 6単位		
教員の略歴	プロデュース、アレンジ、ソングライティング、ギターなど、80年代中頃よりシンセサイザー・プログラマーとしてキャリアをスタートし、YMO、サザンオールスターズ等の作品に参加する。様々な分野で才能をマルチに発揮する日本を代表するアーティスト。						
授業の学習内容	「セルフプロデュース」は、自分のための音楽制作全般を学べる講座です。 年間でオリジナル楽曲（作詞／作曲／アレンジ／歌入れ／ミックス）を6曲提出します。 そして提出した楽曲は、エンジニアコース／マネジメントコース／ボーカルコースの学生と合同の総選挙を行い、毎回ランキングを決めます。また「ソフトシンセの使い方」「J-POPの歴史」も授業として行います。歴史の授業の詳細は、最初の授業の時にスケジュールを渡します。						
到達目標	「プリプロ」のようにクライアントからのOKではなく、同じ学校の同世代から支持される楽曲を作れる。						
評価方法と基準	定期テスト（実技試験：100%）						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1		講義	アナログシンセの使い方（歴史⑧	オリジナル曲制作
2		演習	制作日	オリジナル曲制作
3		発表	第4回発表	
4		講義	アナログシンセの使い方（歴史⑨	オリジナル曲制作
5		講義	アナログシンセの使い方（歴史⑨	オリジナル曲制作
6		講義	ボイスチョップの使い方①歴史⑩	オリジナル曲制作
7		講義	ボイスチョップの使い方②歴史11	オリジナル曲制作
8		演習	制作日	オリジナル曲制作
9		発表	第5回発表	
10		講義	EDMの作り方①　歴史12	オリジナル曲制作
11		講義	EDMの作り方①　歴史13	オリジナル曲制作
12		演習	制作日	オリジナル曲制作
13		発表	第6回発表	
14		講義・演習	卒業制作展においてSE制作を行う。	時間外にて学内及び自宅にて主体的に制作に取り組む。
15		講義・演習	卒業制作展においてBGM制作を行う。	時間外にて学内及び自宅にて主体的に制作に取り組む。
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	劇伴音楽制作ゼミ 1	必修選択	選択	年次	3	担当教員	西片
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャーデビュー／作曲&レンジャー／音楽プロデューサー／ゲームミュージック	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	120 8単位		
教員の略歴	レコーディングエンジニア歴8年（代表作品：GLAY「LOVE IS BEAUTIFUL」,かりゆし58「でーじ、かりゆし」）						
授業の学習内容	映画、TV、CM、ゲームなどの劇伴音楽制作の基本概念と制作方法を学び、映像の為の音楽を作るために重要な制約事項を理解しながら、 実際の制作を重ねながら知識と技術を習得していく。						
到達目標	①映像データと音声データを、テーマや場面に合わせて適切に扱うことができる。 ②制作テーマ及び映像データの意図を的確に理解をし、タイムに注視しながら適切な音楽制作を行うことできる。						
評価方法と基準	1）定期テスト（課題曲提出70%　筆記30%）						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1		講義と演習	劇伴音楽とは① ・BGMと効果音の違い、役割について	劇伴音楽とは① ・BGMと効果音の違い、役割についての復習レポートの作成。
2		講義と演習	劇伴音楽とは② ・ライトスコア、アンダースコアについて	劇伴音楽とは② ・ライトスコア、アンダースコアについての復習レポートの作成。
3		講義と演習	映像と音楽の同期について① ・WordClock、SMPTE、ブラックバーストなどのタイムコードについて	映像と音楽の同期について① ・WordClock、SMPTE、ブラックバーストなどのタイムコードについての復習レポートの作成。
4		講義と演習	映像と音楽の同期について② ・ProToolsでの映像同期について	映像と音楽の同期について② ・ProToolsでの映像同期についての復習
5		講義と演習	映像と音楽の同期について③ ・各種DAWでの映像インポート及び音楽データの取り扱い方について	映像と音楽の同期について③ ・各種DAWでの映像インポート及び音楽データの取り扱い方についての復習レポートの作成。
6		講義と演習	楽曲の尺やテンポの割り出し方を学び、映像の長さに合わせるための技術を学ぶ	テンポの算出方法に基づいて、課題曲15曲のテンポの割り出しを行い次回提出。
7		講義と演習	BGMの制作について① ・課題映像テーマに沿った楽曲の選曲について学ぶ	BGMの制作について① ・課題映像テーマに沿った楽曲の選曲についての振り返りレポート作成。
8		講義と演習	BGMの制作について② ・課題映像のテーマに沿ったオリジナルBGMを、参考曲をもとに制作を行う	BGMの制作について② ・課題映像のテーマに沿ったオリジナルBGMを、参考曲をもとに制作の続きを時間外でも継続実施
9		講義と演習	アフレコについて① ・マイキング及び各種レコーディング機材の操作方法について	アフレコについて① ・マイキング及び各種レコーディング機材の操作方法について振り返りレポート作成。
10		講義と演習	アフレコについて② ・フロアノイズ、リップノイズなどの除去について	アフレコについて② ・フロアノイズ、リップノイズなどの除去について復習
11		講義と演習	アフレコについて③ ・課題映像に沿ったセリフの収録を行う	アフレコについて③ ・課題映像に沿ったセリフの収録方法について振り返りレポート作成。
12		講義と演習	音声及びBGMのミックスについて	音声及びBGMのミックスについて、時間外学習にて継続して実施をし理解を深める。
13		試験	課題映像に沿ったオリジナルBGMを制作し、適切なバランス調整を行なったCMサイズの作品提出	課題映像に沿ったオリジナルBGMを制作し、適切なバランス調整を行なったCMサイズの作品提出の振り返りレポート作成。
14		講義と演習	ミュージカル「明日への扉」のSE,MEの作成	ミュージカル「明日への扉」のSE,MEの作成について、時間外にても作業を実施し、楽曲のブラッシュアップを図る。
15		講義と演習	ミュージカル「明日への扉」のBGMの作成	ミュージカル「明日への扉」のBGMの作成について、時間外にても作業を実施し、楽曲のブラッシュアップを図る。
準備学習　時間外学習			時間外において授業で取り組んだ事柄について振り返り及び復習を行い、楽曲制作においては自宅等で主体的に取り組む。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	劇伴音楽制作ゼミ 2	必修選択	選択	年次	3	担当教員	西片
学科・コース	音楽テクノロジー・作曲&アレンジャーデビュー/作曲&レンジャー/音楽プロデューサー/ゲームミュージック	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	120 8単位		
教員の略歴	レコーディングエンジニア歴8年（代表作品：GLAY「LOVE IS BEAUTIFUL」,かりゆし58「で一じ、かりゆし」）						
授業の学習内容	映画、TV、CM、ゲームなどの劇伴音楽制作の基本概念と制作方法を学び、映像の為の音楽を作るために重要な制約事項を理解しながら、実際の制作を重ねながら知識と技術を習得していく。						
到達目標	①映像データと音声データを、テーマや場面に合わせて適切に扱うことができる。 ②制作テーマ及び映像データの意図を的確に理解をし、タイムに注視しながら適切な音楽制作を行うことできる。						
評価方法と基準	1）定期テスト（課題曲提出70%　筆記30%）						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1		講義と演習	iMovieを使用した映像編集について	iMovieを使用した映像編集について振り返りレポートをまとめる。
2		講義と演習	FinalCutProを使用した映像編集について	FinalCutProを使用した映像編集について振り返りレポートをまとめる。
3		講義と演習	Adobe Premiere Proを使った映像編集について	Adobe Premiere Proを使った映像編集について振り返りレポートをまとめる。
4		講義と演習	サウンドロゴの制作について	サウンドロゴの制作について振り返りレポートをまとめる。
5		講義と演習	SEの制作について	SEの制作について振り返りレポートをまとめる。
6		講義と演習	MEの制作について	MEの制作について振り返りレポートをまとめる。
7		講義と演習	仮想テーマに基づいたBGM制作 CM編	仮想テーマに基づいたBGM制作 CM編→時間外にて学内及び自宅にて主体的に制作に取り組む。
8		講義と演習	仮想テーマに基づいたBGM制作 TV編	仮想テーマに基づいたBGM制作 TV編→時間外にて学内及び自宅にて主体的に制作に取り組む。
9		講義と演習	仮想テーマに基づいたBGM制作 ゲーム編	仮想テーマに基づいたBGM制作 ゲーム編→時間外にて学内及び自宅にて主体的に制作に取り組む。
10		講義と演習	仮想テーマに基づいたBGM制作 映画編　デモ制作	仮想テーマに基づいたBGM制作 映画編　デモ制作→時間外にて学内及び自宅にて主体的に制作に取り組む。
11		講義と演習	仮想テーマに基づいたBGM制作 映画編　アレンジ制作	仮想テーマに基づいたBGM制作 映画編　アレンジ制作→時間外にて学内及び自宅にて主体的に制作に取り組む。
12		講義と演習	映像データと音声データのミックス及びパッケージングについて	映像データと音声データのミックス及びパッケージングについて振り返りレポートをまとめる。
13		試験	自身でテーマ設定を行い、映像素材を基にした劇伴作品を提出	自身でテーマ設定を行い、映像素材を基にした劇伴作品を提出 振り返りレポートをまとめる。
14		講義と演習	卒業制作展においてSE制作を行う。	時間外にて学内及び自宅にて主体的に制作に取り組む。
15		講義と演習	卒業制作展においてBGM制作を行う。	時間外にて学内及び自宅にて主体的に制作に取り組む。
準備学習　時間外学習			時間外において授業で取り組んだ事柄について振り返り及び復習を行い、楽曲制作においては自宅等で主体的に取り組む。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Music Production Techniques for EngineerProducer 1	必修選択	選択	年次	2.3	担当教員	競 紀行
学科・コース	音楽テクノロジー・レコーディングエンジニア/レコーディング&PAエンジニア/レコーディング&PA	授業形態	講義・実習・演習	総時間（単位）	120 8単位		

教員の略歴	一口坂スタジオにて本格的にエンジニアとしてのキャリアをスタート、その後ブイエフブイスタジオを拠点に膨大な数の名作を世に送り出して来た。アナログ、デジタル機器を有効に使い分けた素早い作業が得意、柔軟な発想でミキシングでは独自の世界観を放つ。ロックバンドのサウンドメイクには定評があり、様々なアーティストから厚い信頼を寄せているエンジニアプロデューサー。
授業の学習内容	①音楽制作に於けるレコーディング及びミキシングプロダクションを、現場を想定したスタジオワークより学ぶ。 ②レコーディングエンジニアとして求められるスピィーディーな録音技術や、クリエィティブなサウンドメイクはもちろん、スタジオワークを通じた共同作業によるチームワーク、コミュニケーション能力なども学ぶ。
到達目標	①現場を想定した様々なスタジオワークを通じて、レコーディングエンジニアとして必要なスピィーディーなオペレート能力及びサウンドメイクを身に付ける。 ②レコーディングエンジニアとしてだけでなく、音楽プロデューサーとしての考え方、視点、音楽制作能力なども身に付けることを目標とする。
評価方法と基準	1）定期テスト（筆記30%　実技70%）

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1		講義と実習	レコーディングプロダクションについて	レコーディングプロダクションについて、振り返りレポート作成。
2		講義と実習	ドラムレコーディングについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解	ドラムレコーディングについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解、振り返りレポート作成。
3		講義と実習	ドラムレコーディングについて ・実践を通じて、モニタリングバランスおよびProToolsオペレートの習得	ドラムレコーディングについて ・実践を通じて、モニタリングバランスおよびProToolsオペレートの習得、振り返りレポート作成。
4		講義と実習	ベースレコーディングについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解	ベースレコーディングについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解、振り返りレポート作成。
5		講義と実習	ベースレコーディングについて ・実践を通じて、モニタリングバランスおよびProToolsオペレートの習得	ベースレコーディングについて ・実践を通じて、モニタリングバランスおよびProToolsオペレートの習得、振り返りレポート作成。
6		講義と実習	ギターレコーディングについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解	ギターレコーディングについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解、振り返りレポート作成。
7		講義と実習	ギターレコーディングについて ・実践を通じて、モニタリングバランスおよびProToolsオペレートの習得	ギターレコーディングについて ・実践を通じて、モニタリングバランスおよびProToolsオペレートの習得、振り返りレポート作成。
8		講義と実習	キーボードについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解	キーボードについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解、振り返りレポート作成。
9		講義と実習	キーボードについて ・実践を通じて、モニタリングバランスおよびProToolsオペレートの習得	キーボードについて ・実践を通じて、モニタリングバランスおよびProToolsオペレートの習得、振り返りレポート作成。
10		講義と実習	ヴォーカルレコーディングについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解	ヴォーカルレコーディングについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解、振り返りレポート作成。
11		講義と実習	ヴォーカルレコーディングについて ・実践を通じて、モニタリングバランスおよびProToolsオペレートの習得	ヴォーカルレコーディングについて ・実践を通じて、モニタリングバランスおよびProToolsオペレートの習得、振り返りレポート作成。
12		講義と実習	バンドレコーディングについて ・実践を通じてこれまでのエンジニアリング技術を発揮しながらプロダクションワークを遂行する。	バンドレコーディングについて ・実践を通じてこれまでのエンジニアリング技術を発揮しながらプロダクションワークを遂行する。、振り返りレポート作成。
13		試験	メイン及びアシスタントエンジニアをロールプレイングしながら、バンドレコーディングを実践。実技試験を行う。	メイン及びアシスタントエンジニアをロールプレイングしながら、バンドレコーディングを実践。実技試験を行う。、振り返りレポート作成。
14		講義と演習	ミュージカルのライブレコーディングのシステム構築及びProToolsセッション作成について、ビッグバンドのレコーディング技術について	ミュージカルのライブレコーディングのシステム構築及びProToolsセッション作成について、ビッグバンドのレコーディング技術について　振り返りと自習
15		講義と演習	ミュージカルのライブレコーディングセッションの編集と管理について	ミュージカルのライブレコーディングセッションの編集と管理について振り返りと自習
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Music Production Techniques for EngineerProducer 2	必修選択	選択	年次	2.3	担当教員	競 紀行
学科・コース	音楽テクノロジー・レコーディングエンジニア/レコーディング&PAエンジニア/レコーディング&PA	授業形態	講義・実習・演習	総時間（単位）	120 8単位		

教員の略歴	一口坂スタジオにて本格的にエンジニアとしてのキャリアをスタート、その後ブイエフブイスタジオを拠点に膨大な数の名作を世に送り出して来た。アナログ、デジタル機器を有効に使い分けた素早い作業が得意、柔軟な発想でミキシングでは独自の世界観を放つ。ロックバンドのサウンドメイクには定評があり、様々なアーティストから厚い信頼を寄せているエンジニアプロデューサー。
授業の学習内容	①音楽制作に於けるレコーディング及びミキシングプロダクションを、現場を想定したスタジオワークより学ぶ。 ②レコーディングエンジニアとして求められるスピィーディーな録音技術や、クリエィティブなサウンドメイクはもちろん、スタジオワークを通じた共同作業によるチームワーク、コミュニケーション能力なども学ぶ。
到達目標	①現場を想定した様々なスタジオワークを通じて、レコーディングエンジニアとして必要なスピィーディーなオペレート能力及びサウンドメイクを身に付ける。 ②レコーディングエンジニアとしてだけでなく、音楽プロデューサーとしての考え方、視点、音楽制作能力なども身に付けることを目標とする。
評価方法と基準	1）定期テスト（筆記30%　実技70%）

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題
1		講義と実習	ミックスプロダクションについて	
2		講義と実習	アナログ機材とプラグインについて ・エフェクターの機械構造及びプラグインとの差異について	
3		講義と実習	DSPフォーマットとNativeフォーマットの仕組みと性質について	
4		講義と実習	ドラムのミックス処理について ・楽曲ジャンル及び素材に適したダイナミクス、EQ、空間処理の理解と実践	ドラムの課題素材に基づいて復習
5		講義と実習	ベースのミックス処理について ・楽曲ジャンル及び素材に適したダイナミクス、EQ、空間処理の理解と実践	ベースの課題素材に基づいて復習
6		講義と実習	ギターのミックス処理について ・楽曲ジャンル及び素材に適したダイナミクス、EQ、空間処理の理解と実践	ギターの課題素材に基づいて復習
7		講義と実習	キーボードのミックス処理について ・楽曲ジャンル及び素材に適したダイナミクス、EQ、空間処理の理解と実践	キーボードの課題素材に基づいて復習
8		講義と実習	ヴォーカルのミックス処理について ・楽曲ジャンル及び素材に適したダイナミクス、EQ、空間処理の理解と実践	ヴォーカルの課題素材に基づいて復習
9		講義と実習	ミックスバランス及びトータル処理について① ・リファレンスレベルとダイナミクスについて、マスターEQ、COMPの概念と処理について	課題素材を元に時間外にて復習
10		講義と実習	ミックスバランス及びトータル処理について② ・音楽的ミックスとオートメーションについて	課題素材を元に時間外にて復習
11		講義と実習	マスタリングの基本概念とプロダクションについて	
12		講義と実習	マスタリングに於けるダイナミクス処理について	課題素材を元に時間外にて復習
13		テスト	ミックス及びマスタリングプロダクションについて学んだことを活かし、プロデューサー的視点と感性の元、課題曲のミックス及びマスタリング作品を提出	ポートフォリオ作成
14		講義と演習	卒業進級制作のライブレコーディングのシステム構築及びProToolsセッション作成について	卒業進級制作のライブレコーディングに向けたシステム構築及びProToolsセッション作成について　振り返りと自習
15		講義と演習	卒業進級制作のライブレコーディングセッションの編集と管理について	卒業進級制作のライブレコーディングセッションの編集と管理について 振り返りと自習
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	イベント制作運営実習3 （イベント制作・運営演習1-1）	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	唐澤　淳 江見　千尋
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・プロマネージャーコース・スーパーマネージャーコース・スタッフ&ミュージシャンコース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	90 6		
教員の略歴	唐澤：アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務　江見：イベンターとして仕事をスタートし、その後　舞台監督、舞台照明などの業務に携わる						
授業の学習内容	江戸川文化センターで行われる骨髄移植推進キャンペーンニュージカル「明日への扉」の公演を教材にイベントスタッフとして必要な運営・制作の知識を実践的に学ぶ。 実践で行うことにより、舞台を創る流れや細かな段取りを学びながら業界に必要な人材として成長していく。						
到達目標	運営・制作の流れが理解出来る。 公演の際にスタッフの一員として参加出来る。						
評価方法と基準	授業の中でのレポート提出　30% 「明日への扉」に関しての積極的な発言や態度。関わりや、本番日の行動力、スタッフの一員として成り立っているか。それぞれに与えられた担当のなかで仕事を全うしているかを評価　70%						

授業計画・内容

回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	「明日への扉」の内容について触れ、本公演を開催する意義を理解する	骨髄移植を推進するプロモーションをレポート用紙にて提出する
2	演習	運営のセクションの流れと段取りを学ぶ	運営とはどのような役割かをレポートにまとめ提出
3	演習	制作のセクションの流れと段取りを学ぶ	制作とはどのような役割かをレポートにまとめ提出
4	演習	その他のセクション（PA・照明・舞台・衣装管理・メイク）の流れと段取りを学ぶ	昨年のマニュアルを参考に関わり時期を調べておく
5	演習	運営スタッフ・制作スタッフ共通して使用する機材や備品の使い方について学ぶ	昨年のマニュアルを参考に実際に使用していた時期を調べておく
6	演習	各希望セクションに分かれ、運営：公演概要と運営方法を学ぶ　制作：稽古スケジュールを基に稽古期間の流れや段取りを学ぶ	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
7	演習	運営：チケット発売方法と管理方法を学ぶ　制作：台本の使い方を学ぶ・稽古会場の仕込みを学ぶ	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
8	演習	運営：協賛の必要性を学び協力をお願いする　制作：制作スケジュールの作成・各セクション香盤表を作成	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
9	演習	運営：ホールRHに伴う会場下見、必要備品の準備・調達　制作：ホールRHに伴う会場下見・使用会場の申請・楽屋振り分け	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
10	演習	運営：運営方法を学びマニュアルを作成する　制作：搬入・搬出方法を学ぶ・機材管理を学ぶ	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
11	演習	運営：運営マニュアル読み合わせ　制作：各セクションへの伝達事項を学び実践する	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
12	演習	「明日への扉」運営・制作スタッフとして公演を成功させる（実践的に各セクションについての当日の流れを学ぶ）	実践的に各セクションに取り組む
13	演習	「明日への扉」運営・制作スタッフとして公演を成功させる（実践的に各セクションについての当日の流れを学ぶ）	実践的に各セクションに取り組む
14	演習	運営・制作共に終了報告書の作成方法を学び、作成する	授業に引き続き作成し提出
15	演習	各セクションごとに終了報告会を開催する	実践的に各セクションに取り組む
準備学習　時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。	

【使用教科書・教材・参考書】

昨年度「明日への扉」公演マニュアル・概要書・終了報告書・今年度「明日への扉」台本

科目名	イベント制作運営実習3 イベント制作・運営演習2-1	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	唐澤　淳 江見　千尋
学科・コース	【音楽テクノロジー科】スーパーマネージャーコース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	90 6		
教員の略歴	唐澤：アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務　江見：イベンターとして仕事をスタートし、その後　舞台監督、舞台照明などの業務に携わる						
授業の学習内容	江戸川文化センターで行われる骨髄移植推進キャンペーンニュージカル「明日への扉」の公演を教材にイベントスタッフとして必要な運営・制作の知識を実践的に学ぶ。 実践で行うことにより、舞台を創る流れや細かな段取りを学びながら業界に必要な人材として成長していく。						
到達目標	運営・制作の流れが理解出来る。 公演の際にスタッフの一員として参加出来る。						
評価方法と基準	授業の中でのレポート提出　30% 「明日への扉」に関しての積極的な発言や態度。関わりや、本番日の行動力、スタッフの一員として成り立っているか。それぞれに与えられた担当のなかで仕事を全うしているかを評価　70%						

授業計画・内容

回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	「明日への扉」の内容について触れ、本公演を開催する意義を理解する	骨髄移植を推進するプロモーションをレポート用紙にて提出する
2	演習	運営のセクションの流れと段取りを学ぶ	運営とはどのような役割かをレポートにまとめ提出
3	演習	制作のセクションの流れと段取りを学ぶ	制作とはどのような役割かをレポートにまとめ提出
4	演習	その他のセクション（PA・照明・舞台・衣装管理・メイク）の流れと段取りを学ぶ	昨年のマニュアルを参考に関わり時期を調べておく
5	演習	運営スタッフ・制作スタッフ共通して使用する機材や備品の使い方について学ぶ	昨年のマニュアルを参考に実際に使用していた時期を調べておく
6	演習	各希望セクションに分かれ、運営：公演概要と運営方法を学ぶ　制作：稽古スケジュールを基に稽古期間の流れや段取りを学ぶ	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
7	演習	運営：チケット発売方法と管理方法を学ぶ　制作：台本の使い方を学ぶ・稽古会場の仕込みを学ぶ	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
8	演習	運営：協賛の必要性を学び協力をお願いする　制作：制作スケジュールの作成・各セクション香盤表を作成	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
9	演習	運営：ホールRHに伴う会場下見、必要備品の準備・調達　制作：ホールRHに伴う会場下見・使用会場の申請・楽屋振り分け	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
10	演習	運営：運営方法を学びマニュアルを作成する　制作：搬入・搬出方法を学ぶ・機材管理を学ぶ	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
11	演習	運営：運営マニュアル読み合わせ　制作：各セクションへの伝達事項を学び実践する	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
12	演習	「明日への扉」運営・制作スタッフとして公演を成功させる（実践的に各セクションについての当日の流れを学ぶ）	実践的に各セクションに取り組む
13	演習	「明日への扉」運営・制作スタッフとして公演を成功させる（実践的に各セクションについての当日の流れを学ぶ）	実践的に各セクションに取り組む
14	演習	運営・制作共に終了報告書の作成方法を学び、作成する	授業に引き続き作成し提出
15	演習	各セクションごとに終了報告会を開催する	実践的に各セクションに取り組む
準備学習　時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。	

【使用教科書・教材・参考書】

昨年度卒業・進級制作展運営マニュアル・概要書・終了報告書

科目名	イベント制作運営実習4 イベント制作・運営演習1-2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	唐澤　淳 江見　千尋
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・プロマネージャーコース・スーパーマネージャーコース・スタッフ&ミュージシャンコース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	60 4		
教員の略歴	唐澤：アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務　江見：イベンターとして仕事をスタートし、その後　舞台監督、舞台照明などの業務に携わる						
授業の学習内容	江戸川文化センターで行われる骨髄移植推進キャンペーンニュージカル「明日への扉」の公演を教材にイベントスタッフとして必要な運営・制作の知識を実践的に学ぶ。 実践で行うことにより、舞台を創る流れや細かな段取りを学びながら業界に必要な人材として成長していく。						
到達目標	運営・制作の流れが理解出来る。 公演の際にスタッフの一員として参加出来る。						
評価方法と基準	授業の中でのレポート提出　30% 「明日への扉」に関しての積極的な発言や態度。関わりや、本番日の行動力、スタッフの一員として成り立っているか。それぞれに与えられた担当のなかで仕事を全うしているかを評価　70%						

授業計画・内容

回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	「明日への扉」の内容について触れ、本公演を開催する意義を理解する	骨髄移植を推進するプロモーションをレポート用紙にて提出する
2	演習	運営のセクションの流れと段取りを学ぶ	運営とはどのような役割かをレポートにまとめ提出
3	演習	制作のセクションの流れと段取りを学ぶ	制作とはどのような役割かをレポートにまとめ提出
4	演習	その他のセクション（PA・照明・舞台・衣装管理・メイク）の流れと段取りを学ぶ	昨年のマニュアルを参考に関わり時期を調べておく
5	演習	運営スタッフ・制作スタッフ共通して使用する機材や備品の使い方について学ぶ	昨年のマニュアルを参考に実際に使用していた時期を調べておく
6	演習	各希望セクションに分かれ、運営：公演概要と運営方法を学ぶ　制作：稽古スケジュールを基に稽古期間の流れや段取りを学ぶ	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
7	演習	運営：チケット発売方法と管理方法を学ぶ　制作：台本の使い方を学ぶ・稽古会場の仕込みを学ぶ	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
8	演習	運営：協賛の必要性を学び協力をお願いする　制作：制作スケジュールの作成・各セクション香盤表を作成	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
9	演習	運営：ホールRHに伴う会場下見、必要備品の準備・調達　制作：ホールRHに伴う会場下見・使用会場の申請・楽屋振り分け	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
10	演習	運営：運営方法を学びマニュアルを作成する　制作：搬入・搬出方法を学ぶ・機材管理を学ぶ	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
11	演習	運営：運営マニュアル読み合わせ　制作：各セクションへの伝達事項を学び実践する	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
12	演習	「明日への扉」運営・制作スタッフとして公演を成功させる（実践的に各セクションについての当日の流れを学ぶ）	実践的に各セクションに取り組む
13	演習	「明日への扉」運営・制作スタッフとして公演を成功させる（実践的に各セクションについての当日の流れを学ぶ）	実践的に各セクションに取り組む
14	演習	運営・制作共に終了報告書の作成方法を学び、作成する	授業に引き続き作成し提出
15	演習	各セクションごとに終了報告会を開催する	実践的に各セクションに取り組む
準備学習　時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。	

【使用教科書・教材・参考書】

昨年度卒業・進級制作展運営マニュアル・概要書・終了報告書

科目名	イベント制作運営実習4 イベント制作・運営演習2-2	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	唐澤　淳 江見　千尋
学科・コース	【音楽テクノロジー科】スーパーマネージャーコース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	60 4		
教員の略歴	唐澤：アーティストマネジメントにおけるプロモーション・イベント制作会社勤務　江見：イベンターとして仕事をスタートし、その後　舞台監督、舞台照明などの業務に携わる						
授業の学習内容	ZEPPTOKYOで行われる卒業・進級制作展weareTSM！TSM渋谷！DA TOKYO！の公演を教材にイベントスタッフとして必要な運営・制作の知識を実践的に学ぶ。 実践で行うことにより、コンサートを創る流れや細かな段取りを学びながら業界に必要な人材として成長していく。						
到達目標	運営・制作の流れが理解出来る。 公演の際にスタッフの一員として参加出来る。						
評価方法と基準	授業の中でのレポート提出　30% 「明日への扉」に関しての積極的な発言や態度。関わりや、本番日の行動力、スタッフの一員として成り立っているか。それぞれに与えられた担当のなかで仕事を全うしているかを評価　70%						

授業計画・内容

回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	卒業・進級制作展の内容について触れ、本公演を開催する意義を理解する	コンセプトの元公演演出の考案レポートを提出
2	演習	運営のセクションの流れと段取りを学ぶ	運営とはどのような役割かをレポートにまとめ提出
3	演習	制作のセクションの流れと段取りを学ぶ	制作とはどのような役割かをレポートにまとめ提出
4	演習	その他のセクション（PA・照明・舞台・衣装管理・メイク）の流れと段取りを学ぶ	昨年のマニュアルを参考に関わり時期を調べておく
5	演習	運営スタッフ・制作スタッフ共通して使用する機材や備品の使い方について学ぶ	昨年のマニュアルを参考に実際に使用していた時期を調べておく
6	演習	各希望セクションに分かれ、運営：公演概要とコンセプト内容を学ぶ　制作：公演の流れを理解し稽古スケジュールを組む	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
7	演習	運営：座席管理方法を学ぶ　制作：公演演出の流れを理解し機材の管理を行う	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
8	演習	運営：運営マニュアルの作成方法を学び作成する　制作：制作スケジュールの作成・各セクション香盤表を作成	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
9	演習	運営：ホールRHに伴う会場下見、必要備品の準備・調達　制作：ホールRHに伴う会場下見・使用会場の申請・楽屋振り分	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
10	演習	運営：運営方法を学び作成する　制作：搬入・搬出方法を学ぶ・機材管理を学ぶ	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
11	演習	運営：運営マニュアルの読み合わせ　制作：各セクションへの伝達事項を学び実践する	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する
12	演習	卒業・進級制作展運営・制作スタッフとして公演を成功させる（実践的に各セクションについての当日の流れを学ぶ）	実践的に各セクションに取り組む
13	演習	卒業・進級制作展運営・制作スタッフとして公演を成功させる（実践的に各セクションについての当日の流れを学ぶ）	実践的に各セクションに取り組む
14	演習	運営・制作共に終了報告書の作成方法を学び、作成する	授業に引き続き作成し提出
15	演習	各セクションごとに終了報告会を開催する	実践的に各セクションに取り組む
準備学習　時間外学習		各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認する。	

【使用教科書・教材・参考書】

昨年度卒業・進級制作展運営マニュアル・概要書・終了報告書

科目名	チーム制作プロジェクト3 （チーム制作プロジェクト6）	必修 選択	選択	年次	2・3	担当教員	高田　雄貴
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・マネージャーコース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	90 6		
教員の略歴	コンサート企画制作会社キョードー東京にてイベント・ツアー制作等を担当、独立後ライブ制作の他フジテレビお台場冒険王等のライブイベントの制作にも携わる						
授業の学習内容	[1] ライブイベントの企画制作についての基礎知識を下級生に説明しながら、理解度をあげる学習をする [2] ライブイベントの実施開催を通じて、イベント（コンサート/ライブ他）企画の実施についてより正確に処理できるよう学習をする [3] 企業とライブイベントの実施準備協業を通じて、イベント制作者としての必要な業務を体験し、将来に備えた学習をする						
到達目標	[1] ライブイベントの企画制作を依頼されてた際に、自主的に準備・対応できる速度感を習得する [2] ライブイベントの実施開催を通じて、イベント（コンサート/ライブ他）企画の実施時におけるお客様対応や、様々な事象の対応力を習得する [3] 企業とライブイベントの実施準備協業を通じて、イベント制作者として即時にインターンまたは社員として必要なレベルの実務力を養成する						
評価方法と基準	[1] 定期試験 ※筆記試験（評価割合　40%） [2] 受講態度 ※課題提出（評価割合　60%）						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	プロジェクトの進め方	プロフィールシートの作成
2	演習	ライブイベント実施に向けて（打合せ）	打合せ準備資料の作成
3	演習	ライブイベント実施　※アーティストは年度によって異なる	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
4	演習	ライブイベント実施　※アーティストは年度によって異なる	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
5	演習	ライブイベント実施　※アーティストは年度によって異なる	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
6	演習	ライブイベントを記録する（映像収録とWEB）	ライブ映像の編集処理
7	演習	ライブイベント実施に向けて（打合せ）	運営マニュアルの作成
8	演習	ライブイベント実施に向けて（打合せ）	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
9	演習	ライブイベント実施　※アーティストは年度によって異なる	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
10	演習	ライブイベント実施　※アーティストは年度によって異なる	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
11	演習	ライブイベント実施　※アーティストは年度によって異なる	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
12	演習	ライブイベント実施　※アーティストは年度によって異なる	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
13	演習	ライブイベント実施[Pro Musician FES!]	運営マニュアルの作成・読み合わせ
14	演習	オーディションイベント実施 ※アーティストは年度によって異なる	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
15	演習	オーディションイベント実施　※アーティストは年度によって異なる	ライブ映像の編集処理
準備学習　時間外学習		授業時間内の制作が中心で、教室内で扱えないものを時間外学習として進めます。	

【使用教科書・教材・参考書】

昨年度実績の概要書・終了報告書参照

科目名	チーム制作プロジェクト3 （チーム制作プロジェクト7）	必修 選択	選択	年次	2・3	担当教員	岡　秀樹
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・マネージャーコース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	90 6		
教員の略歴	ライブハウス店長・ブッキングマネージャー、アーティストマネージャー						
授業の学習内容	エンターティメントの発信地である「渋谷」を拠点に活動しているライブハウスや音楽施設を知り、企業とプロジェクトを組み、生きたイベント企画・制作・運営・プロモーションを学ぶ。即戦力になる人材育成に向け実践力を身につける。						
到達目標	精度の高い企画書、実施要項、運営マニュアル、プロモーションプランを学生主体で作成できるようにする。イベント企画では、「独創的な企画を提案できる」こと、制作では「人・もの・お金・時間を管理」できること、運営では「進行を管理することができ、安心・安全な運営を円滑に行う」ことができること、プロモーションでは「既成概念に捉われること無く、自分たちに何ができるかを徹底的に追求し、時代に沿ったプロモーションを提案し実行」することを目標とする。						
評価方法と基準	授業内での積極的な発言や態度。イベント本番日の行動力。メール等のレスポンスの速さ、丁寧さ。						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	新年度オリエンテーション(アイスブレイク、ブレインストーミング、映像鑑賞、討論)	新入生歓迎ライブの打ち合わせ
2	演習	新入生歓迎ライブの運営・制作。	運営マニュアルの事前読み合わせ
3	演習	エンタメ施設取材①(企画書作成/渋谷施設調べ/アポどりシミュレーション)	渋谷にあるエンターテインメント施設を調べて提出
4	演習	エンタメ施設取材②(アポどり/電話・メール・名刺交換シミュレーション)	希望する取材場所の施設の研究を行い資料として提出
5	演習	エンタメ施設取材③(取材内容、取材方法検討)	インタビュー記事を研究し、インタビュー内容を提出
6	演習	エンタメ施設取材④(プレゼン準備/パワーポイント作成/進行表作成/発表シミュレーション)	発表パワーポイント・発表進行表を作成し提出
7	演習	エンタメ施設取材⑤(プレゼンテーション/報告書作成)	班員にて発表シミュレーションを行う
8	演習	企業プロジェクト①(プロジェクト内容説明、企業紹介、担当者自己紹介)	エンタメ取材報告書を作成し提出する
9	演習	企業プロジェクト②(企業理念理解/ディスカッション/スケジュール作成)	関わる企業を研究(歴史、理念、業務内容)し、資料として提出
10	演習	企業プロジェクト③(プロジェクト企画書：プロモーションプラン作成)	ディスカッションした内容を元に企画書・プロモーションリスト作成
11	演習	企業プロジェクト④(プロモーション実践/運営マニュアル作成)	プロモーションスケジュールを作成、 運営マニュアルラフ作成
12	演習	企業プロジェクト⑤(イベント当日の運営を実践)	運営マニュアルの事前読み合わせ
13	演習	企業プロジェクト⑥(全体報告会/報告書作成)	報告会で発表する内容まとめ
14	演習	「明日への扉」運営・制作スタッフとして公演を行う。	運営マニュアル作成・各セクション決め
15	演習	「明日への扉」運営・制作スタッフとして公演を行う。	運営マニュアル読み合わせ
準備学習　時間外学習		各イベントや課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

DVD：MY GENERATION マイ・ジェネレーション(監督：バーバラ・コップ)

科目名	チーム制作プロジェクト4 （チーム制作プロジェクト8）	必修 選択	選択	年次	2・3	担当教員	高田　雄貴
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・マネージャーコース	授業 形態	演習	総時間 （単位）	90 6		
教員の略歴	コンサート企画制作会社キョードー東京にてイベント・ツアー制作等を担当、独立後ライブ制作の他フジテレビお台場冒険王等のライブイベントの制作にも携わる						
授業の学習内容	[1] ライブイベントの企画制作についての基礎知識を下級生に説明しながら、理解度をあげる学習をする [2] ライブイベントの実施開催を通じて、イベント（コンサート/ライブ他）企画の実施についてより正確に処理できるよう学習をする [3] 企業とライブイベントの実施準備協業を通じて、イベント制作者としての必要な業務を体験し、将来に備えた学習をする						
到達目標	[1] ライブイベントの企画制作を依頼されてた際に、自主的に準備・対応できる速度感を習得する [2] ライブイベントの実施開催を通じて、イベント（コンサート/ライブ他）企画の実施時におけるお客様対応や、様々な事象の対応力を習得する [3] 企業とライブイベントの実施準備協業を通じて、イベント制作者として即時にインターンまたは社員として必要なレベルの実務力を養成する						
評価方法と基準	[1] 定期試験 ※筆記試験（評価割合　40%） [2] 受講態度 ※課題提出（評価割合　60%）						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	活動方針設定会議	会議資料準備
2	演習	ライブイベント実施に向けて（打合せ）	打合せ準備資料の作成
3	演習	ライブイベントの告知と準備	イベント実施打合せ・プロモーション
4	演習	ライブイベント実施[Chuning Candy]	イベント後の終了報告書記入
5	演習	ライブイベント実施[Aoyama Project]	イベント後の終了報告書記入
6	演習	ライブイベント実施に向けて（打合せ）	ライブ映像の編集処理
7	演習	ライブイベントの告知と準備	運営マニュアルの作成
8	演習	ライブイベント実施[QUEENS]	イベント実施打合せ・イベント後の終了報
9	演習	ライブイベントの告知と準備	イベント実施打合せ・プロモーション
10	演習	ライブイベント実施[SUN MUSIC GET LIVE]	イベント後の終了報告書記入
11	演習	ライブイベント実施[Chuning Candy]	イベント後の終了報告書記入
12	演習	ライブイベントの内容企画	企画書の作成・イベント企画打合せ
13	演習	ライブイベントの告知と準備	運営マニュアルの作成
14	演習	ライブイベント実施[Aoyama Project]・[QUEENS]	イベント後の終了報告書記入
15	演習	年間活動内容総括会議	ライブ映像の編集処理
準備学習　時間外学習	授業時間内の制作が中心で、教室内で扱えないものを時間外学習として進めます。		

【使用教科書・教材・参考書】

昨年度実績の概要書・終了報告書参照

科目名	チーム制作プロジェクト5 （チーム制作プロジェクト9）	必修 選択	選択	年次	2・3	担当教員	岡　秀樹
学科・コース	【音楽テクノロジー科】コンサート企画制作コース・マネージャーコース	授業 形態	講義・実習	総時間 （単位）	90 6		
教員の略歴	ライブハウス店長・ブッキングマネージャー、アーティストマネージャー						
授業の学習内容	企業とプロジェクトを組み、イベント企画・制作・運営・プロモーションを、アクティブラーニングによる主体的な学びをゼミ方式で実践する。						
到達目標	企画書、実施要項、運営マニュアル、プロモーションプラン何度も練り直し、協賛企業や後援企業獲得を目指す。						
評価方法と基準	授業内での積極的な発言や態度。イベント本番日の行動力。メール等のレスポンスの速さ、丁寧さ。						

授業計画・内容

回数	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	演習	特別講義(音楽業界人によるトークセッション)	ゲスト講師への質問事項を考えて提出する。
2	演習	企業プロジェクト①(プロジェクト内容の説明・企業を紹介・担当者自己紹介)	企業研究(歴史、理念、業務内容)資料を提出する。
3	演習	企業プロジェクト②(企業理念理解/ディスカッション/スケジュール作成)	前年度のプロジェクト内容を把握し資料として提出する。
4	演習	企業プロジェクト③(プロジェクト企画書/プロモーションプランの作成)	企画書作成に必要な情報集め(アーティスト情報、アー写など)、SNS配信予定表を提出する。
5	演習	企業プロジェクト④(プロモーションの実践/運営マニュアルの作成)	運営マニュアルに必要な情報を提出する。 (図面、セット図、セットリストなど)
6	演習	企業プロジェクト⑤(イベント当日の運営)□	運営マニュアル読み込み 各メンバーで打ち合わせ
7	演習	企業プロジェクト⑥(全体報告会/報告書の作成)	報告会で発表する内容まとめ提出。企業への御礼文送信。
8	演習	卒業企画①(班分け/アイディアフラッシュ)	A4 1枚に提案したいイベント内容をまとめて提出。
9	演習	卒業企画②(コンセプト決め/企画書作成)	A4 で出演者向けに企画書を作成し提出。
10	演習	卒業企画③(ブッキング/実施要綱/プロモーションプラン作成)	ブッキング用メール文の作成。プロモーション先リストを作成する。
11	演習	卒業企画④(プロモーションツール/運営マニュアル作成)	印刷業者・グッズ製作会社調べ、運営マニュアルに必要な情報を集める(図面、セット図、セットリストなど)
12	演習	卒業企画⑤(顔合わせ兼打ち合わせ)	各セクション問題無く進められるように懸念点や疑問点を洗い出しておく。
13	演習	卒業企画⑥(運営シミュレーション)□	備品が揃っているか確認し、足りないものは購入する。
14	演習	卒業企画⑦(イベント当日の運営)	運営マニュアル読み込み 各メンバーで打ち合わせ
15	演習	卒業企画⑧(全体報告会/報告書の作成)	報告会で発表する内容まとめ、御礼文送信
準備学習　時間外学習		各イベントや課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	

【使用教科書・教材・参考書】

都度必要に応じて自作プリント配布

科目名	Funk Ensemble 1	必修選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤　敬 三田原　佑一朗
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	FUNKの名曲を分析し説明ができる。	FUNKの名曲を調べて分析しレポート作成
2		演習	FUNKの名曲を分析し演奏する。	FUNKの名曲を分析し演奏する。
3		演習	R&Bの名曲を分析し説明と演奏ができる。	R&Bの名曲を分析し実演する。
4		演習	R&Bの名曲を分析しアンサンブルで実演する。	R&Bの名曲を分析し実演する。
5		演習	エレクトリック楽器とのコラボを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのコラボを分析し実演する。
6		演習	エレクトリック楽器とのアンサンブルを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのアンサンブルを分析し実演する。
7		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
8		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
9		演習	バラードを分析し演奏できる。	バラードを分析し実演する。
10		演習	バラードをアンサンブルで演奏できる。	バラードをアンサンブルを分析し実演する。
11		演習	ヒット曲の特徴を理解しながら演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
12		演習	ヒット曲の特徴を理解しながらアンサンブル演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
13		演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を分析し実演する。
14		演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを分析し実演する。
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Funk Ensemble 2	必修選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤 敬三 田原 佑一朗
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	FUNKの名曲を分析し説明ができる。	FUNKの名曲を調べて分析しレポート作成
2		演習	FUNKの名曲を分析し演奏する。	FUNKの名曲を分析し演奏する。
3		演習	R&Bの名曲を分析し説明と演奏ができる。	R&Bの名曲を分析し実演する。
4		演習	R&Bの名曲を分析しアンサンブルで実演する。	R&Bの名曲を分析し実演する。
5		演習	エレクトリック楽器とのコラボを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのコラボを分析し実演する。
6		演習	エレクトリック楽器とのアンサンブルを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのアンサンブルを分析し実演する。
7		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
8		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
9		演習	バラードを分析し演奏できる。	バラードを分析し実演する。
10		演習	バラードをアンサンブルで演奏できる。	バラードをアンサンブルを分析し実演する。
11		演習	ヒット曲の特徴を理解しながら演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
12		演習	ヒット曲の特徴を理解しながらアンサンブル演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
13		演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を分析し実演する。
14		演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを分析し実演する。
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Rock Ensemble 1	必修選択	選択	年次	2	担当教員	國末 慶宏 大渡 亮
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。						
方法と基準	実技による採点 100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	FUNKの名曲を分析し説明ができる。	FUNKの名曲を調べて分析しレポート作成
2		演習	FUNKの名曲を分析し演奏する。	FUNKの名曲を分析し演奏する。
3		演習	R&Bの名曲を分析し説明と演奏ができる。	R&Bの名曲を分析し実演する。
4		演習	R&Bの名曲を分析しアンサンブルで実演する。	R&Bの名曲を分析し実演する。
5		演習	エレクトリック楽器とのコラボを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのコラボを分析し実演する。
6		演習	エレクトリック楽器とのアンサンブルを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのアンサンブルを分析し実演する。
7		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
8		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
9		演習	バラードを分析し演奏できる。	バラードを分析し実演する。
10		演習	バラードをアンサンブルで演奏できる。	バラードをアンサンブルを分析し実演する。
11		演習	ヒット曲の特徴を理解しながら演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
12		演習	ヒット曲の特徴を理解しながらアンサンブル演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
13		演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を分析し実演する。
14		演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを分析し実演する。
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Rock Ensemble 2	必修選択	選択	年次	2	担当教員	國末 慶 宏 大渡 亮
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	Rockの名曲を分析し説明ができる。	Rockの名曲を調べて分析しレポート作成
2		演習	Rockの名曲を分析し演奏する。	Rockの名曲を分析し演奏する。
3		演習	Rockの名曲を分析し説明と演奏ができる。	Rockの名曲を分析し実演する。
4		演習	Rockの名曲を分析しアンサンブルで実演する。	Rockの名曲を分析し実演する。
5		演習	エレクトリック楽器とのコラボを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのコラボを分析し実演する。
6		演習	エレクトリック楽器とのアンサンブルを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのアンサンブルを分析し実演する。
7		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
8		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
9		演習	バラードを分析し演奏できる。	バラードを分析し実演する。
10		演習	バラードをアンサンブルで演奏できる。	バラードをアンサンブルを分析し実演する。
11		演習	ヒット曲の特徴を理解しながら演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
12		演習	ヒット曲の特徴を理解しながらアンサンブル演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
13		演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を分析し実演する。
14		演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを分析し実演する。
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Soul &Pops Ensemble 1	必修選択	選択	年次	2	担当教員	潤　豊 木村　薫
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	FUNKの名曲を分析し説明ができる。	FUNKの名曲を調べて分析しレポート作成
2		演習	FUNKの名曲を分析し演奏する。	FUNKの名曲を分析し演奏する。
3		演習	R&Bの名曲を分析し説明と演奏ができる。	R&Bの名曲を分析し実演する。
4		演習	R&Bの名曲を分析しアンサンブルで実演する。	R&Bの名曲を分析し実演する。
5		演習	エレクトリック楽器とのコラボを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのコラボを分析し実演する。
6		演習	エレクトリック楽器とのアンサンブルを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのアンサンブルを分析し実演する。
7		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
8		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
9		演習	バラードを分析し演奏できる。	バラードを分析し実演する。
10		演習	バラードをアンサンブルで演奏できる。	バラードをアンサンブルを分析し実演する。
11		演習	ヒット曲の特徴を理解しながら演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
12		演習	ヒット曲の特徴を理解しながらアンサンブル演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
13		演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を分析し実演する。
14		演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを分析し実演する。
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Soul &Pops Ensemble 2	必修選択	選択	年次	2	担当教員	潤　豊 木村　薫
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	FUNKの名曲を分析し説明ができる。	FUNKの名曲を調べて分析しレポート作成
2		演習	FUNKの名曲を分析し演奏する。	FUNKの名曲を分析し演奏する。
3		演習	R&Bの名曲を分析し説明と演奏ができる。	R&Bの名曲を分析し実演する。
4		演習	R&Bの名曲を分析しアンサンブルで実演する。	R&Bの名曲を分析し実演する。
5		演習	エレクトリック楽器とのコラボを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのコラボを分析し実演する。
6		演習	エレクトリック楽器とのアンサンブルを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのアンサンブルを分析し実演する。
7		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
8		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
9		演習	バラードを分析し演奏できる。	バラードを分析し実演する。
10		演習	バラードをアンサンブルで演奏できる。	バラードをアンサンブルを分析し実演する。
11		演習	ヒット曲の特徴を理解しながら演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
12		演習	ヒット曲の特徴を理解しながらアンサンブル演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
13		演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を分析し実演する。
14		演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを分析し実演する。
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	R&B Ensemble 1	必修選択	選択	年次	2	担当教員	潤　豊 木村　薫
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	R&Bの名曲を分析し説明ができる。	R&Bの名曲を調べて分析しレポート作成
2		演習	R&Bの名曲を分析し演奏する。	R&Bの名曲を分析し演奏する。
3		演習	R&Bの名曲を分析し説明と演奏ができる。	R&Bの名曲を分析し実演する。
4		演習	R&Bの名曲を分析しアンサンブルで実演する。	R&Bの名曲を分析し実演する。
5		演習	エレクトリック楽器とのコラボを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのコラボを分析し実演する。
6		演習	エレクトリック楽器とのアンサンブルを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのアンサンブルを分析し実演する。
7		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
8		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
9		演習	バラードを分析し演奏できる。	バラードを分析し実演する。
10		演習	バラードをアンサンブルで演奏できる。	バラードをアンサンブルを分析し実演する。
11		演習	ヒット曲の特徴を理解しながら演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
12		演習	ヒット曲の特徴を理解しながらアンサンブル演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
13		演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を分析し実演する。
14		演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを分析し実演する。
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	R&B Ensemble 2	必修選択	選択	年次	2	担当教員	潤　豊 木村　薫
学科・コース	パフォーミングアーツ科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 2		
教員の略歴							
授業の学習内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習（学習課題）
1		演習	R&Bの名曲を分析し説明ができる。	R&Bの名曲を調べて分析しレポート作成
2		演習	R&Bの名曲を分析し演奏する。	R&Bの名曲を分析し演奏する。
3		演習	R&Bの名曲を分析し説明と演奏ができる。	R&Bの名曲を分析し実演する。
4		演習	R&Bの名曲を分析しアンサンブルで実演する。	R&Bの名曲を分析し実演する。
5		演習	エレクトリック楽器とのコラボを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのコラボを分析し実演する。
6		演習	エレクトリック楽器とのアンサンブルを研究し実践できる。	エレクトリック楽器とのアンサンブルを分析し実演する。
7		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
8		演習	同期音楽と生演奏との兼ね合いを理解し実践できる。	同期音楽と生演奏との兼ね合いを分析し実演する。
9		演習	バラードを分析し演奏できる。	バラードを分析し実演する。
10		演習	バラードをアンサンブルで演奏できる。	バラードをアンサンブルを分析し実演する。
11		演習	ヒット曲の特徴を理解しながら演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
12		演習	ヒット曲の特徴を理解しながらアンサンブル演奏できる。	ヒット曲の特徴を分析し実演する。
13		演習	シャッフルビートの邦楽を演奏する。	シャッフルビートの邦楽を分析し実演する。
14		演習	シャッフルビートの邦楽でソロをとる。	シャッフルビートの邦楽でソロを分析し実演する。
15		演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~14をまとめてレポート作成
準備学習　時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	

【使用教科書・教材・参考書】